

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配布先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.3.12
金融市場局

金融調節の運営実績

1. 無担O/Nレートの動向と金融調節

金融調節については、前回会合（2月18～19日）で決定された方針（「無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0.1%前後で推移するよう促す。」）に従って運営した。無担O/Nレートは、誘導目標水準近傍で推移した。

この間、引き続き積極的な資金供給を行ったことから、準備預金の積み増しが前倒しで進捗し、無担O/Nレートは、0.099%～0.111%の狭いレンジで推移した。

金融調節運営面では、年度末越えの資金供給を一段と積み重ねたほか、国債買現先オペ、CP現先オペの積極的活用を図る等、引き続き、金融市場の安定にも一層配慮しつつ、市場におけるレート形成状況等を踏まえた機動的な運営を行った。また、3月4日には社債買入オペによる資金供給を開始したほか、CP買入オペ、企業金融支援特別オペ、米ドル資金供給オペによる資金供給を引き続き実施した。

2. 当座預金・準備預金の動向

前回会合以降の準備預金残高（除くゆうちょ銀行）は、
（2月積み期の所要準備額<除くゆうちょ銀行>： ）で推移した
（2月20日： →2月27日： →3月12日： ）。

この間、当座預金残高は、10～13兆円台で推移した（2月20日：13.5兆円→2月27日：13.6兆円→3月12日：10.9兆円）。

以 上

(図表1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		準備預金残高(含むゆうちょ銀行)				非準備 預先 残高	朝方 即日オペ前		9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後	
		準備預金残高(除くゆうちょ銀行)		超過 準備	残り所要額 (1日平均)						
2月16日(月)	0.114	142,600	130,000		12,400	47,900	12,600	455.0	143,000	-	-
2月17日(火)	0.111	139,500	123,600		24,500	47,200	15,900	2.0	140,000	-	-
2月18日(水)	0.107	138,500	122,300		31,600	46,700	16,200	1.0	139,000	-	-
2月19日(木)	0.106	137,600	125,000		35,600	46,200	12,600	2.1	138,000	-	-
2月20日(金)	0.105	134,900	126,100		35,300	44,200	8,800	0.0	135,000	-	-
2月23日(月)	0.108	131,900	123,300		41,800	43,800	8,600	0.0	133,000	-	-
2月24日(火)	0.109	132,900	123,100		39,500	43,200	9,800	0.0	134,000	-	-
2月25日(水)	0.111	131,200	119,500		30,800	42,200	11,700	244.0	131,000	-	-
2月26日(木)	0.111	138,400	118,400		34,400	41,200	20,000	289.0	138,000	-	-
2月27日(金)	0.109	135,600	120,300		47,200	38,700	15,300	0.0	136,000	-	-
3月2日(月)	0.099	132,400	116,700		43,200	37,800	15,700	0.0	133,000	-	-
3月3日(火)	0.101	126,800	111,200		39,700	36,600	15,600	6.0	126,000	-	-
3月4日(水)	0.100	125,500	111,200		43,300	35,400	14,300	0.0	126,000	-	-
3月5日(木)	0.101	118,500	106,700		45,700	34,900	11,800	1.0	119,000	-	-
3月6日(金)	0.099	111,300	98,700		45,200	35,000	12,600	0.0	111,000	-	-
3月9日(月)	0.103	117,000	103,200		41,600	34,200	13,800	0.0	117,000	-	-
3月10日(火)	0.110	109,700	99,000		42,200	33,100	10,700	163.0	109,000	-	-
3月11日(水)	0.103	109,200	95,600		42,300	32,100	13,600	0.0	109,000	-	-
3月12日(木)	0.105	109,000	94,600		45,600	31,400	14,400	0.0	109,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)3月12日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

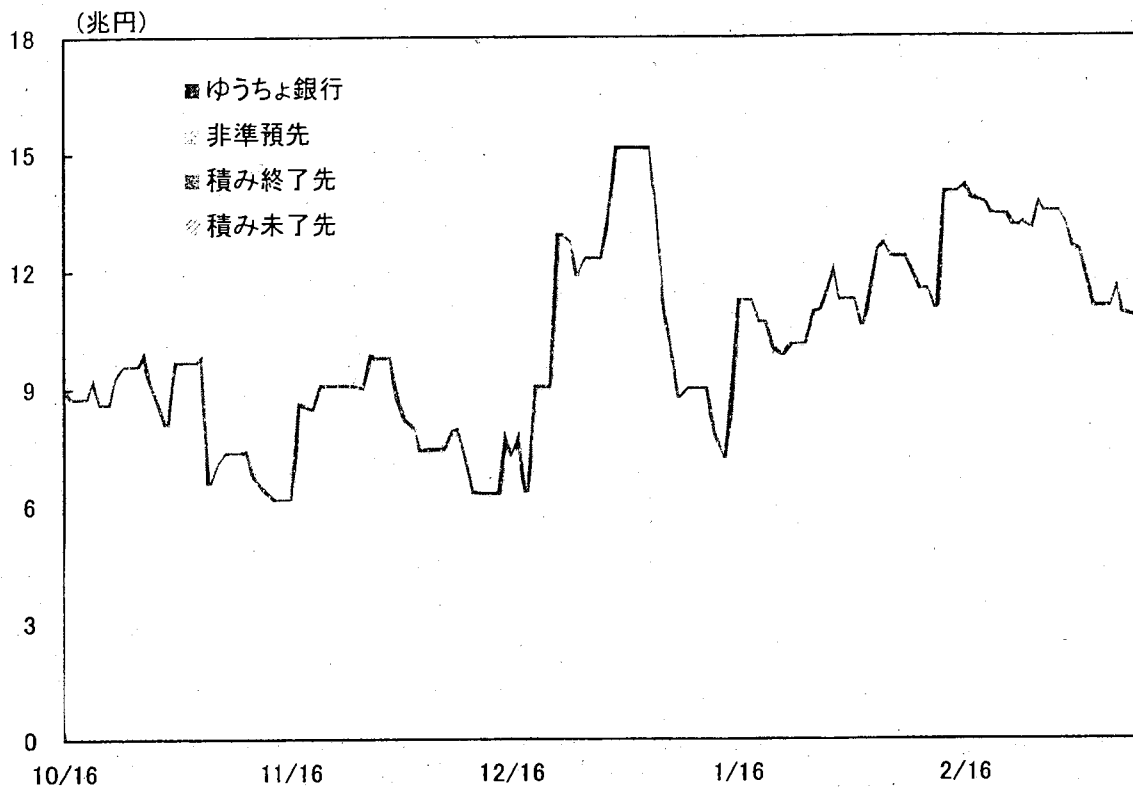
	11月積み期	12月積み期	1月積み期	2月積み期	3/12日	2月積み期 所要準備額
準預先	76,578	100,935	103,499	114,346	94,598	<71,374>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	30,186	32,311	30,937	31,185	25,023	<30,426>
地銀	11,499	15,266	13,541	15,282	12,385	<11,214>
地銀Ⅱ	2,662	5,847	5,190	5,662	3,652	<1,442>
外銀	2,192	9,081	11,867	14,772	17,460	<282>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	5,768	10,560	12,224	13,098	14,382	
短資	465	2,122	3,946	4,455	6,253	
一部系統	972	1,089	1,713	671	276	
政府系	379	673	422	594	405	
証券会社等	3,952	6,676	6,143	7,378	7,448	
当預残高	82,346	111,495	115,723	127,444	108,980	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)2月積み期の計数は、2/16日～3/12日の平均。3/12日は、5時同時処理終了時点。

08/10月積み期以降の当座預金残高

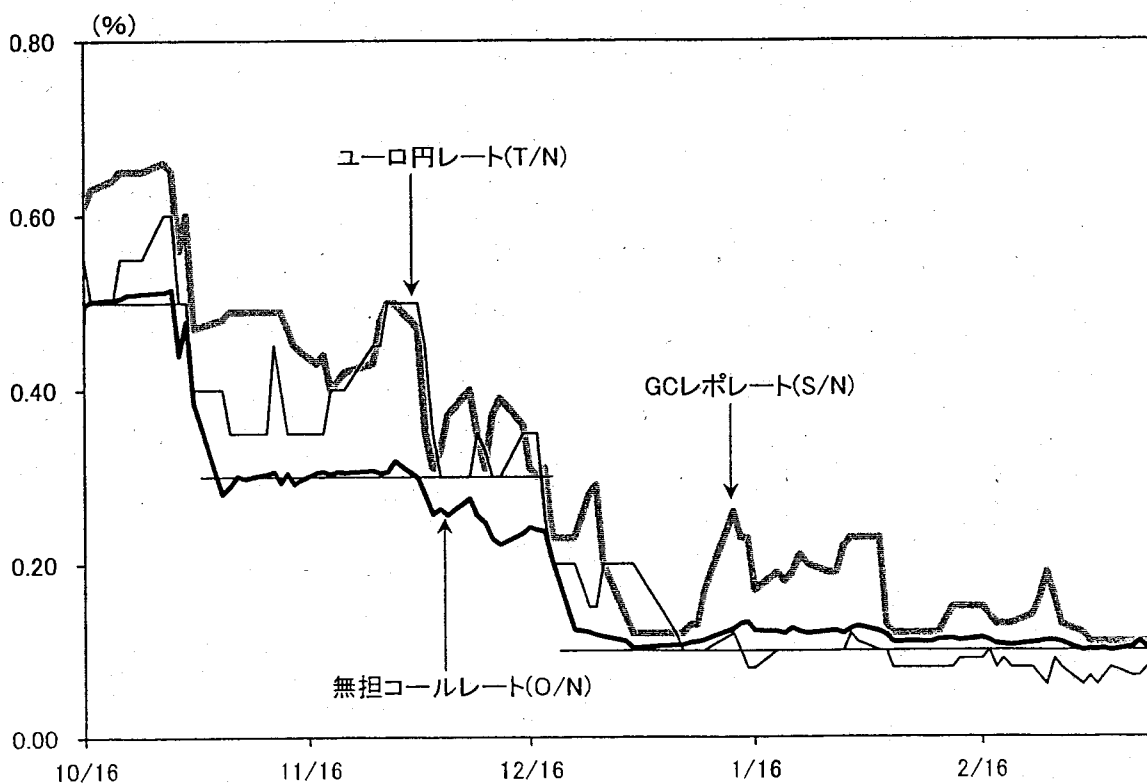
対外非公表



(注)積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

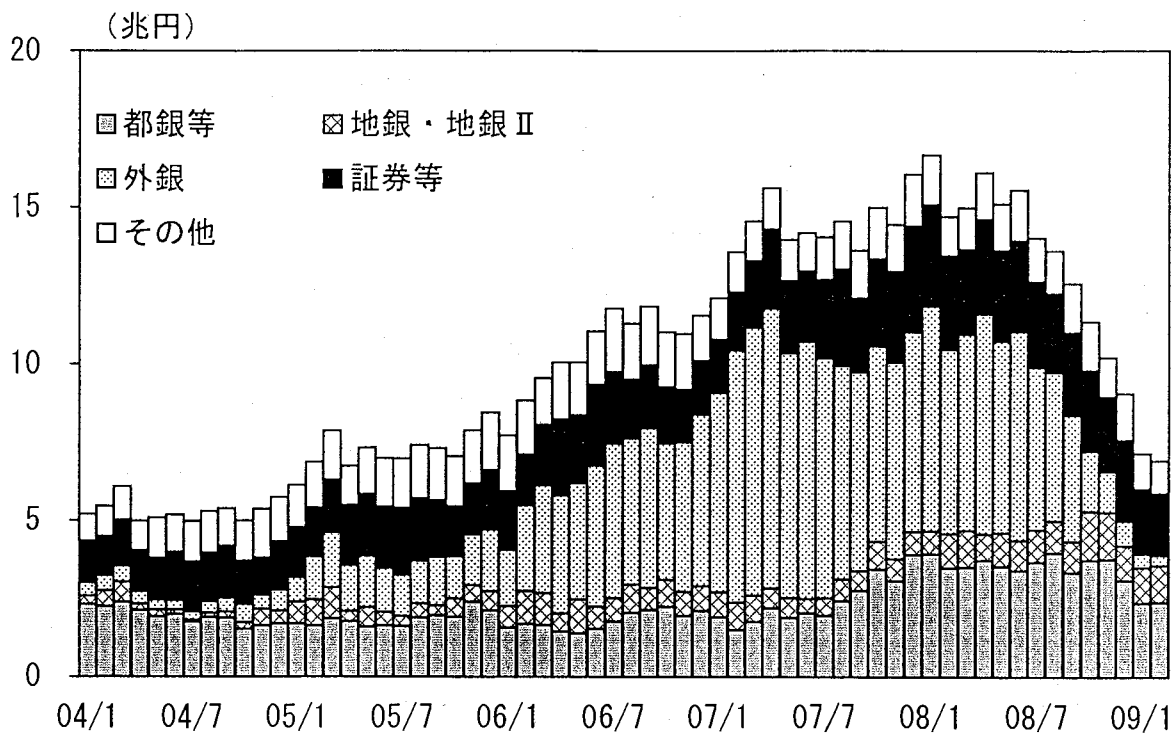
08/10月積み期以降の短期金利

対外非公表

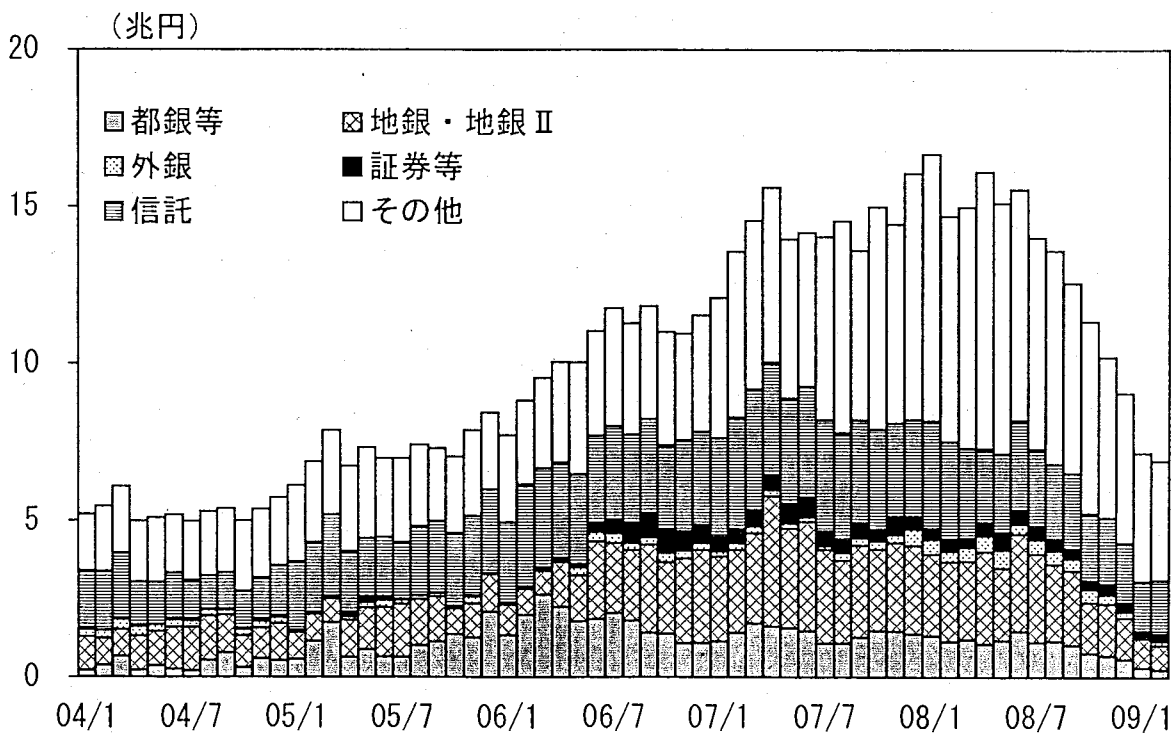


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



(注1) 月中平残。

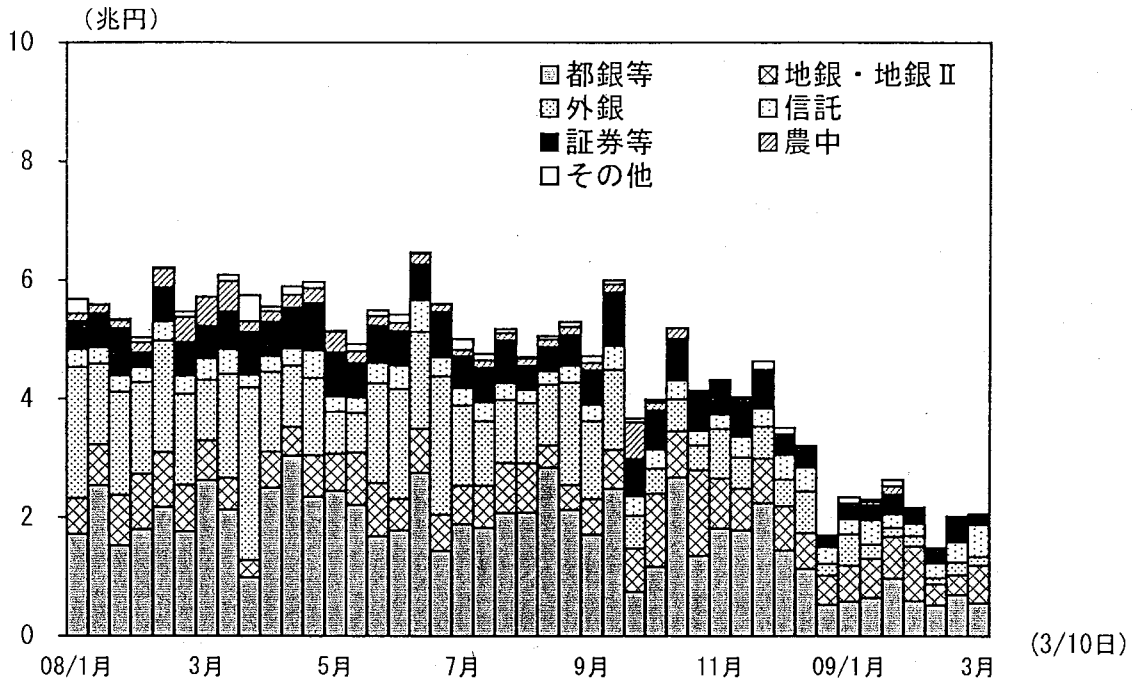
(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者(他の区分に属するものを除く)および証券金融会社。

(図表 5)

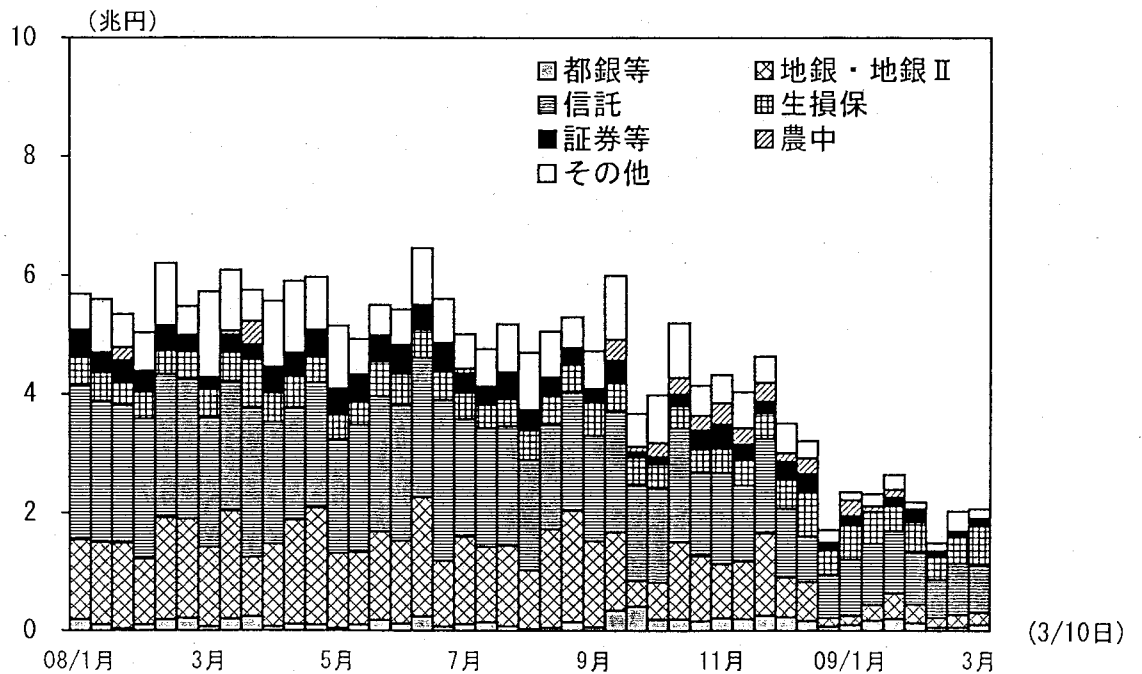
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

(図表6-1)

最近のオペ結果の推移(1)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	(億円、%)		
						応札倍率	平均落札レート	落札決定レート
共通担保(全店)	104,104	2/18	T+1	2W	8,000	2.68	0.162	0.16
		2/20	T+2	4M	8,000	3.30	0.227	0.22
		2/25	T+1	2W	8,000	3.34	0.172	0.17
		2/25	T+2	4M	8,000	3.01	0.232	0.22
		2/27	T+1	2W	8,000	2.42	0.153	0.14
		3/4	T+1	3W	8,000	3.75	0.139	0.13
		3/5	T+17	1D	8,000	4.09	0.260	0.25
		3/6	T+2	3M	8,000	2.67	0.211	0.20
		3/12	T+1	2W	8,000	2.50	0.128	0.12
		3/12	T+2	3M	8,000	3.06	0.193	0.18
		共通担保(本店)	179,933	2/19	T+1	2W	8,000	1.48
2/19	T+1			3W	8,000	2.56	0.153	0.15
2/20	T+1			2W	10,000	2.54	0.152	0.15
2/23	T+1			1W	8,000	2.81	0.154	0.15
2/24	T+2			3M	8,000	2.97	0.221	0.22
2/26	T+1			3W	10,000	2.47	0.162	0.16
3/2	T+1			3W	8,000	2.51	0.155	0.15
3/2	T+2			3M	8,000	1.96	0.214	0.21
3/3	T+1			1W	6,000	2.29	0.110	0.10
3/3	T+1			2W	8,000	2.15	0.125	0.12
3/5	T+1			2W	6,000	3.65	0.123	0.12
3/6	T+1			1W	6,000	3.72	0.114	0.11
3/9	T+1			1W	6,000	4.12	0.117	0.11
3/10	T+1			2W	6,000	4.19	0.129	0.12
3/10	T+2			3M	8,000	2.35	0.201	0.19
3/11	T+1			2W	8,000	2.55	0.129	0.12
3/11	T+1	3W	10,000	1.97	0.170	0.15		
CP等買現先	26,213	2/19	T+2	2W	4,000	1.45	0.125	0.12
		2/24	T+2	2W	4,000	1.27	0.138	0.13
		2/26	T+2	1M	4,000	1.38	0.185	0.16
		3/3	T+2	1M	4,000	1.31	0.171	0.15
		3/5	T+2	2W	4,000	0.62	0.108	0.10
		3/10	T+2	1M	4,000	1.39	0.152	0.15
		3/12	T+2	1M	4,000	1.00	0.146	0.10
国債買現先	69,737	2/18	T+2	3D	30,000	1.81	0.127	0.12
		2/18	T+2	1W	10,000	2.58	0.158	0.15
		2/19	T+2	1D	30,000	1.89	0.124	0.12
		2/19	T+2	1W	10,000	2.57	0.156	0.15
		2/20	T+2	1D	30,000	1.98	0.126	0.12
		2/20	T+2	1W	10,000	2.54	0.154	0.15
		2/23	T+2	1D	30,000	2.19	0.131	0.12
		2/23	T+2	1W	10,000	3.01	0.152	0.15
		2/24	T+2	1D	30,000	1.91	0.133	0.13
		2/24	T+2	1W	10,000	2.57	0.154	0.15
		2/25	T+2	3D	30,000	2.26	0.176	0.17
		2/25	T+2	1W	10,000	3.16	0.163	0.16
		2/26	T+2	1D	40,000	1.66	0.171	0.16
		2/26	T+2	1W	10,000	3.26	0.163	0.16
		2/27	T+2	1D	40,000	1.42	0.136	0.13
		2/27	T+2	1W	10,000	2.60	0.153	0.15
		3/2	T+2	1D	40,000	1.50	0.120	0.11
		3/2	T+2	1W	10,000	1.85	0.143	0.13
		3/3	T+2	1D	35,000	1.13	0.113	0.10
		3/3	T+2	1W	10,000	2.01	0.131	0.12
		3/4	T+2	3D	30,000	1.49	0.107	0.10
		3/4	T+2	1W	10,000	2.30	0.118	0.11
		3/5	T+2	1D	30,000	0.76	0.105	0.10
		3/5	T+2	1W	10,000	2.85	0.118	0.11
		3/6	T+2	1D	25,000	1.10	0.104	0.10
		3/6	T+2	1W	10,000	2.94	0.117	0.11
		3/9	T+2	1D	25,000	0.95	0.104	0.10
		3/9	T+2	1W	10,000	2.45	0.113	0.11
		3/10	T+2	1D	20,000	1.77	0.107	0.10
		3/10	T+2	1W	10,000	3.51	0.117	0.11
3/11	T+2	3D	20,000	1.90	0.112	0.11		
3/11	T+2	1W	10,000	3.22	0.128	0.12		
3/12	T+2	1D	25,000	1.62	0.110	0.10		
3/12	T+2	1W	10,000	2.38	0.130	0.12		

(注1) オペ直近残高は2009/3/12日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は6,209億円、物価連動債は3,043億円、30年債は811億円(2009/3/12日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

(図表6-2)

最近のオペ結果の推移(2)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札レート		
						応札倍率	落札決定レート	
国庫短期証券買入	88,756	2/20	T+3	-	4,000	3.25	0.009	0.008
		2/26	T+3	-	4,000	2.35	0.010	0.008
		3/6	T+3	-	4,000	3.18	-0.007	-0.009
		3/12	T+3	-	4,000	4.45	0.013	0.011
CP等買入	15,786	2/20	T+3	-	3,000	1.72	0.342	0.213
		2/25	T+3	-	3,000	1.31	0.117	0.001
		3/2	T+3	-	3,000	0.32	0.061	0.000
		3/6	T+3	-	3,000	0.37	0.033	0.000
		3/11	T+3	-	3,000	0.17	0.001	0.000
社債買入	451	3/4	T+3	-	1,500	0.30	0.760	0.000
国債買入	-	2/18	T+3	-	2,300	3.74	0.012	0.010
		2/18	T+3	-	2,000	3.96	0.003	-0.001
		2/23	T+3	-	2,000	4.03	0.000	-0.002
		2/23	T+3	-	1,000	4.31	-0.316	-0.260
		3/4	T+3	-	2,300	3.87	0.009	0.001
		3/4	T+3	-	2,000	3.56	0.014	0.011
		3/11	T+3	-	2,000	4.02	0.020	0.018
		3/11	T+3	-	750	2.78	0.016	0.010

(米ドル資金供給オペ)

(百万ドル、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額	貸出利率 (固定金利)	
						応札倍率	
米ドル資金供給	73,829	2/24	2/26	3M	19,226	-	1.250
		3/10	3/12	1M	16,495	-	1.260

(企業金融支援特別オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額	当初貸付利率	
						応札倍率	
企業金融支援特別	57,706	2/23	2/26	3M	5,771	-	0.100
		2/27	3/4	1M	7,214	-	0.100
		3/4	3/9	3M	5,756	-	0.100
		3/10	3/13	1M	4,727	-	0.100

(注1) オペ直近残高は2009/3/12日現在(実行日ベース)。

(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・社債買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差。

(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

(図表7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (末残)	
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)			
08/9月	+1.4	+0.4	+0.9	+3.6	13.3	
10月	▲2.6	▲1.1	▲1.5	▲0.9	9.7	
11月	▲2.2	+0.0	▲2.3	+2.4	9.8	
12月	+0.2	▲4.9	+5.0	+5.2	15.2	
09/1月	▲5.1	+4.6	▲9.7	+1.2	11.3	
2月	▲2.1	▲0.1	▲2.0	+4.3	13.6	
3月	(-12日)	▲6.1	+0.7	▲6.8	+3.4	10.9
	(13日-)	+7.3	▲1.1	+8.4	▲18.2	N.A.

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実力ベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 3月(13日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、3/12日までにオファーしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.7兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

(図表9)

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内＝兆円、括弧内＝億円

担保種類	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月
総計	81.6	85.0	90.7	98.3	99.0	104.9
国債	52.9	57.5	62.7	65.8	68.2	71.3
利付国債等 ^(注1)	36.6	41.6	45.9	48.4	49.3	^(注2) 51.5
変動利付国債(*)	8.5	10.7	11.9	11.2	11.2	12.0
物価連動国債(*)	2.9	2.6	2.8	2.7	2.7	2.4
国庫短期証券	16.2	15.8	16.8	17.4	18.8	19.8
社債等 ^(注3)	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.4
短期社債等 ^(注4)	2.6	1.8	1.6	1.8	1.9	2.0
その他債券	5.2	5.5	5.8	6.5	6.4	6.5
手形 ^(注5)	0.1	0.5	0.7	1.9	2.0	1.9
証貸	19.9	18.7	18.8	21.1	19.1	21.6
企業向け等 ^(注6)	0.3	0.4	0.6	1.0	1.5	^(注7) 2.8
交付税特会等 ^(注8)	19.5	18.2	18.2	20.0	17.5	18.7
うち民間債務分	3.9	3.5	3.9	5.9	6.8	8.3
ABS	159	351	354	414	484	427
ABCP ^(注9)	176	140	108	5,471	5,262	2,959
(うち特則分) (*)	(-)	(0)	(33)	(142)	(57)	(129)
社債特則分(*)	-	-	-	122	248	613
企業向け証貸特則分(*)	-	-	-	0	72	1,610
不動産投資法人債	-	-	-	-	-	0
不動産投資法人CP ^(注10)	-	-	-	-	-	0
不動産投資法人向け証貸	-	-	-	-	-	0
政府保証付短期債券	-	-	-	-	-	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内＝兆円、括弧内＝億円

オペ種類	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月
国債買入先オペでの国債買入残高	8.4	10.9	8.8	9.7	9.0	8.0
CP等買入先オペでのCP買入残高	0.2	0.5	2.0	4.3	3.8	2.7
ABCP買入残高	60	325	458	5,077	5,652	4,661
(うち特則分) (*)	(-)	(0)	(0)	(4,679)	(5,318)	(4,412)
不動産投資法人CP買入残高	-	-	-	-	-	0
政府保証付短期債券買入残高	-	-	-	-	-	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、190億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) CPを含む。

(注6) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注7) シンジケート・ローン債権は、12億円。

(注8) 交付税特会、預金保険機構および銀行等保有株式取得機構向け。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月
共通担保使用額合計 ^(注1)	31.5	32.9	38.2	41.2	36.7	39.3
うち 共通担保オペ使用額 ^(注1)	25.7	22.7	25.6	25.5	26.3	30.4
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	4.6	6.8	7.3	6.9	6.0	5.4

(注1) 末残。企業金融支援特別オペを含む。

(注2) 平残（ITC口を除く）。

(*)は対外非公表

信用判定・適格審査の状況

1. ABCPの担保適格審査状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*) ^(注2)	15件	10兆500億円	5,271億円
担保適格ABC (本則分) (*) ^(注2)	8件	1兆7,450億円	5,454億円
市中ABC計 ^(注3)	42件	16兆7,848億円	—

(注1) 「受入残高」は3月11日時点（共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計）。

(注2) 「担保適格ABC(特則分)」、「同(本則分)」は3月12日時点で審査済のもの。

(注3) 「市中ABC計」は2008年9月末の計数。

2. 信用判定の状況

	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月	3月 ^(注1)
新規適格化先数 (*)	0	2	3	39	20	11	^(注2) 2(1)
取下げ・抹消先数 (*)	0	5	1	0	2	2	1
信用判定適格先数	306	303	305	344	362	371	372

(注1) 3月12日までの実績。

(注2) かつこ内は審査中の先数。

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.3.12
金融市場局

最近の金融・為替市場の動向

1. 概況

前回の政策決定会合以降の市場動向をみると（図表1、2）、短期金融市場は、金融機関の慎重な運用調達スタンスのもとで、神経質な地合いが続いている。すなわち、無担保コールレート（O/N）は、誘導目標水準近傍で推移しているが、ターム物の銀行間金利については、取引が細る中、リスクプレミアムはなお高めの状態が続いている。また、年度末越えの資金取引に対するプレミアムは、年初の時点に比べ低下してきているが、イベント・リスクに対する邦銀の警戒感が強い状況に変わりはない。

国内資本市場をみると、長期金利（10年新発債流通利回り）は、年初来、比較的小幅な変化に止まっているが、国債の市場流動性の低下した状態が続いている。株価（日経平均株価）は、景気や企業収益の大幅な悪化から下落が続き、バブル後最安値を更新した。一般債流通利回りの対国債スプレッドについては、投資家のリスク回避姿勢が強まるもとで、低格付銘柄や特定業種を中心に拡大傾向が続いている。また、CDSプレミアムも、既往最高値圏内で、不安定な動きを続けている。

為替市場をみると、円の対ドル相場は、わが国景気の大規模な悪化や貿易赤字幅の拡大などを背景に、海外投資家らの円売りが進み、一時、約3か月半ぶりとなる99円前後にまで下落した。

2. 市場別の動向

(1) 短期金融市場

わが国の短期金融市場は、金融機関の慎重な運用調達スタンスのもと、神経質な地合いが続いている（図表2）。無担保コールレート（O/N）は、誘導目標水準（0.1%）の近傍で推移している。GCレポレート（S/N）については、日本銀行による国債買現先オペの増額の効果などから、3月入り後、無担保コールレートと概ね同水準で推移しているが、基本的には、レポ市場の流動性が低下したもとで、都銀勢の資金運用姿勢等に振られやすい状況が続いている。短国レート（3M）は、短国の発行増加による需給悪化懸念から、引き続き、強含みやすい地合いとなっている¹。また、ターム物の銀行間取引金利（ユーロ円レート）については、日本銀行の資金供給策の拡充の効果もあって、低下しているが、取引の薄い状況が続く中、リスクプレミアムはなお高めの水準となっている。

	前回決定会合 直前（2/17日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （3/12日）
無担コール・レート （O/N、加重平均）	0.111%	0.111% （2/17,25-26日）	0.099% （3/2,6日）	0.105%
GCレポ・レート （出合い、S/N）	0.140%	0.190% （2/25日）	0.110% （3/3-12日）	0.110%
短国レート （3M）	0.240%	0.275% （2/25日）	0.225% （3/6日）	0.245%
短国レート （6M）	0.240%	0.260% （2/25-3/5日）	0.235% （3/9日）	0.240%
短国レート （1Y）	0.260%	0.260% （2/17,2/25-3/5日）	0.245% （2/19,3/6-11日）	0.255%
ユーロ円金先レート （2009/6月限）	0.540%	0.635% （3/2日）	0.525% （2/18日）	0.615%

—— 銀行間取引における年度末越えの資金に対するプレミアムに関して、TIBOR-OISスプレッド（1か月物フォワード）をみると、年初の時点ではかなり高かったが、年度末の接近に伴って着実に低下してきている（図表3）。また、スポットレート（1か月物）をみても、年度末越えのプレミアムは、年末越えのプレミアムに比べ、低めとなっている。ただ、前年に比べれば、プレミアムは高く、年度末にかけたイベント・リスク

¹ 政府短期証券と割引短期国庫債券が、本年2月から「国庫短期証券（T-Bill）」として統合されたが、ここでは、これまで通り「短国」という略称を用いる。

に対する邦銀の警戒感が強い状況に変わりはない。

—— CP市場についてみると、依然として、投資家の銘柄選別姿勢が強い状況にあるが、日本銀行のCP買入れの効果などを背景に、a-1格以上の発行レートは総じて低下している（図表4）。

—— この間、ドル調達環境に関して、LIBOR-OISスプレッドをみると、米欧金融機関の経営状況の悪化などから、長めのタームを中心に、じりじりと拡大している（図表5、6）。

ユーロ円金利先物レートをみると、年度末を越えた後は、金利が幾分低下することが引き続き見込まれている（図表8）。もっとも、足元でのTIBORの低下ペースが緩やかなものに止まっていることから、前回会合以降、新年度入り後の金利の低下幅に関する見方がやや修正されており、フォワードレート・カーブは、幾分上方にシフトしている。

—— OISレートから、日本銀行の政策運営に対する市場参加者の見方を窺うと、政策金利は当面据え置かれることが予想されている（図表7）。

（2）債券市場

債券市場をみると、世界的な景気下振れと財政赤字拡大の懸念が交錯するもとの、米欧の長期金利は不安定な動きを続けている（図表9）。わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）についても同様の外部環境に置かれているが、年度末が近づく中で、主要投資家がポジションの大きな変化を回避し、益出し売りと押し目買いの繰り返しに終始していることなどから、金利水準は米欧に比べ小幅な変化に止まっている。足元は、1.3%前後の動きとなっている。

	前回決定会合 直前 (2/17日)	期間中ボトム (終値ベース)	期間中ピーク (終値ベース)	直近終値 (3/12日)
2年新発債 利回り	0.380%	0.365% (2/18日)	0.410% (3/10,12日等)	0.410%
5年新発債 利回り	0.720%	0.695% (2/26-27日)	0.750% (3/11日)	0.735%
10年新発債 利回り	1.280%	1.250% (2/18日)	1.310% (3/5,3/11-12日)	1.310%
20年新発債 利回り	1.895%	1.880% (2/18,3/6日)	1.920% (2/25日)	1.895%

—— イールドカーブは、前回会合以降、幾分上方シフトしている（図表

10)。

—— 債券利回りの変動要因をみると、「景気動向」が低下要因として引き続き高いウェイトを占める一方、「債券需給」が、市場流動性の低さや国債の増発懸念を背景に、上昇要因として徐々にウェイトを高めている（図表12）。

債券相場の先行きについては、市場流動性が低下した状態が続くもとで（図表11）、不安定な展開を見込む向きが多い。

—— インプライド・ボラティリティは、リーマン・ブラザーズの破綻前の水準まで低下しているが、長い目でみれば、なお高めの水準にある（図表10）。

(3) クレジット・スプレッド等

わが国のクレジット市場をみると、実体経済や企業業績が急速に悪化する中、不安定な状況が続いている。一般債流通利回りの対国債スプレッドをみると、最終投資家やマーケットメイカー（証券会社）のリスク回避姿勢が強まるもとで、低格付銘柄や特定業種（不動産・建設、消費者金融など）を中心に拡大傾向が続いている（図表13）²。CDSプレミアムは、金融機関による年度末に向けたリスクヘッジ需要などもあって、既往最高値圏内で推移している（図表14）。

	前回決定会合 直前 (2/17日)	期間中ボトム (終値ベース)	期間中ピーク (終値ベース)	直近終値 (3/11日)
A格社債の対国債 スプレッド (5年)	1.382%	1.382% (2/17日)	1.458% (3/9日)	1.446%
BBB格社債の対国債 スプレッド (同)	4.007%	4.007% (2/17日)	4.340% (3/10日)	4.256%
CDSプレミアム (iTraxx Japan 5年)	558.3bps	473.6bps (2/24日)	558.3bps (2/17日)	554.2bps

—— この間、米国の社債スプレッドについては、フェアバリュー対比大幅に割安化した銘柄の買戻しから、2月中頃まで縮小傾向が続いていたが、その後、大手金融機関の損失拡大等を受け、金融セクターを中心に再び

² 図表13において、2月初に、A格社債のスプレッドが縮小し、BBB格社債のスプレッドが大幅に拡大しているのは、スプレッドの大きい一部銘柄の格下げが影響している。この要因を調整すると、両格付けともに、スプレッドは幾分拡大している。

拡大している（図表13）。

クレジット・スプレッドの先行きについては、当面、不安定な動きが続くとの見方が多い。

—— 社債市場もCDS市場も流動性が低下した状況のもとで、クレジット・スプレッドが、企業収益の悪化など悪材料に対して反応しやすい地合いが続くとみられる。

（4）株式市場

わが国の株価（日経平均株価）は、景気や企業収益の大幅な悪化を背景に下落が続き、バブル後最安値を更新した（図表15）。足元は、7千円近傍で推移している。

	前回決定会合 直前（2/17日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値
TOPIX	756pts	756pts (2/27日)	700pts (3/12日)	700pts (3/12日)
日経平均株価	7,645円	7,645円 (2/17日)	7,054円 (3/10日)	7,198円 (3/12日)
NY ダウ平均	7,552ドル	7,555ドル (2/18日)	6,547ドル (3/9日)	6,930ドル (3/11日)
NASDAQ 総合指数	1,470pts	1,470pts (2/17日)	1,268pts (3/9日)	1,371pts (3/11日)

—— わが国株式の主体別売買動向をみると、信託銀行（年金資金など）の買い越しの一方で、外国人投資家の売り越しが続いている（図表16）。

—— この間、REIT価格は、資金繰りや不動産市況の悪化が続く中、高格付け銘柄も含め、軟調に推移している（図表16）。

株式相場の先行きについては、依然、世界的な景気下振れや米欧金融機関の業績が懸念される中で、不安定な地合いが続くとの見方が多い。

—— インプライド・ボラティリティは、引き続き、高水準で推移している（図表16）。

（5）為替市場

為替市場をみると、円の対ドル相場（NY市場16時時点ベース<以下同

じ>) は、わが国における景気の大幅な悪化や貿易赤字幅の拡大、政治情勢に関する不透明感の高まり等を背景に、海外投資家中心に円売りが進み、一時、約3か月半ぶりとなる99円前後まで下落した(図表17、18)。足元は、97円前後となっている。

— ユーロの対ドル相場は、欧州金融機関の中東欧向けエクスポージャーを巡る不透明感等を受けて下落する場面もみられたが、総じてみれば1.25～1.28ドルのレンジ圏で推移した。

為替相場の先行きについては、市場流動性の低いもとで、不安定な地合いが続くとみる向きが多い。

— ドル/円オプションのインプライド・ボラティリティ(1M)は、依然高水準で推移している。リスクリバーサル(1M)のドルプット超幅は、円高への警戒感の後退を反映して縮小傾向を辿っている(図表19)。

— IMM先物取引ポジションをみると、ドル/円では、前回会合以降、円ロング超幅は大幅に縮小し、中立的な水準に近づきつつある。ユーロ/ドルでは、概ね中立的な水準での推移が続いている(図表20)。

以 上

「最近の金融・為替市場の動向」参考計表

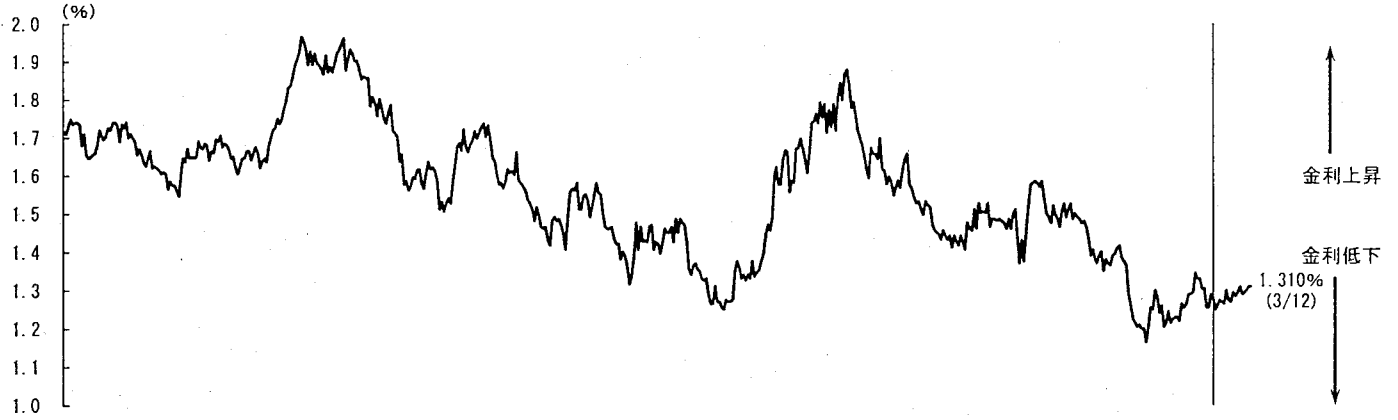
- (図表 1) 金融・為替市場の動向
- (図表 2) 短期金利の推移
- (図表 3) TIBOR-OIS スプレッドの推移
- (図表 4) CP 市場の動向
- (図表 5) ターム物レートの推移
- (図表 6) ドル調達プレミアムの推移
- (図表 7) フォワードレート等の推移 (1)
- (図表 8) フォワードレート等の推移 (2)
- (図表 9) 長期金利の推移
- (図表 10) イールド・カーブの動向
インプライド・ボラティリティの推移
- (図表 11) フォワードレート・カーブの動向
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表 12) 市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表 13) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表 14) CDS プレミアムの推移
- (図表 15) 株式相場の推移
- (図表 16) 主体別売買動向等
- (図表 17) 主要為替相場の推移
- (図表 18) 最近の為替相場動向とその変動要因
- (図表 19) 通貨オプション市場の動向
- (図表 20) 通貨先物、投資信託の動向
- (図表 21) クロス円相場の推移
- (図表 22) 外為証拠金取引の動向
- (図表 23) エマージング通貨、株の動向
- (図表 24) 商品の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の前営業日 (2/17 日) を表す。

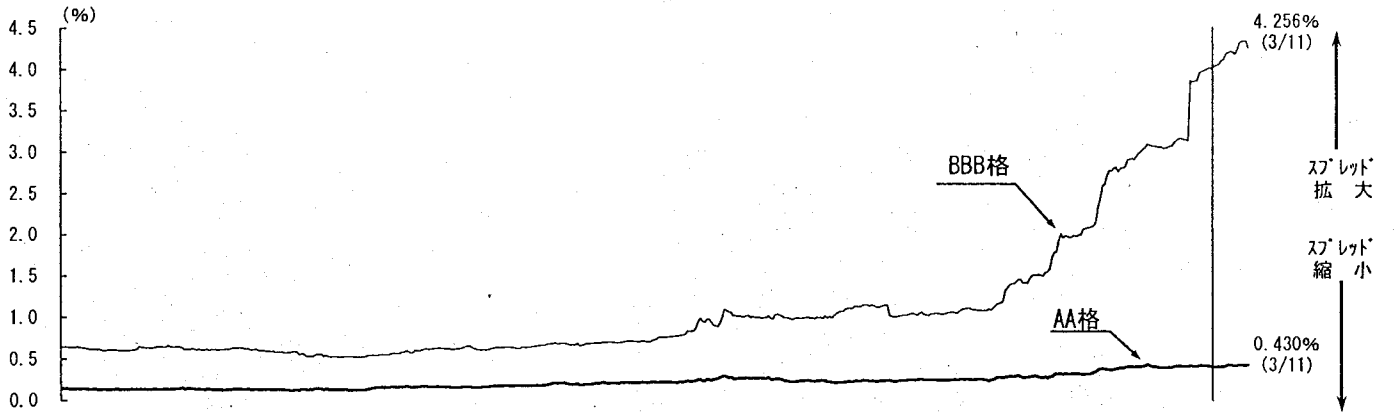
金融・為替市場の動向

(図表1)

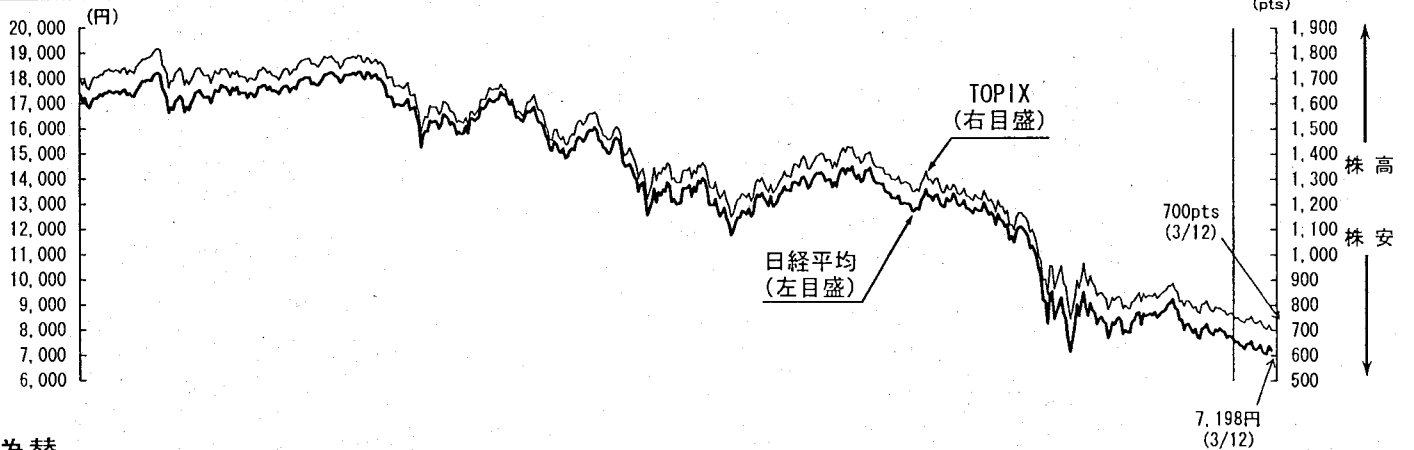
10年新発債利回り



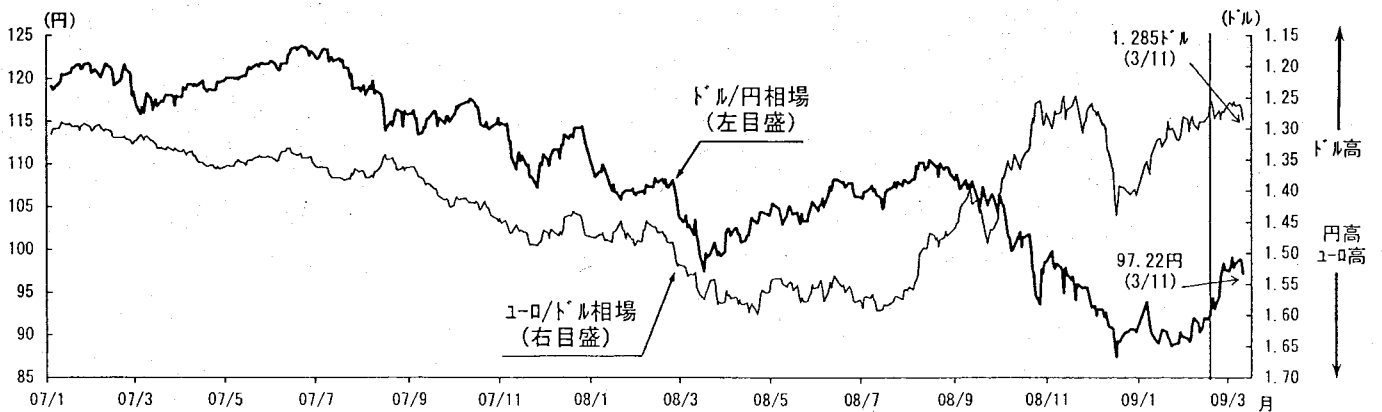
社債流通利回りの対国債スプレッド（残存5年）



日経平均株価・TOPIX



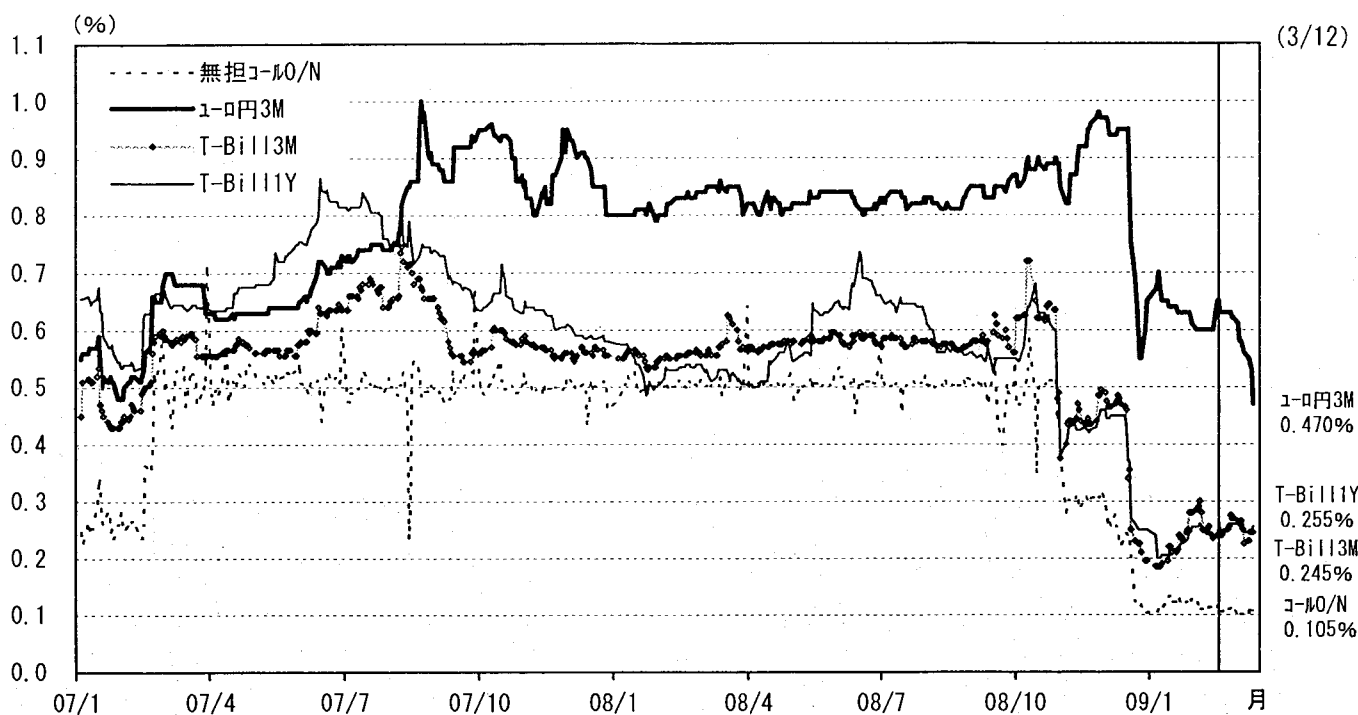
為替



(注) 1. 社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 為替相場は原則NY市場16時時点。

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

(%)

	無担コール	ユーロ円レート				短期レート			レポレート	ユーロ円金先
	0/N	1W	1M	3M	6M	3M	6M	1Y	S/N	09/6月限 (中心限月)
09/2/17	0.111	0.160	0.280	0.650	0.700	0.240	0.240	0.260	0.140	0.540
2/18	0.107	0.160	0.270	0.630	0.700	0.240	0.240	0.250	0.130	0.525
2/19	0.106	0.160	0.260	0.630	0.700	0.240	0.245	0.245	0.130	0.555
2/20	0.105	0.160	0.260	0.630	0.700	0.245	0.250	0.250	0.130	0.565
2/23	0.108	0.150	0.250	0.630	0.700	0.250	0.250	0.250	0.140	0.560
2/24	0.109	0.150	0.240	0.630	0.700	0.255	0.250	0.250	0.160	0.575
2/25	0.111	0.140	0.230	0.630	0.700	0.275	0.260	0.260	0.190	0.610
2/26	0.111	0.150	0.270	0.620	0.700	0.270	0.260	0.260	0.160	0.605
2/27	0.109	0.140	0.270	0.620	0.700	0.270	0.260	0.260	0.130	0.620
3/2	0.099	0.140	0.270	0.610	0.700	0.265	0.260	0.260	0.120	0.635
3/3	0.101	0.120	0.250	0.580	0.700	0.260	0.260	0.260	0.110	0.630
3/4	0.100	0.110	0.250	0.580	0.700	0.265	0.260	0.260	0.110	0.610
3/5	0.101	0.110	0.250	0.570	0.700	0.250	0.260	0.260	0.110	0.580
3/6	0.099	0.110	0.250	0.560	0.680	0.225	0.240	0.245	0.110	0.565
3/9	0.103	0.120	0.250	0.550	0.660	0.230	0.235	0.245	0.110	0.565
3/10	0.110	0.120	0.250	0.540	0.650	0.245	0.240	0.245	0.110	0.605
3/11	0.103	0.120	0.250	0.530	0.650	0.245	0.240	0.245	0.110	0.605
3/12	*0.105	0.120	0.240	0.470	0.650	0.245	0.240	0.255	0.110	0.615

*速報値

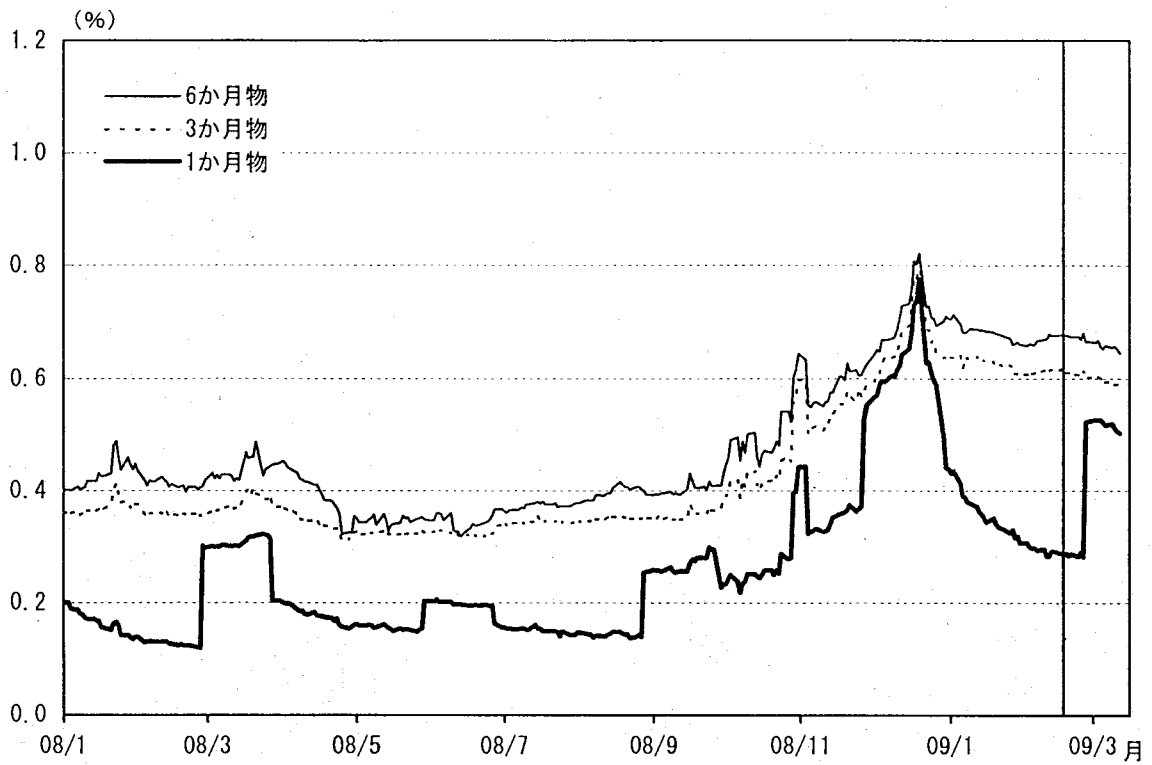
(注)1. ユーロ円レート・レポレートは、ヒアリングベースによるもので対外非公表。

2. 短期レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

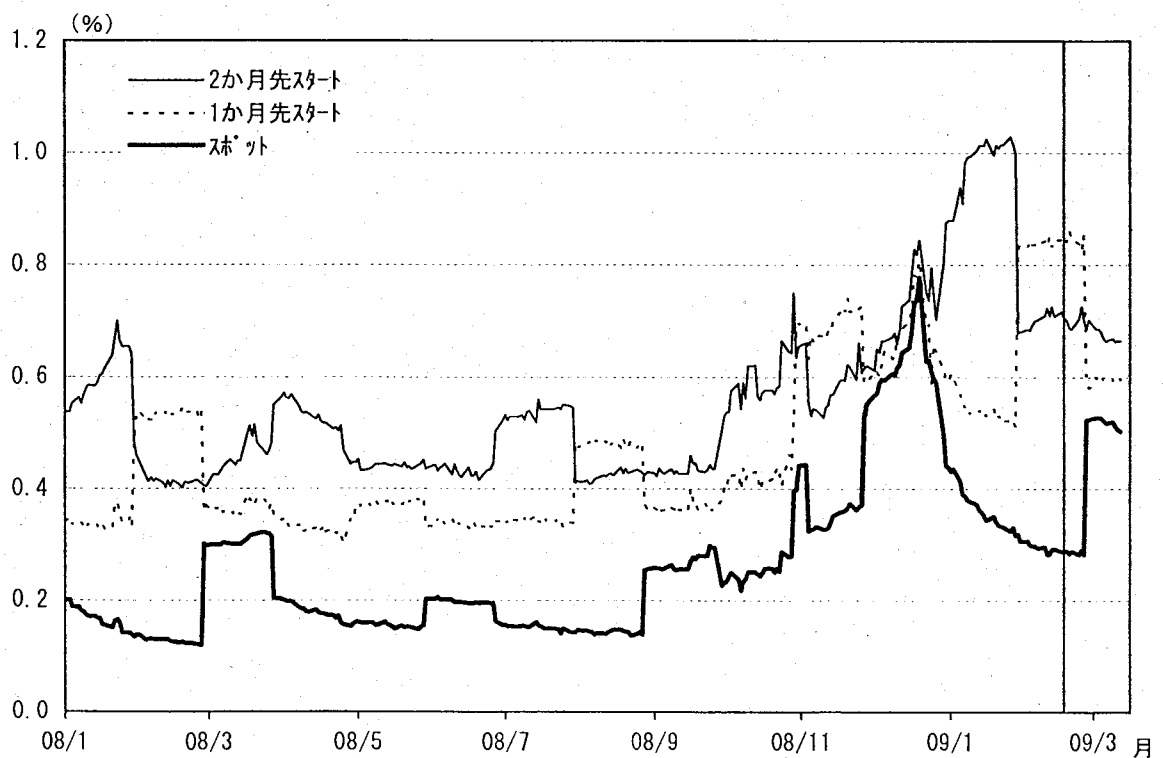
(出所) 日本相互証券、東京金融取引所、日本銀行

TIBOR-OISスプレッドの推移

(1) スポットレートの推移



(2) 1か月物フォワードレートの推移

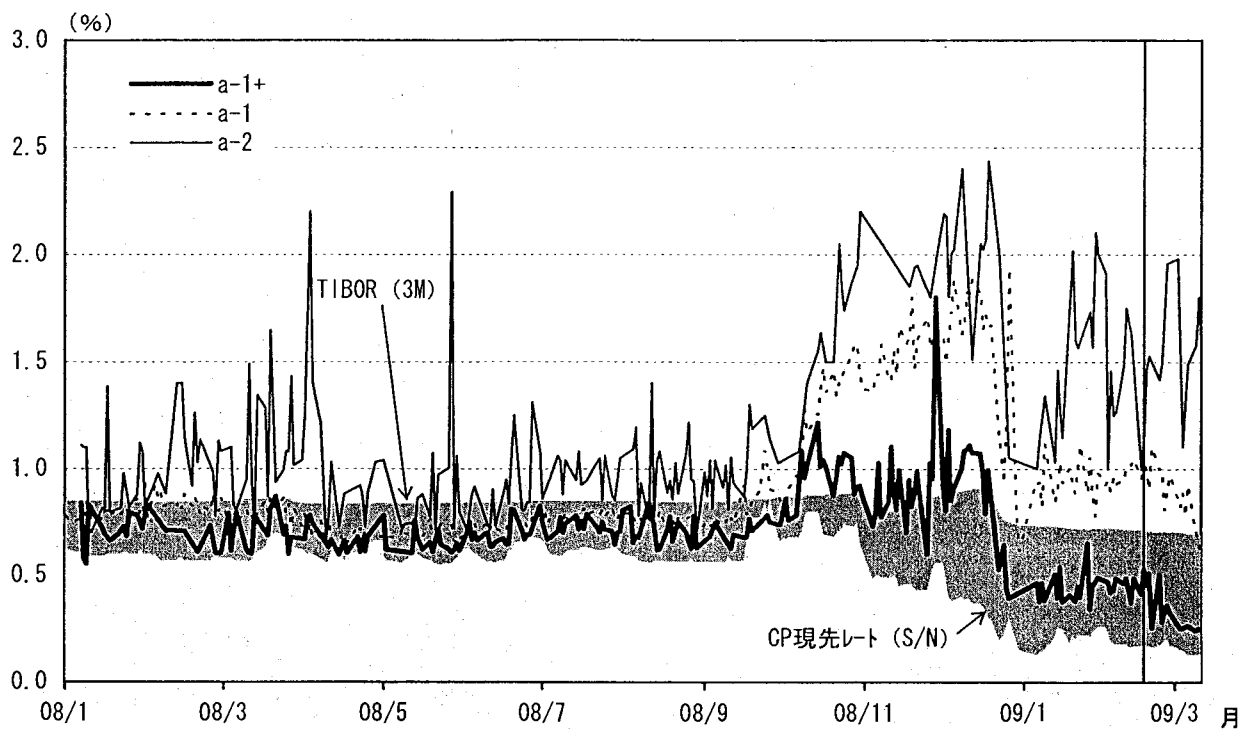


(注) 直近は3/12日。

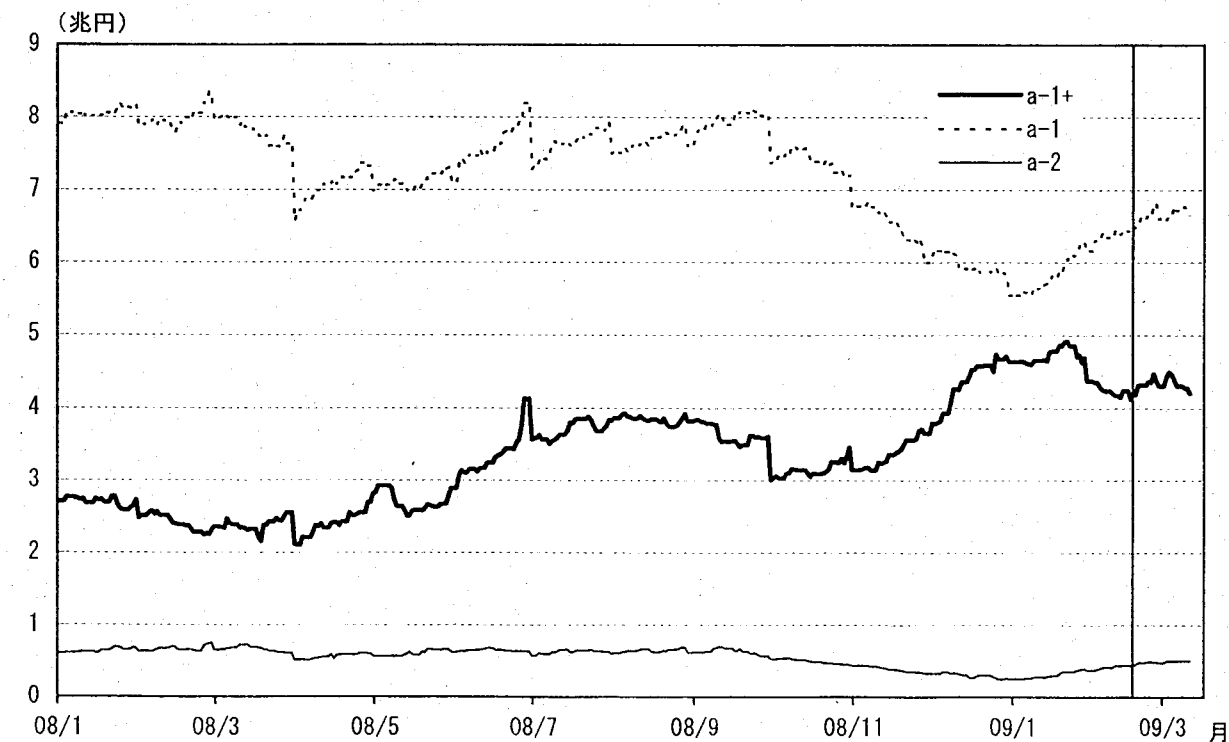
(出所) Bloomberg

CP市場の動向

(1) 格付別発行レート (3か月物) の推移



(2) 格付別発行残高 (全ターム) の推移



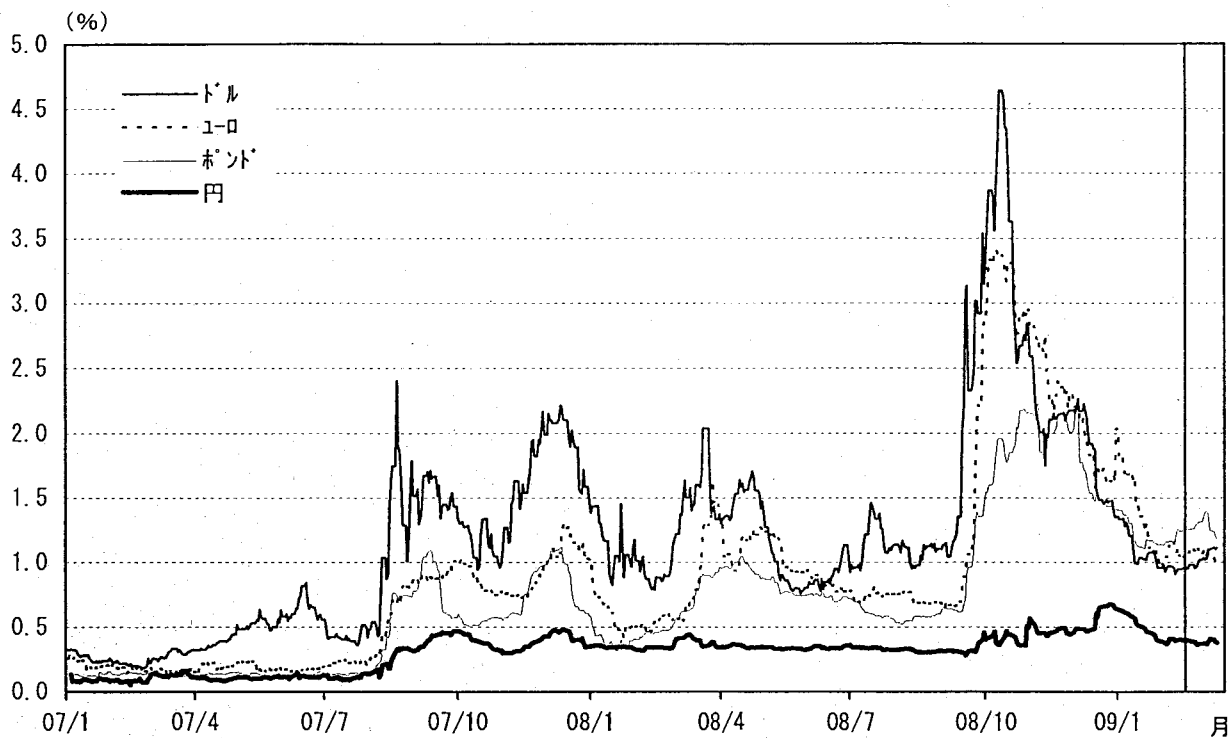
(注) 1. 集計対象は、CP等買現先オペの対象先による引受分 (全ターム)。格付けは基本的にR&Iによる。

2. 対外非公表。直近は3/11日。

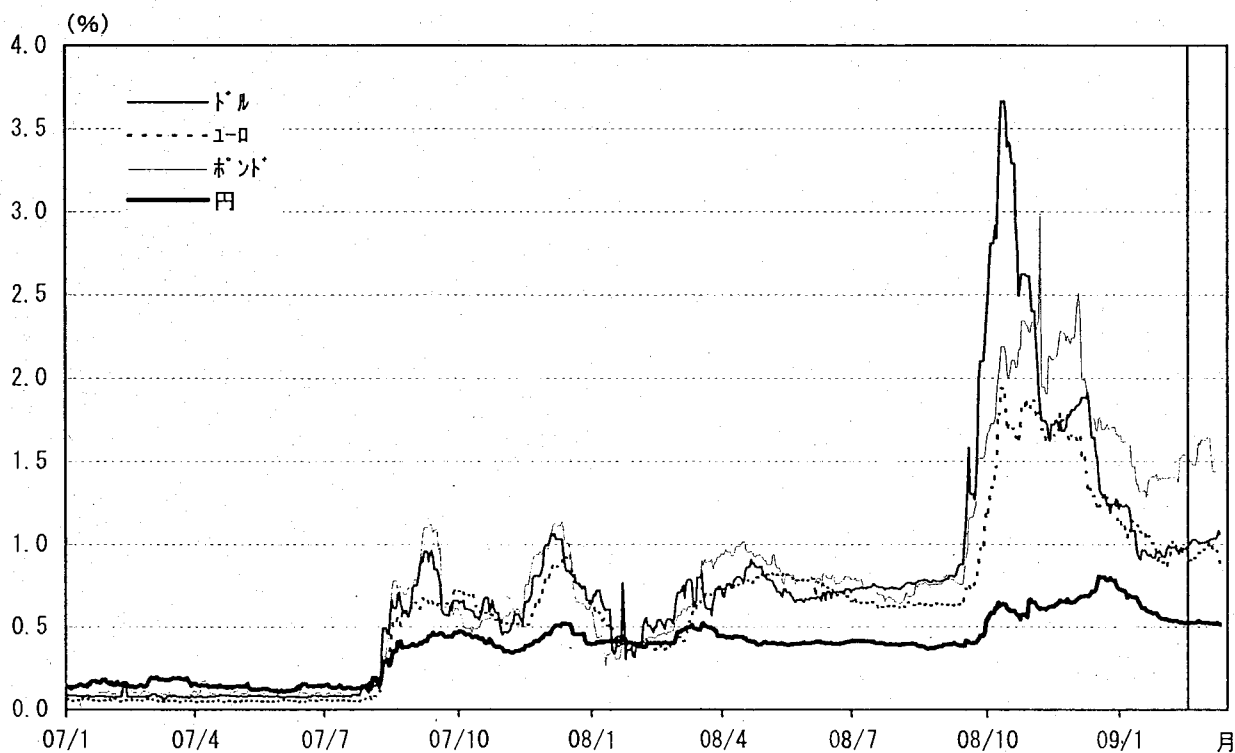
(出所) 全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移

(1) TEDスプレッド (LIBOR-TB、3か月物) の推移



(2) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



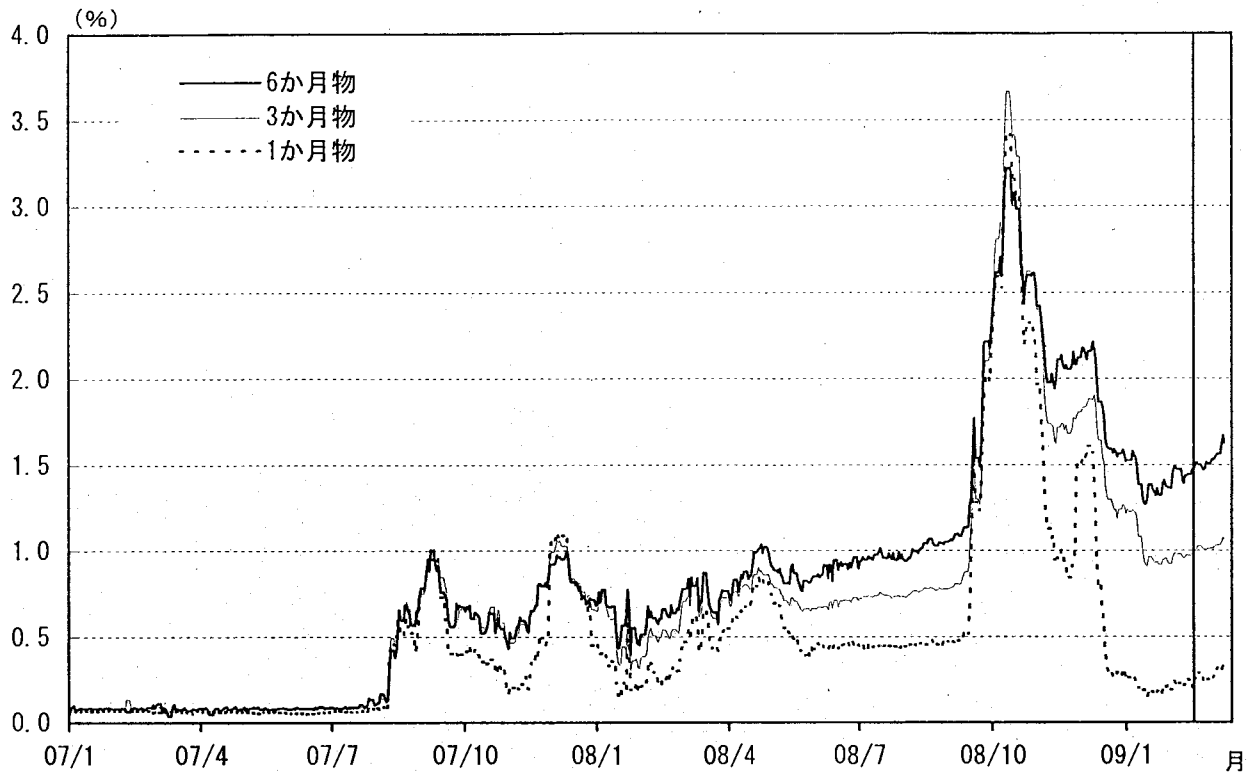
(注) 1. (1)は、ポンドのTBは3か月物レポレートで代用、円のTBはT-Bill (09/2月の統合発行以前はFB)。

2. 直近は3/11日。

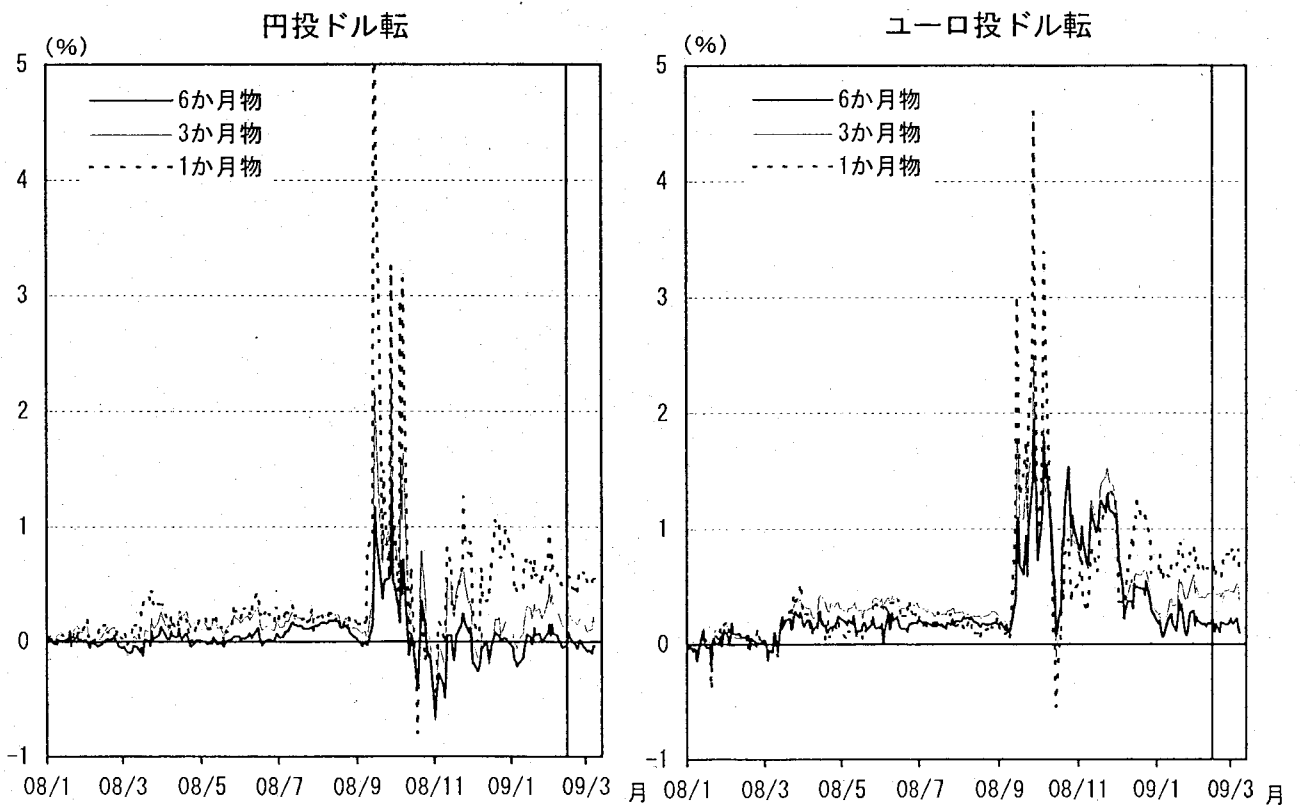
(出所) Bloomberg、日本相互証券

ドル調達プレミアムの推移

(1) ドルLIBOR-OISスプレッドの推移



(2) ドル転コスト対LIBORスプレッドの推移

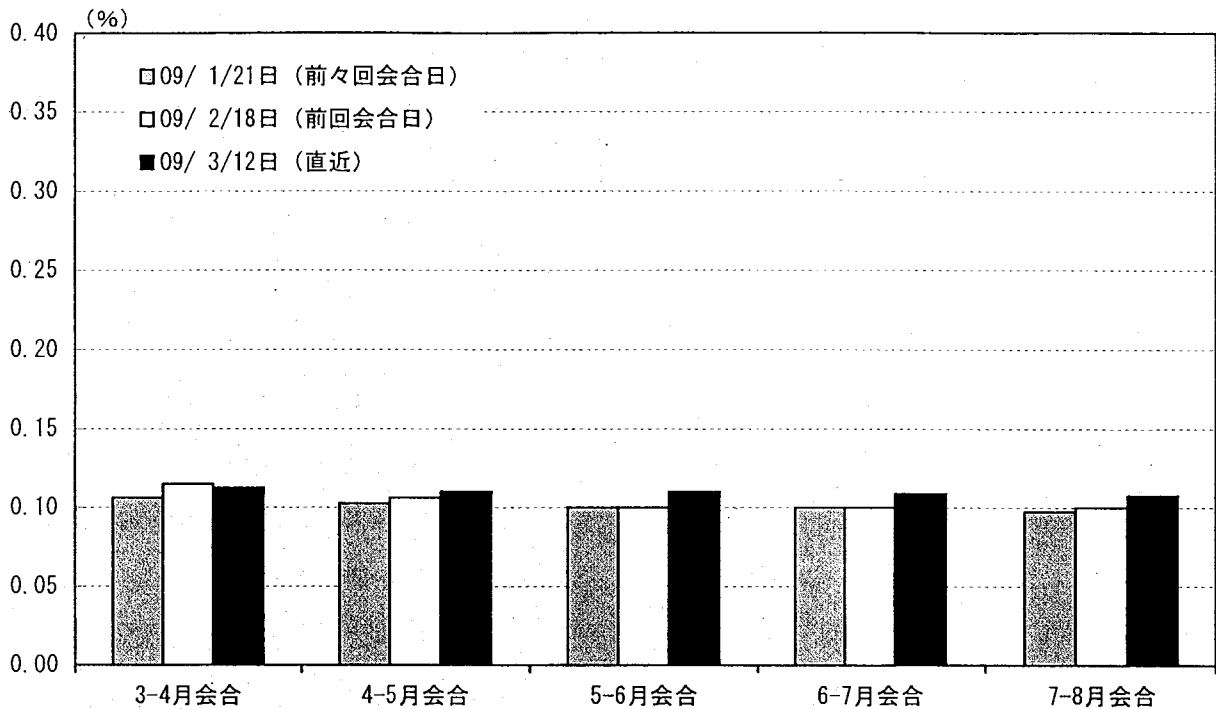


(注) 直近は3/11日。

(出所) Bloomberg、メイタン・トラディション、トムソン・ロイター

フォワードレート等の推移 (1)

(1) OISレート (会合間取引) の動向

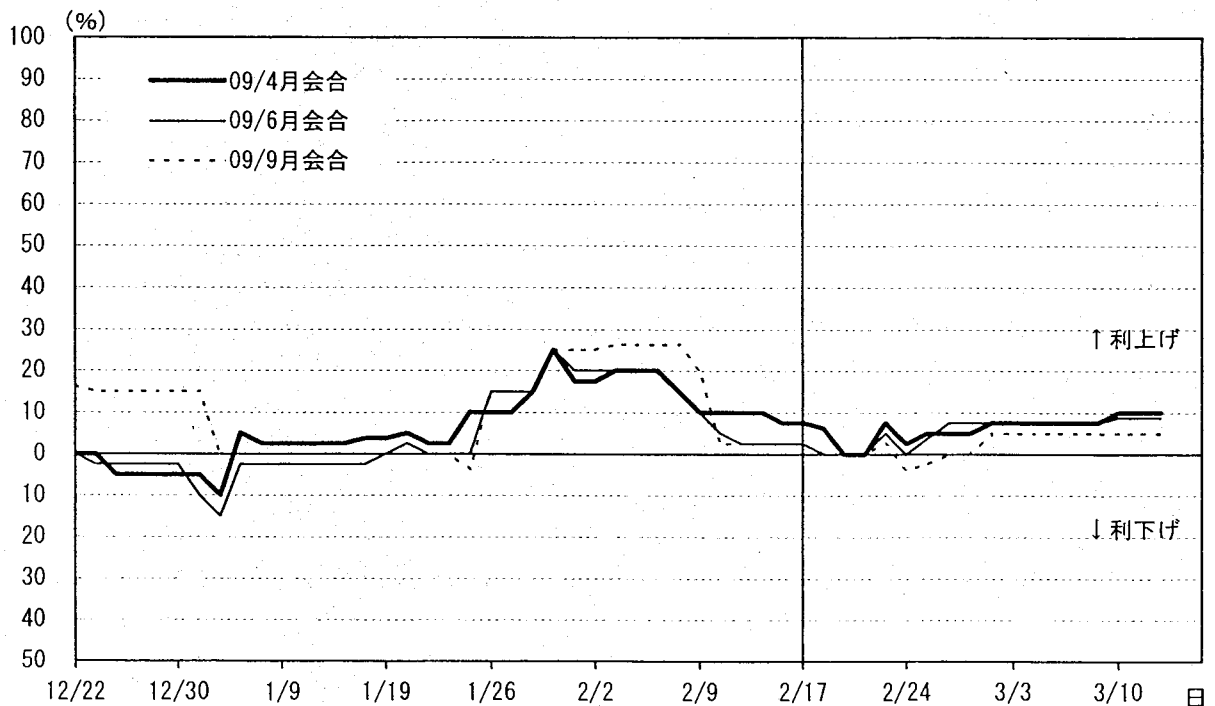


(注) 1. 会合間取引レートの仲値。

2. 直近は3/12日。

(出所) メイタン・トラディション、トムソン・ロイター

(2) OISレートからみた政策変更 (±10bps) の織り込み度合い



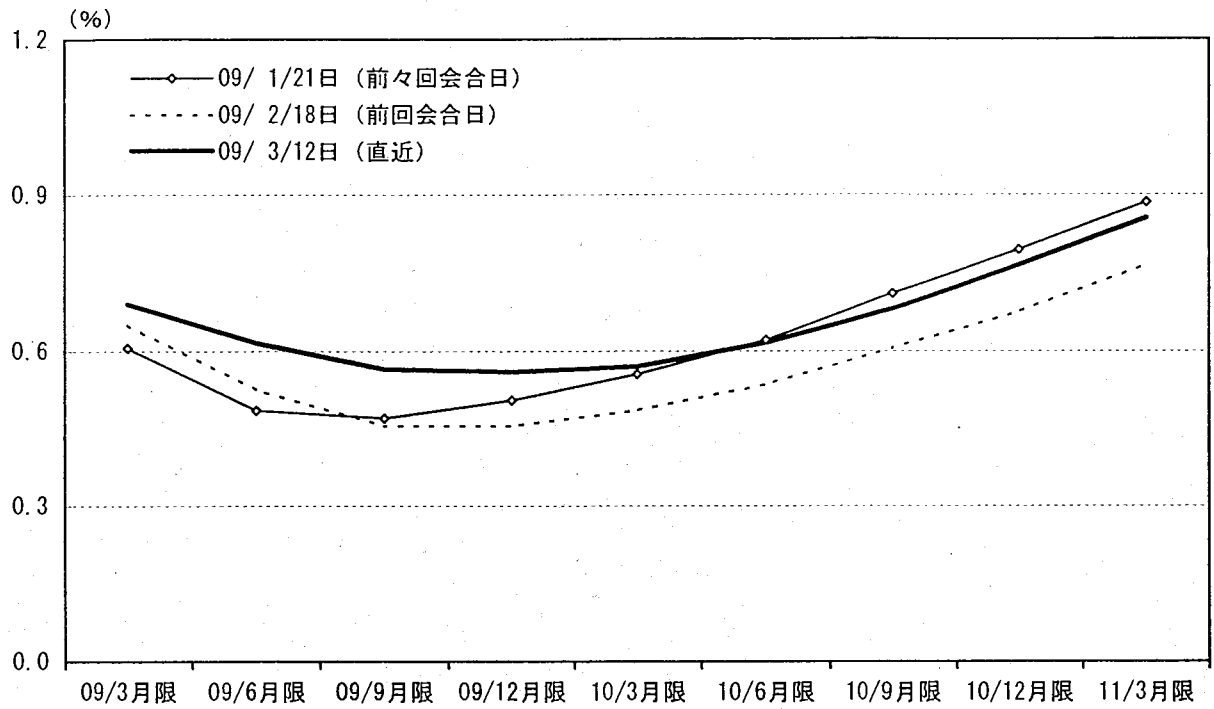
(注) 1. 会合間取引レートの仲値から算出。

2. 直近は3/12日。

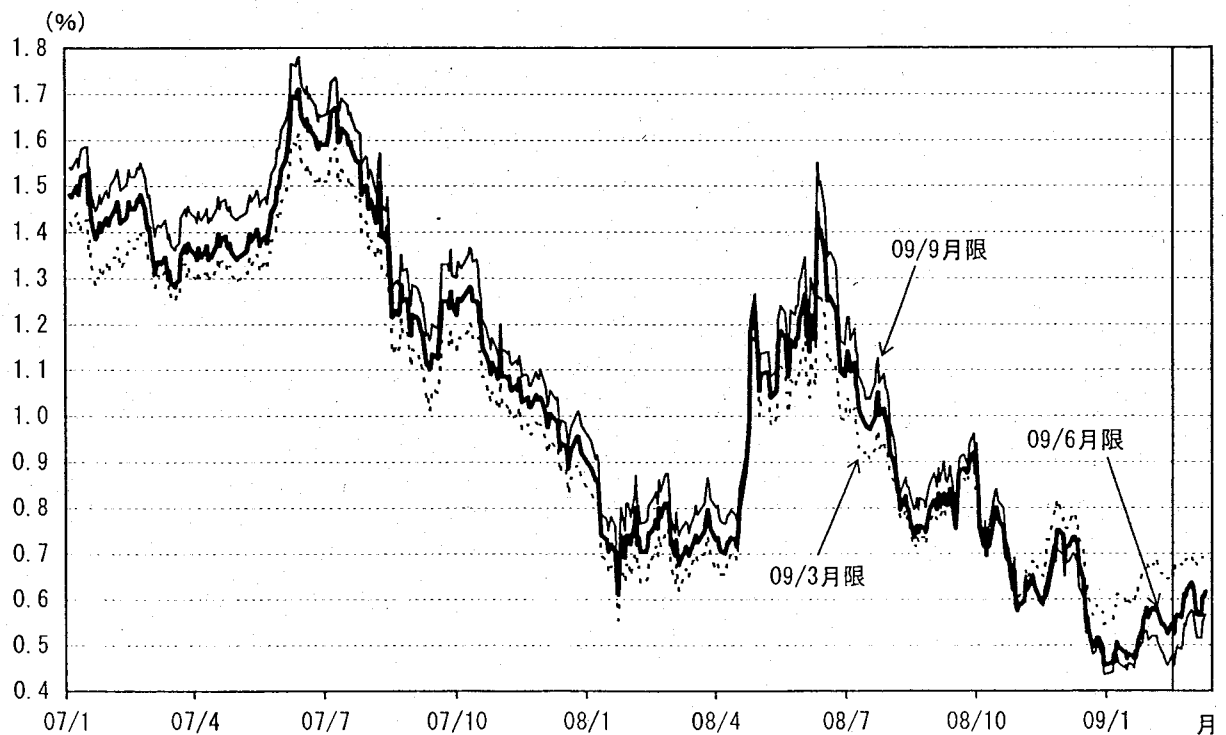
(出所) メイタン・トラディション、トムソン・ロイター、日本銀行

フォワードレート等の推移 (2)

(1) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



(2) ユーロ円金利先物レートの推移



(注) 直近は3/12日。

(出所) 東京金融取引所

8

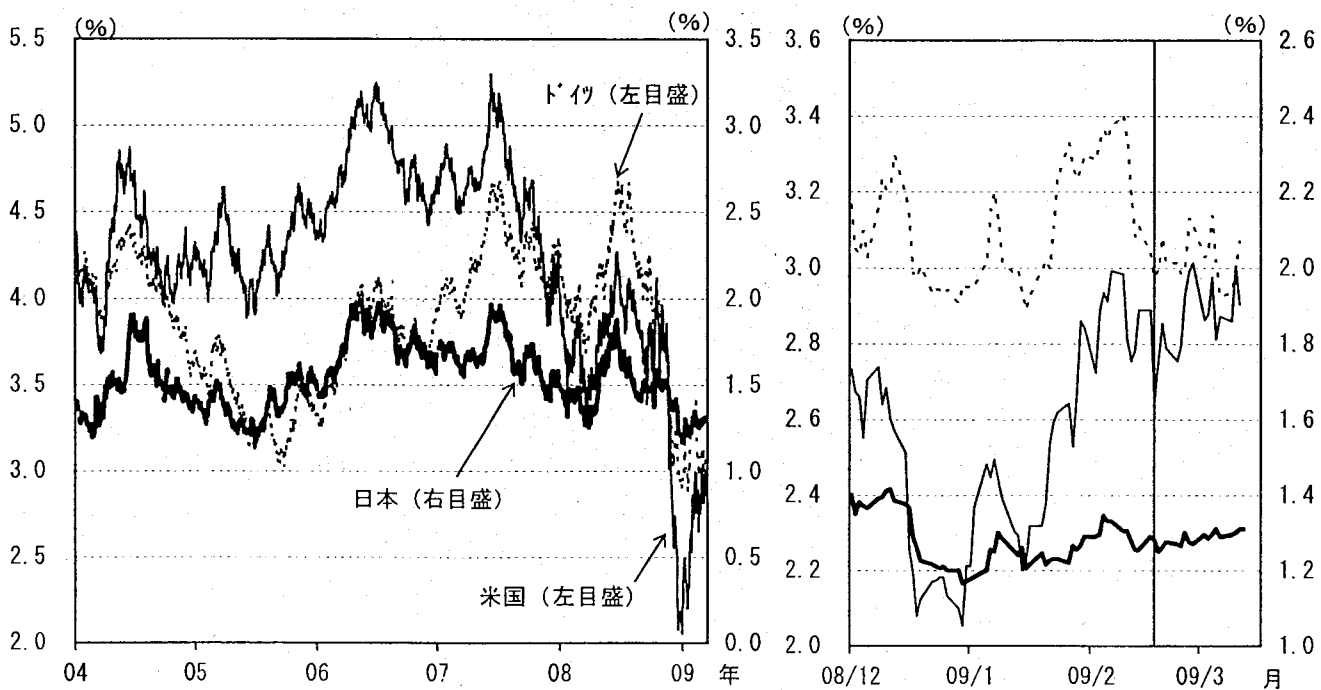
長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



(出所) 日本相互証券

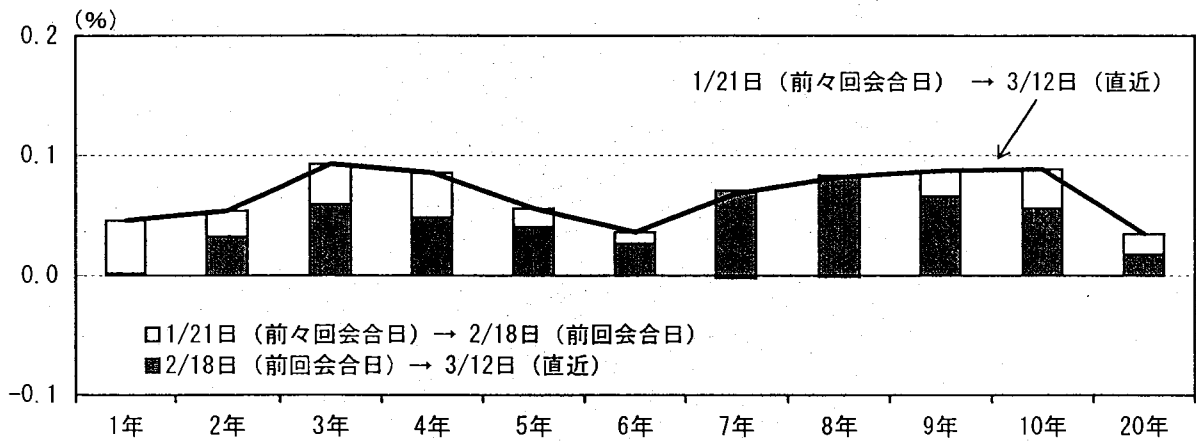
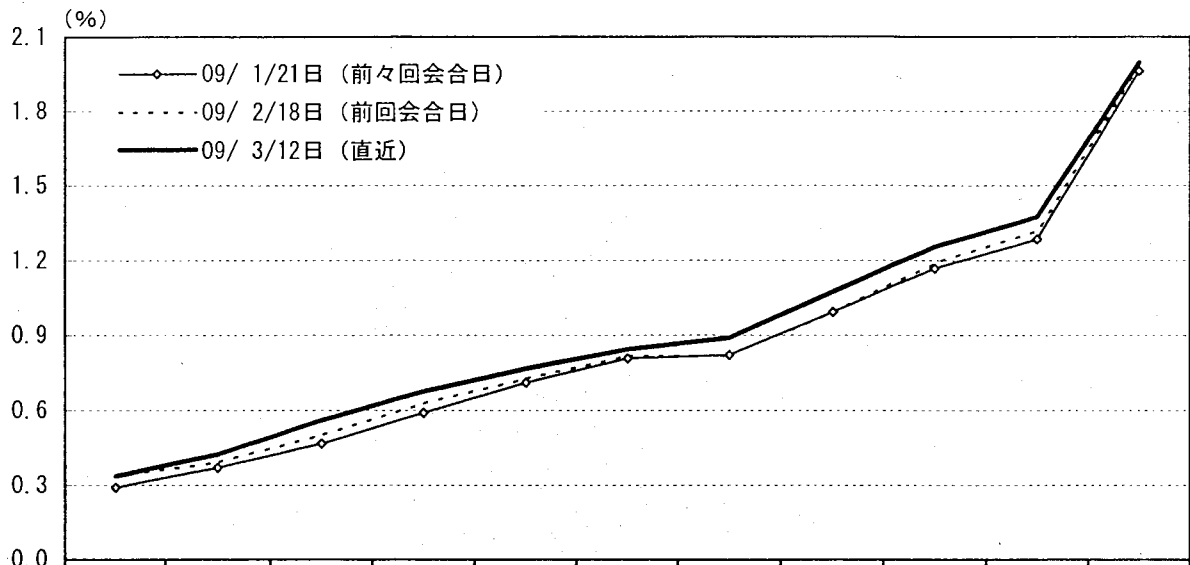
(2) 10年国債利回りの推移



(注) 直近は、日本は3/12日、その他は3/11日。

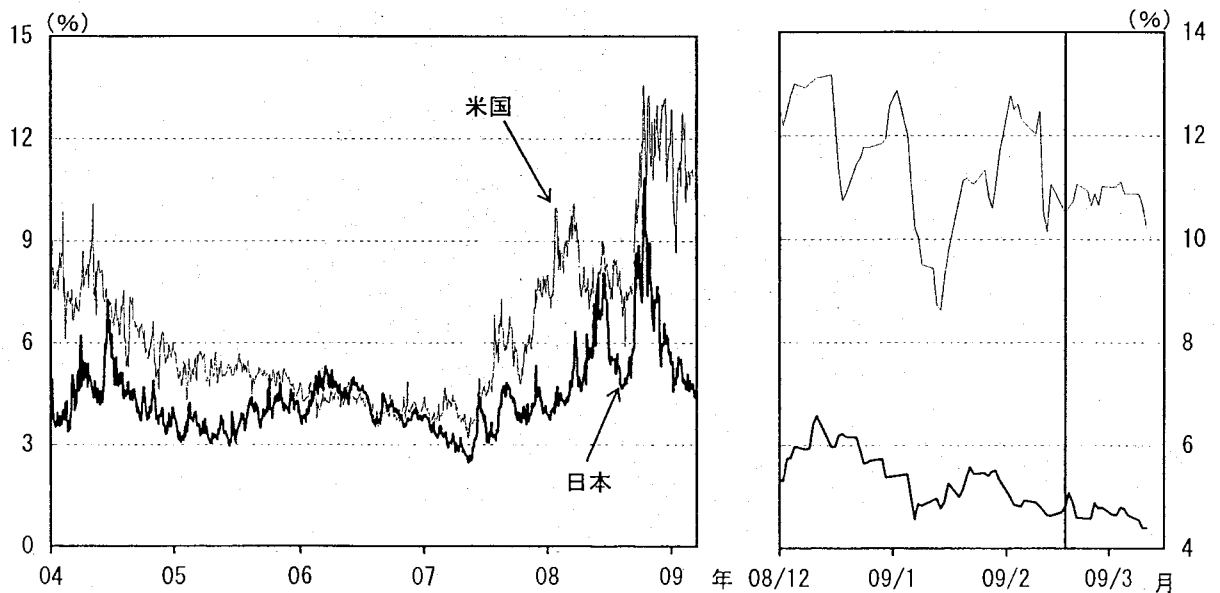
(出所) Bloomberg、日本相互証券

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

インプライド・ボラティリティの推移

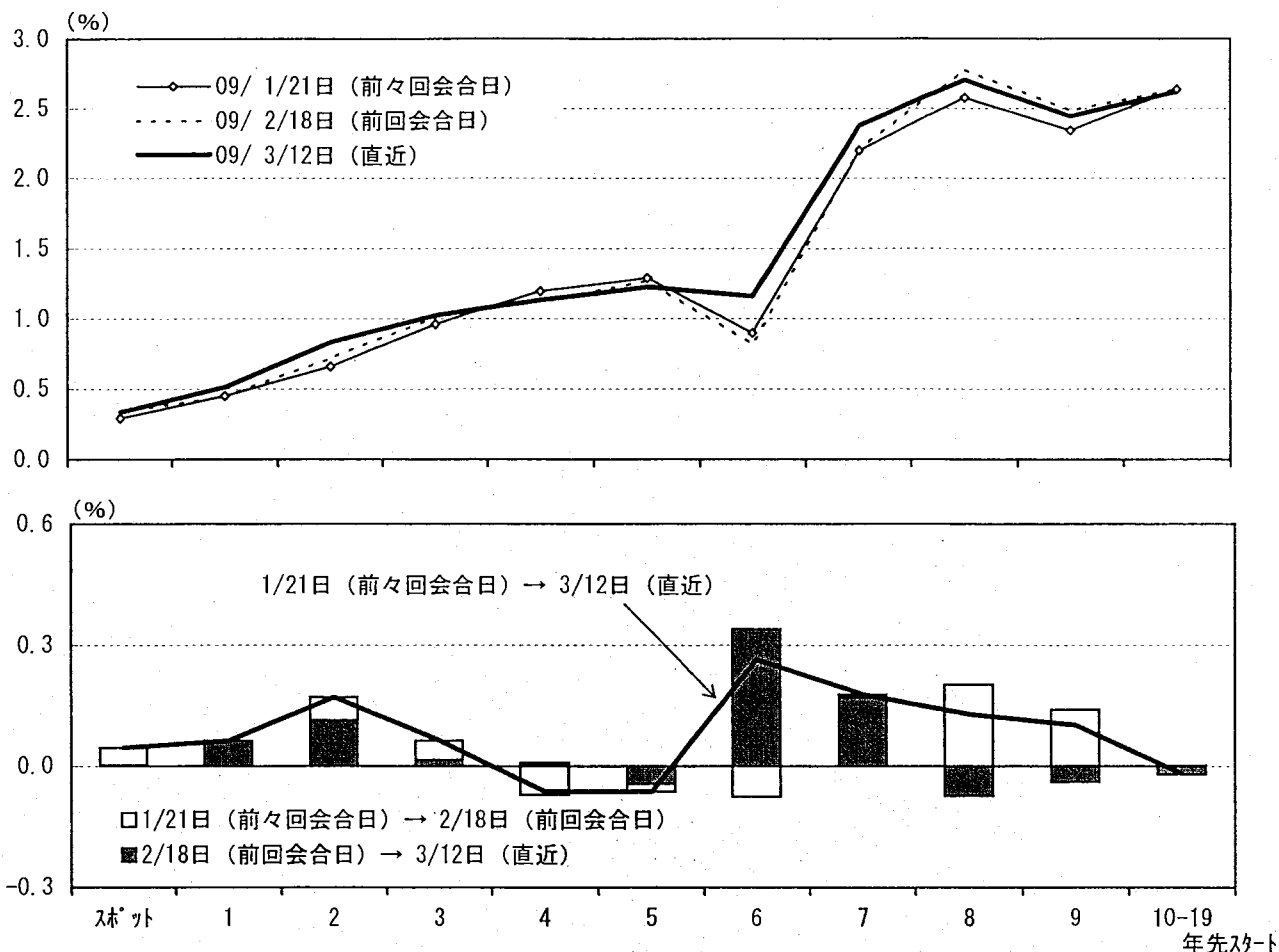


(注) 直近は3/11日。

(出所) 三菱UFJ証券、Bloomberg

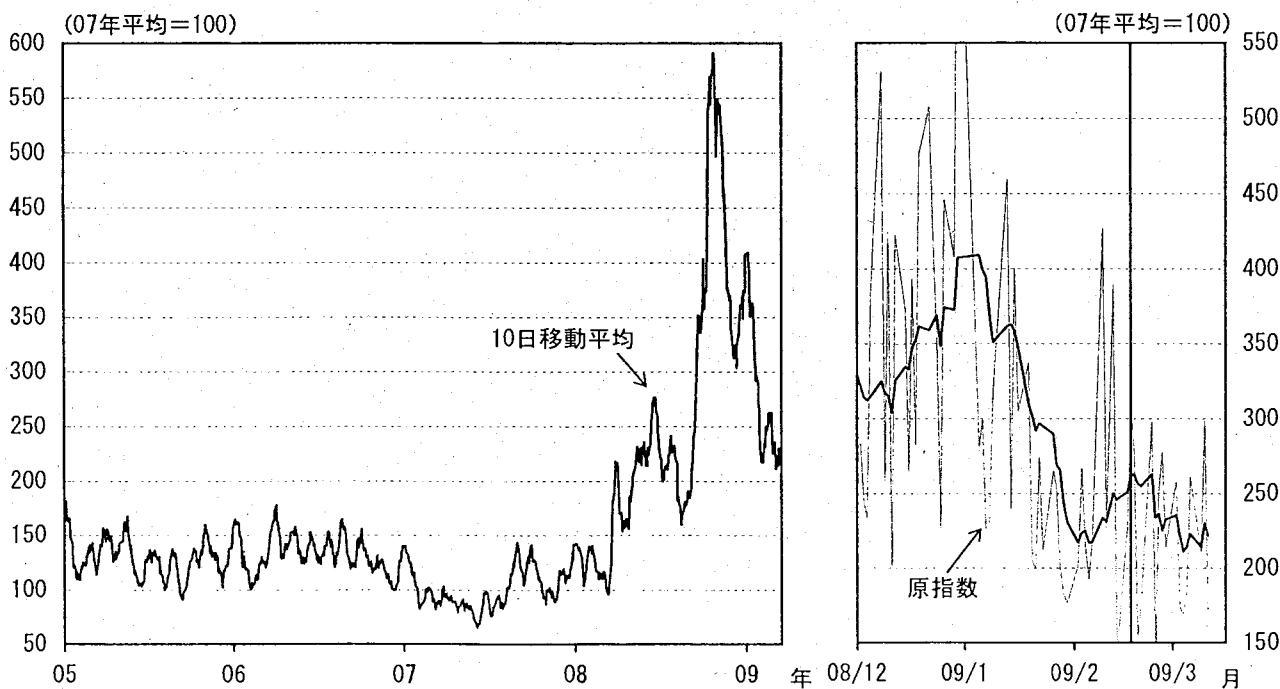
(図表11)

フォワードレート・カーブの動向



(注) 1年物。
(出所) 日本証券業協会、日本銀行

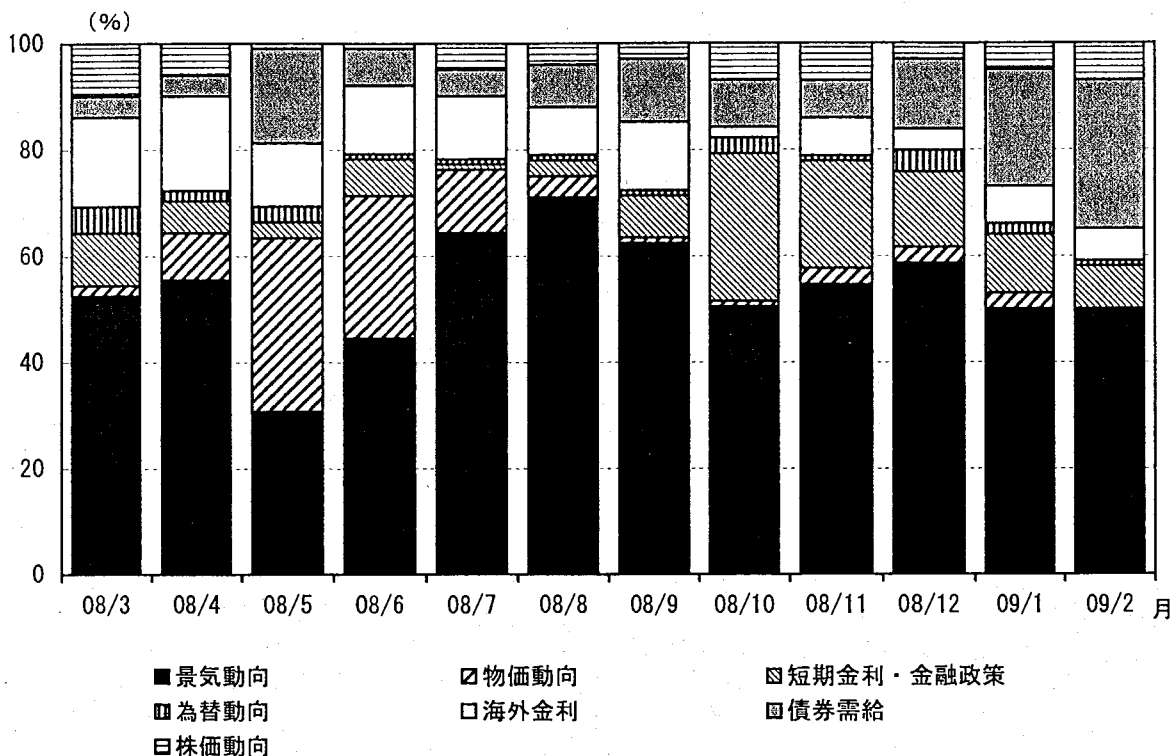
長国先物の値幅・出来高比率の推移



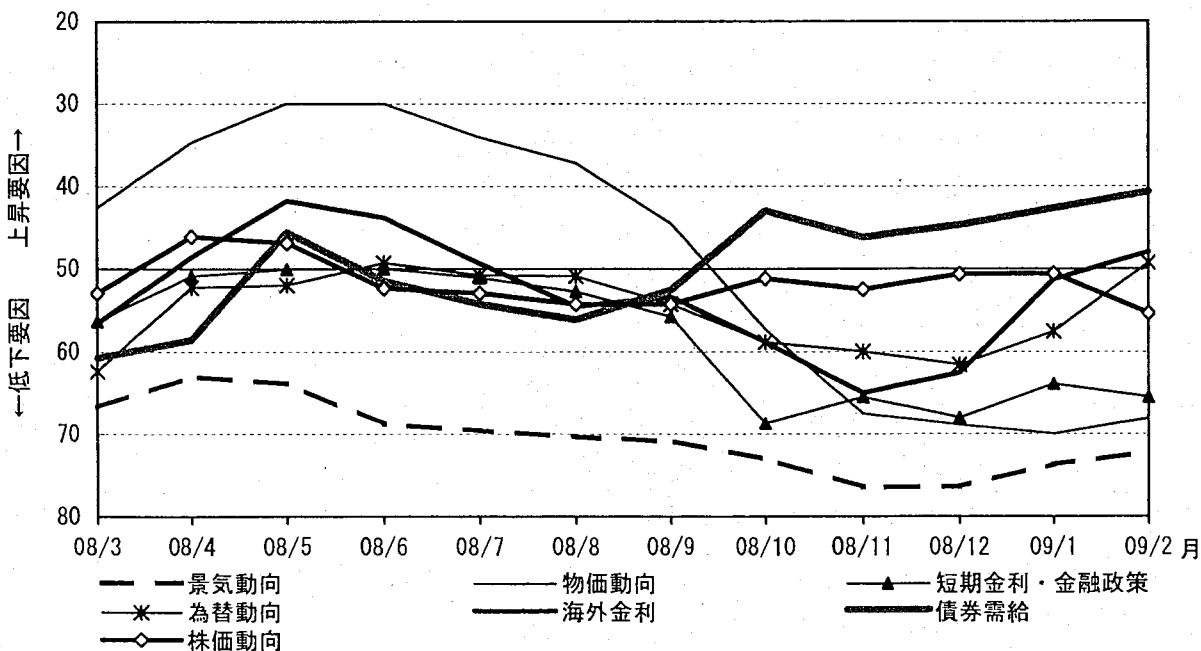
(注) 直近は3/11日。
(出所) QUICK

市場参加者が注目する債券利回り変動要因

(1) 注目する債券利回り変動要因



(2) 注目する変動要因の影響 (各要因は利回りにどう影響するか)



(注) 各要因について、強い低下要因=100、低下要因=75、中立・不明=50、上昇要因=25、強い上昇要因=0として指数化。

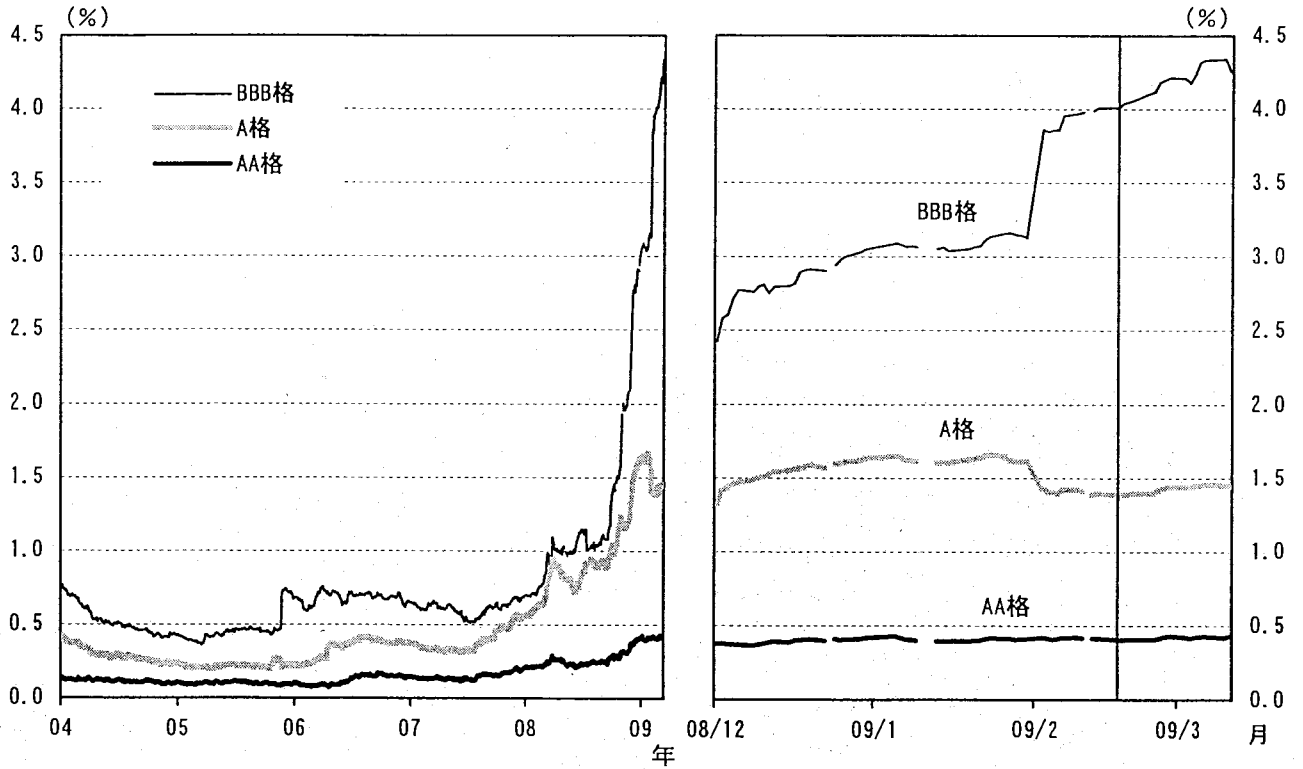
(調査方法) 調査期間：09/2/24日～09/2/26日 (10年新発債利回り：1.260～1.300%)

調査対象：証券会社・機関投資家の債券担当211名 (回答率 70.6%)

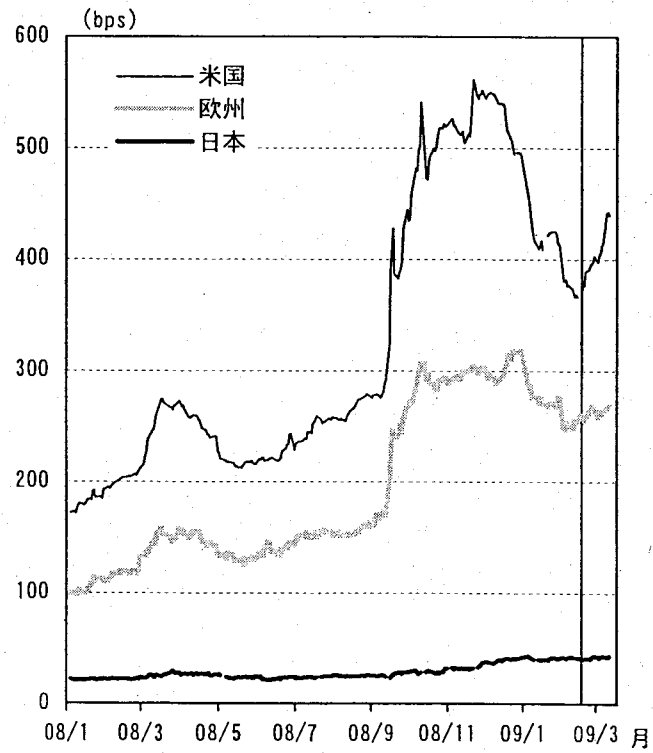
(出所) 「QSS債券月次調査」

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

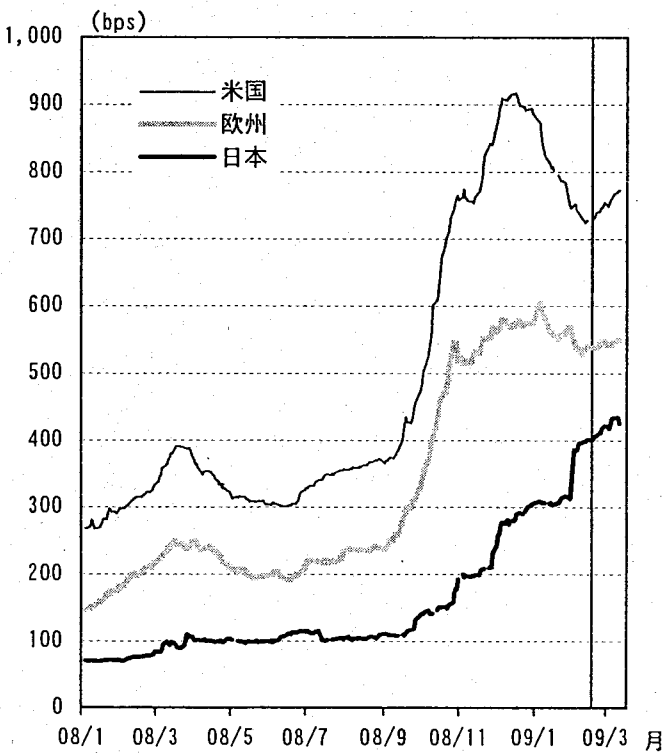
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債 (AA格) の動向



(3) 低格付社債 (BBB格) の動向

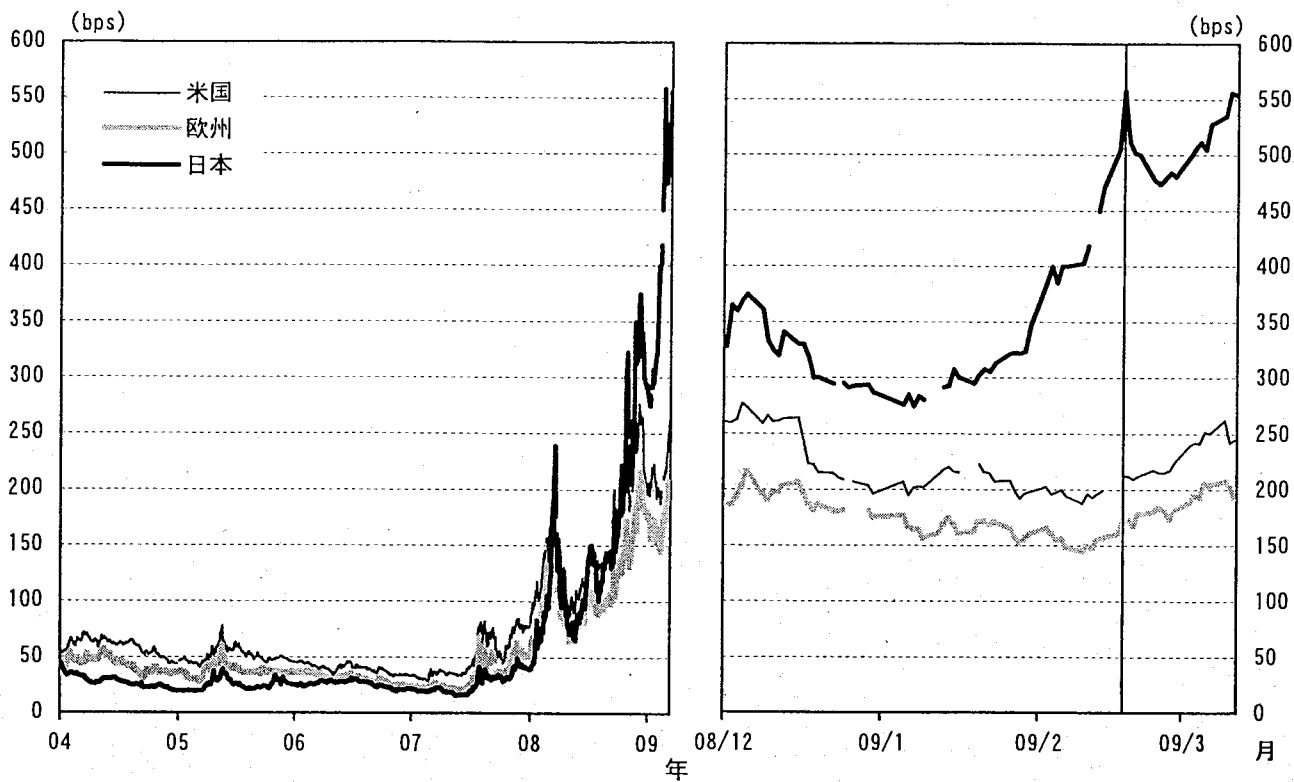


(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付はR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は3/11日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

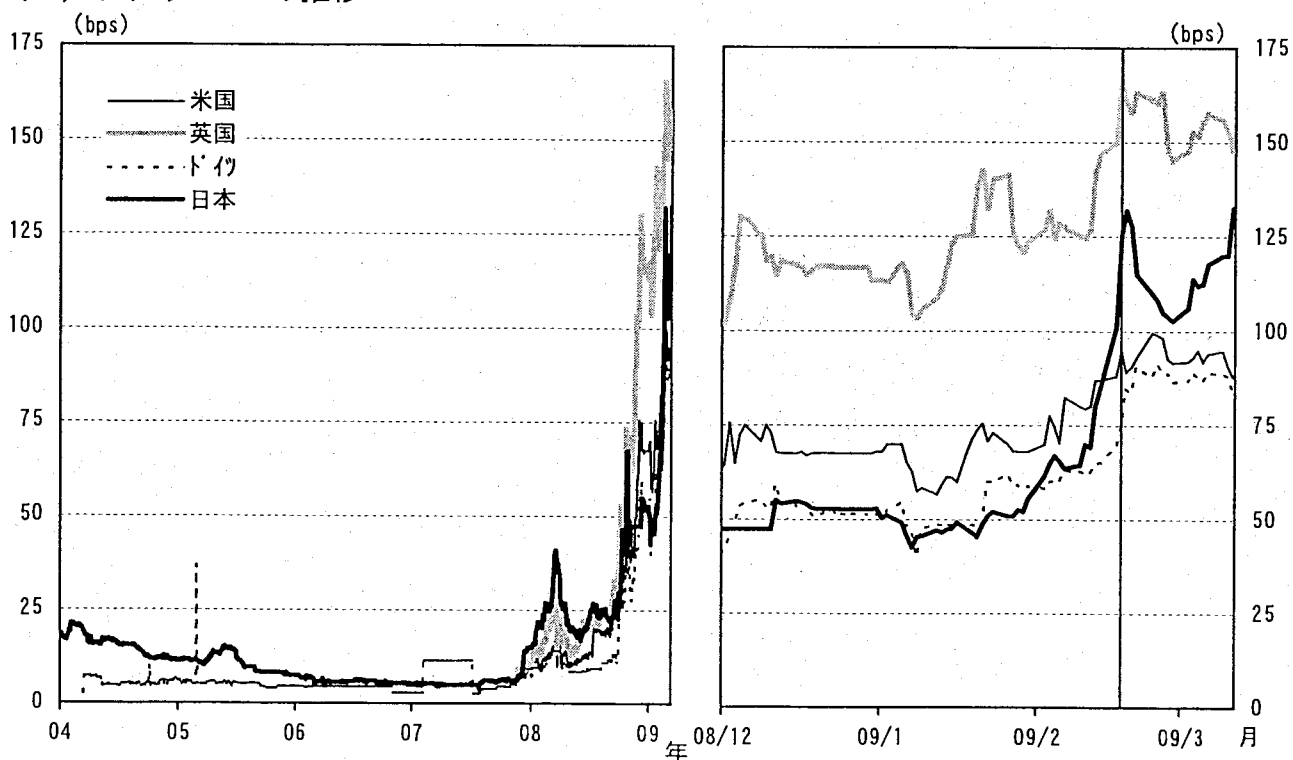
CDSプレミアムの推移

(1) CDSインデックスの推移



(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本: iTraxx Japan 米国: CDX.NA.IG 欧州: iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は3/11日。
(出所) Markit、JPモルガン

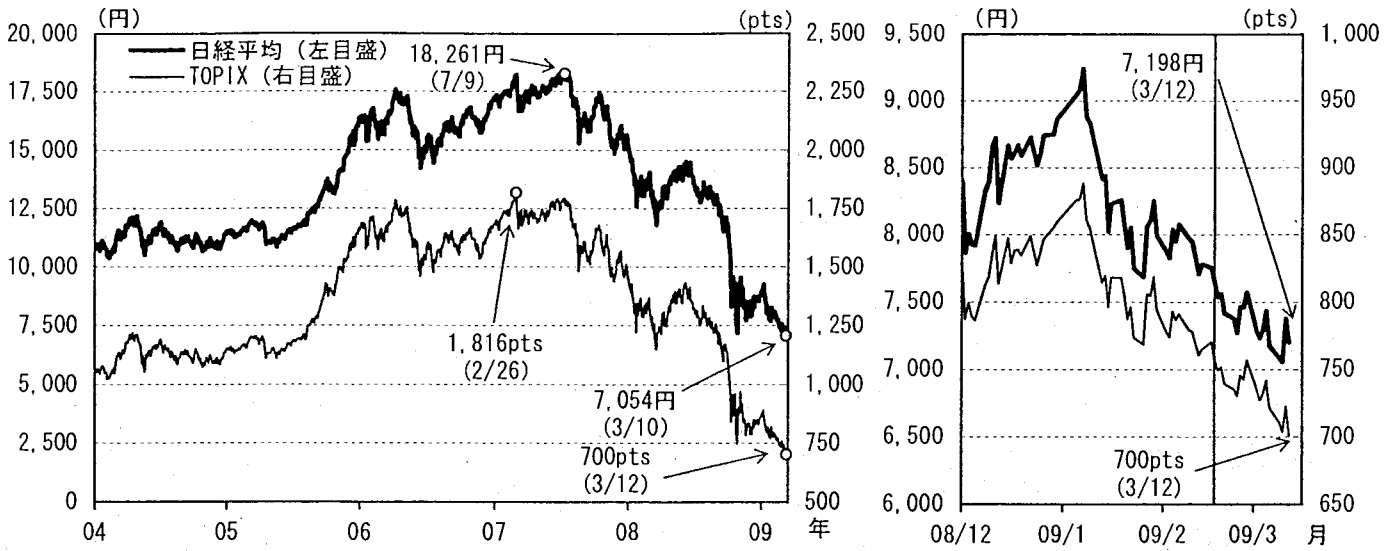
(2) ソブリンCDSの推移



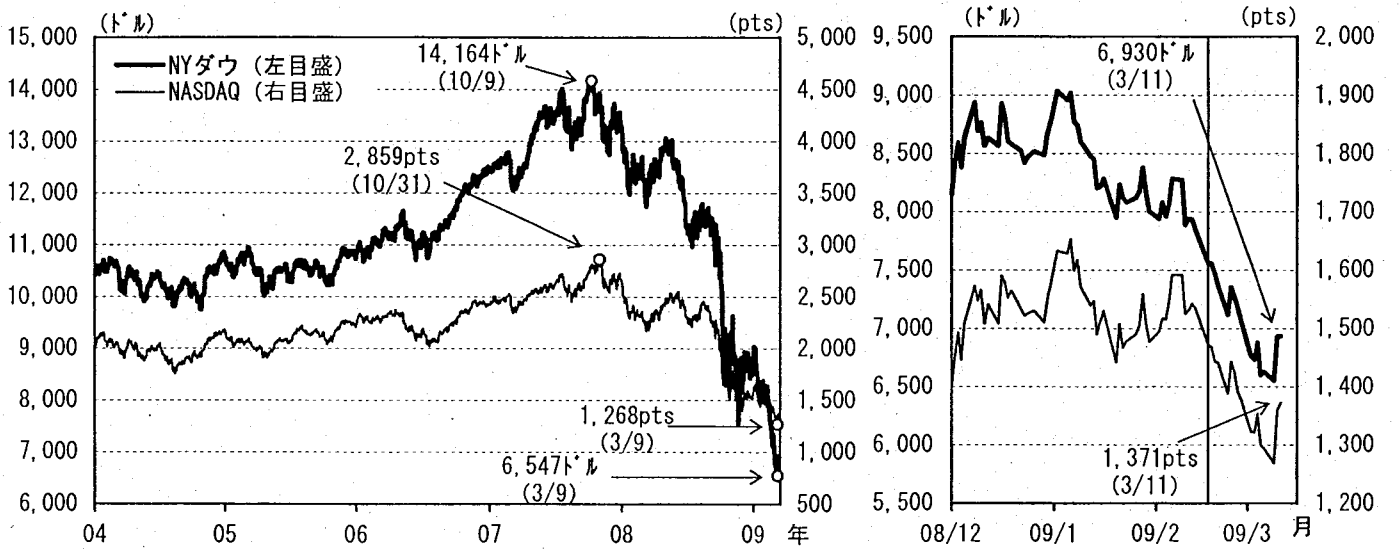
(注) 年限は10年。直近は3/11日。
(出所) Bloomberg

株式相場の推移

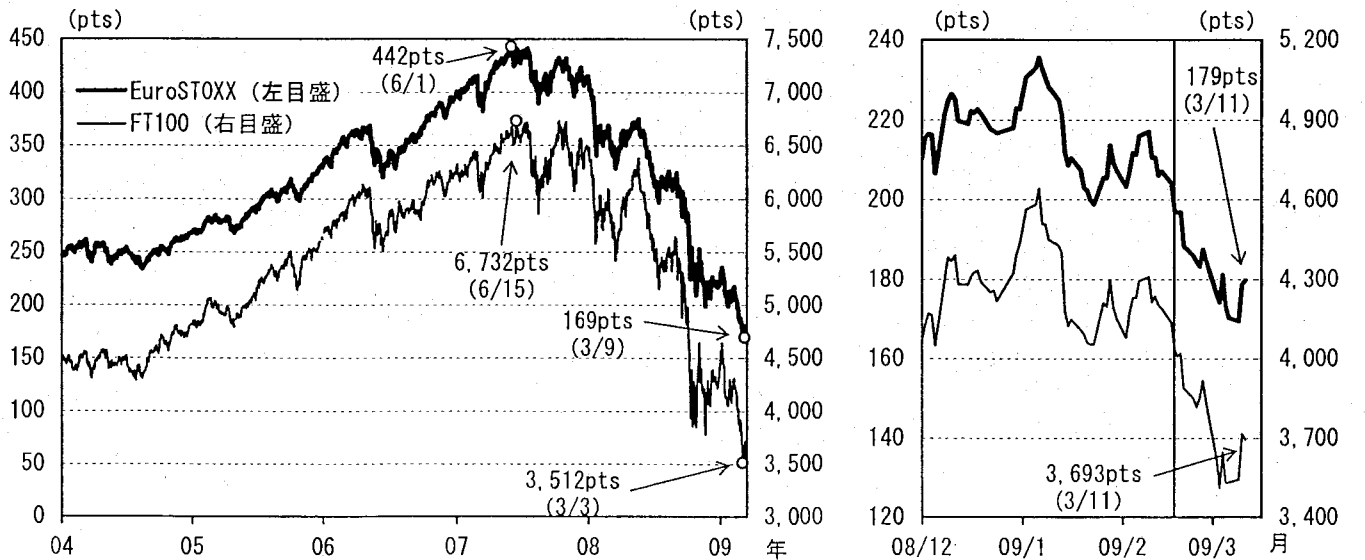
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は、TOPIX、日経平均は3/12日、その他は3/11日。

(出所) QUICK、Bloomberg

主体別売買動向

(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投 信	金融機関			外国人
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
06年	▲43,811	18,380	20,190	17,073	▲40,369	▲33,176	▲1,499	55,288
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
08/4 ~ 6月	▲5,546	2,184	2,288	▲229	▲3,947	▲759	▲1,572	24,323
7 ~ 9月	▲720	▲556	1,850	348	1,683	3,421	▲1,096	▲12,215
10 ~ 12月	10,045	▲1,239	5,369	1,217	32,534	33,379	▲699	▲28,943
08/12月	▲3,251	▲583	963	749	9,209	9,759	▲550	▲7,747
09/1月	3,960	1,342	207	787	9,104	9,403	▲267	▲8,303
2月	2,857	469	911	584	8,541	8,261	▲40	▲8,239
09/2/2 ~ 2/6	▲20	▲236	37	137	2,406	2,420	0	▲1,829
2/9 ~ 2/13	1,536	539	109	▲46	1,411	1,396	▲6	▲1,963
2/16 ~ 2/20	1,598	479	595	4	2,659	2,707	▲138	▲3,567
2/23 ~ 2/27	▲258	▲312	169	489	2,064	1,737	104	▲878
3/2 ~ 3/6	2,148	806	246	58	3,809	3,698	▲25	▲5,571

(注) 1. 三市場（東京・大阪・名古屋）1・2部等合計。

2. 金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

(出所) 東京証券取引所

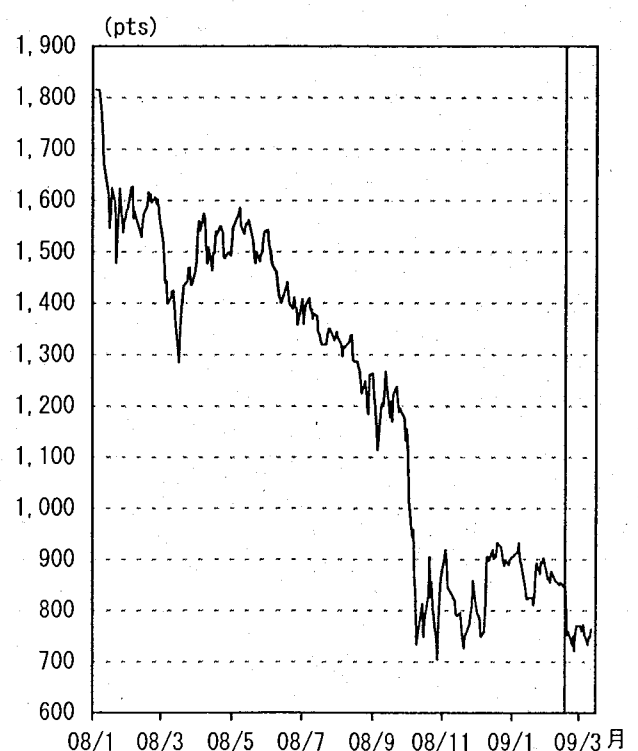
ボラティリティの推移

(注) 1. 日経平均はインプライド・ボラティリティ。
S&P500はVIX指数。

2. 直近は3/11日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移



(注) 1. 東証REIT指数は、東証上場のREIT全銘柄を対象とした時価総額加重平均指数。

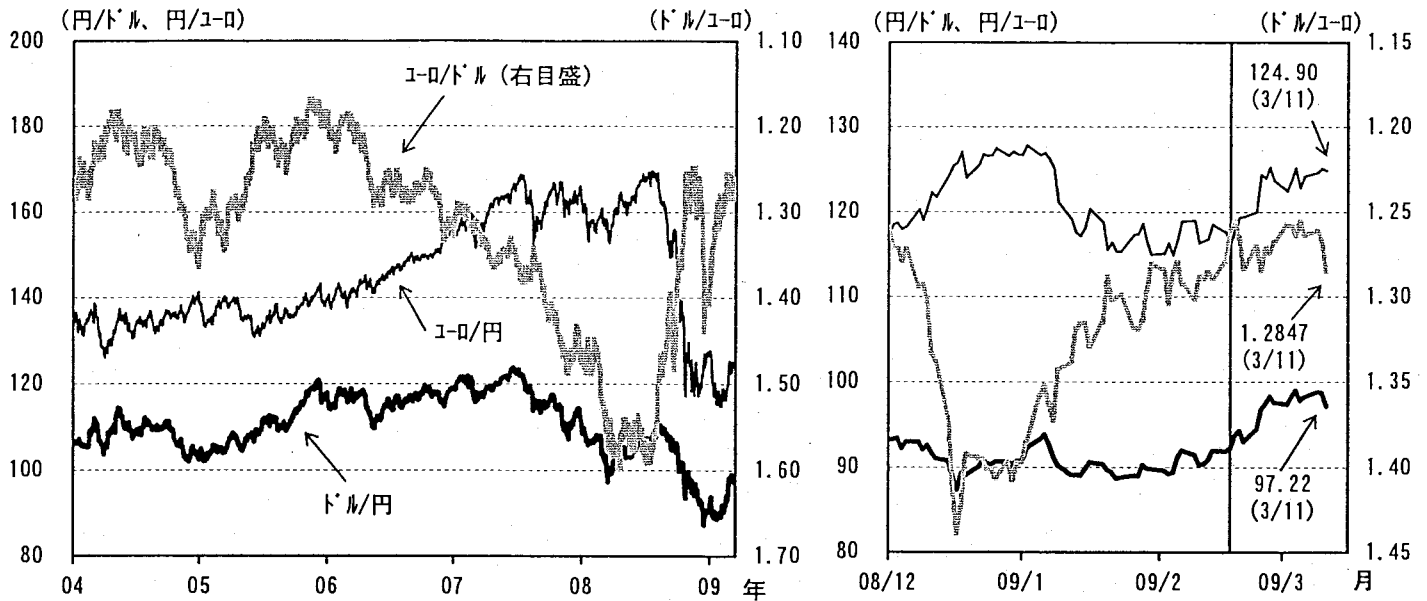
2. 直近は3/12日。

(出所) Bloomberg

(図表17)

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移

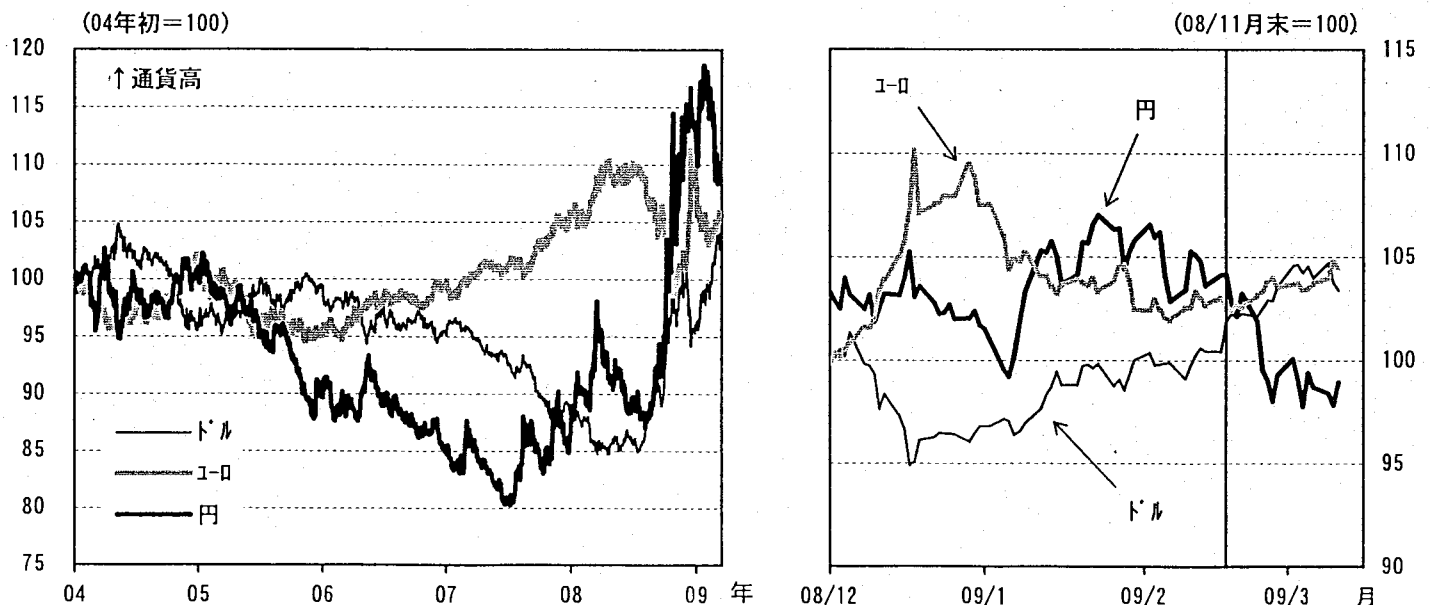


〈参考〉

	前回決定会合直前 (2/17日)	期間中ピーク	期間中ボトム	直近終値 (3/11日)
円の対ドル相場	92.30円	92.30円 (2/17日)	99.07円 (3/4日)	97.22円
円の対ユーロ相場	116.36円	116.36円 (2/17日)	125.28円 (2/26日)	124.90円
ユーロの対ドル相場	1.2607ドル	1.2847ドル (3/11日)	1.2553ドル (2/18日)	1.2847ドル

(注) 原則NY市場16時時点。
(出所) トムソン・ロイター

(2) 名目実効為替レートの推移

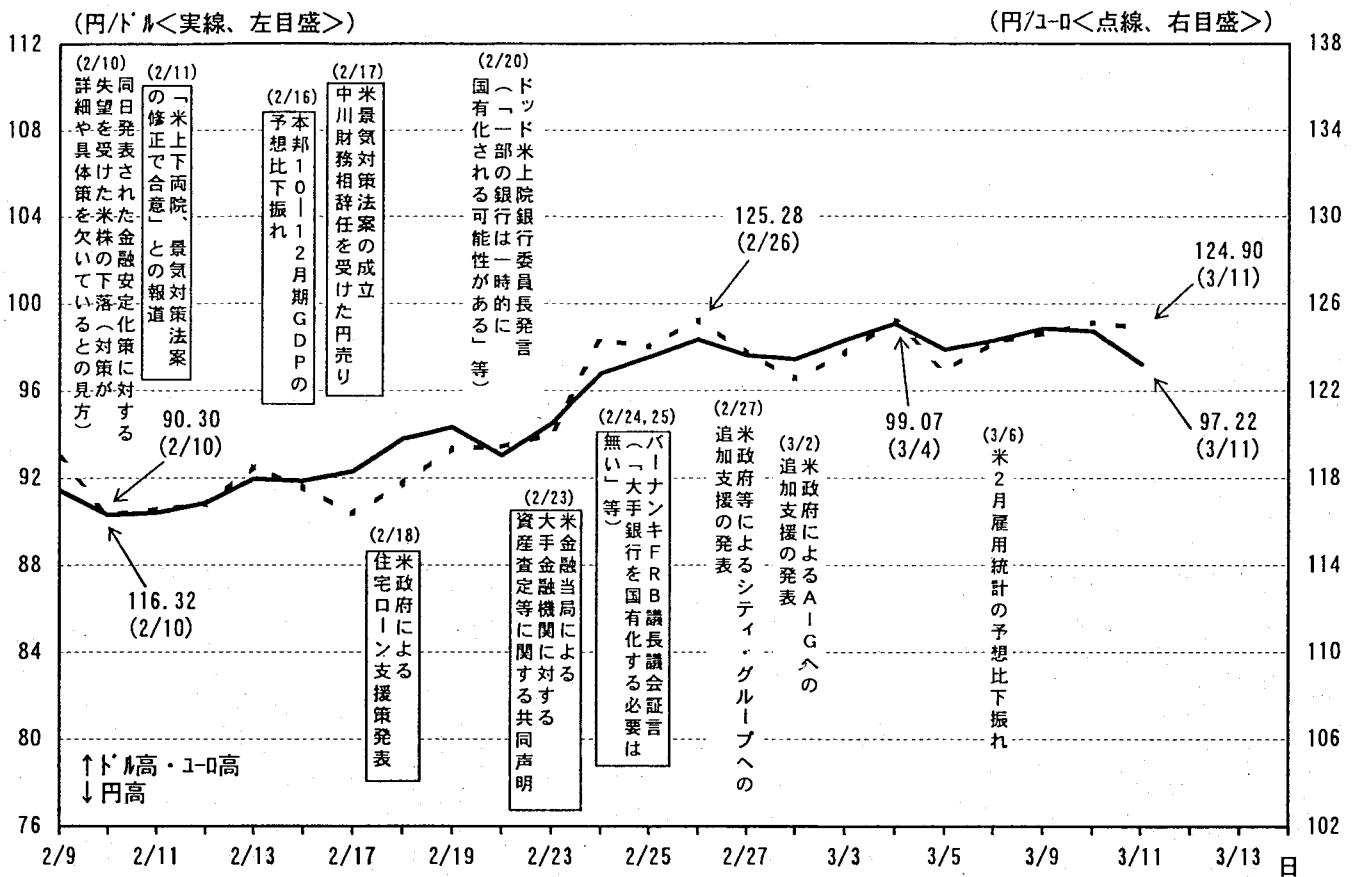


(注) 直近は3/11日。
(出所) ドルはJPモルガン
ユーロはECB (米ドル、英ポンド、円等21通貨ベース)
円は日本銀行 (米ドル、ユーロ、アジア通貨等15通貨ベース) /7

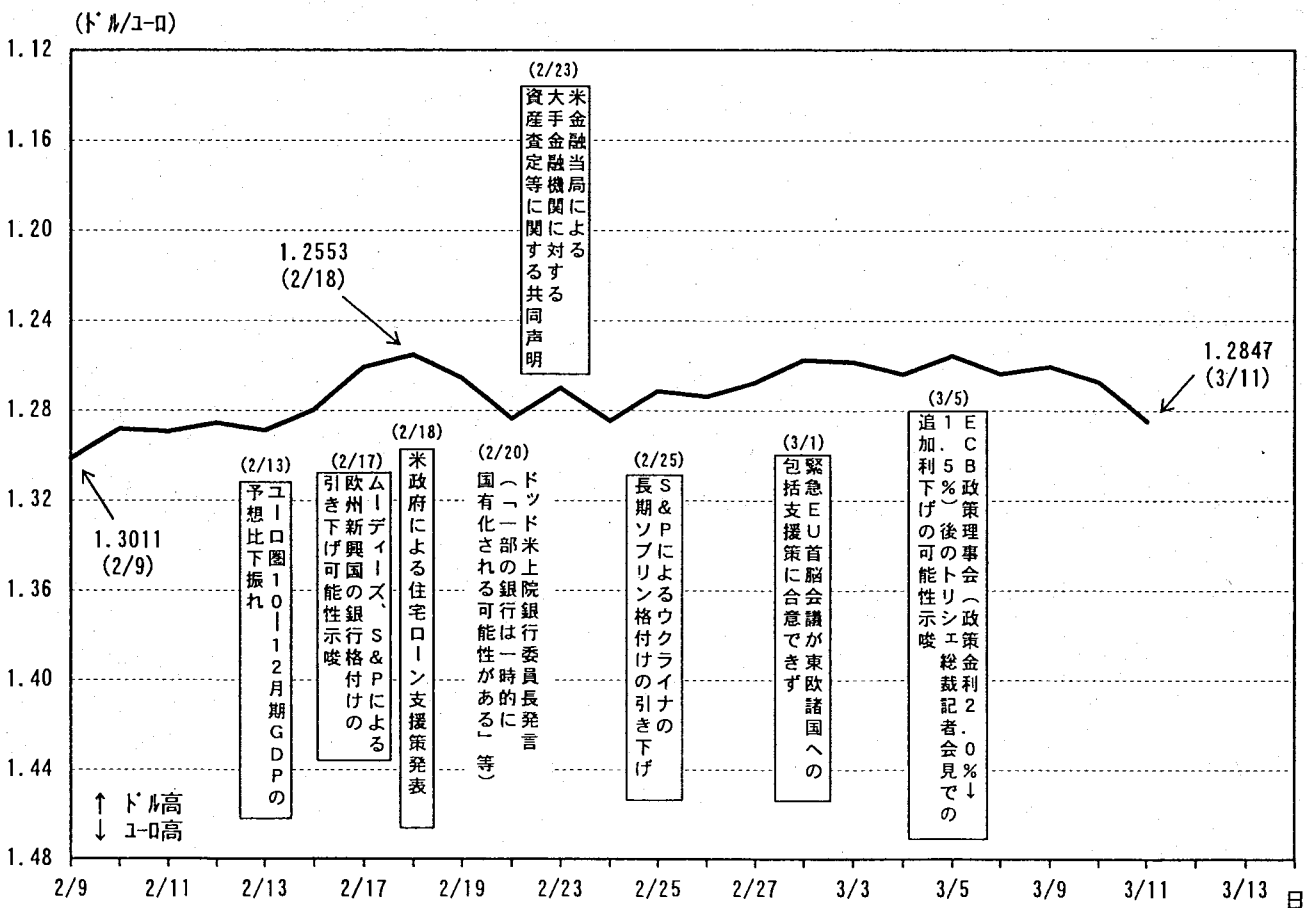
最近の為替相場動向とその変動要因

(図表18)

(1) ドル/円、ユーロ/円相場



(2) ユーロ/ドル相場

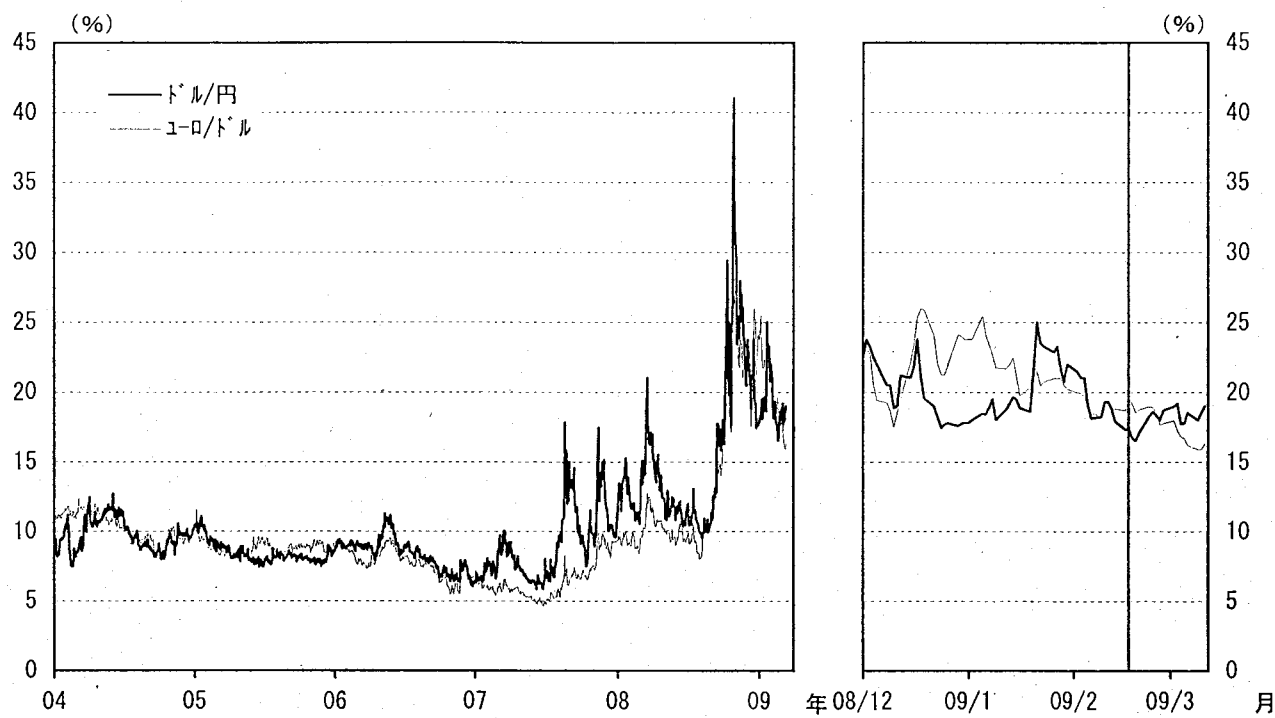


(注) 1. 原則NY市場16時時点。
2. 枠付きはドル高材料。

(出所) トムソン・ロイター、日本銀行 (対外非公表)

通貨オプション市場の動向

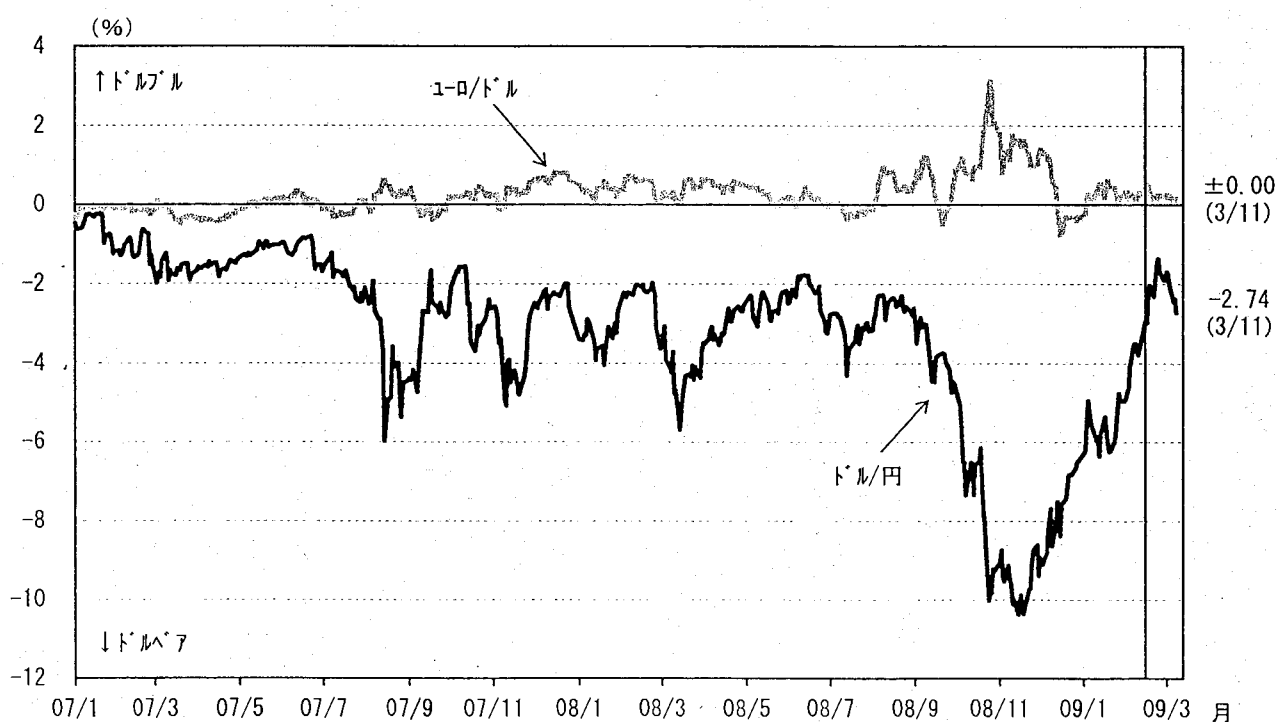
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(注) 直近は3/11日。

(出所) Bloomberg

(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



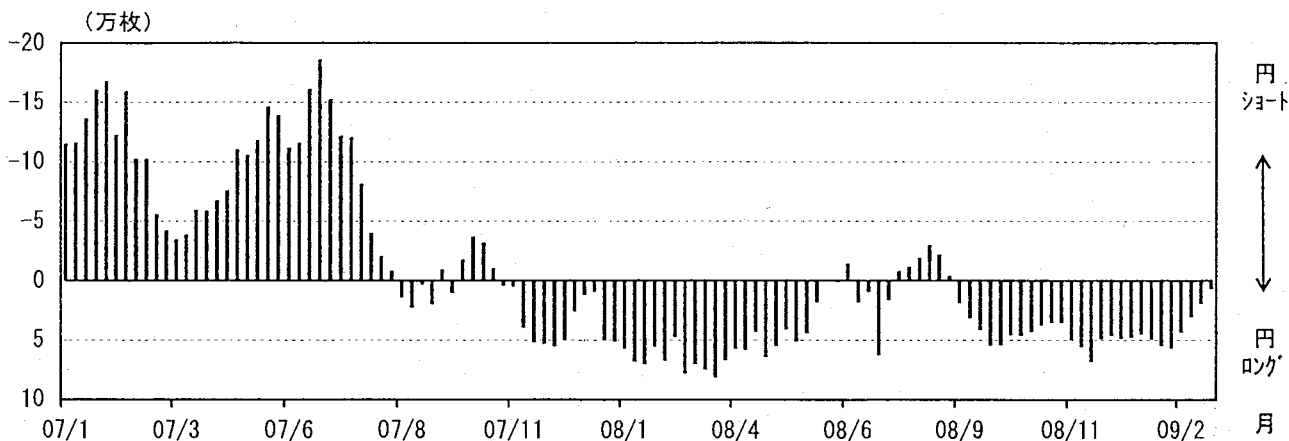
(注) リスクリバーサルは、便宜上、プラスがドル・コール・オーバー、マイナスがドル・プット・オーバー。

(出所) 日本銀行 (対外非公表)

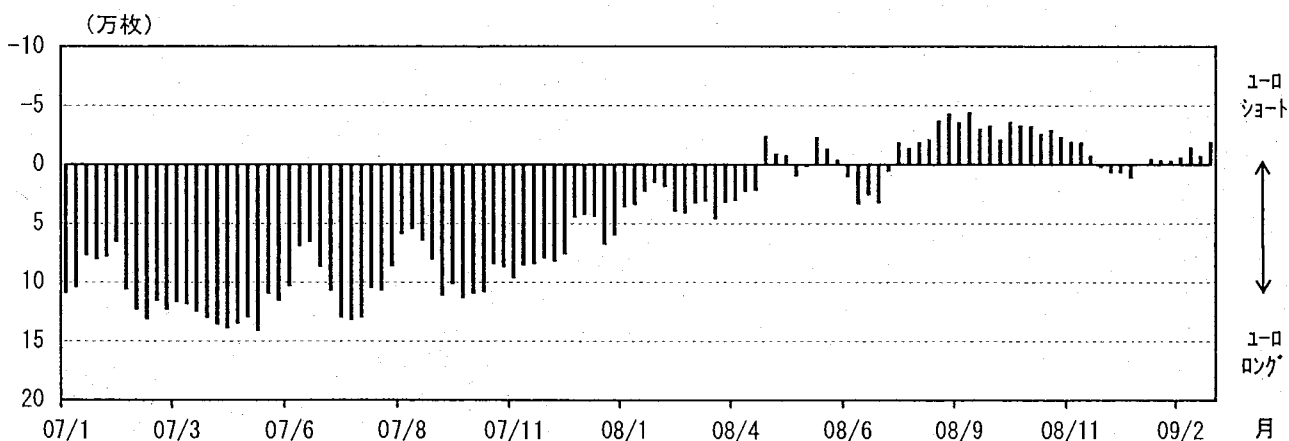
(図表20)

通貨先物、投資信託の動向

(1-1) 円のIMMネットポジション



(1-2) ユーロのIMMネットポジション

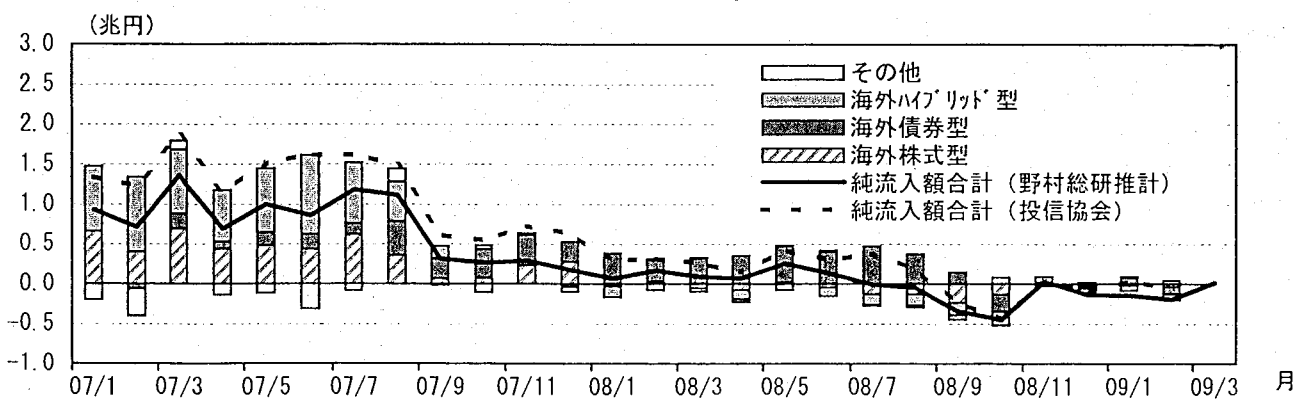


(注) 1. シカゴ・マーカントイル取引所の当該通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は3/3日。

(出所) Bloomberg

(2) 公募追加型株式投信の資金純流入額



(注) 1. 「純流入額 (野村総研推計)」は各月の時点で設定後2か月以上経過したファンドのみが集計対象。09/3月分は3/10日までの実績。

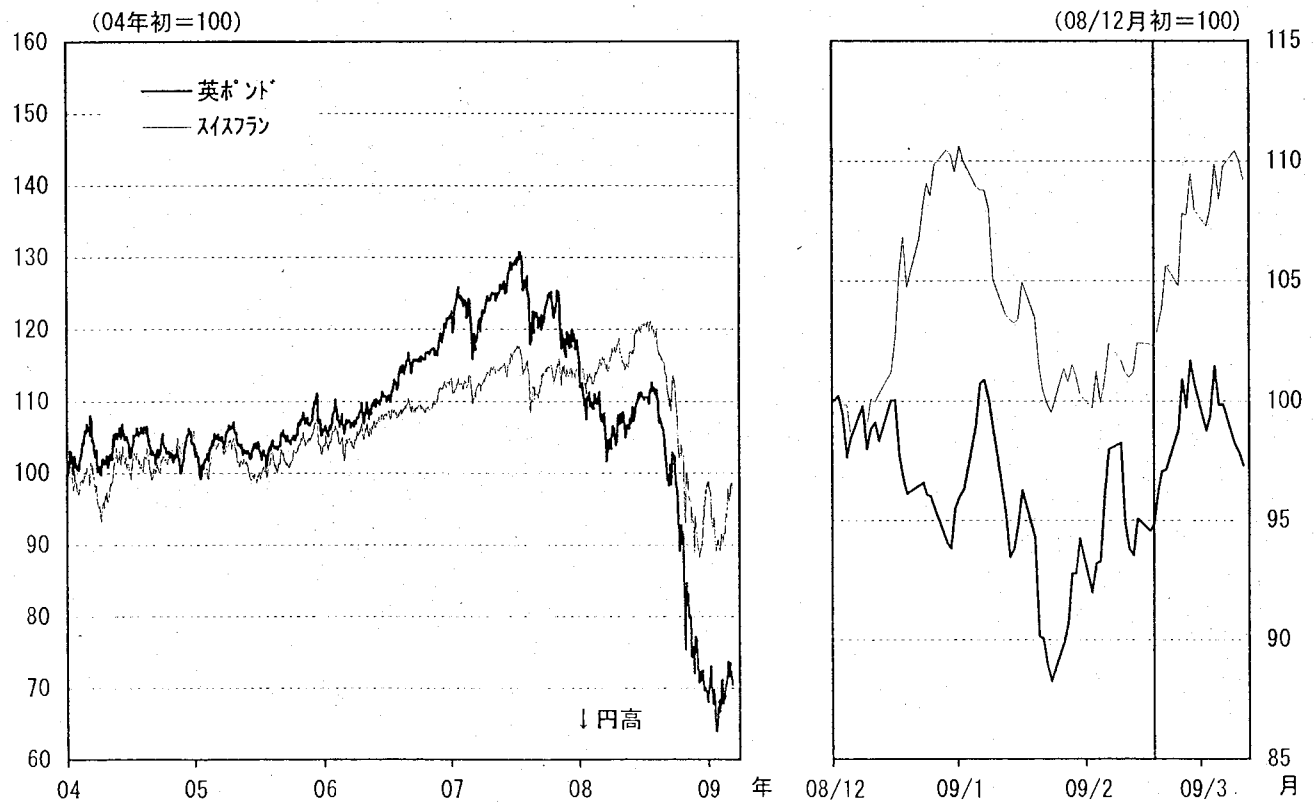
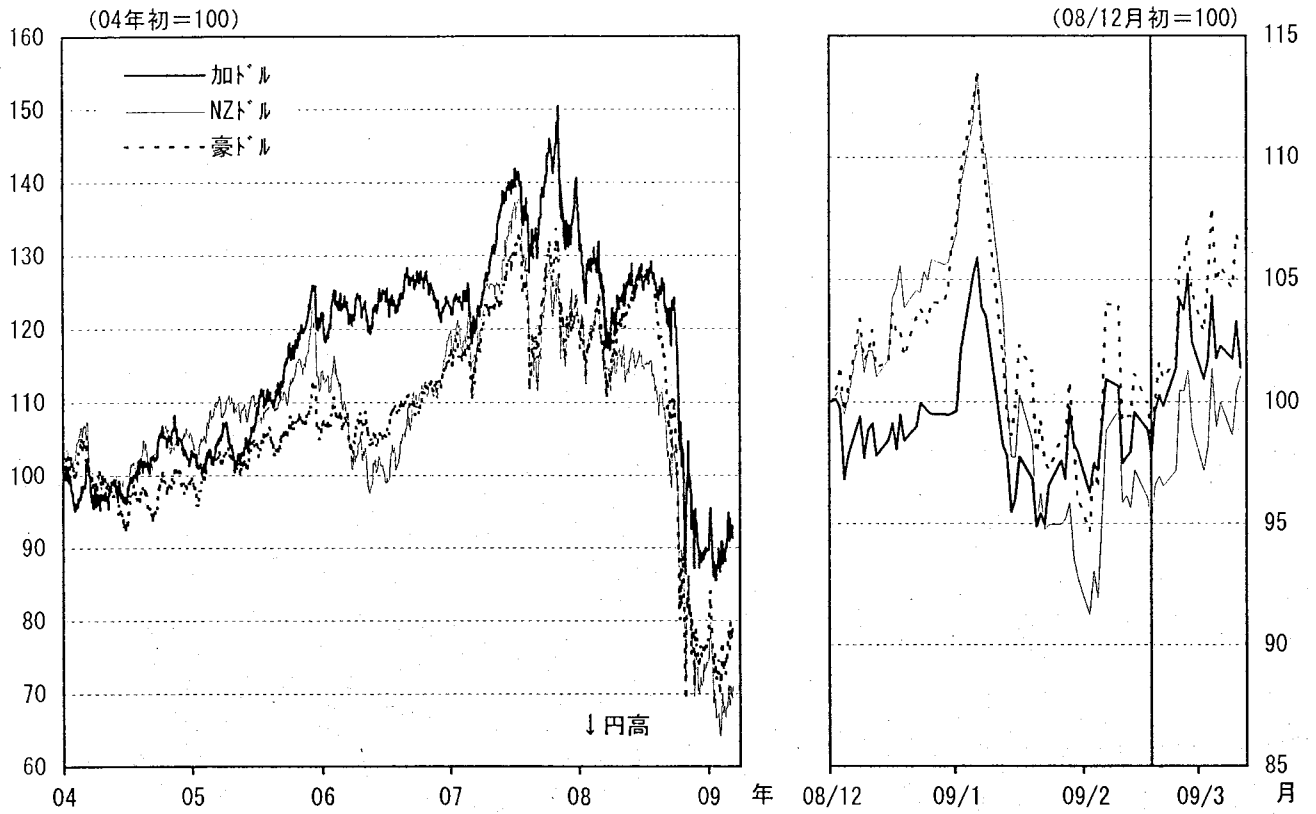
2. 棒グラフは野村総研の推計による純流入額のほか、月中の新規設定額を含む。

3. ETFを除く。

(出所) 野村総合研究所、投資信託協会

(図表21)

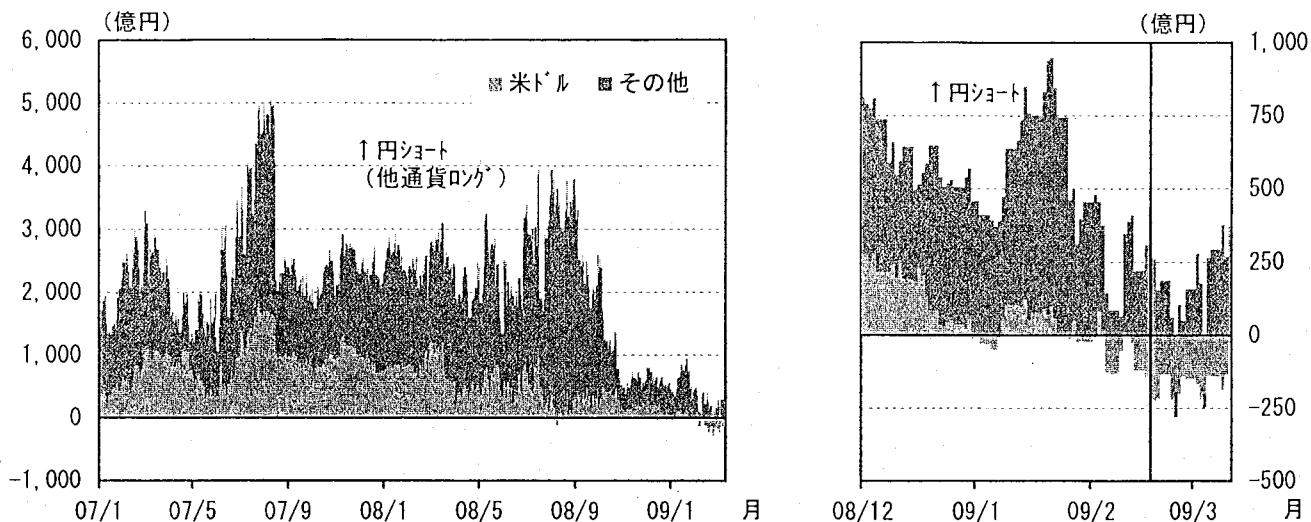
クロス円相場の推移



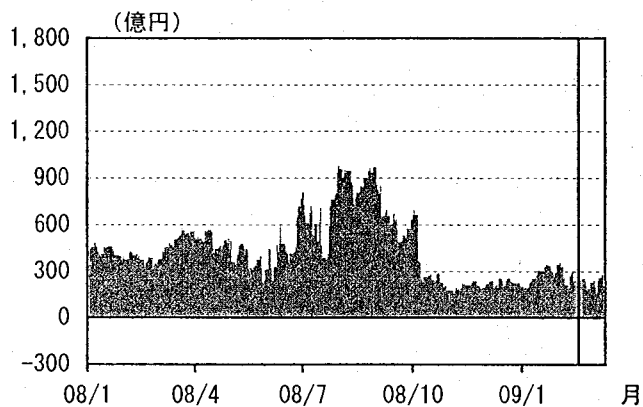
(注) 直近は3/11日。
(出所) Bloomberg

外為証拠金取引の動向

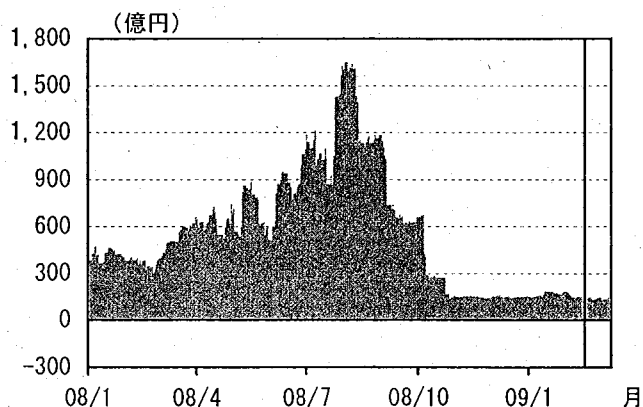
(1) 全体



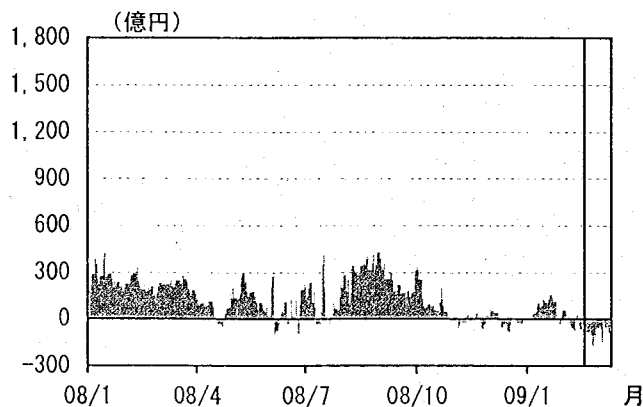
(2) 豪ドル



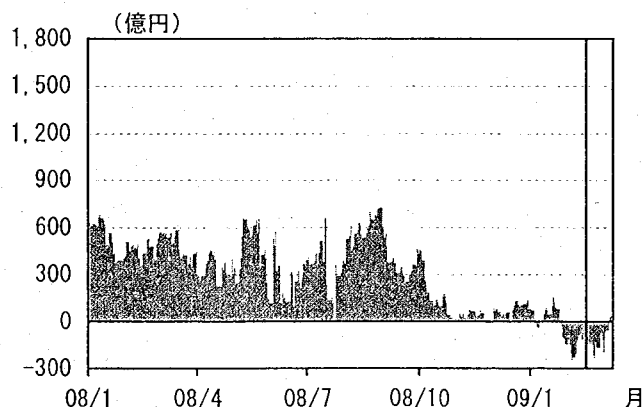
(3) NZドル



(4) ユーロ



(5) ポンド



(注) 1. 円に対する他通貨のネットロングポジション (マーケット・メーカーを除く)。

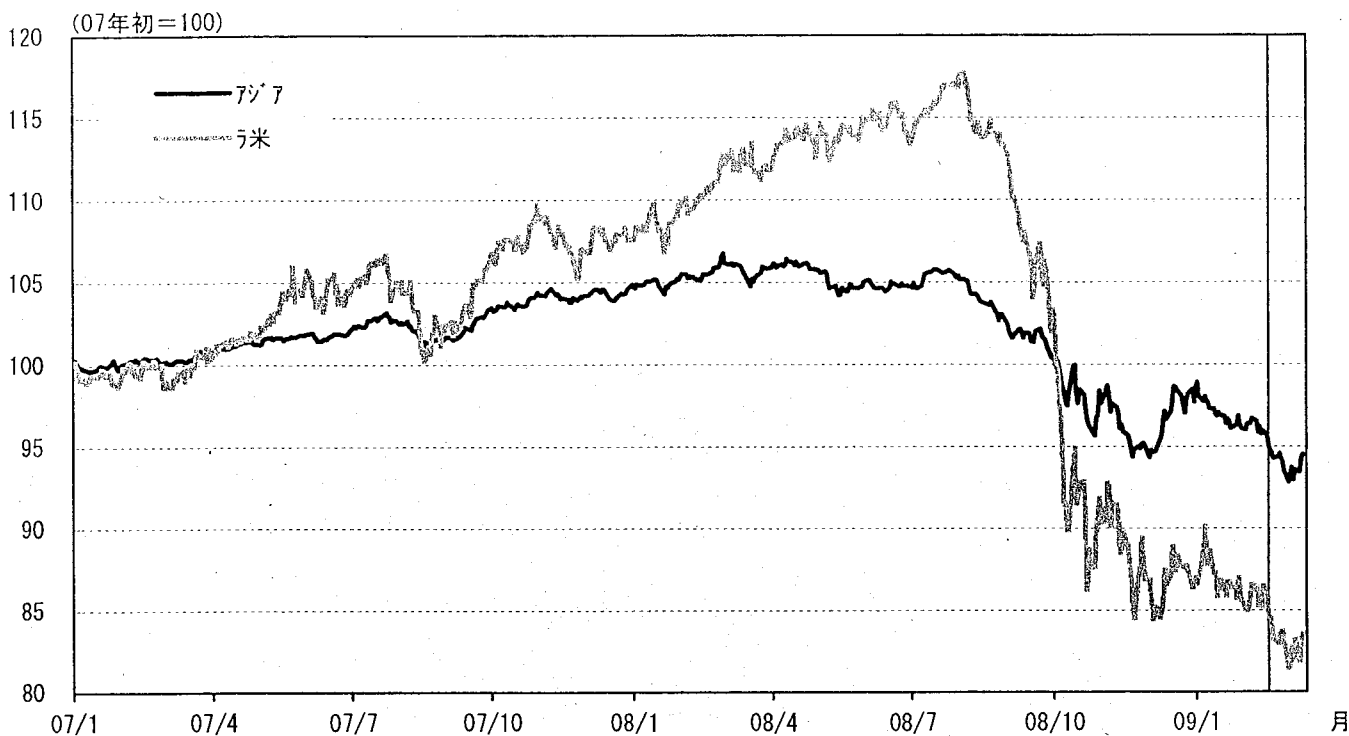
2. その他は、豪ドル、NZドル、ユーロ、英ポンドなど11通貨の合計ポジション。

3. 直近は3/11日。

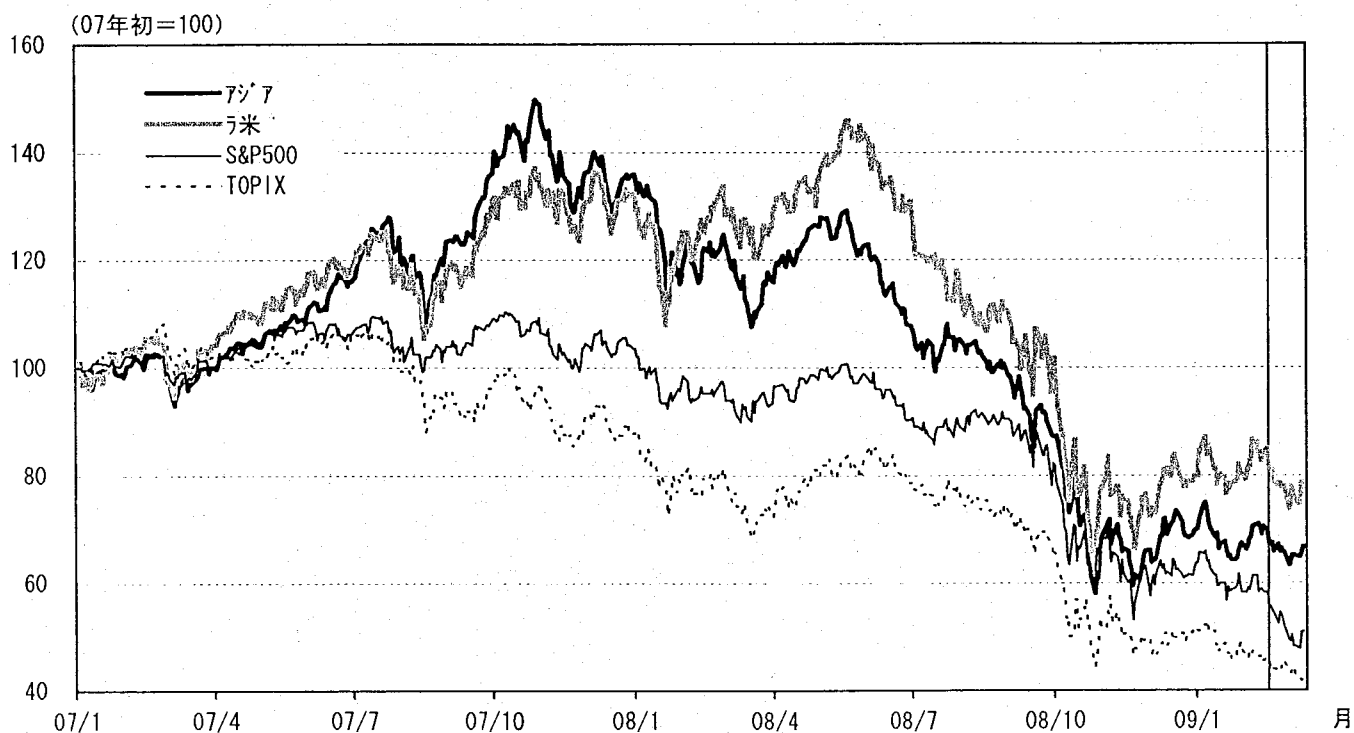
(出所) 東京金融取引所、Bloomberg

エマージング通貨、株の動向

(1) エマージング通貨インデックス (対ドル)



(2) MSCIエマージングインデックス (株式)

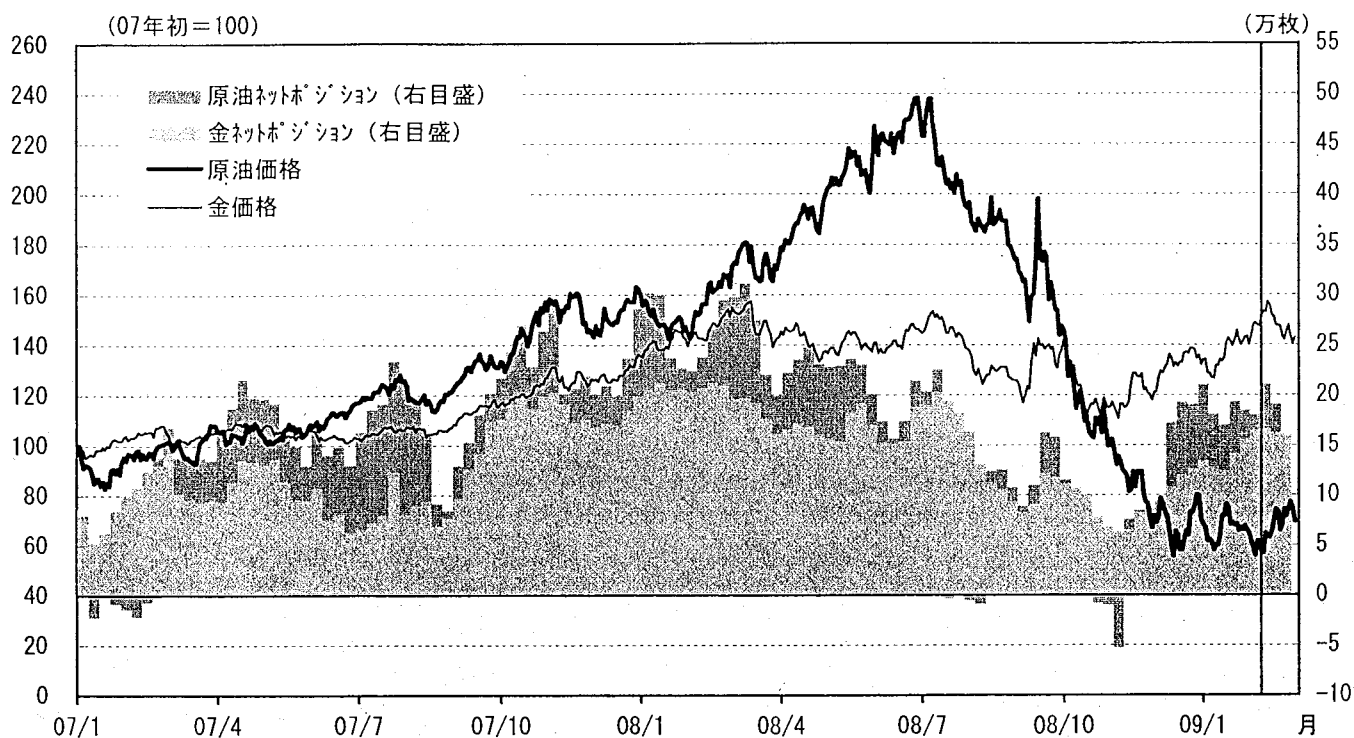


(注) 1. (1)は、アジア (中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ)、ラ米 (アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)。
2. (2)は、アジア (中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイ)、ラ米 (アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)。いずれも現地通貨建て。
3. 直近は3/11日。

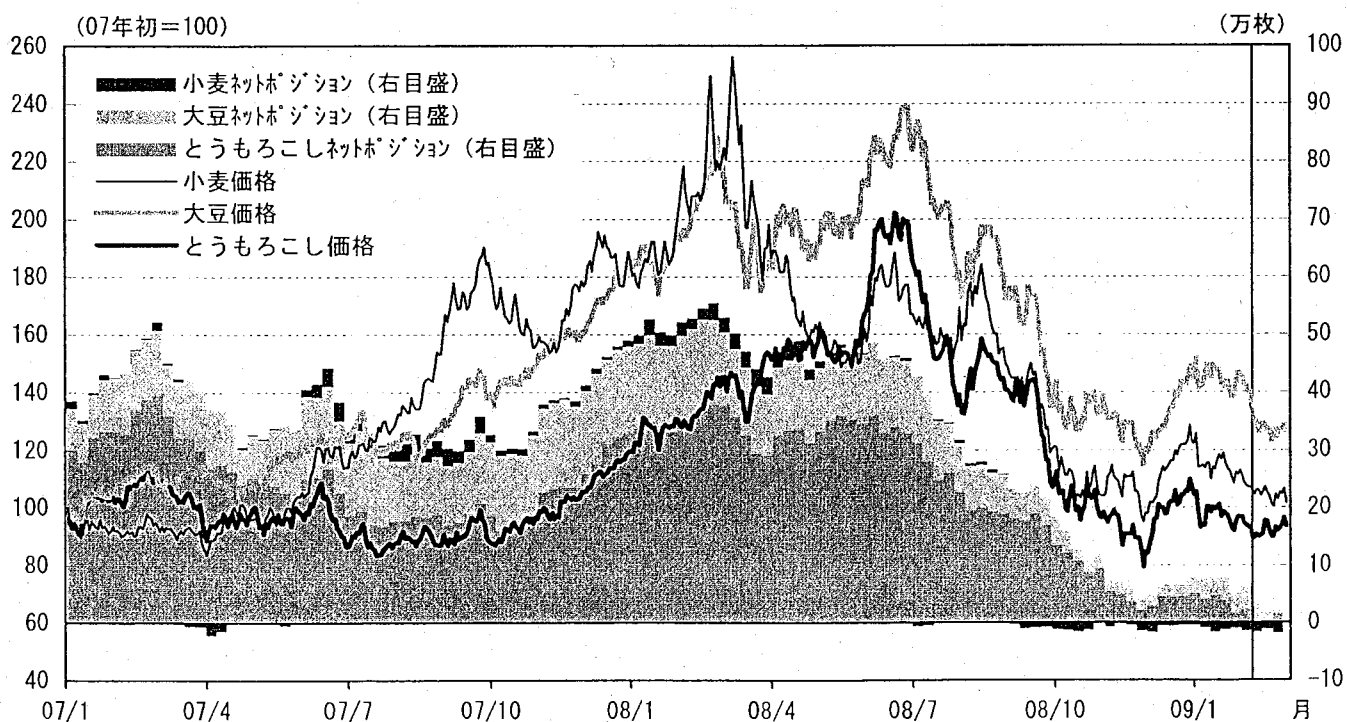
(出所) Bloomberg

商品の動向

(1) 原油・金



(2) 穀物



(注) 1. (1)は、NYMEX期近物。
2. (2)は、CBOT期近物。
3. 各銘柄のネットポジションは、非商業投資家ネットポジションの合計。
4. 直近は、価格(日次データ)については、3/11日、ネットポジション(週次データ)については、3/3日。
(出所) Bloomberg

2009.3.17
金融市場局

1. 金融調節の運営実績（資料－1 関連）

- (図表 1－1) 金融調節の実績の推移
- (図表 1－2) 日銀当座預金の保有状況
- (図表 1－3) 08/10 月積み期以降の当座預金残高
08/10 月積み期以降の短期金利
- (図表 1－4) 無担コール市場残高
- (図表 1－5) 無担コール市場残高 (0/N、T/N、S/N 計)
- (図表 1－6) 最近のオペ結果の推移
- (図表 1－7) 資金需給の推移
- (図表 1－8) 本行受入担保残高の推移
- (図表 1－9) 共通担保使用状況
信用判定・適格審査の状況

2. 最近の金融・為替市場の動向（資料－2 関連）

- (図表 2－1) 短期金利の推移
- (図表 2－2) TIBOR-OIS スプレッドの推移
- (図表 2－3) CP 市場の動向
- (図表 2－4) ターム物レートの推移
- (図表 2－5) ドル調達プレミアムの推移
- (図表 2－6) フォワードレート等の推移 (1)
- (図表 2－7) フォワードレート等の推移 (2)
- (図表 2－8) 長期金利の推移
- (図表 2－9) イールド・カーブの動向
インプライド・ボラティリティの推移
- (図表 2－10) フォワードレート・カーブの動向
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表 2－11) 市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表 2－12) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表 2－13) CDS プレミアムの推移
- (図表 2－14) 株式相場の推移
- (図表 2－15) 主体別売買動向等
- (図表 2－16) 主要為替相場の推移
- (図表 2－17) 最近の為替相場動向とその変動要因
- (図表 2－18) 通貨オプション市場の動向
- (図表 2－19) 通貨先物、投資信託の動向
- (図表 2－20) クロス円相場の推移
- (図表 2－21) 外為証拠金取引の動向
- (図表 2－22) エマージング通貨、株の動向
- (図表 2－23) 商品の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の前営業日 (2/17 日) を表す。

(図表1-1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)							補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		準備預金残高(含むゆうちょ銀行)			非準備先 残高		朝方 即日オペ前	9:20 定例調節後		全即日オペ 実施後		
		準備預金残高(除くゆうちょ銀行)		超過 準備	残り所要額 (1日平均)	準備預金残高(実績値)						
		準備預金残高(実績値)	準備預金残高(実績値)									
2月16日(月)	0.114	142,600	130,000		12,400	47,900	12,600	455.0	143,000	-	-	
2月17日(火)	0.111	139,500	123,600		24,500	47,200	15,900	2.0	140,000	-	-	
2月18日(水)	0.107	138,500	122,300		31,600	46,700	16,200	1.0	139,000	-	-	
2月19日(木)	0.106	137,600	125,000		35,600	46,200	12,600	2.1	138,000	-	-	
2月20日(金)	0.105	134,900	126,100		35,300	44,200	8,800	0.0	135,000	-	-	
2月23日(月)	0.108	131,900	123,300		41,800	43,800	8,600	0.0	133,000	-	-	
2月24日(火)	0.109	132,900	123,100		39,500	43,200	9,800	0.0	134,000	-	-	
2月25日(水)	0.111	131,200	119,500		30,800	42,200	11,700	244.0	131,000	-	-	
2月26日(木)	0.111	138,400	118,400		34,400	41,200	20,000	289.0	138,000	-	-	
2月27日(金)	0.109	135,600	120,300		47,200	38,700	15,300	0.0	136,000	-	-	
3月2日(月)	0.099	132,400	116,700		43,200	37,800	15,700	0.0	133,000	-	-	
3月3日(火)	0.101	126,800	111,200		39,700	36,600	15,600	6.0	126,000	-	-	
3月4日(水)	0.100	125,500	111,200		43,300	35,400	14,300	0.0	126,000	-	-	
3月5日(木)	0.101	118,500	106,700		45,700	34,900	11,800	1.0	119,000	-	-	
3月6日(金)	0.099	111,300	98,700		45,200	35,000	12,600	0.0	111,000	-	-	
3月9日(月)	0.103	117,000	103,200		41,600	34,200	13,800	0.0	117,000	-	-	
3月10日(火)	0.110	109,700	99,000		42,200	33,100	10,700	163.0	109,000	-	-	
3月11日(水)	0.103	109,200	95,600		42,300	32,100	13,600	0.0	109,000	-	-	
3月12日(木)	0.105	109,000	94,600		45,700	31,400	14,400	0.0	109,000	-	-	
3月13日(金)	0.103	116,000	98,300		54,300	-	17,700	48.0	116,000	-	-	
3月16日(月)	0.103	122,800	112,800		12,000	48,200	10,000	49.0	123,000	-	-	

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)3月16日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

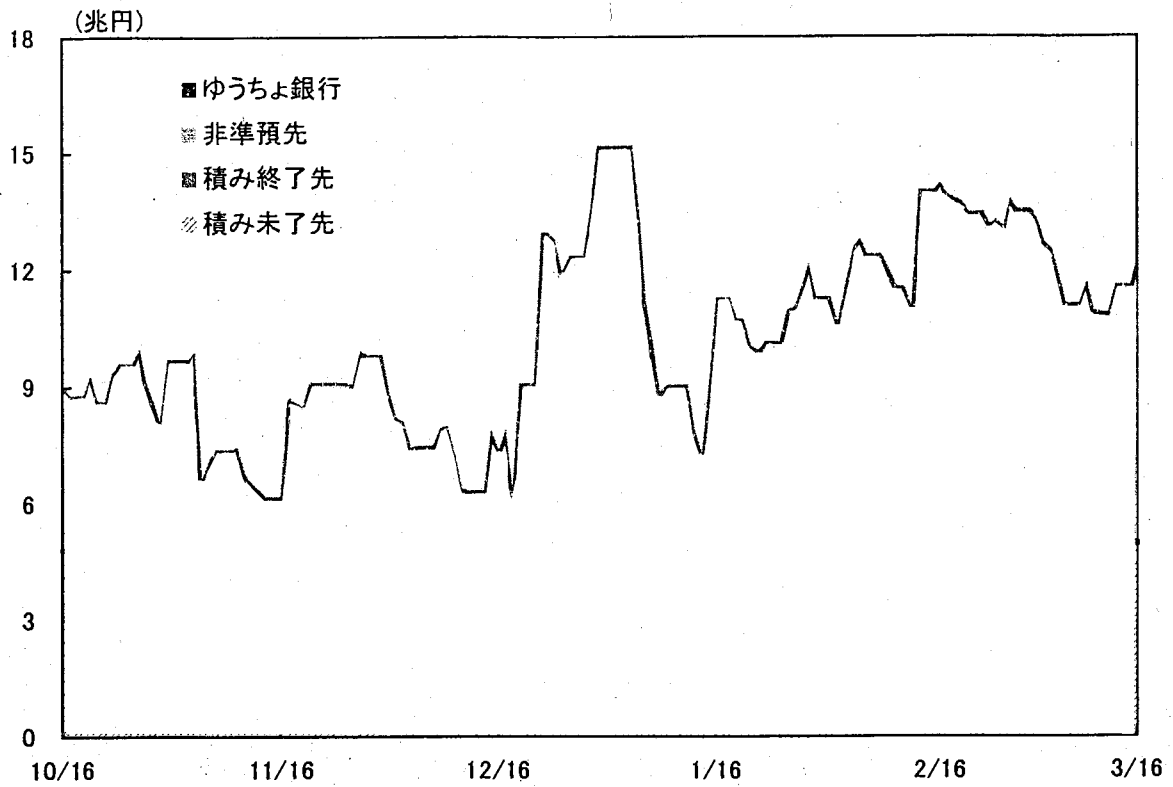
	12月積み期	1月積み期	2月積み期	3月積み期	3月積み期	3月積み期 所要準備額
					3/16日	
準預先	100,935	103,499	112,628	112,776	112,776	<71,225>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	32,311	30,937	30,894	39,019	39,019	<30,369>
地銀	15,266	13,541	14,963	17,309	17,309	<11,278>
地銀Ⅱ	5,847	5,190	5,532	5,261	5,261	<1,442>
外銀	9,081	11,867	14,794	12,529	12,529	<276>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	10,560	12,224	13,594	10,031	10,031	
短資	2,122	3,946	4,594	3,160	3,160	
一部系統	1,089	1,713	622	238	238	
政府系	673	422	564	363	363	
証券会社等	6,676	6,143	7,814	6,270	6,270	
当預残高	111,495	115,723	126,222	122,807	122,807	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)3月積み期は、3/16日の5時同時処理終了時点の計数。

08/10月積み期以降の当座預金残高

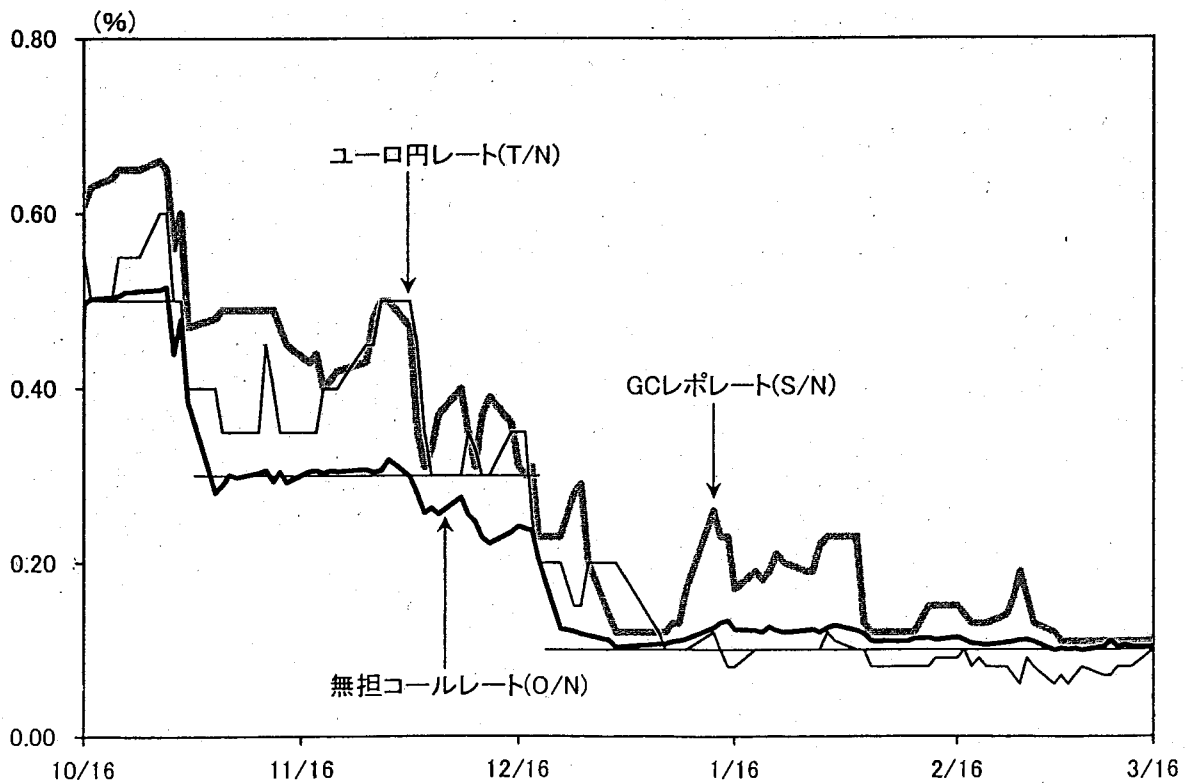
対外非公表



(注) 積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

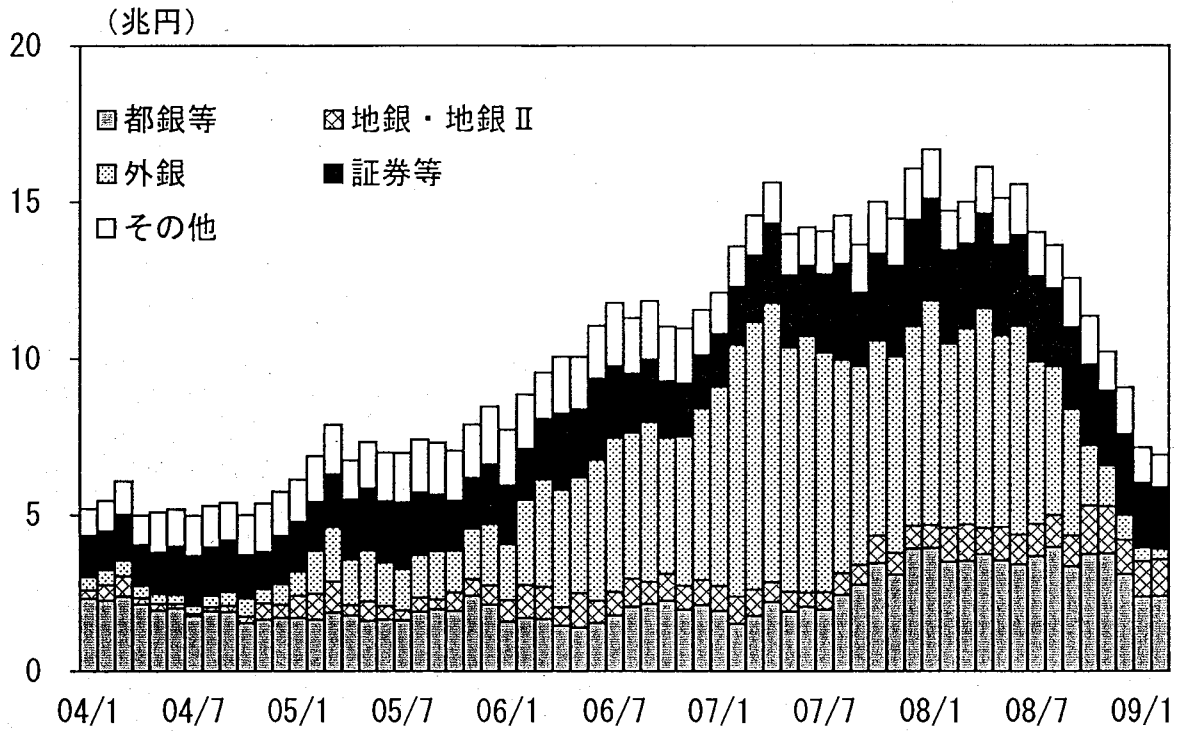
08/10月積み期以降の短期金利

対外非公表

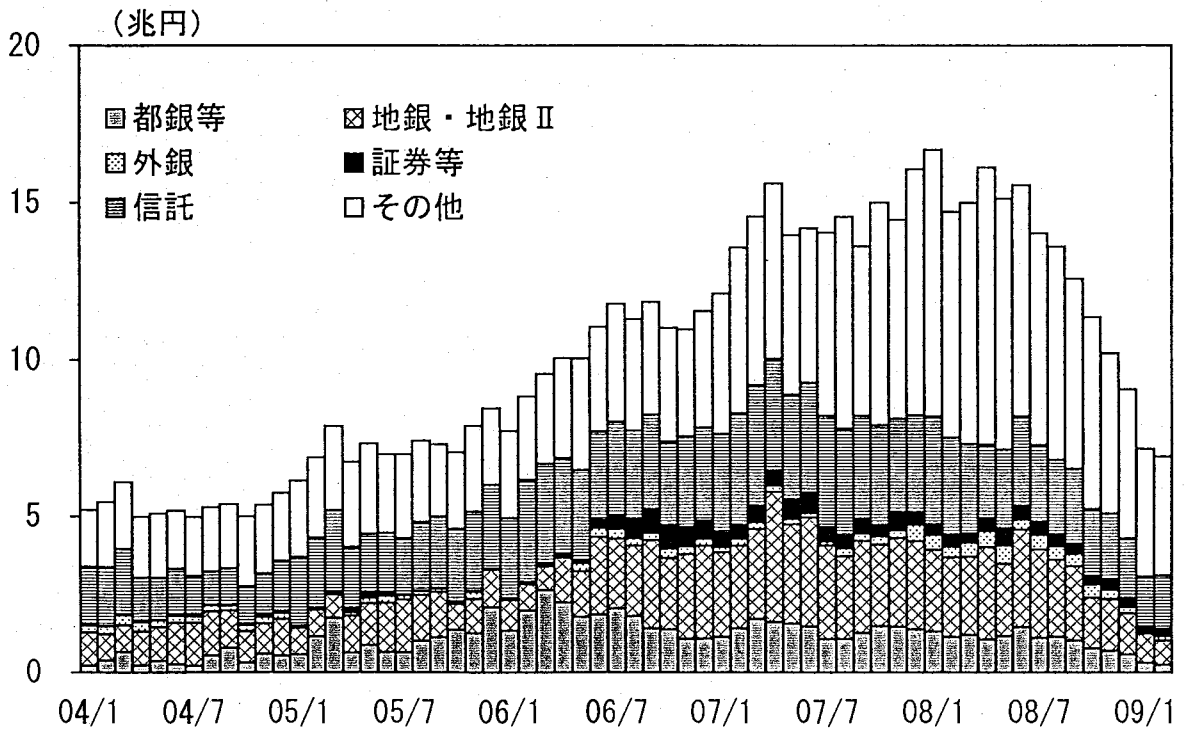


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



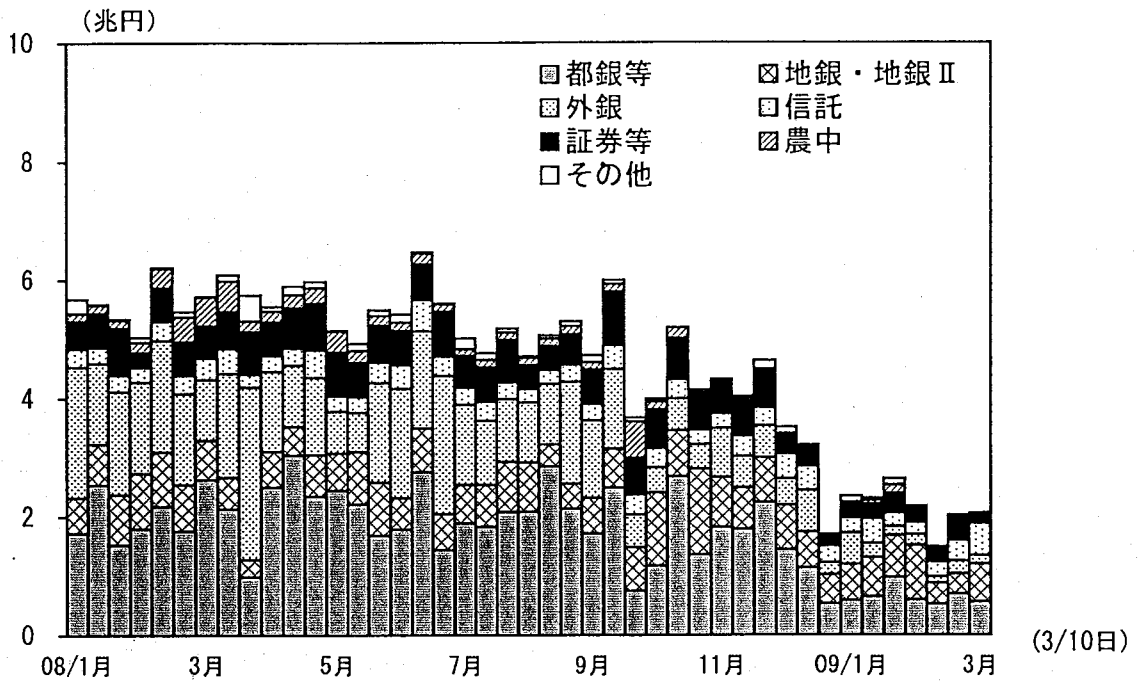
(注1) 月中平残。

(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者(他の区分に属するものを除く)および証券金融会社。

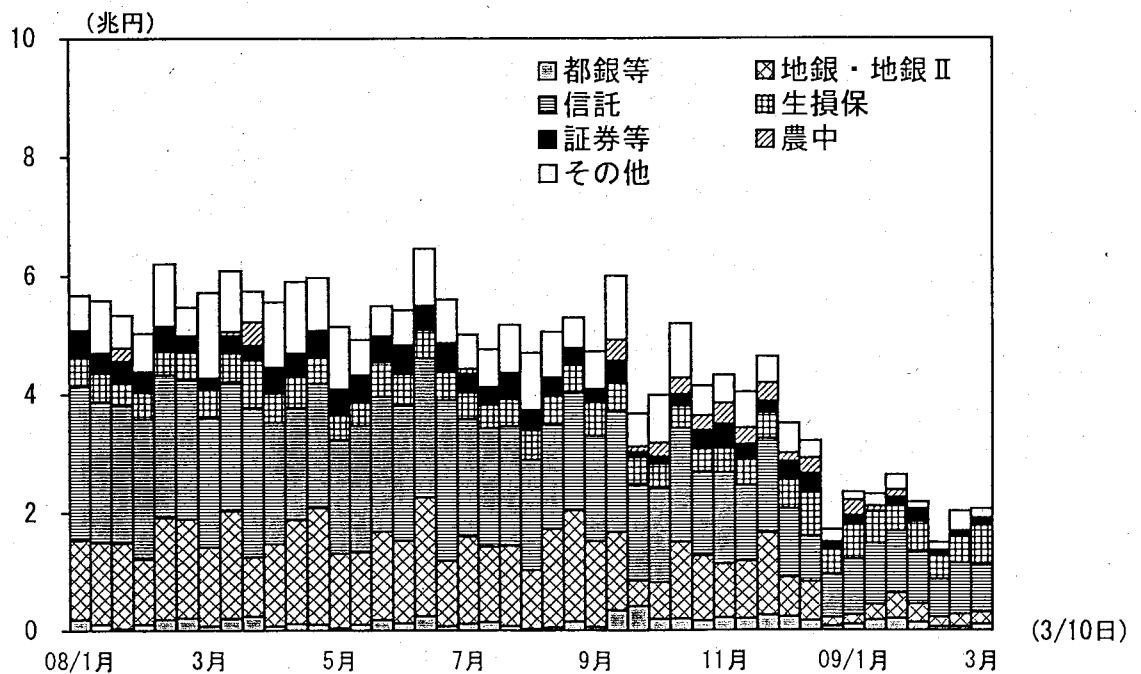
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

最近のオペ結果の推移(1)

(図表1-6)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札				
						応札倍率	レート			
共通担保(全店)	104,106	2/18	T+1	2W	8,000	2.68	0.162	0.16		
		2/20	T+2	4M	8,000	3.30	0.227	0.22		
		2/25	T+1	2W	8,000	3.34	0.172	0.17		
		2/25	T+2	4M	8,000	3.01	0.232	0.22		
		2/27	T+1	2W	8,000	2.42	0.153	0.14		
		3/4	T+1	3W	8,000	3.75	0.139	0.13		
		3/5	T+17	1D	8,000	4.09	0.260	0.25		
		3/6	T+2	3M	8,000	2.67	0.211	0.20		
		3/12	T+1	2W	8,000	2.50	0.128	0.12		
		3/12	T+2	3M	8,000	3.06	0.193	0.18		
		3/13	T+11	1D	8,000	3.89	0.256	0.23		
		共通担保(本店)	182,100	2/19	T+1	2W	8,000	1.48	0.147	0.14
				2/19	T+1	3W	8,000	2.56	0.153	0.15
2/20	T+1			2W	10,000	2.54	0.152	0.15		
2/23	T+1			1W	8,000	2.81	0.154	0.15		
2/24	T+2			3M	8,000	2.97	0.221	0.22		
2/26	T+1			3W	10,000	2.47	0.162	0.16		
3/2	T+1			3W	8,000	2.51	0.155	0.15		
3/2	T+2			3M	8,000	1.96	0.214	0.21		
3/3	T+1			1W	6,000	2.29	0.110	0.10		
3/3	T+1			2W	8,000	2.15	0.125	0.12		
3/5	T+1			2W	6,000	3.65	0.123	0.12		
3/6	T+1			1W	6,000	3.72	0.114	0.11		
3/9	T+1			1W	6,000	4.12	0.117	0.11		
3/10	T+1			2W	6,000	4.19	0.129	0.12		
3/10	T+2			3M	8,000	2.35	0.201	0.19		
3/11	T+1			2W	8,000	2.55	0.129	0.12		
3/11	T+1			3W	10,000	1.97	0.170	0.15		
3/13	T+1			1W	10,000	2.34	0.126	0.12		
3/16	T+1			2W	8,000	3.73	0.158	0.15		
CP等買現先	26,245	2/19	T+2	2W	4,000	1.45	0.125	0.12		
		2/24	T+2	2W	4,000	1.27	0.138	0.13		
		2/26	T+2	1M	4,000	1.38	0.185	0.16		
		3/3	T+2	1M	4,000	1.31	0.171	0.15		
		3/5	T+2	2W	4,000	0.62	0.108	0.10		
		3/10	T+2	1M	4,000	1.39	0.152	0.15		
		3/12	T+2	1M	4,000	1.00	0.146	0.10		
国債買現先	74,704	2/18	T+2	3D	30,000	1.81	0.127	0.12		
		2/18	T+2	1W	10,000	2.58	0.158	0.15		
		2/19	T+2	1D	30,000	1.89	0.124	0.12		
		2/19	T+2	1W	10,000	2.57	0.156	0.15		
		2/20	T+2	1D	30,000	1.98	0.126	0.12		
		2/20	T+2	1W	10,000	2.54	0.154	0.15		
		2/23	T+2	1D	30,000	2.19	0.131	0.12		
		2/23	T+2	1W	10,000	3.01	0.152	0.15		
		2/24	T+2	1D	30,000	1.91	0.133	0.13		
		2/24	T+2	1W	10,000	2.57	0.154	0.15		
		2/25	T+2	3D	30,000	2.26	0.176	0.17		
		2/25	T+2	1W	10,000	3.16	0.163	0.16		
		2/26	T+2	1D	40,000	1.66	0.171	0.16		
		2/26	T+2	1W	10,000	3.26	0.163	0.16		
		2/27	T+2	1D	40,000	1.42	0.136	0.13		
		2/27	T+2	1W	10,000	2.60	0.153	0.15		
		3/2	T+2	1D	40,000	1.50	0.120	0.11		
		3/2	T+2	1W	10,000	1.85	0.143	0.13		
		3/3	T+2	1D	35,000	1.13	0.113	0.10		
		3/3	T+2	1W	10,000	2.01	0.131	0.12		
		3/4	T+2	3D	30,000	1.49	0.107	0.10		
		3/4	T+2	1W	10,000	2.30	0.118	0.11		
		3/5	T+2	1D	30,000	0.76	0.105	0.10		
		3/5	T+2	1W	10,000	2.85	0.118	0.11		
		3/6	T+2	1D	25,000	1.10	0.104	0.10		
		3/6	T+2	1W	10,000	2.94	0.117	0.11		
		3/9	T+2	1D	25,000	0.95	0.104	0.10		
		3/9	T+2	1W	10,000	2.45	0.113	0.11		
		3/10	T+2	1D	20,000	1.77	0.107	0.10		
		3/10	T+2	1W	10,000	3.51	0.117	0.11		
		3/11	T+2	3D	20,000	1.90	0.112	0.11		
3/11	T+2	1W	10,000	3.22	0.128	0.12				
3/12	T+2	1D	25,000	1.62	0.110	0.10				
3/12	T+2	1W	10,000	2.38	0.130	0.12				
3/13	T+2	1D	25,000	1.47	0.110	0.10				
3/13	T+2	1W	10,000	2.56	0.128	0.12				
3/16	T+2	1D	25,000	1.55	0.108	0.10				
3/16	T+2	1W	10,000	2.28	0.128	0.12				

(注1) オペ直近残高は2009/3/16日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は6,413億円、物価連動債は2,895億円、30年債は165億円(2009/3/16日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

最近のオペ結果の推移(2)

(図表1-6)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	応札倍率	平均落札 レート	落札決定 レート
国庫短期証券買入	88,756	2/20	T+3	-	4,000	3.25	0.009	0.008
		2/26	T+3	-	4,000	2.35	0.010	0.008
		3/6	T+3	-	4,000	3.18	-0.007	-0.009
		3/12	T+3	-	4,000	4.45	0.013	0.011
CP等買入	15,964	2/20	T+3	-	3,000	1.72	0.342	0.213
		2/25	T+3	-	3,000	1.31	0.117	0.001
		3/2	T+3	-	3,000	0.32	0.061	0.000
		3/6	T+3	-	3,000	0.37	0.033	0.000
		3/11	T+3	-	3,000	0.17	0.001	0.000
		3/16	T+3	-	3,000	0.41	0.013	0.000
社債買入	451	3/4	T+3	-	1,500	0.30	0.760	0.000
国債買入	-	2/18	T+3	-	2,300	3.74	0.012	0.010
		2/18	T+3	-	2,000	3.96	0.003	-0.001
		2/23	T+3	-	2,000	4.03	0.000	-0.002
		2/23	T+3	-	1,000	4.31	-0.316	-0.260
		3/4	T+3	-	2,300	3.87	0.009	0.001
		3/4	T+3	-	2,000	3.56	0.014	0.011
		3/11	T+3	-	2,000	4.02	0.020	0.018
		3/11	T+3	-	750	2.78	0.016	0.010

(米ドル資金供給オペ)

(百万ドル、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額	応札倍率	貸出利率 (固定金利)
米ドル資金供給	73,829	2/24	2/26	3M	19,226	-	1.250
		3/10	3/12	1M	16,495	-	1.260

(企業金融支援特別オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額	応札倍率	当初貸付利率
企業金融支援特別	62,433	2/23	2/26	3M	5,771	-	0.100
		2/27	3/4	1M	7,214	-	0.100
		3/4	3/9	3M	5,756	-	0.100
		3/10	3/13	1M	4,727	-	0.100
		3/16	3/19	1M	7,160	-	0.100

(注1) オペ直近残高は2009/3/16日現在(実行日ベース)。

(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・社債買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差。

(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

(図表 1-7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (未残)
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)		
08/9月	+1.4	+0.4	+0.9	+3.6	13.3
10月	▲2.6	▲1.1	▲1.5	▲0.9	9.7
11月	▲2.2	+0.0	▲2.3	+2.4	9.8
12月	+0.2	▲4.9	+5.0	+5.2	15.2
09/1月	▲5.1	+4.6	▲9.7	+1.2	11.3
2月	▲2.1	▲0.1	▲2.0	+4.3	13.6
3月	(-16日)	▲6.2	+0.8	+4.9	12.3
	(17日-)	+7.1	▲1.0	+8.1	▲17.3

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実力ベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 3月(17日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、3/16日までにオファーしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.7兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

(図表1-8)

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月	3月 ^(注11)
総計	81.6	85.0	90.7	98.3	99.0	104.9	110.7
国債	52.9	57.5	62.7	65.8	68.2	71.3	74.9
利付国債等 ^(注1)	36.6	41.6	45.9	48.4	49.3	51.5	54.5 ^(注2)
変動利付国債(*)	8.5	10.7	11.9	11.2	11.2	12.0	12.4
物価連動国債(*)	2.9	2.6	2.8	2.7	2.7	2.4	2.3
国庫短期証券	16.2	15.8	16.8	17.4	18.8	19.8	20.4
社債等 ^(注3)	0.6	0.7	0.8	1.0	1.2	1.4	1.4
短期社債等 ^(注4)	2.6	1.8	1.6	1.8	1.9	2.0	2.5
その他債券	5.2	5.5	5.8	6.5	6.4	6.5	6.3
手形 ^(注5)	0.1	0.5	0.7	1.9	2.0	1.9	2.4
証貸	19.9	18.7	18.8	21.1	19.1	21.6	22.9
企業向け等 ^(注6)	0.3	0.4	0.6	1.0	1.5	2.8	3.5 ^(注7)
交付税特会等 ^(注8)	19.5	18.2	18.2	20.0	17.5	18.7	19.4
うち民間債務分	3.9	3.5	3.9	5.9	6.8	8.3	9.9

ABS	159	351	354	414	484	427	425
ABCP ^(注9)	176	140	108	5,471	5,262	2,959	5,163
(うち特則分) (*)	(-)	(0)	(33)	(142)	(57)	(129)	(30)
社債特則分(*)	-	-	-	122	248	613	732
企業向け証貸特則分(*)	-	-	-	0	72	1,610	2,075
不動産投資法人債	-	-	-	-	-	0	0
不動産投資法人CP ^(注10)	-	-	-	-	-	0	0
不動産投資法人向け証貸	-	-	-	-	-	0	0
政府保証付短期債券	-	-	-	-	-	0	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月	3月 ^(注11)
国債買現先オペでの国債買入残高	8.4	10.9	8.8	9.7	9.0	8.0	6.9
CP等買現先オペでのCP買入残高	0.2	0.5	2.0	4.3	3.8	2.7	2.6

ABCP買入残高	60	325	458	5,077	5,652	4,661	5,048
(うち特則分) (*)	(-)	(0)	(0)	(4,679)	(5,318)	(4,412)	(4,752)
不動産投資法人CP買入残高	-	-	-	-	-	0	0
政府保証付短期債券買入残高	-	-	-	-	-	0	270

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、191億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) CPを含む。

(注6) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注7) シンジケート・ローン債権は、12億円。

(注8) 交付税特会、預金保険機構および銀行等保有株式取得機構向け。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

(注11) 2009年3月12日現在。

(図表1-9)

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月	3月 ^(注1)
共通担保使用額合計 ^(注2)	31.5	32.9	38.2	41.2	36.7	39.3	43.6
うち共通担保オペ使用額 ^(注2)	25.7	22.7	25.6	25.5	26.3	30.4	34.1
当座貸越残高 日中ピーク ^(注3)	4.6	6.8	7.3	6.9	6.0	5.4	5.2

(注1) 3月12日時点。

(注2) 末残。企業金融支援特別オペを含む。

(注3) 平残 (ITC口を除く)。

(*)は対外非公表

信用判定・適格審査の状況

1. ABCPの担保適格審査状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*) ^(注2)	15件	10兆500億円	4,782億円
担保適格ABC (本則分) (*) ^(注2)	8件	1兆7,450億円	5,429億円
市中ABC計 ^(注3)	42件	16兆7,848億円	—

(注1) 「受入残高」は3月12日時点 (共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計)。

(注2) 「担保適格ABC(特則分)」、「同(本則分)」は3月13日時点で審査済のもの。

(注3) 「市中ABC計」は2008年9月末の計数。

2. 信用判定の状況

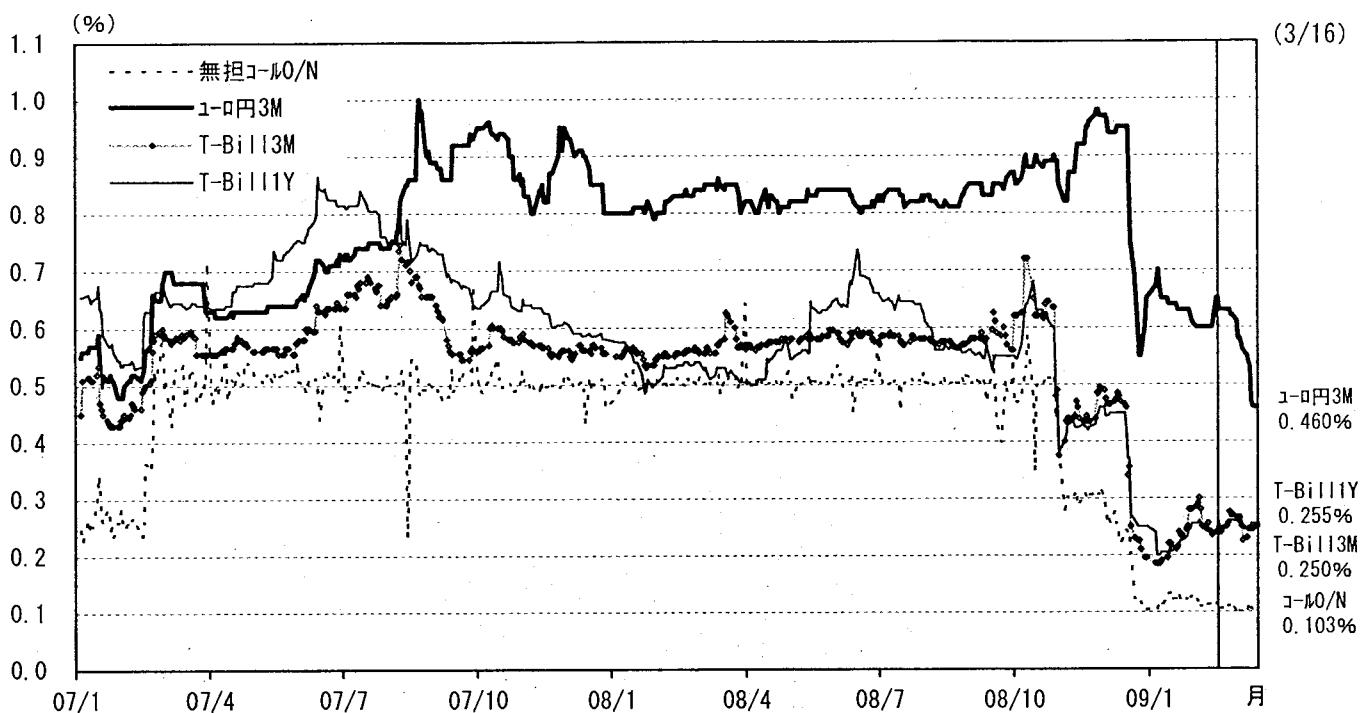
	2008/9月	10月	11月	12月	2009/1月	2月	3月 ^(注1)
新規適格化先数 (*)	0	2	3	39	20	11	^(注2) 2(1)
取下げ・抹消先数 (*)	0	5	1	0	2	2	1
信用判定適格先数	306	303	305	344	362	371	372

(注1) 3月13日までの実績。

(注2) かつこ内は審査中の先数。

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

(%)

	無担コール	ユーロ円レート				短国レート			レポレート	ユーロ円金先
	0/N	1W	1M	3M	6M	3M	6M	1Y	S/N	09/6月限 (中心限月)
09/2/17	0.111	0.160	0.280	0.650	0.700	0.240	0.240	0.260	0.140	0.540
2/18	0.107	0.160	0.270	0.630	0.700	0.240	0.240	0.250	0.130	0.525
2/19	0.106	0.160	0.260	0.630	0.700	0.240	0.245	0.245	0.130	0.555
2/20	0.105	0.160	0.260	0.630	0.700	0.245	0.250	0.250	0.130	0.565
2/23	0.108	0.150	0.250	0.630	0.700	0.250	0.250	0.250	0.140	0.560
2/24	0.109	0.150	0.240	0.630	0.700	0.255	0.250	0.250	0.160	0.575
2/25	0.111	0.140	0.230	0.630	0.700	0.275	0.260	0.260	0.190	0.610
2/26	0.111	0.150	0.570	0.620	0.700	0.270	0.260	0.260	0.160	0.605
2/27	0.109	0.140	0.570	0.620	0.700	0.270	0.260	0.260	0.130	0.620
3/2	0.099	0.140	0.570	0.610	0.700	0.265	0.260	0.260	0.120	0.635
3/3	0.101	0.120	0.550	0.580	0.700	0.260	0.260	0.260	0.110	0.630
3/4	0.100	0.110	0.560	0.580	0.700	0.265	0.260	0.260	0.110	0.610
3/5	0.101	0.110	0.550	0.570	0.700	0.250	0.260	0.260	0.110	0.580
3/6	0.099	0.110	0.550	0.560	0.680	0.225	0.240	0.245	0.110	0.565
3/9	0.103	0.120	0.520	0.550	0.660	0.230	0.235	0.245	0.110	0.565
3/10	0.110	0.120	0.500	0.540	0.650	0.245	0.240	0.245	0.110	0.605
3/11	0.103	0.120	0.500	0.530	0.650	0.245	0.240	0.245	0.110	0.605
3/12	0.105	0.120	0.480	0.470	0.650	0.245	0.240	0.255	0.110	0.615
3/13	0.103	0.120	0.460	0.460	0.620	0.245	0.245	0.255	0.110	0.615
3/16	0.103	0.120	0.450	0.460	0.600	0.250	0.250	0.255	0.110	0.615

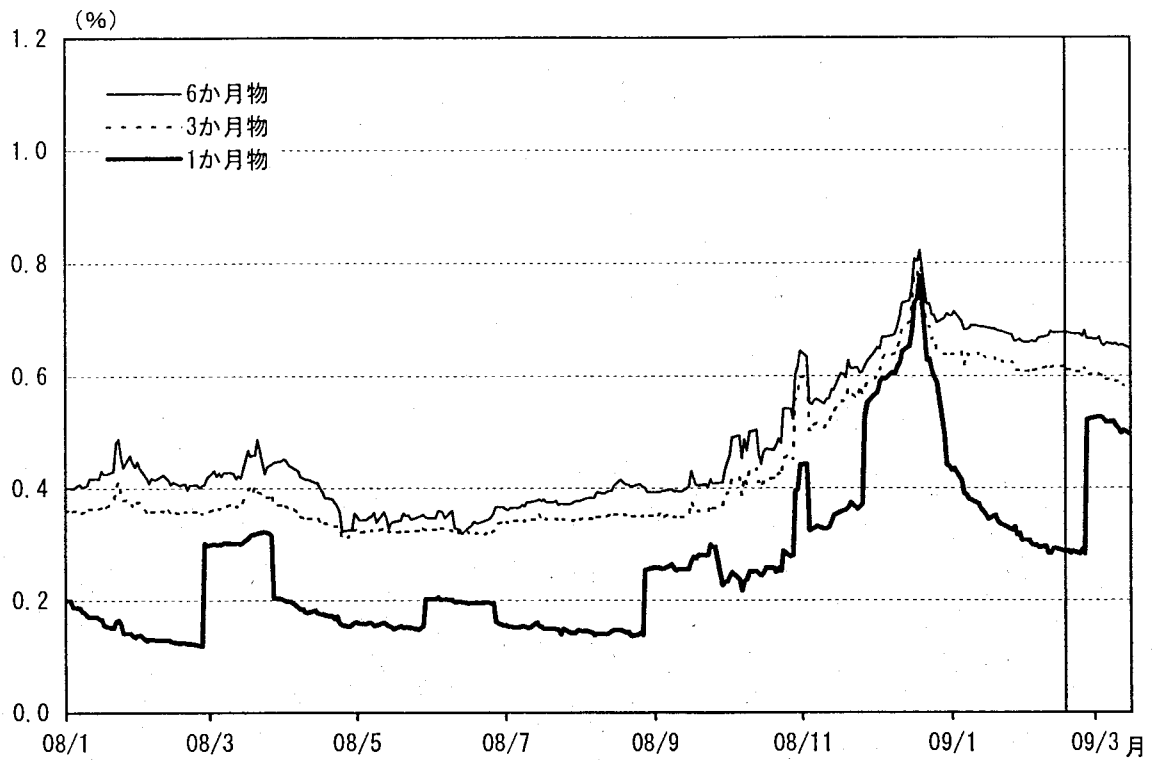
(注)1. ユーロ円レート・レポレートは、ヒアリングベースによるもので対外非公表。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

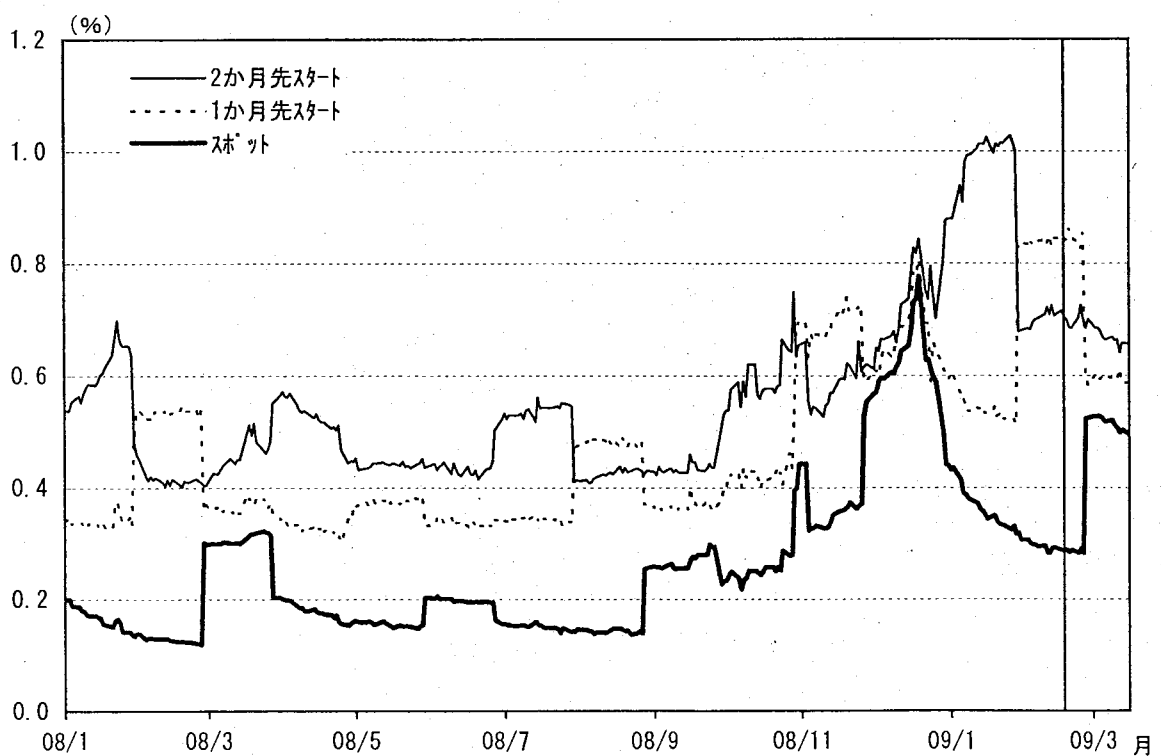
(出所) 日本相互証券、東京金融取引所、日本銀行

TIBOR-OISスプレッドの推移

(1) スポットレートの推移



(2) 1か月物フォワードレートの推移

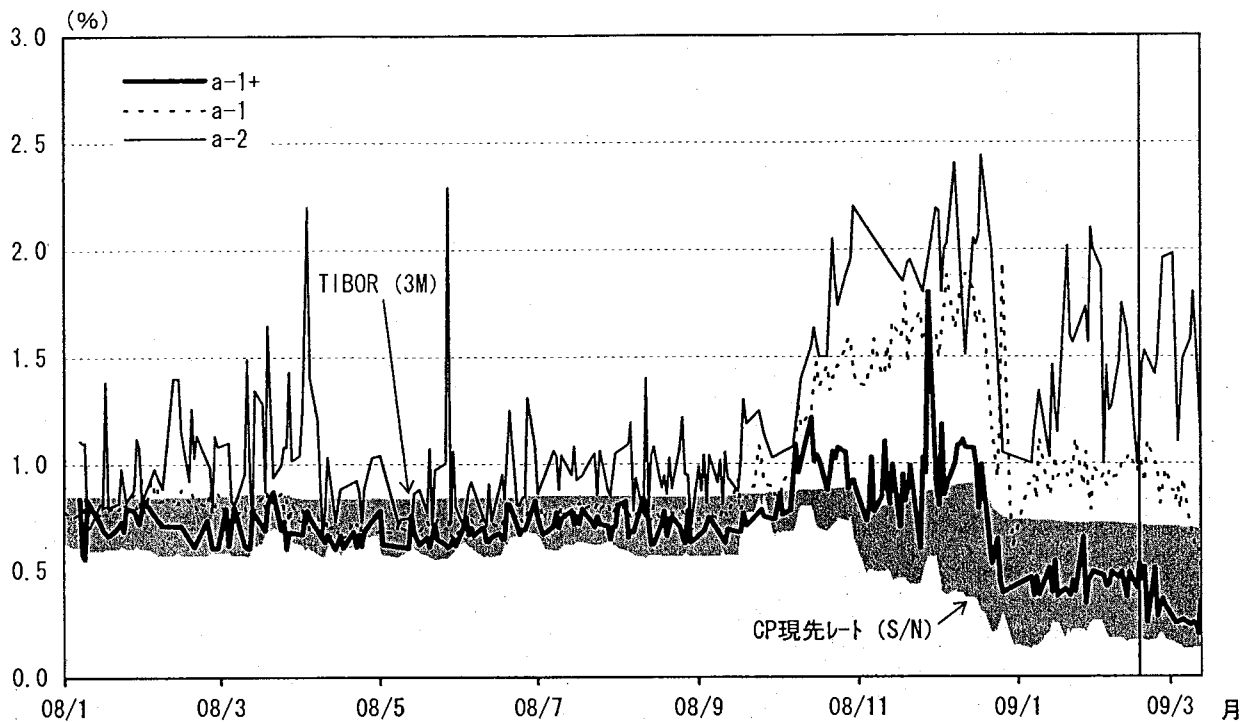


(注) 直近は3/16日。

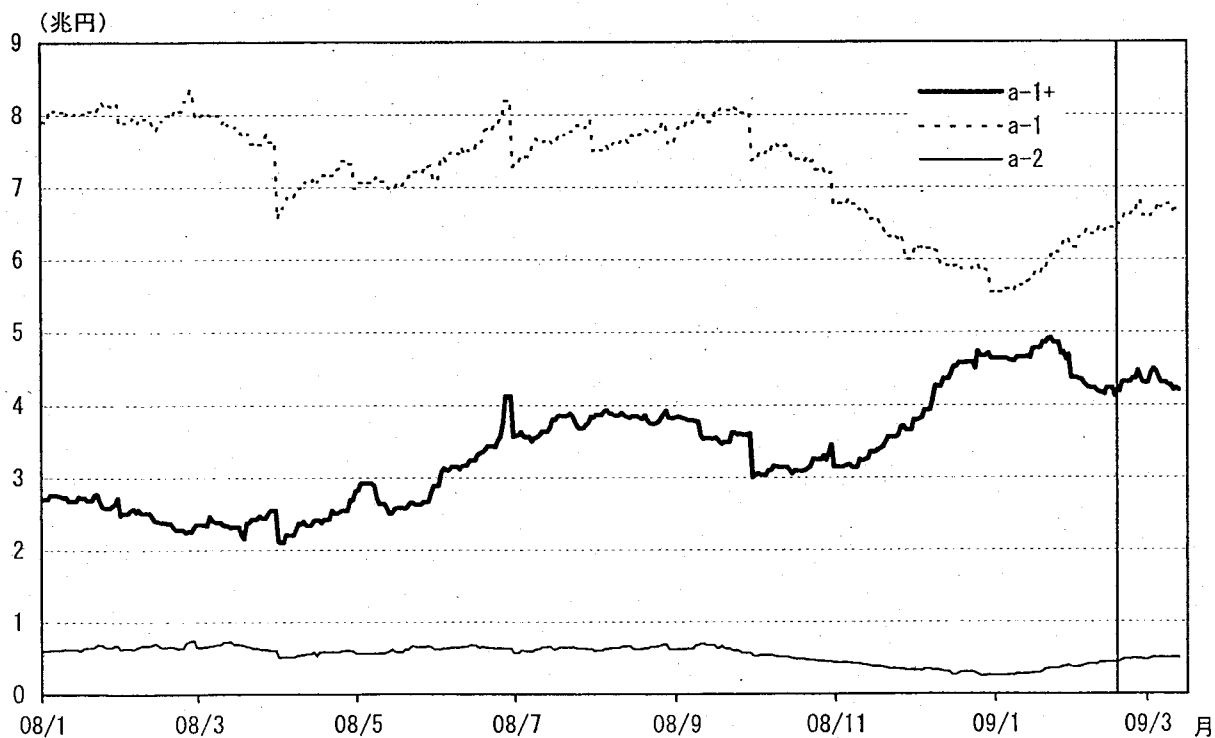
(出所) Bloomberg

CP市場の動向

(1) 格付別発行レート (3か月物) の推移



(2) 格付別発行残高 (全ターム) の推移



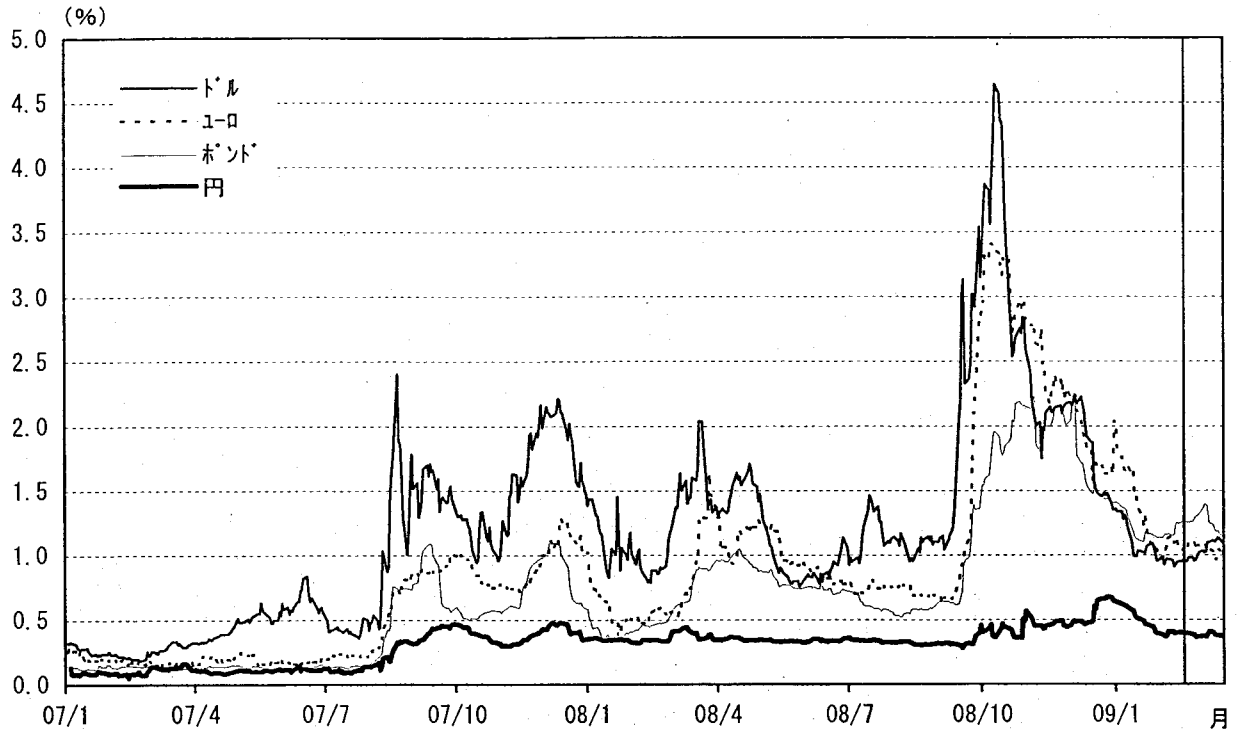
(注) 1. 集計対象は、CP等買現先オペの対象先による引受分 (全ターム)。格付けは基本的にR&Iによる。

2. 対外非公表。直近は3/13日。

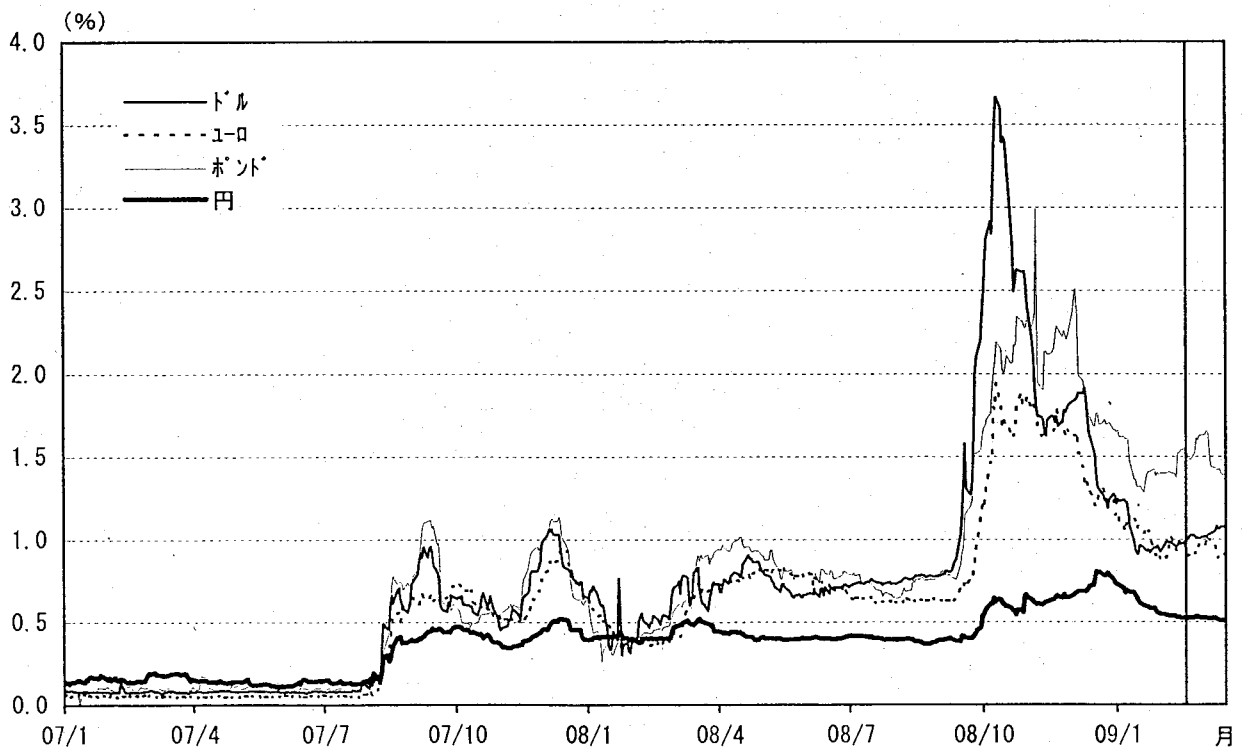
(出所) 全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移

(1) TEDスプレッド (LIBOR-TB、3か月物) の推移



(2) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



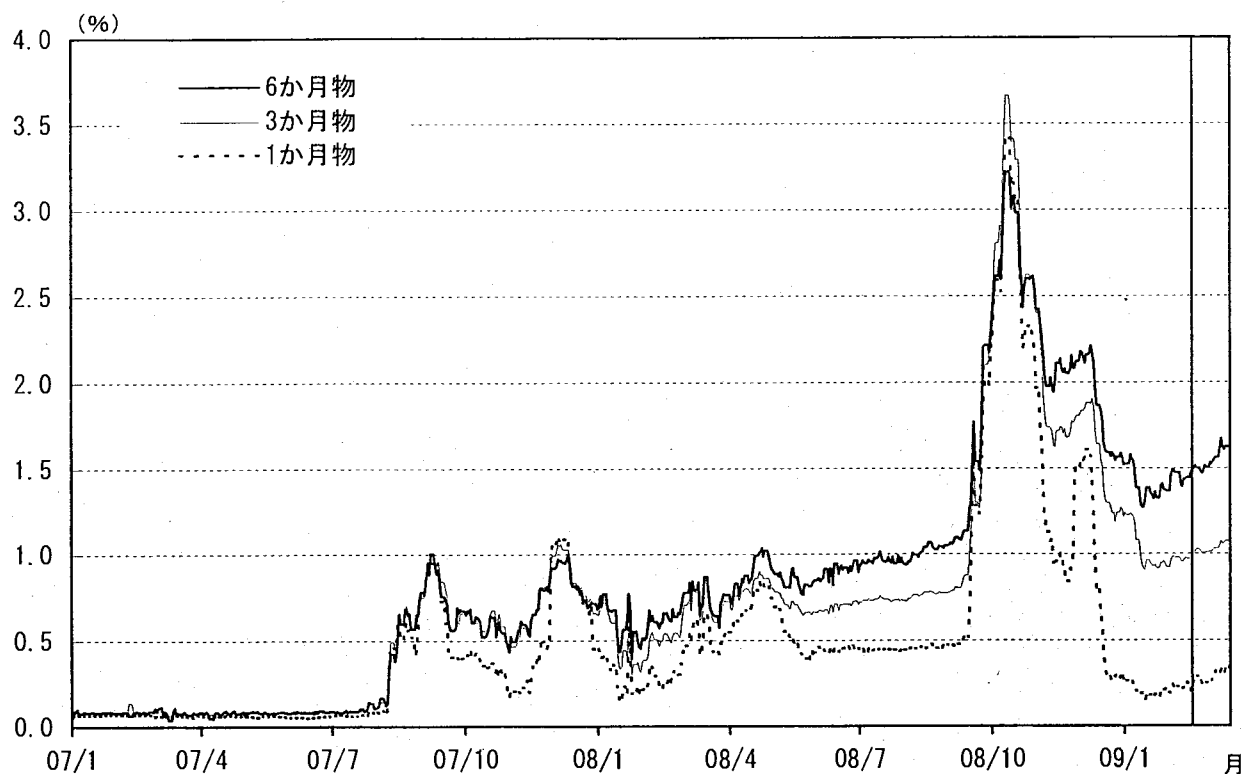
(注) 1. (1)は、ポンドのTBは3か月物レポレートで代用、円のTBはT-Bill (09/2月の統合発行以前はFB)。

2. 直近は3/16日。

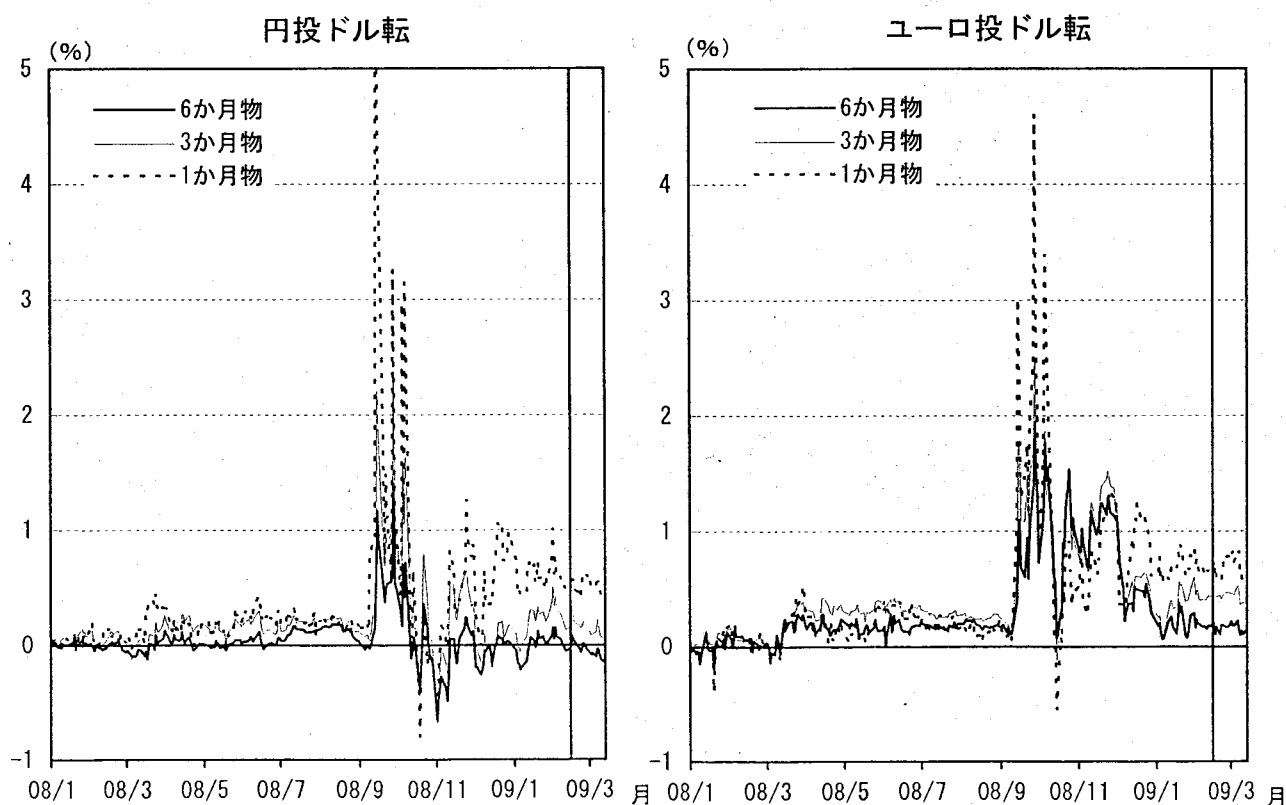
(出所) Bloomberg、日本相互証券

ドル調達プレミアムの推移

(1) ドルLIBOR-OISスプレッドの推移



(2) ドル転コスト対LIBORスプレッドの推移

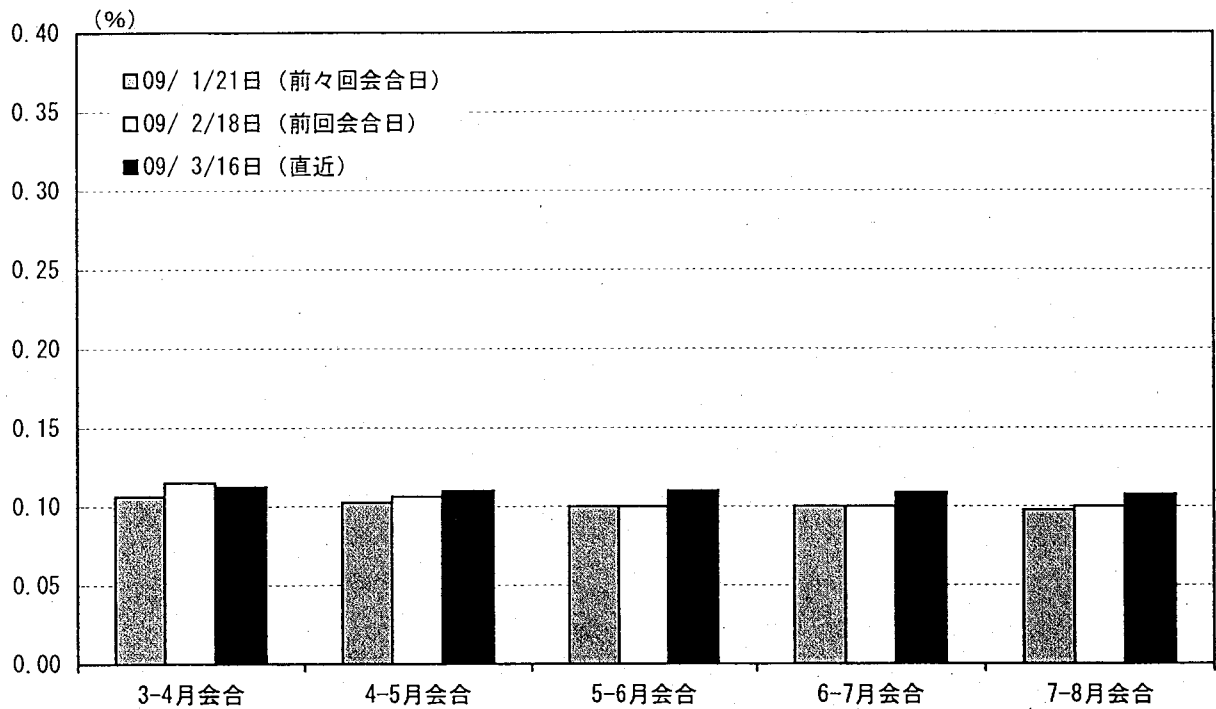


(注) 直近は3/16日。

(出所) Bloomberg、メイタン・トラディション、トムソン・ロイター 15

フォワードレート等の推移 (1)

(1) OISレート (会合間取引) の動向

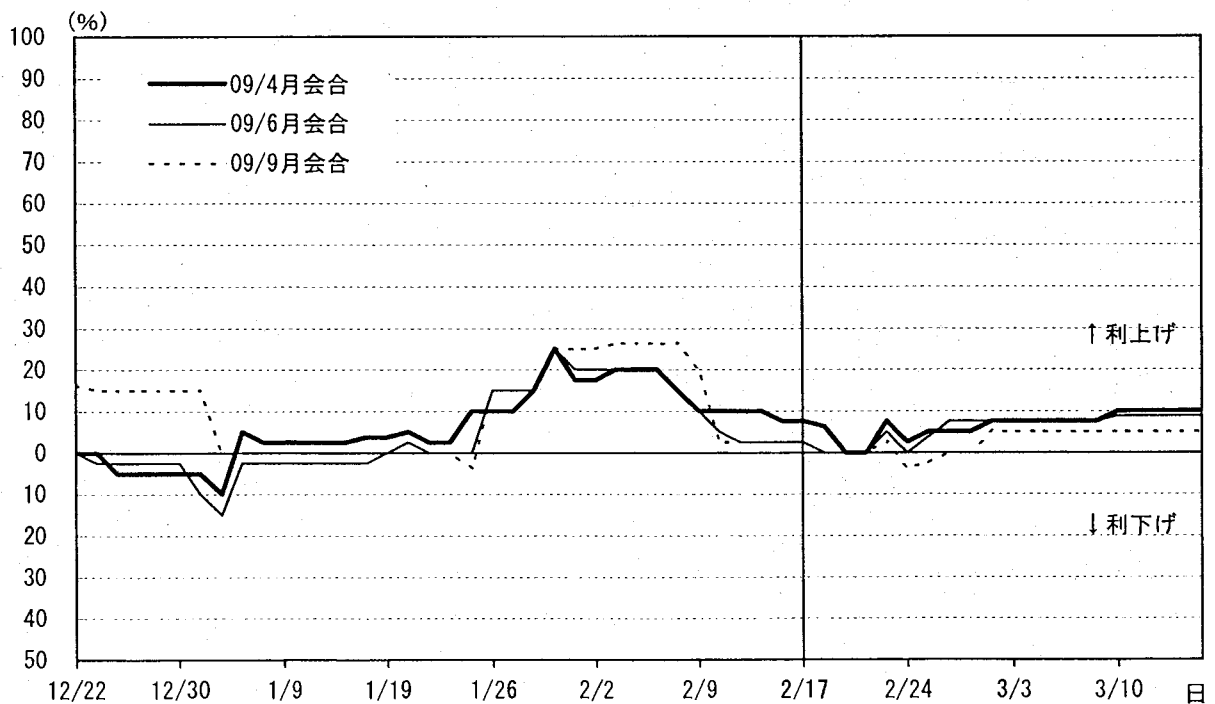


(注) 1. 会合間取引レートの仲値。

2. 直近は3/16日。

(出所) メイタン・トラディション、トムソン・ロイター

(2) OISレートからみた政策変更 (±10bps) の織り込み度合い



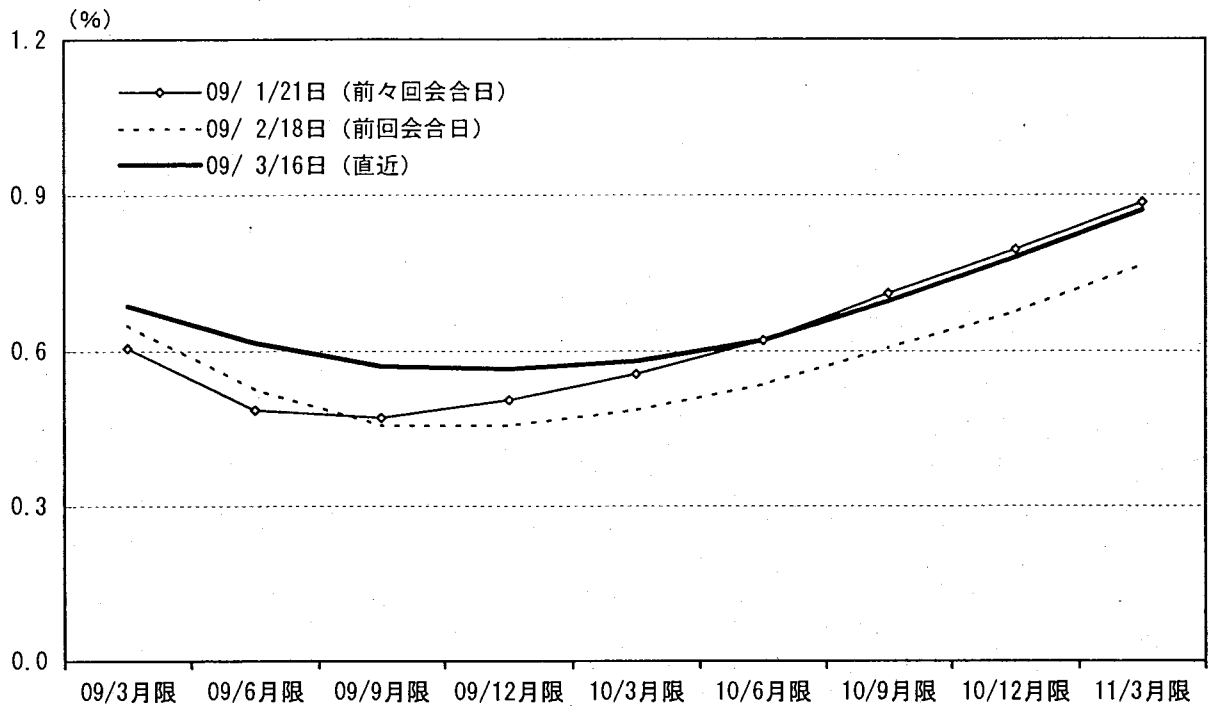
(注) 1. 会合間取引レートの仲値から算出。

2. 直近は3/16日。

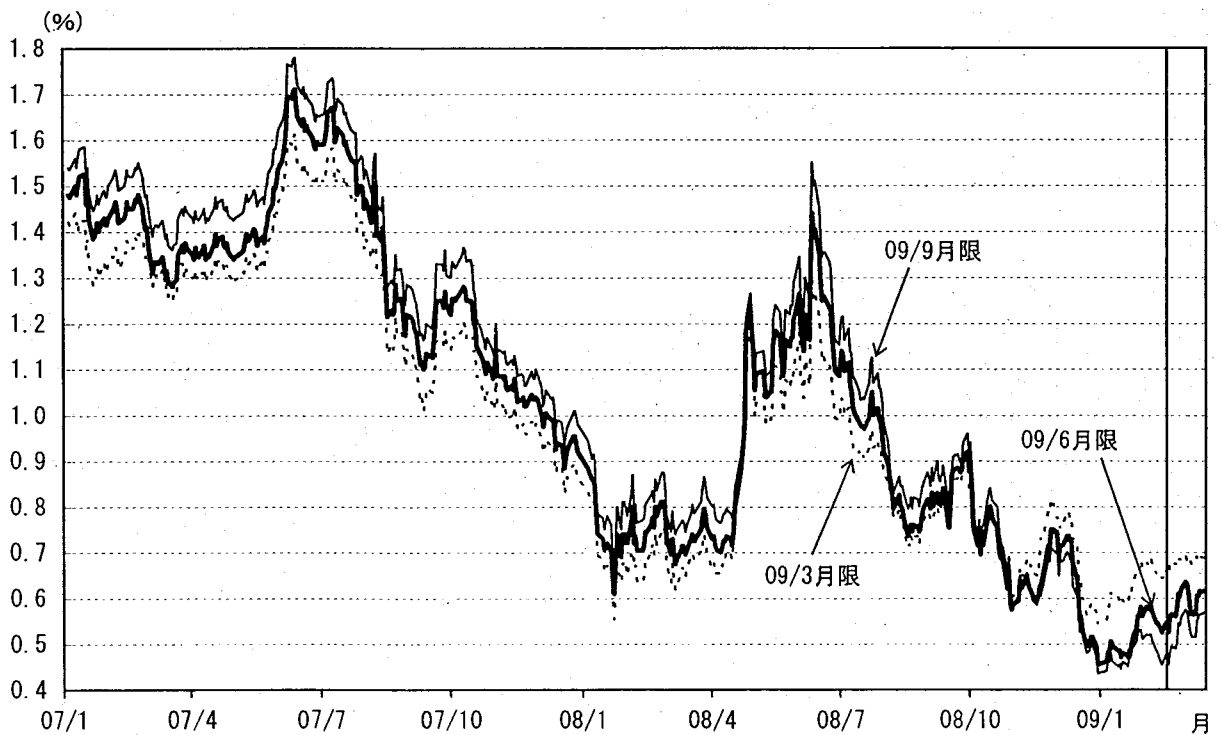
(出所) メイタン・トラディション、トムソン・ロイター、日本銀行

フォワードレート等の推移 (2)

(1) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



(2) ユーロ円金利先物レートの推移



(注) 直近は3/16日。

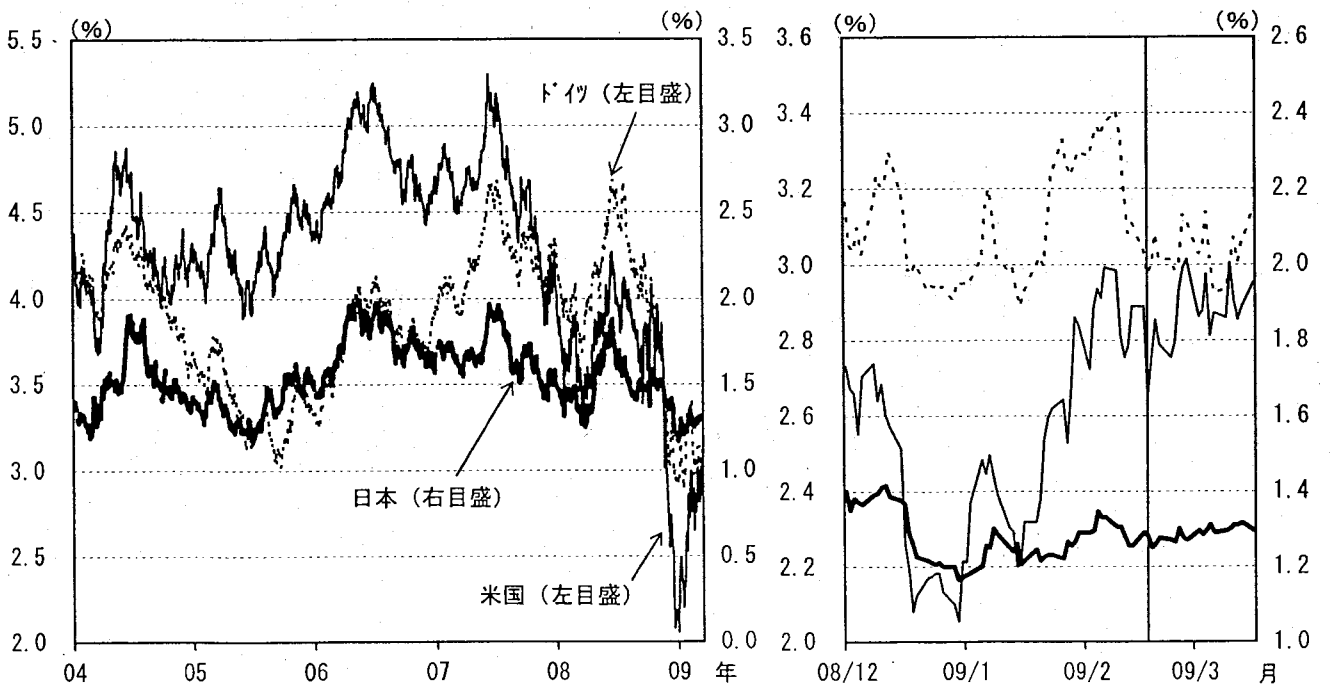
(出所) 東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



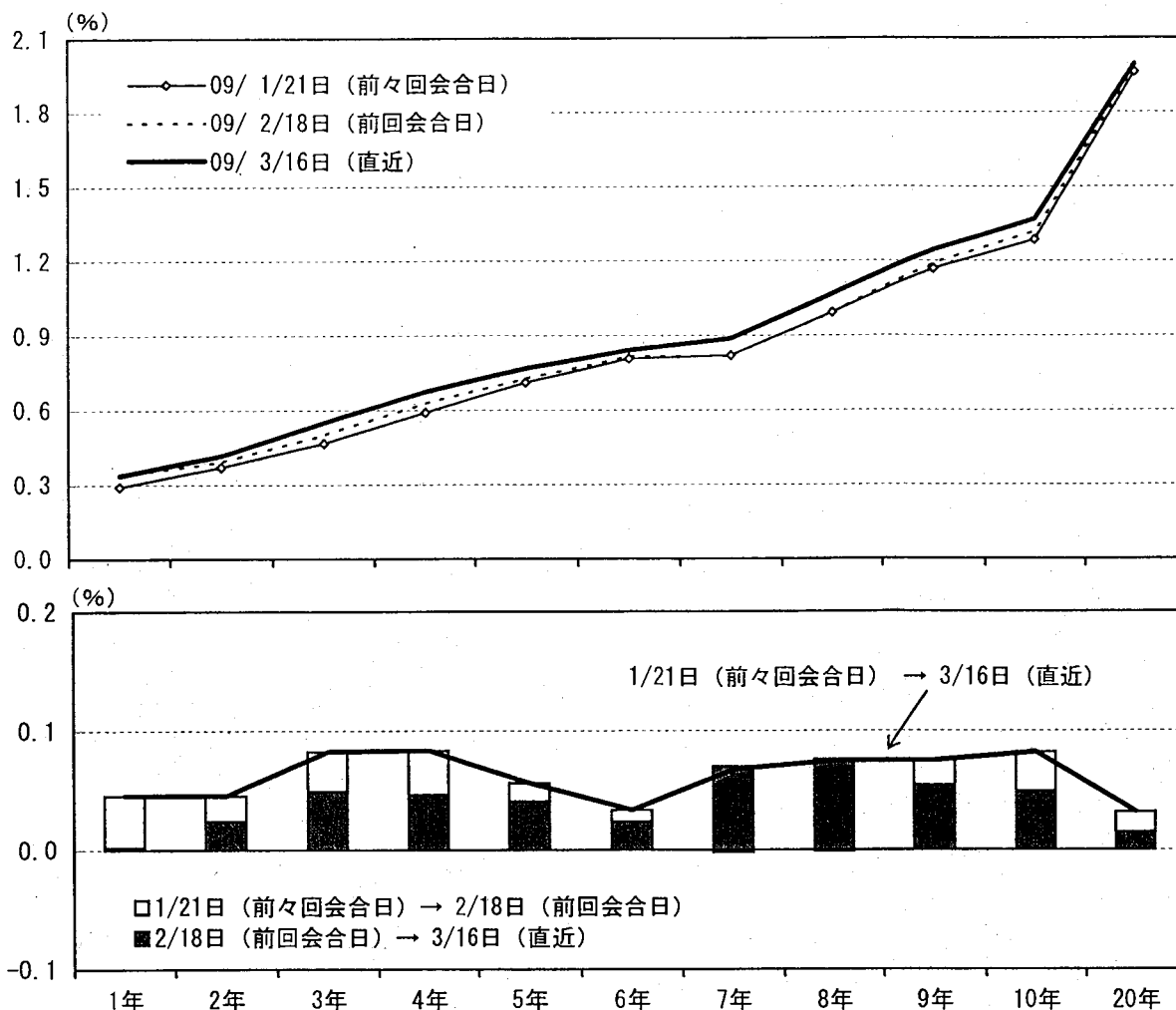
(2) 10年国債利回りの推移



(注) 直近は3/16日。

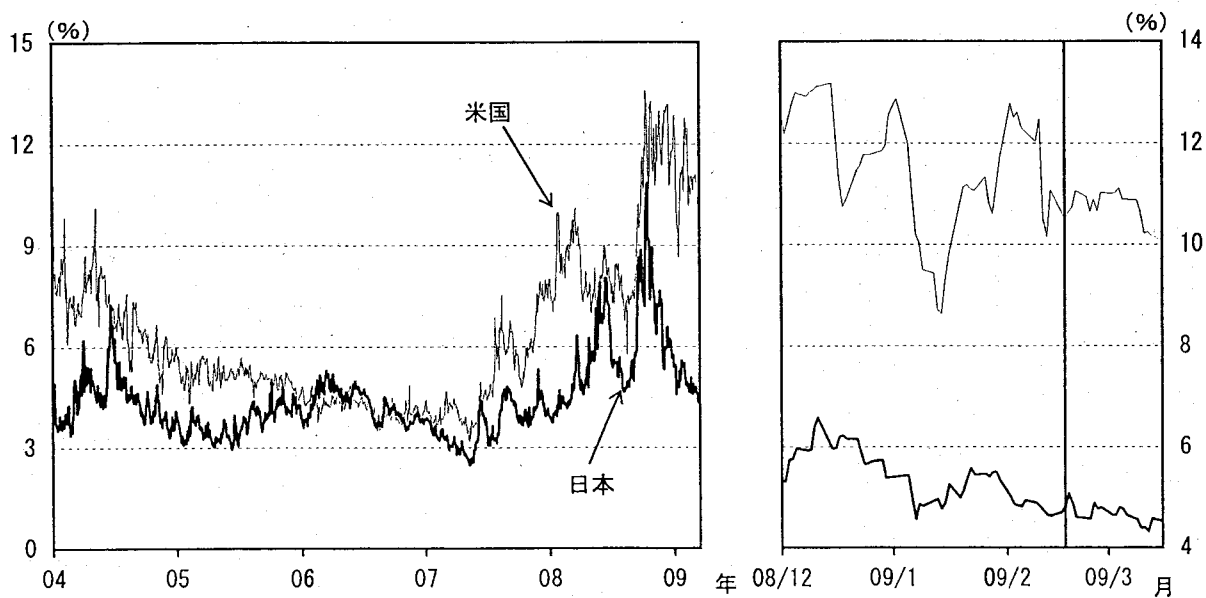
(出所) Bloomberg、日本相互証券

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

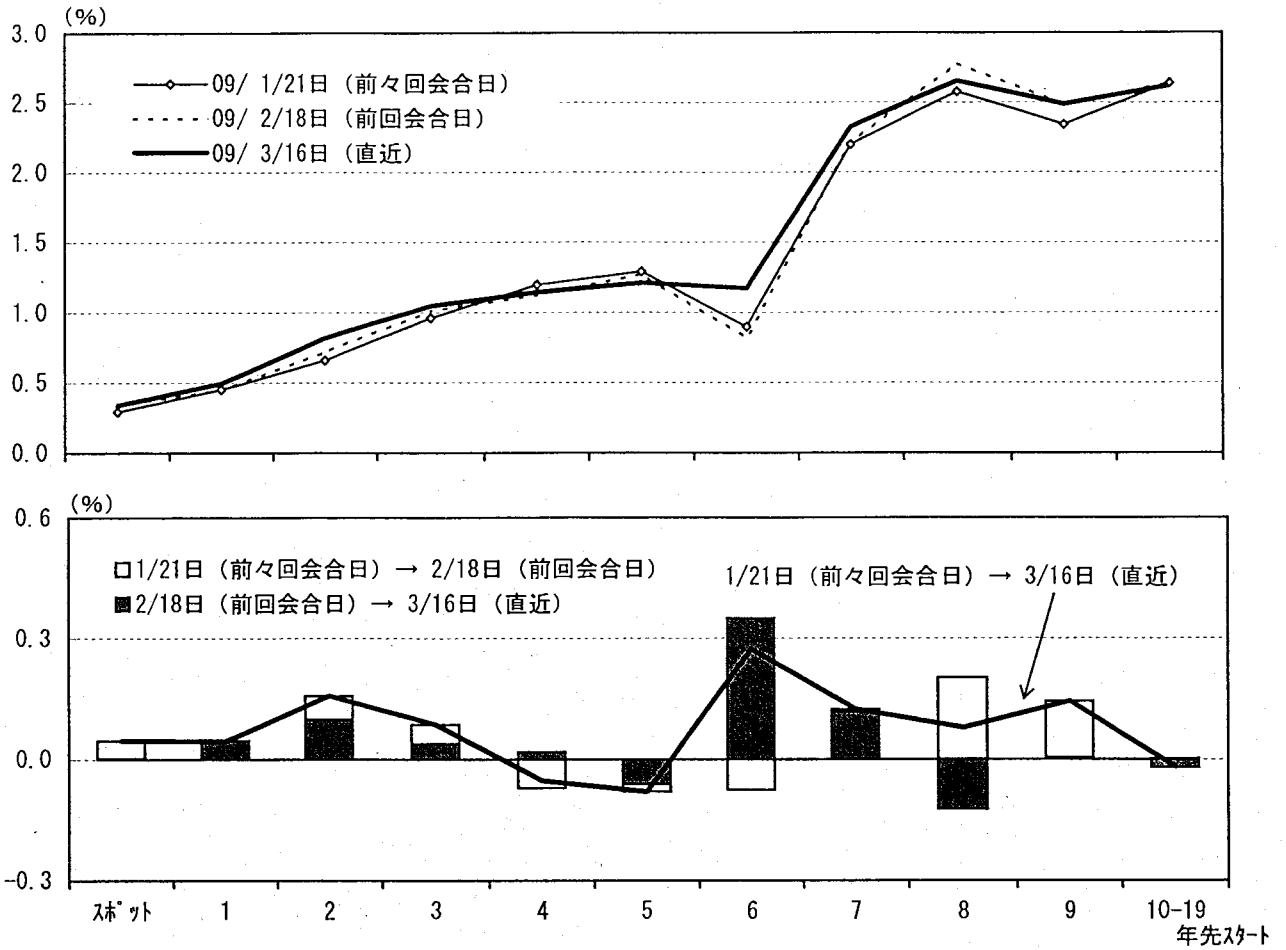
インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は、日本は3/16日、米国は3/13日。

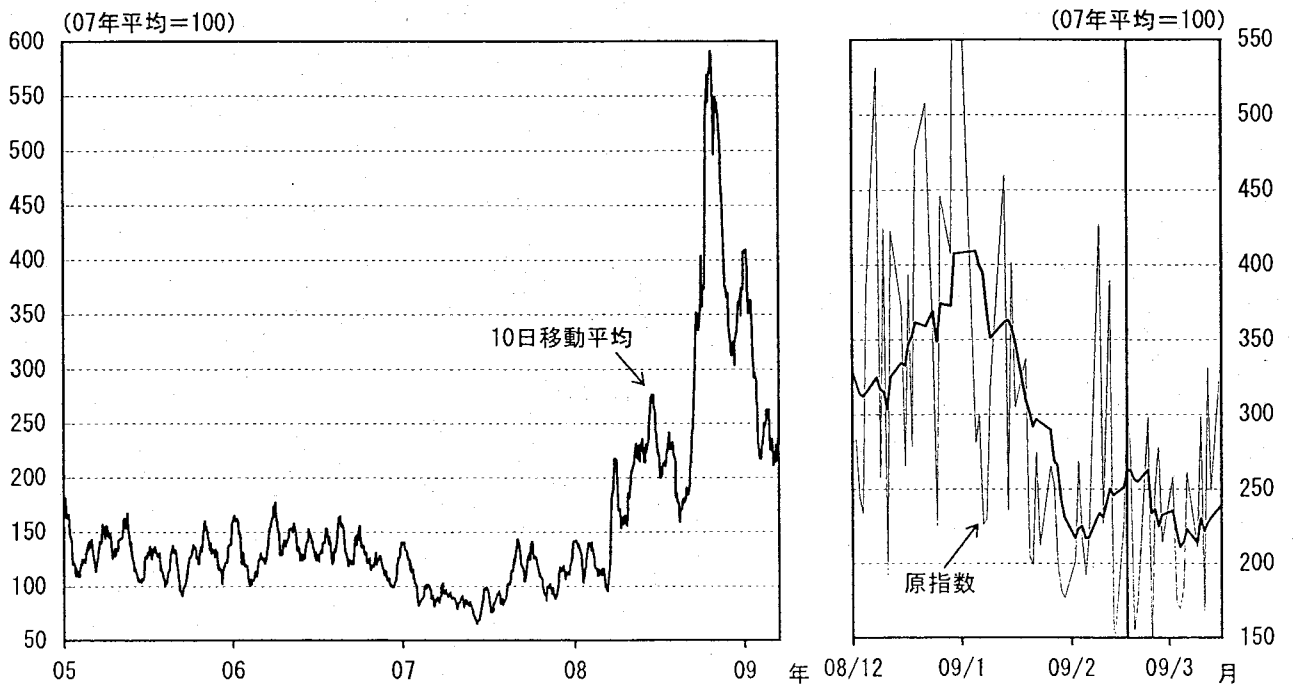
(出所) 三菱UFJ証券、Bloomberg

フォワードレート・カーブの動向



(注) 1年物。
(出所) 日本証券業協会、日本銀行

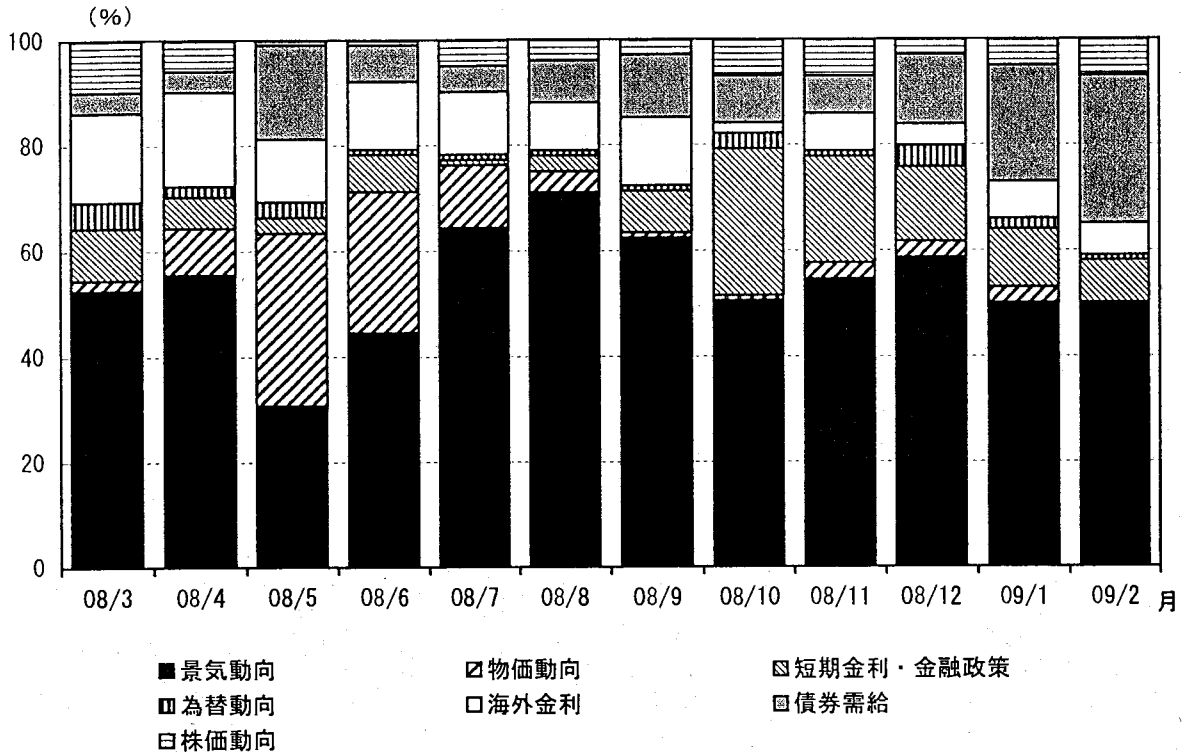
長国先物の値幅・出来高比率の推移



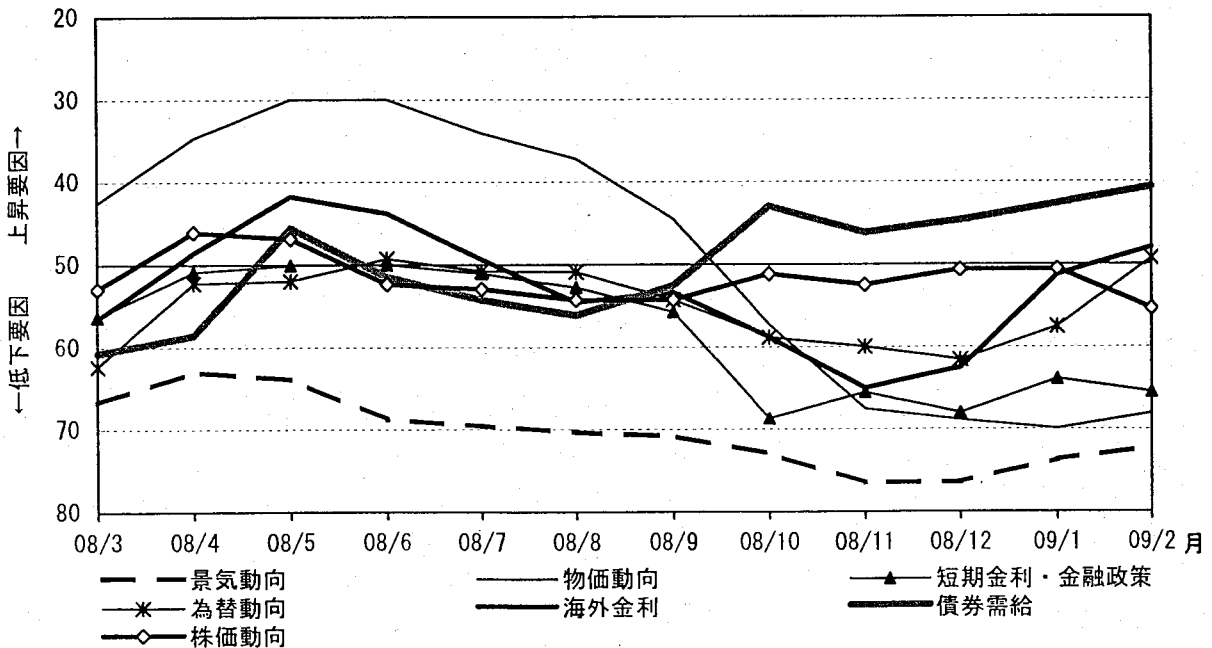
(注) 直近は3/16日。
(出所) QUICK

市場参加者が注目する債券利回り変動要因

(1) 注目する債券利回り変動要因



(2) 注目する変動要因の影響 (各要因は利回りにどう影響するか)



(注) 各要因について、
 強い低下要因=100、低下要因=75、中立・不明=50、上昇要因=25、強い上昇要因=0
 として指数化。

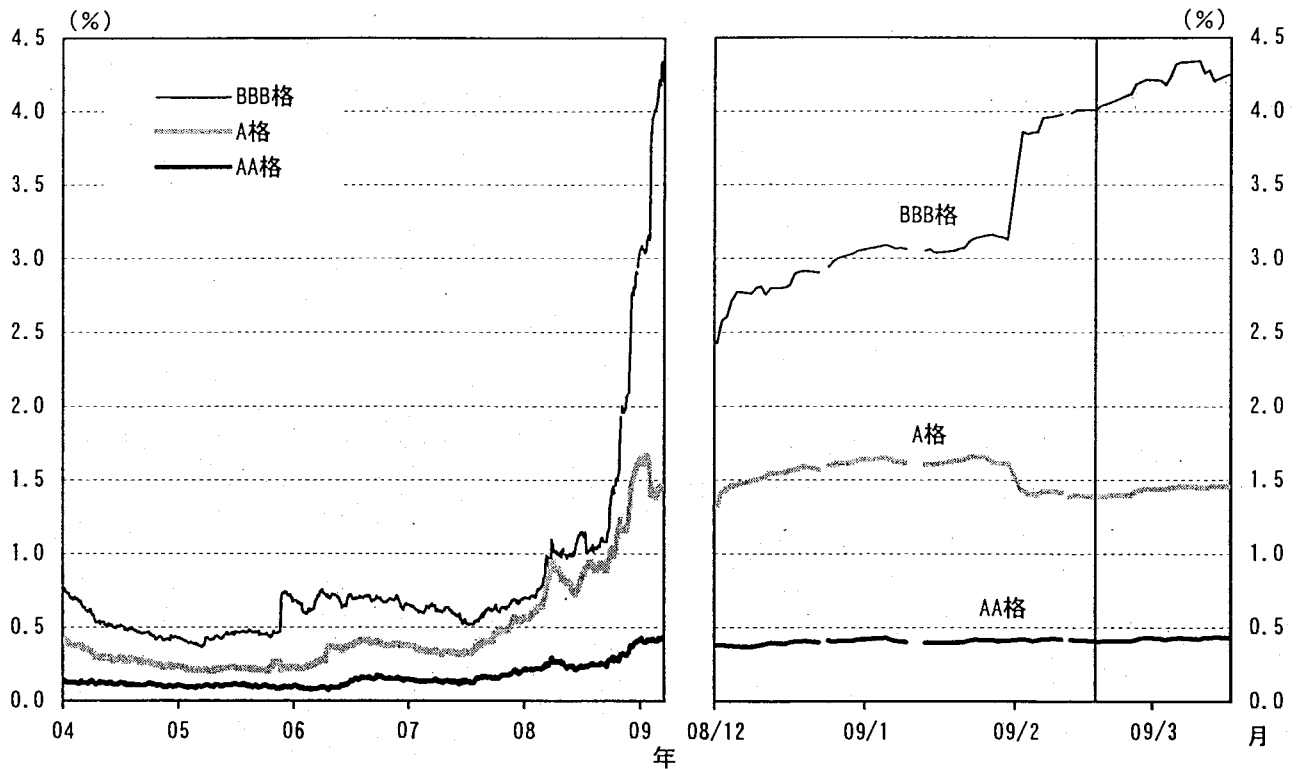
(調査方法) 調査期間：09/2/24日～09/2/26日 (10年新発債利回り：1.260～1.300%)

調査対象：証券会社・機関投資家の債券担当211名 (回答率 70.6%)

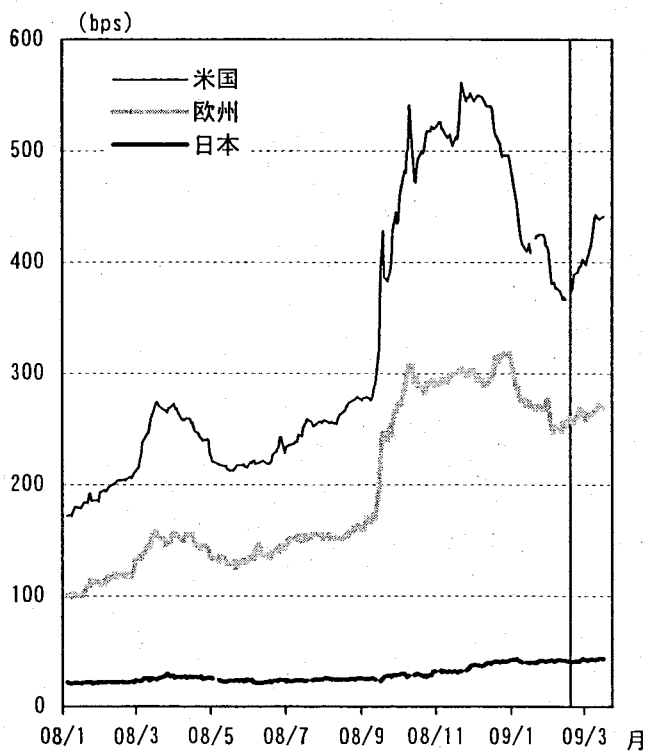
(出所) 「QSS債券月次調査」

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

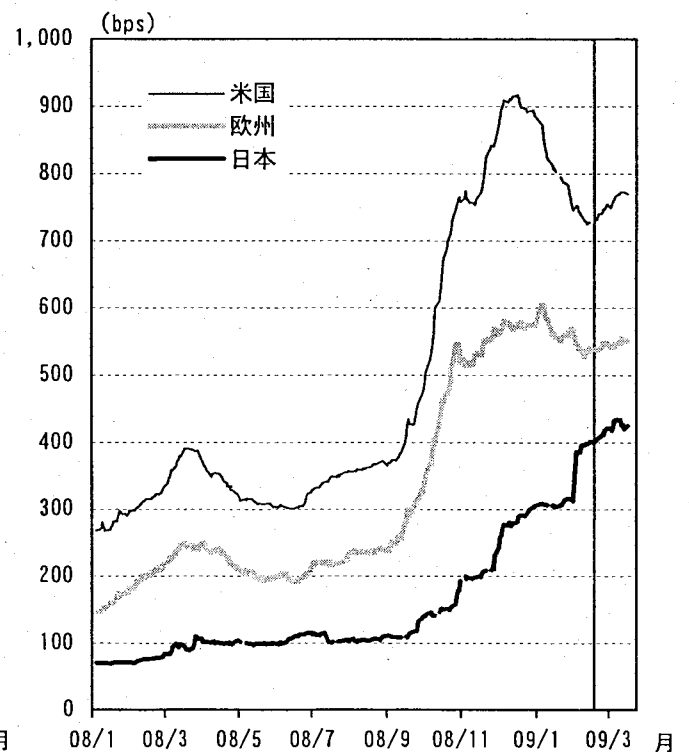
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債 (AA格) の動向



(3) 低格付社債 (BBB格) の動向

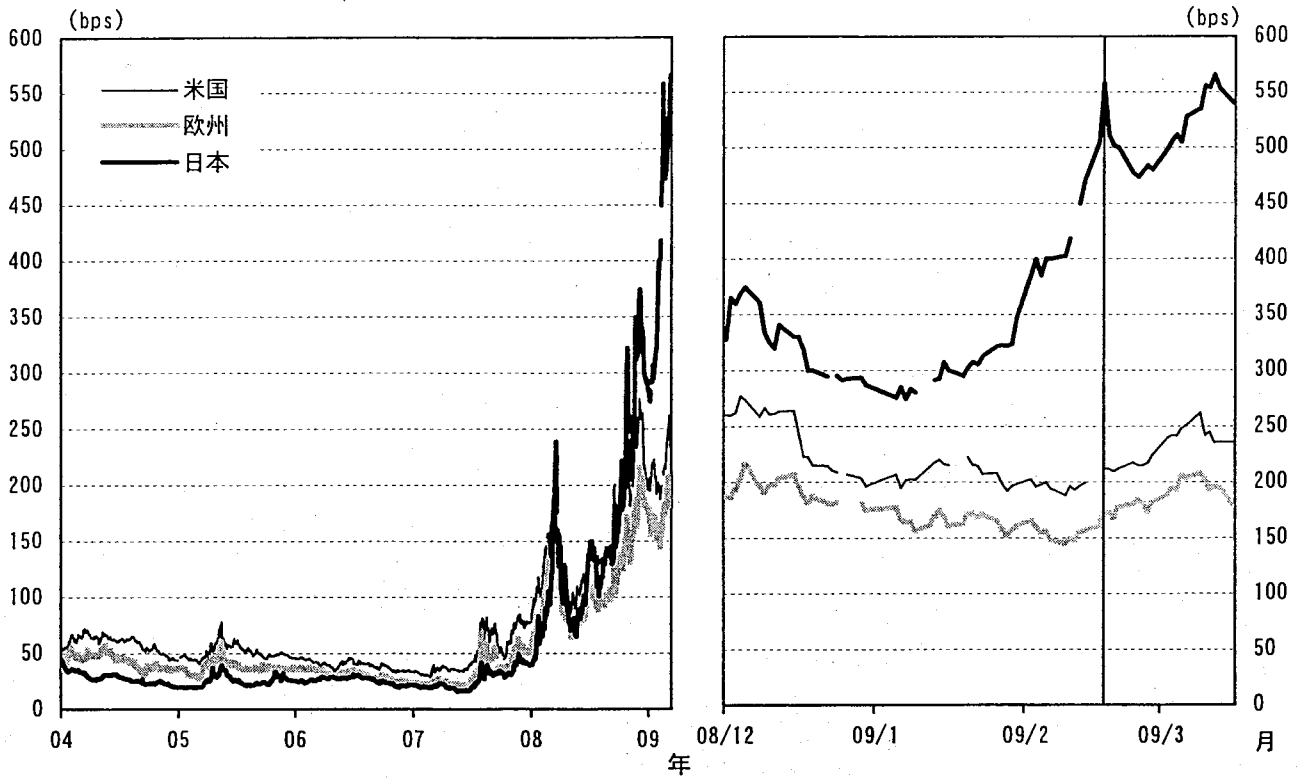


(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付はR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は3/16日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

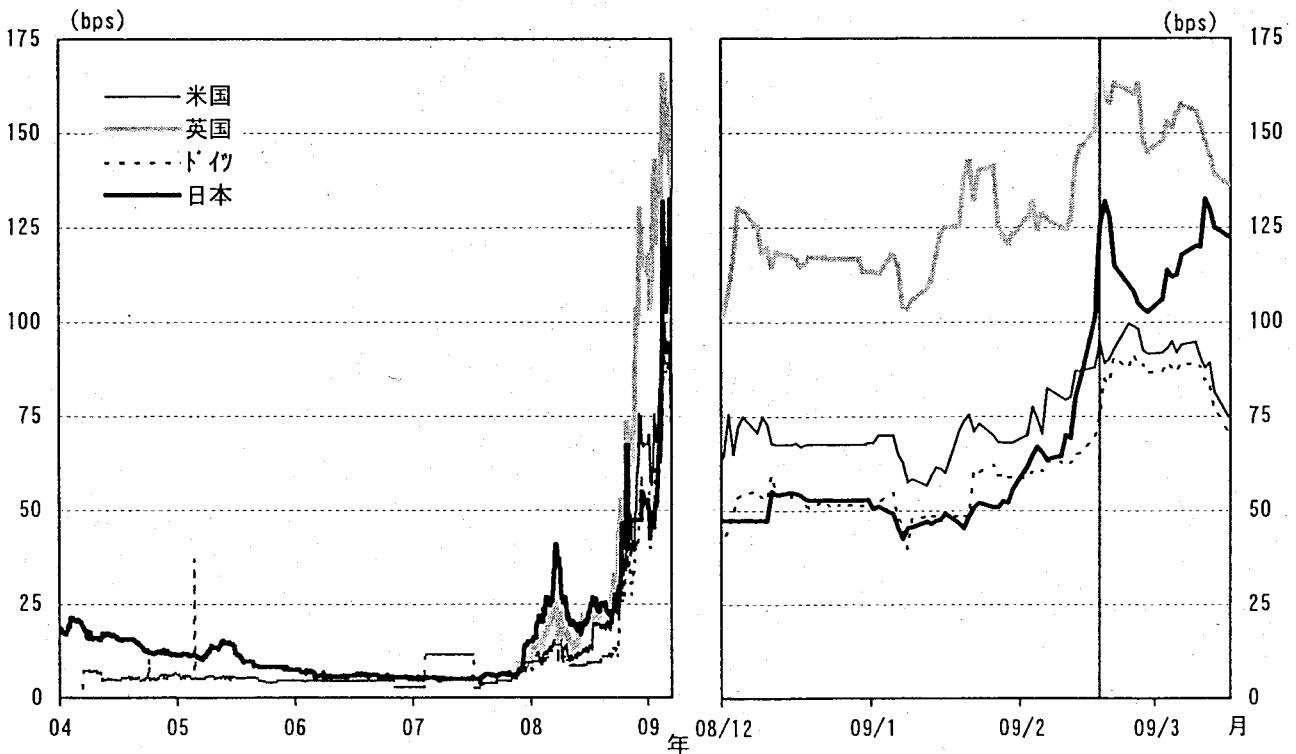
CDSプレミアムの推移

(1) CDSインデックスの推移



(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本: iTraxx Japan 米国: CDX.NA.IG 欧州: iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は3/16日。
(出所) Markit、JPモルガン

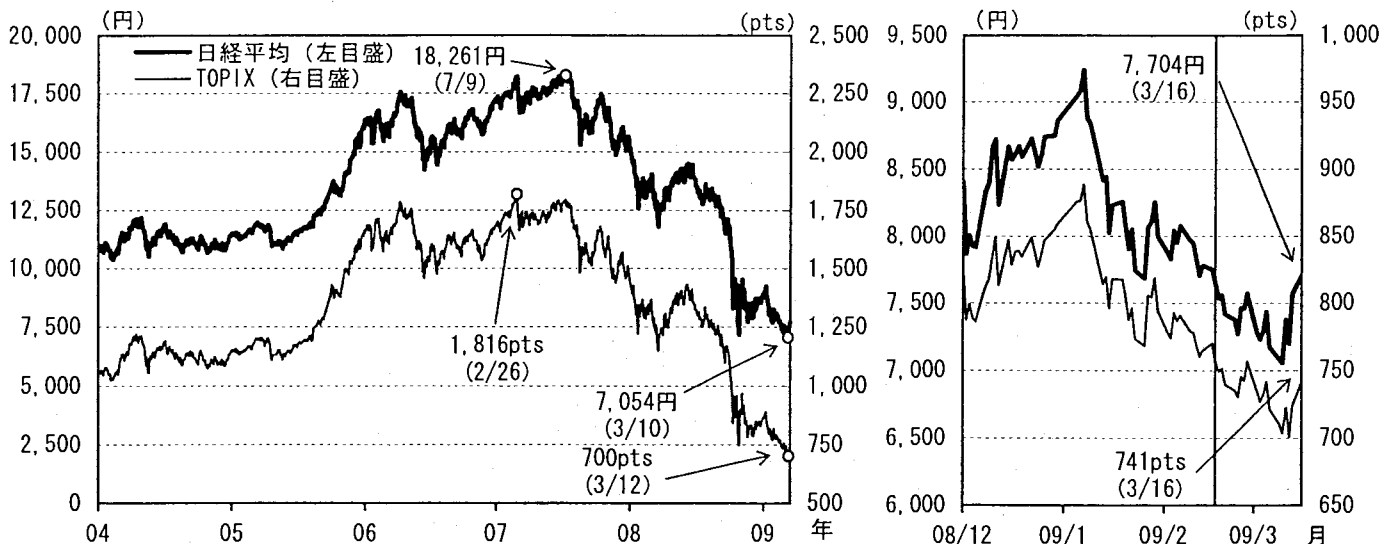
(2) ソブリンCDSの推移



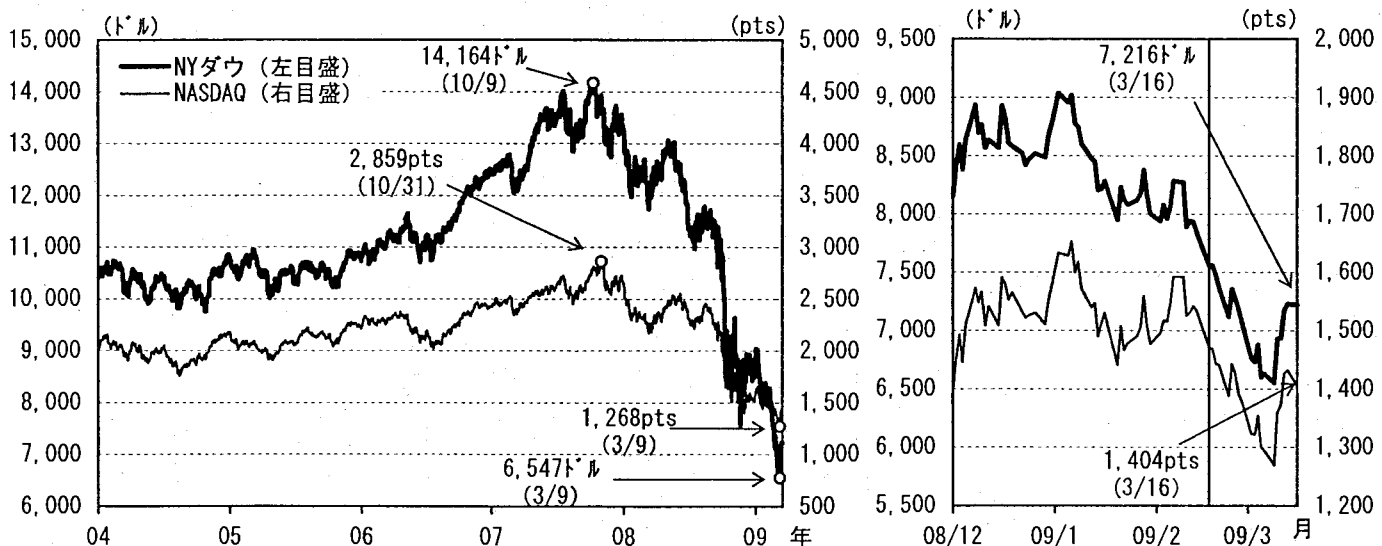
(注) 年限は10年。直近は3/16日。
(出所) Bloomberg

株式相場の推移

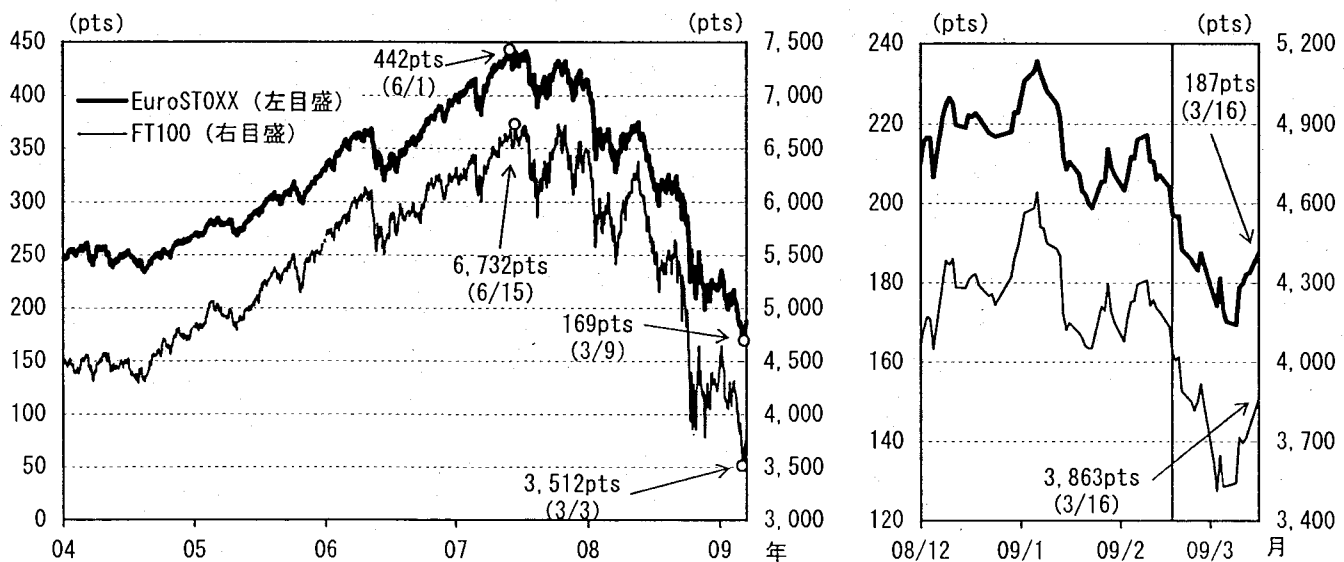
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は3/16日。

(出所) QUICK、Bloomberg

主体別売買動向

(▲は売り越し、億円)

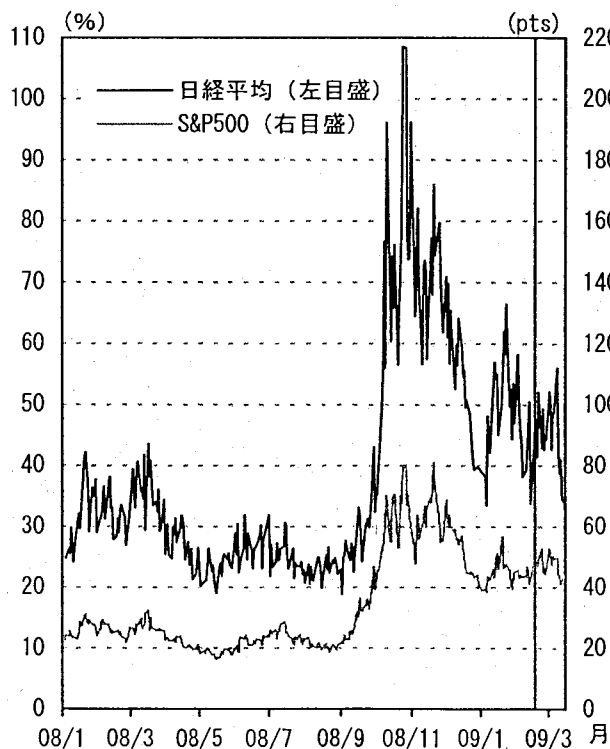
	個人		事業法人	投 信	金融機関	外国人		
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
06年	▲43,811	18,380	20,190	17,073	▲40,369	▲33,176	▲1,499	55,288
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
08/4 ~ 6月	▲5,546	2,184	2,288	▲229	▲3,947	▲759	▲1,572	24,323
7 ~ 9月	▲720	▲556	1,850	348	1,683	3,421	▲1,096	▲12,215
10 ~ 12月	10,045	▲1,239	5,369	1,217	32,534	33,379	▲699	▲28,943
08/12月	▲3,251	▲583	963	749	9,209	9,759	▲550	▲7,747
09/1月	3,960	1,342	207	787	9,104	9,403	▲267	▲8,303
2月	2,857	469	911	584	8,541	8,261	▲40	▲8,239
09/2/2 ~ 2/6	▲20	▲236	37	137	2,406	2,420	0	▲1,829
2/9 ~ 2/13	1,536	539	109	▲46	1,411	1,396	▲6	▲1,963
2/16 ~ 2/20	1,598	479	595	4	2,659	2,707	▲138	▲3,567
2/23 ~ 2/27	▲258	▲312	169	489	2,064	1,737	104	▲878
3/2 ~ 3/6	2,148	806	246	58	3,809	3,698	▲25	▲5,571

(注) 1. 三市場（東京・大阪・名古屋）1・2部等合計。

2. 金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

(出所) 東京証券取引所

ボラティリティの推移



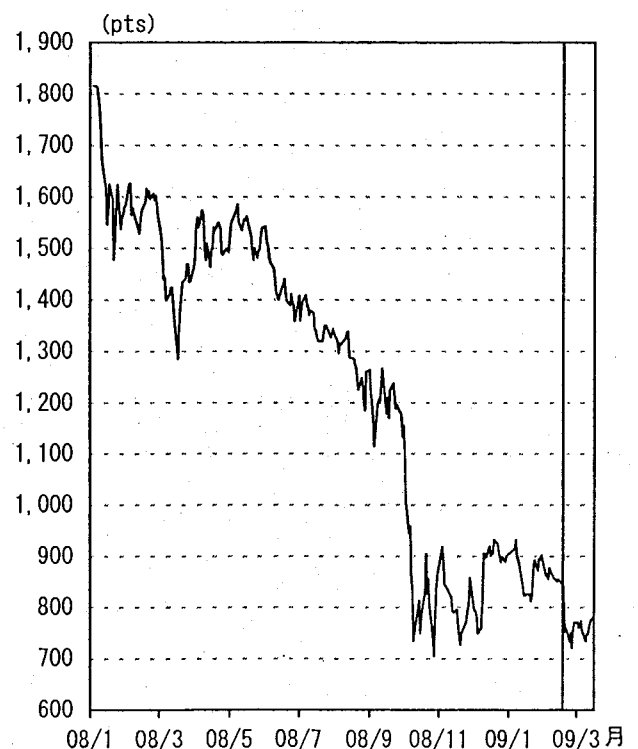
(注) 1. 日経平均はインプライド・ボラティリティ。

S&P500はVIX指数。

2. 直近は3/16日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移



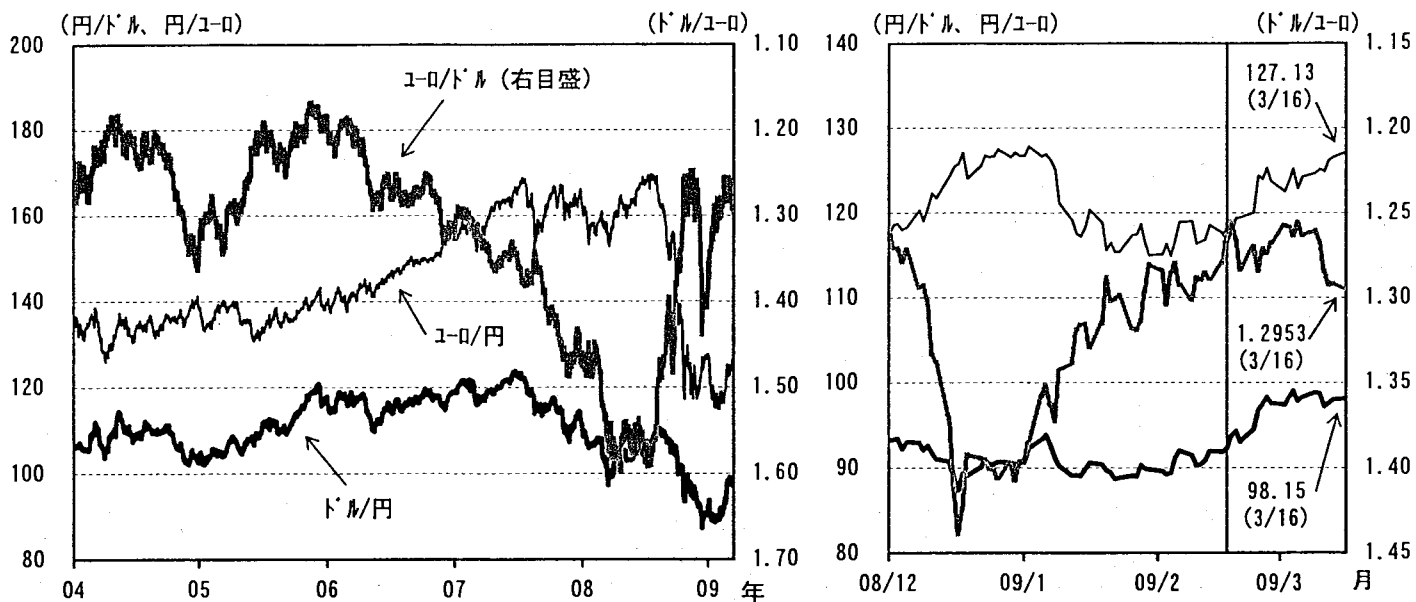
(注) 1. 東証REIT指数は、東証上場のREIT全銘柄を対象とした時価総額加重平均指数。

2. 直近は3/16日。

(出所) Bloomberg

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移

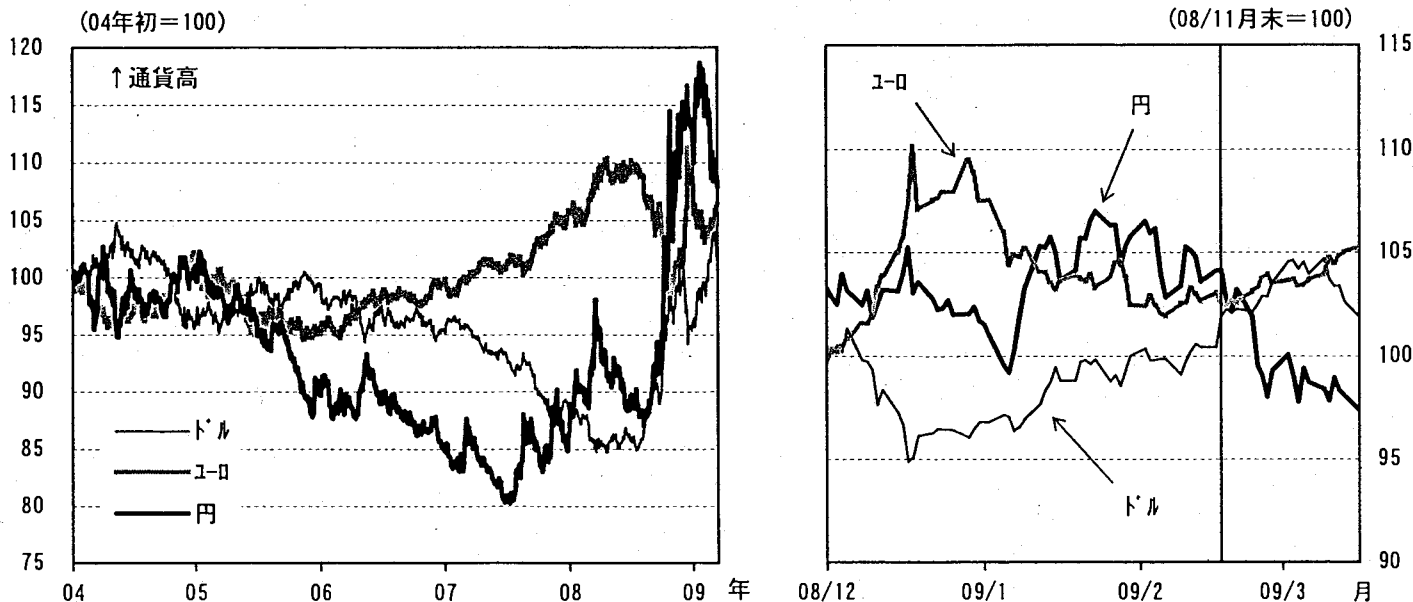


〈参考〉

	前回決定会合直前 (2/17日)	期間中ピーク	期間中ボトム	直近終値 (3/16日)
円の対ドル相場	92.30円	92.30円 (2/17日)	99.07円 (3/4日)	98.15円
円の対ユーロ相場	116.36円	116.36円 (2/17日)	127.13円 (3/16日)	127.13円
ユーロの対ドル相場	1.2607ドル	1.2953ドル (3/16日)	1.2553ドル (2/18日)	1.2953ドル

(注) 原則NY市場16時時点。
(出所) トムソン・ロイター

(2) 名目実効為替レートの推移

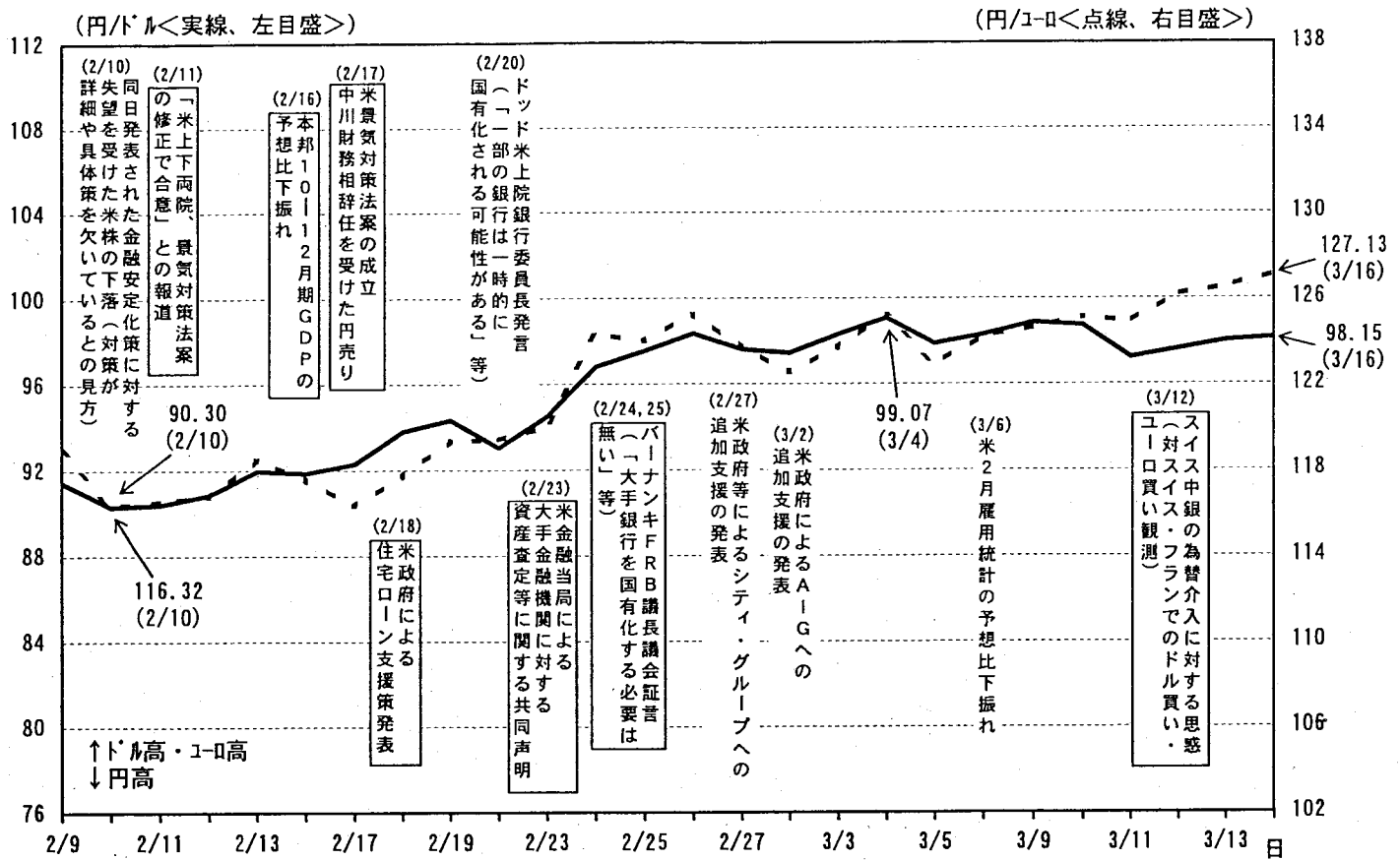


(注) 直近は3/16日。
(出所) ドルはJPモルガン
ユーロはECB (米ドル、英ポンド、円等21通貨ベース)
円は日本銀行 (米ドル、ユーロ、アジア通貨等15通貨ベース) 26

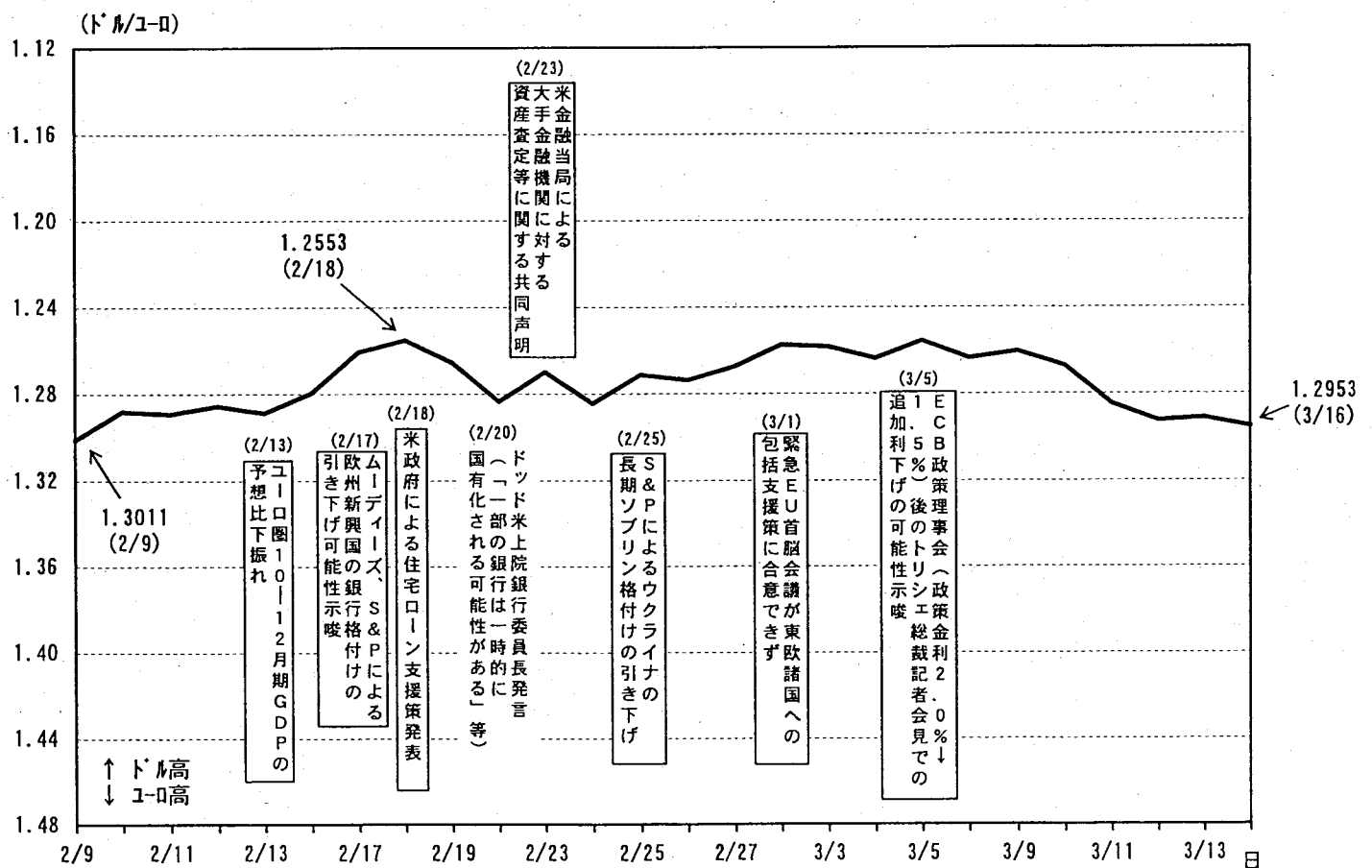
最近の為替相場動向とその変動要因

(図表2-17)

(1) ドル/円、ユーロ/円相場



(2) ユーロ/ドル相場



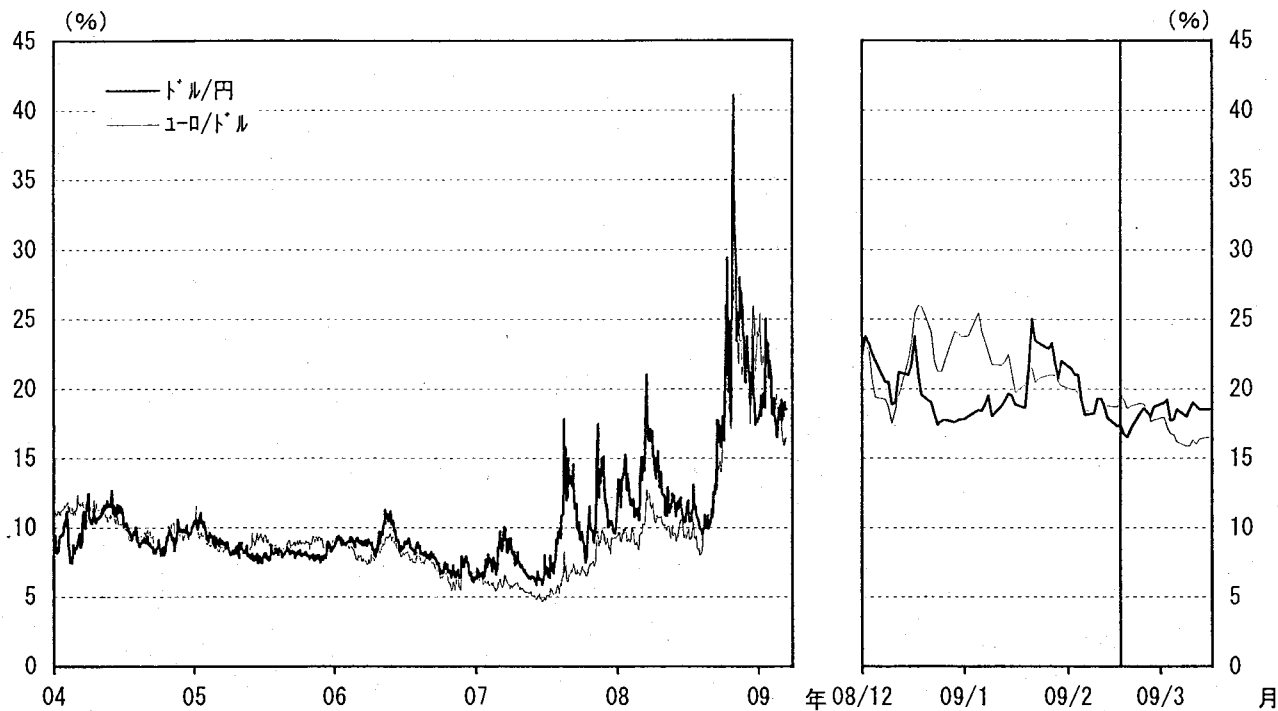
(注) 1. 原則NY市場16時時点。

2. 枠付きはドル高材料。

(出所) トムソン・ロイター、日本銀行 (対外非公表)

通貨オプション市場の動向

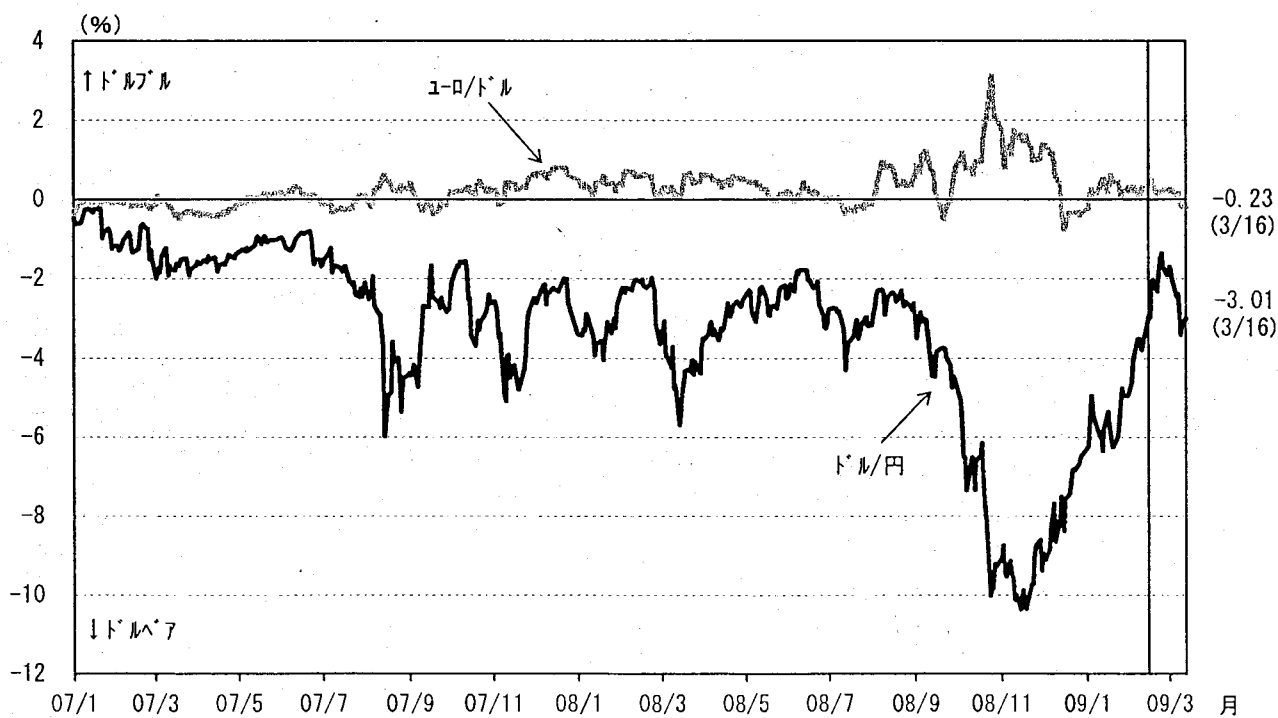
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(注) 直近は3/16日。

(出所) Bloomberg

(2) リスクリバーサル (1か月) の推移

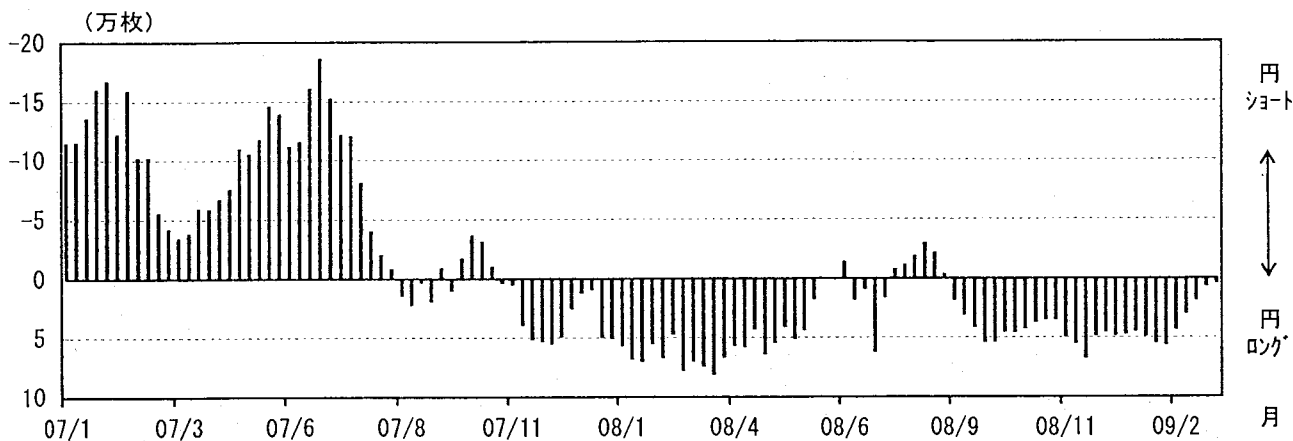


(注) リスクリバーサルは、便宜上、プラスがドル・コール・オーバー、マイナスがドル・プット・オーバー。

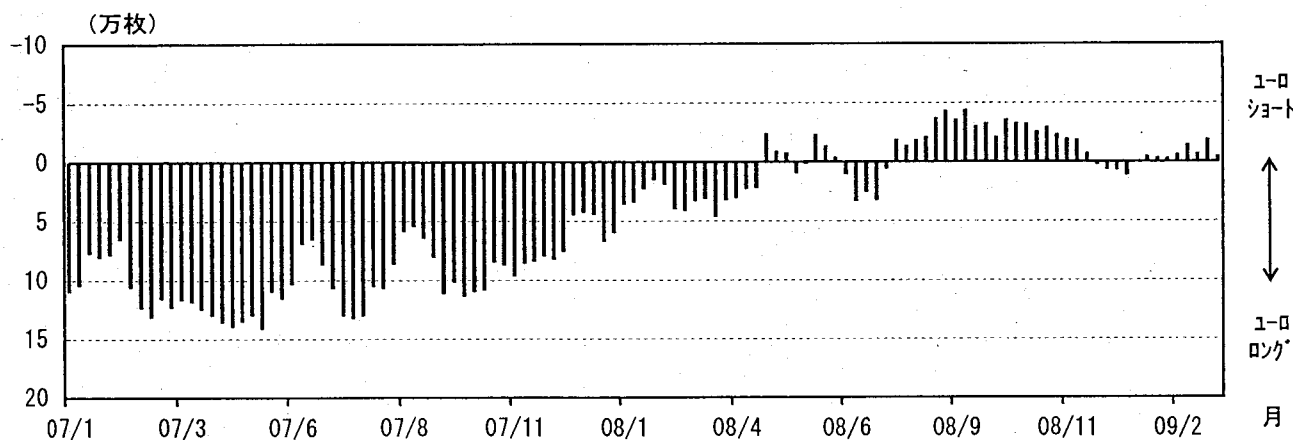
(出所) 日本銀行 (対外非公表)

通貨先物、投資信託の動向

(1-1) 円のIMMネットポジション



(1-2) ユーロのIMMネットポジション

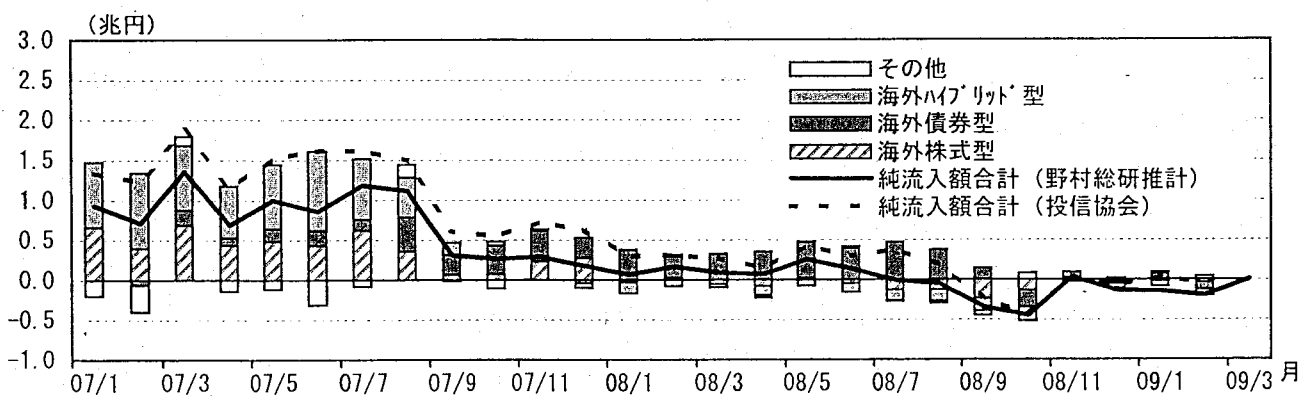


(注) 1. シカゴ・マーカントイル取引所の当該通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は3/10日。

(出所) Bloomberg

(2) 公募追加型株式投信の資金純流入額



(注) 1. 「純流入額 (野村総研推計)」は各月の時点で設定後2か月以上経過したファンドのみが集計対象。

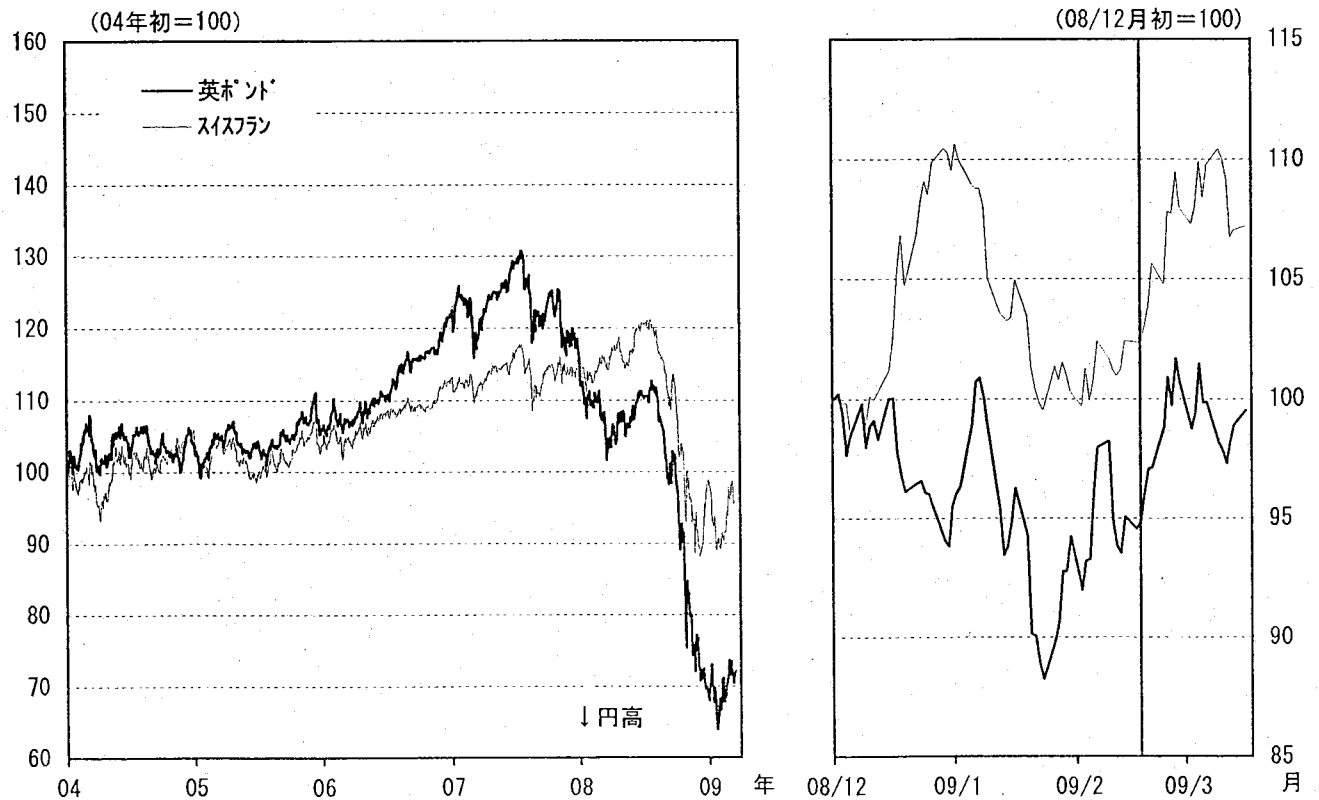
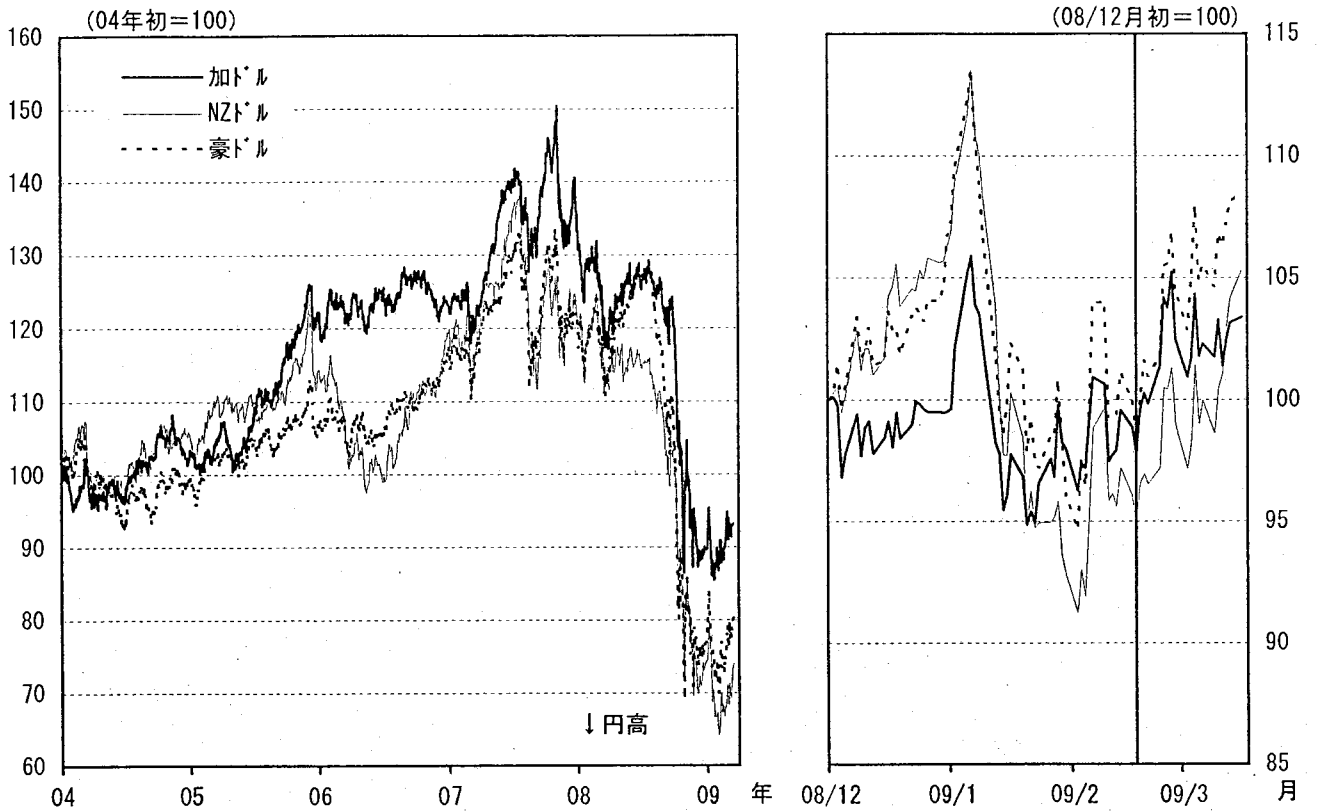
09/3月分は3/12日までの実績。

2. 棒グラフは野村総研の推計による純流入額のほか、月中の新規設定額を含む。

3. ETFを除く。

(出所) 野村総合研究所、投資信託協会

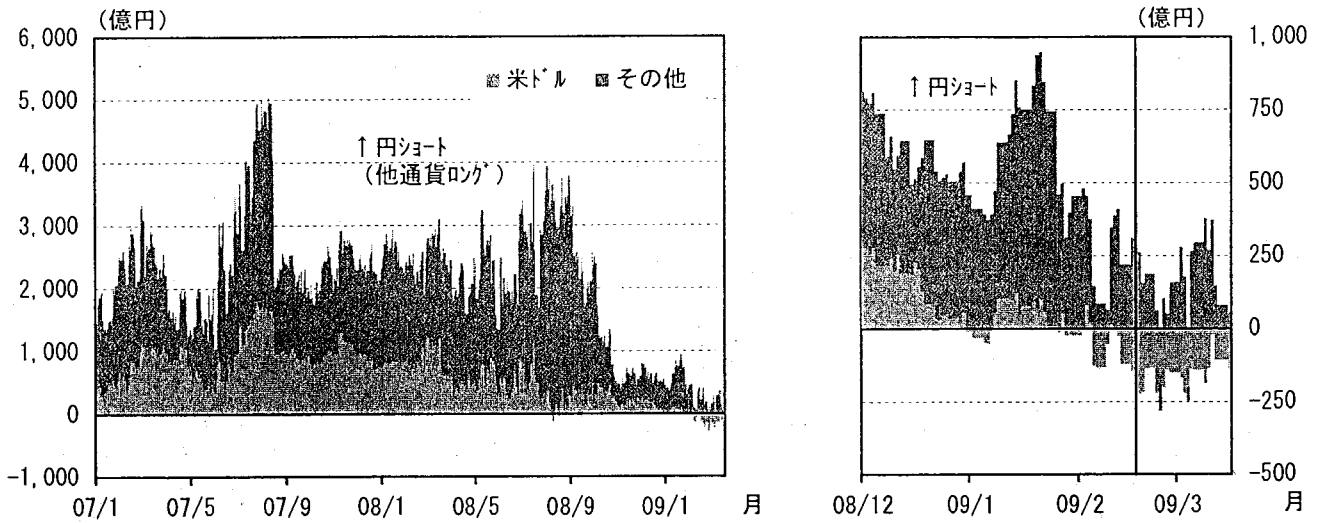
クロス円相場の推移



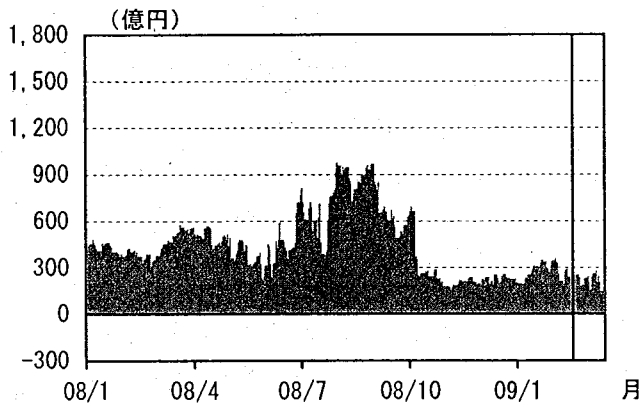
(注) 直近は3/16日。
(出所) Bloomberg

外為証拠金取引の動向

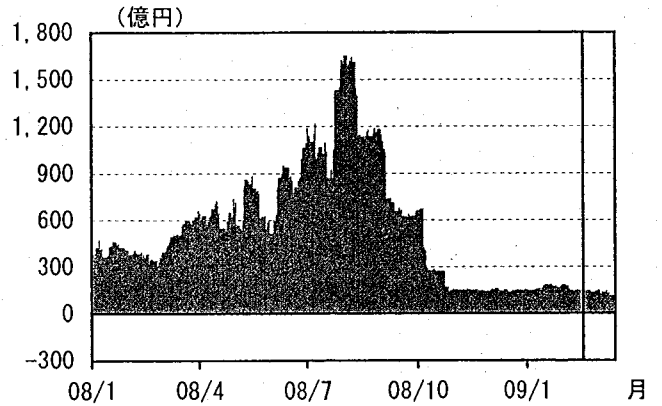
(1) 全体



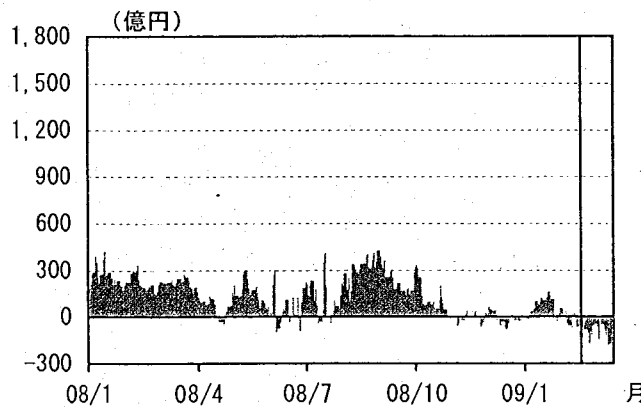
(2) 豪ドル



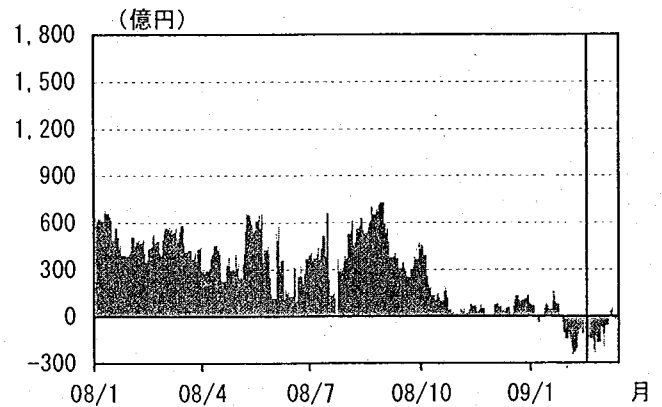
(3) NZドル



(4) ユーロ



(5) ポンド

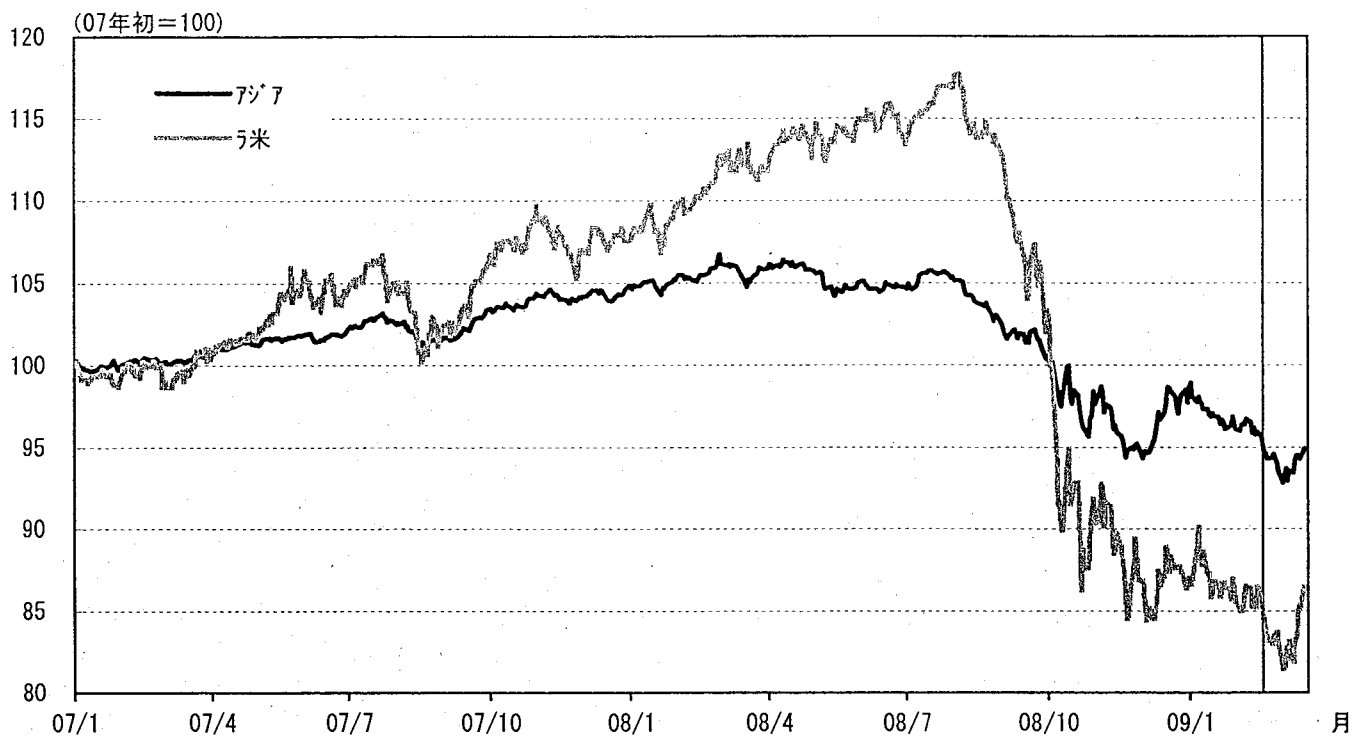


(注) 1. 円に対する他通貨のネットロングポジション (マーケット・メーカーを除く)。
2. その他は、豪ドル、NZドル、ユーロ、英ポンドなど11通貨の合計ポジション。
3. 直近は3/16日。

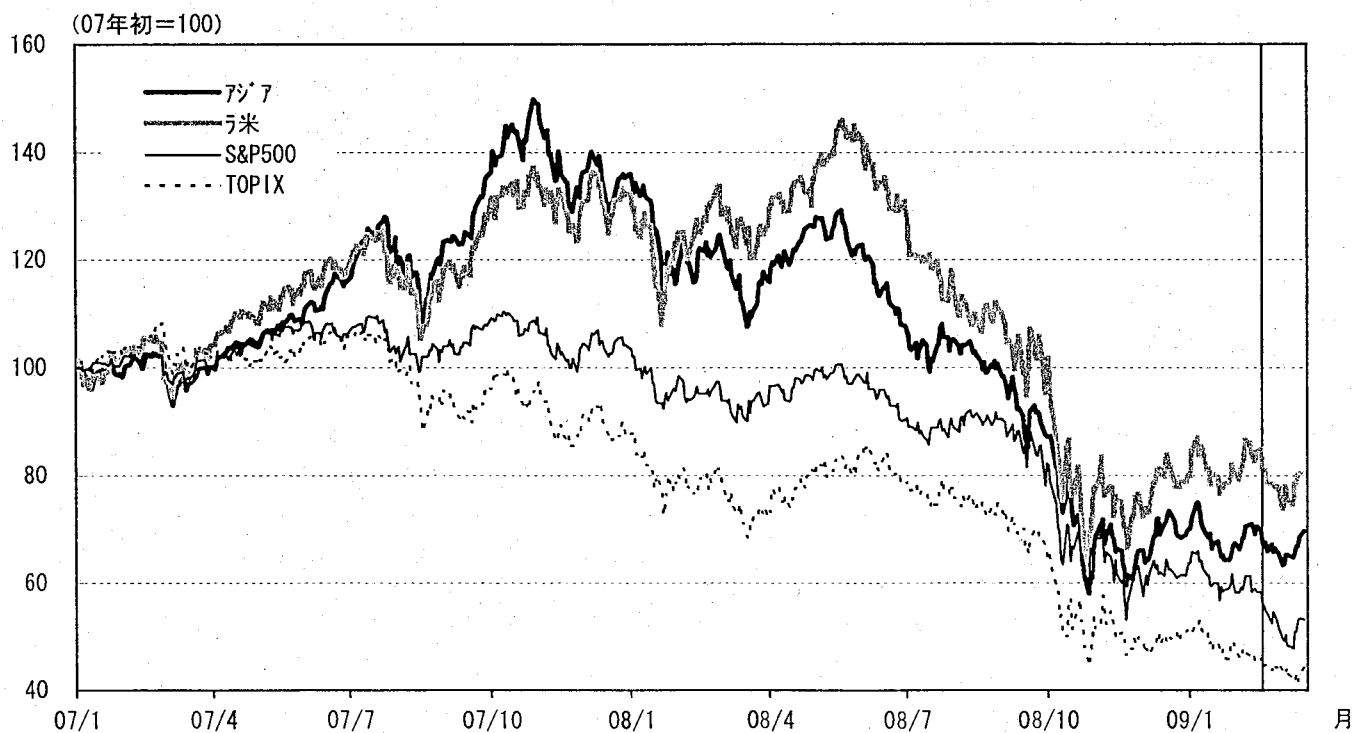
(出所) 東京金融取引所、Bloomberg

エマージング通貨、株の動向

(1) エマージング通貨インデックス (対ドル)



(2) MSCIエマージングインデックス (株式)

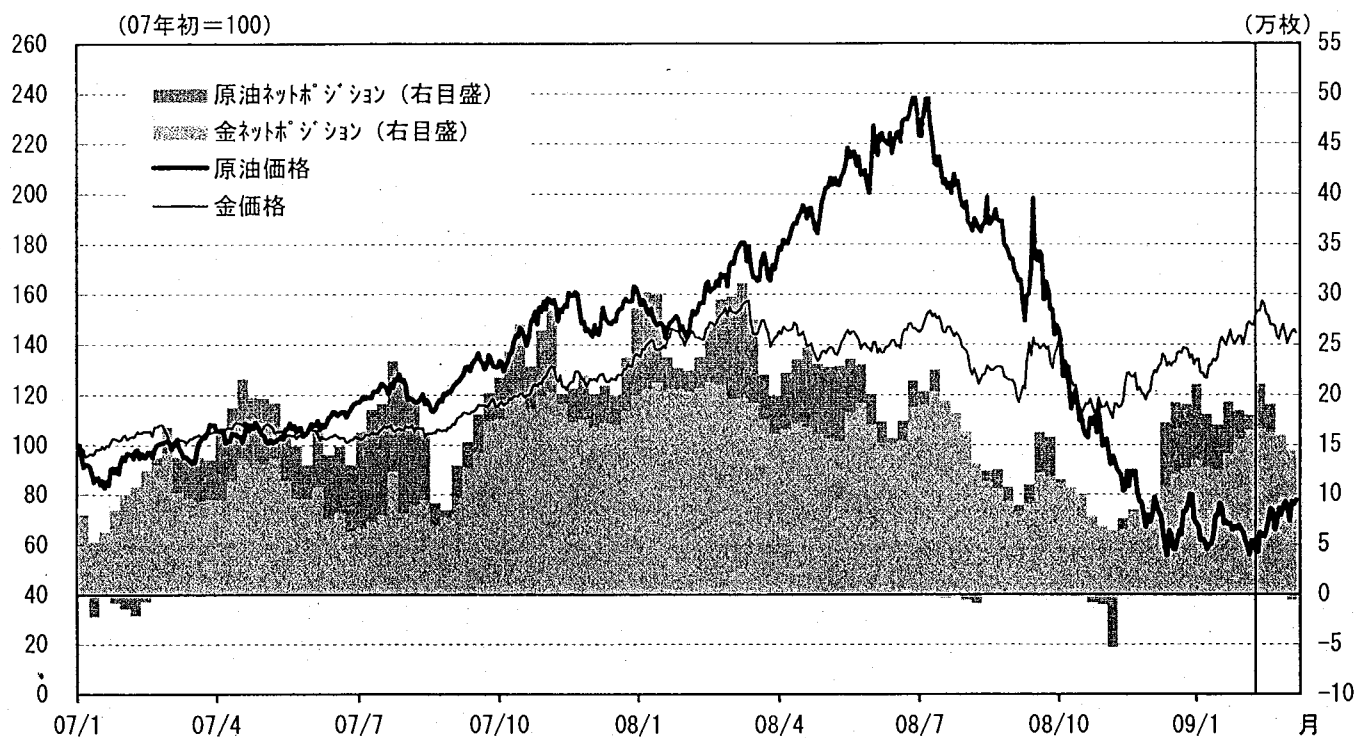


(注) 1. (1)は、アジア (中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ)、ラ米 (アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)。
2. (2)は、アジア (中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、台湾、タイ)、ラ米 (アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、メキシコ、ペルー)。いずれも現地通貨建て。
3. 直近は3/16日。

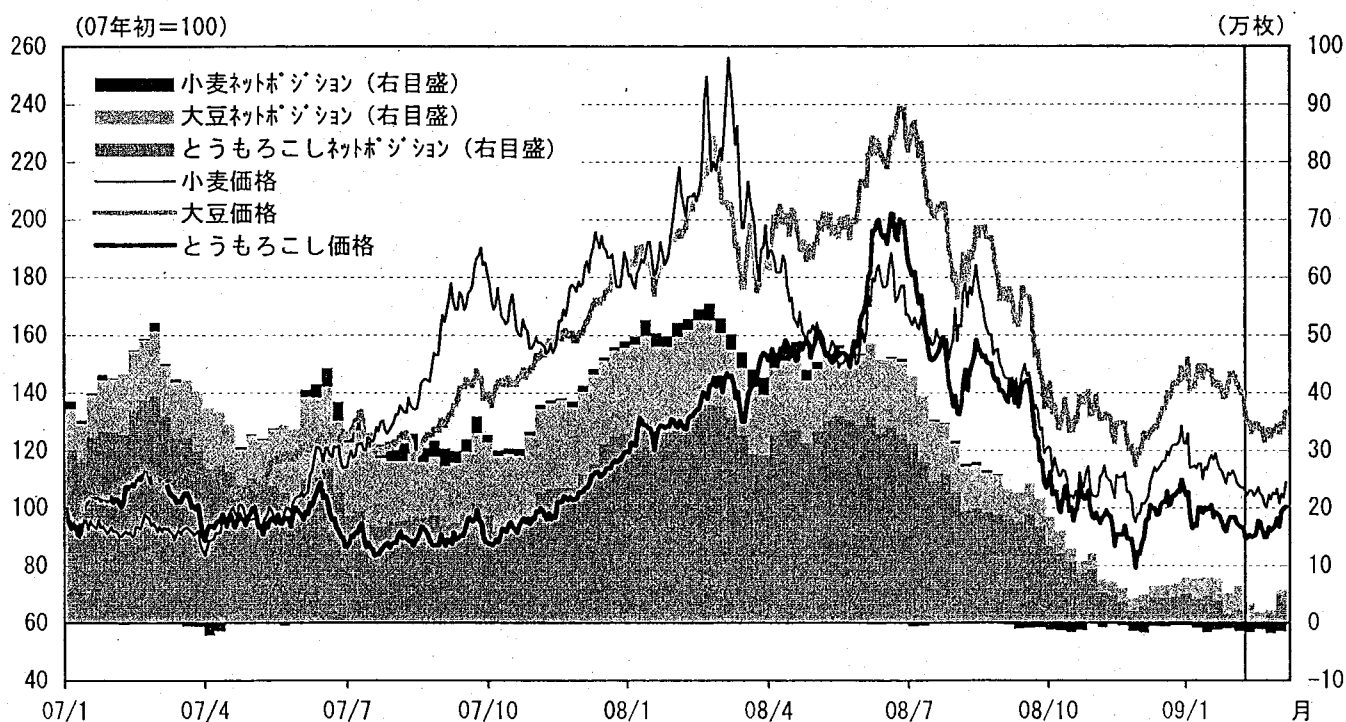
(出所) Bloomberg

商品の動向

(1) 原油・金



(2) 穀物



(注) 1. (1)は、NYMEX期近物。
2. (2)は、CBOT期近物。
3. 各銘柄のネットポジションは、非商業投資家ネットポジションの合計。
4. 直近は、価格(日次データ)については、3/16日、ネットポジション(週次データ)については、3/10日。
(出所) Bloomberg

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.3.12

国際局

海外経済・国際金融の現状評価

1. 概況

[海外経済の現状] (図表1~3)

実体経済面をみると、世界経済は悪化している。

米国経済は、大幅な悪化を続けている。住宅投資は大幅な減少を続けており、住宅価格も引き続き下落している。また、設備投資が大幅に減少し、個人消費も減少傾向を辿る中、生産も減少している。労働市場では、雇用者数が大幅な減少を続け、失業率も上昇している。企業や家計の資金調達環境は引き続き厳しいほか、景気の先行きに関する高い不確実性も、企業や家計の支出行動を慎重化させている。

ユーロエリア経済は、大幅な悪化を続けている。内需は、個人消費、設備投資、住宅投資とも減少している。輸出も減少を続けている。そうした中、生産も減少している。英国経済も、大幅な悪化を続けている。住宅市場の大幅な調整が続き、個人消費も減少傾向にある中、生産活動は減退している。企業や家計の資金調達環境は引き続き厳しい。

中国経済は、大幅に減速している。内需は高い伸びを続けているが、輸出は減少している。生産は、輸出の減少を受けた減産の動きなどから、減速している。インド経済は、大幅に減速している。NIEs・ASEAN経済は、大幅に悪化している。輸出、投資が大幅に減少する中、個人消費も減少している。特に、NIEs 経済の悪化が目立っている。

物価面をみると、エネルギー価格の下落や食料品価格の上昇一服から、多くの国・地域で総合ベース消費者物価の前年比上昇率が低下している。米国、ユーロエリアのコアベース消費者物価の前年比は+1%台後半まで低下している。

[国際金融の現状]

欧米の金融市場は、依然ストレスの程度が高い状況にある。すなわち、ターム物金利のスプレッドや低格付け物 CP のスプレッドは、リーマン・ブラザーズ破綻前後の水準で横這い圏内の動きとなっている。社債の対国債スプレッドは、低格付け物を中心に、幾分拡大している。資金調達面をみると、社債発行額は、政府保証債を除くベースでみて、1月にリーマン・ブラザーズ破綻前の水準に復した後、2月も若干増加した。一方、IPOは極めて低調な状況が続いている。

この間、米国の株価は、経済指標の悪化や企業業績への懸念が引き続き下落要因になったうえ、大手金融機関の経営に対する不安が高まったことから大幅に下落した。長期金利は、大幅な株安による低下圧力が働いたものの、国債増発が引き続き懸念されたことから、小幅上昇した。欧州では、株価は、米国に連れる動きとなる中、企業業績の悪化や大手自動車メーカーの格下げもあり、大幅に下落した。長期金利は、国債増発が引き続き懸念される一方、株価が下落したことや BOE による国債の買入開始が発表されたことから、前回会合対比ではほぼ横這いとなった。

エマージング諸国・地域の金融市場をみると、株価は米欧に連れる動きとなる中で下落し、対米国債スプレッドも拡大した。この間、通貨も多く先で下落した。

原油価格 (WTI スポット、1 バレル当たり) は、OPEC による追加減産観測などから、若干上昇した。他の商品市況は、総じてみれば横這い圏内の動きとなった。

[先行きの展望]

米国では、住宅市場の大幅な調整が続くとみられる。金融市場が緊張下にあることから、企業・家計の厳しい資金調達環境も続く可能性が高い。また、世界経済の悪化を受け、輸出も減少が続くとみられる。さらに、景気の先行きに関する高い不確実性も、支出行動の制約要因になり得る。こうした状況下、先行き、個人消費、設備投資の減少が続くとともに、大幅な雇用調整も継続することが予想される。このため、景気は当面悪化を続けると考えられる。

その後については、金融市場の安定化が進み、住宅市場の調整も進めば、財政面での景気刺激策にも押し上げられるかたちで、緩やかに持ち直し始めると考えられる。

もっとも、以上のようなシナリオは、金融市場の安定化や、住宅市場における大幅な調整圧力が収束に向かうタイミングに大きく依存しており、先行きの不確実性やダウンサイド・リスクは引き続き高い。住宅価格の下落が継続する中で、金融市場が緊張下にあることを踏まえれば、金融機関の与信姿勢の厳格化が継続するなど、

企業・家計の資金調達環境がさらに悪化する、あるいはタイトな状況が長期化するリスクは高いと考えられる。この場合、金融と実体経済の負の相乗作用が一段と強まることになる。一方、オバマ政権のもとで実行される財政面からの景気刺激策の効果の程度や効果が現れるタイミングについては不確実性が高い。

ユーロエリア経済は、内外需ともに減少する中、悪化を続ける見通し。米国と同様、金融機関の与信姿勢のタイト化や景気の先行きに関する高い不確実性は、企業や家計の支出活動を抑制する方向に作用することから、景気の下振れリスクを高めている。また、主要輸出先の一つである欧州周辺国からの資金流出が加速し、同経済が一層悪化することに伴う外需の下振れリスクも存在する。

中国経済は、輸出が減少する一方で、政府による景気刺激策の効果もあって、内需は堅調な伸びを続けるとみられる。また、在庫調整にも徐々に進展がみられる。このため、全体としても減速に歯止めがかかる可能性が増してきているとみられる。インド経済は、当面減速傾向を辿る見通し。また、資源国（ロシア、中東など）の経済も、エネルギー価格が依然低水準で推移していることもあって、当面減速傾向が続くとみられる。

NIEs・ASEAN 経済は、当面、悪化が続くと考えられる。世界景気の悪化を受け、輸出は減少が続く見通し。内需についても、輸出減少の影響が波及するかたちで、減少が続く可能性が高い。但し、企業によるこれまでの大幅な減産の効果もあり、景気悪化のペースは一頃より和らぐとみられる。

また、投資家のリスク回避姿勢は、多少和らぎつつあるとはいえ、依然根強いことから、エマージング諸国には、金融市場の動揺を通じた景気の下振れリスクも存在する。

以上をまとめると、世界経済は、当面、米欧経済ともに悪化を続けるとみられるほか、新興国経済も減速傾向が続く可能性が高く、全体として、悪化が続くとみられる。もともと、米国、中国を中心とする財政面からの景気刺激策の効果が今後徐々に現れてくることや、企業によるこれまでの大幅な減産の効果などから、悪化ペースは一頃より幾分和らぐ可能性が高くなっている。但し、リスクは依然ダウンサイドにある。この間、物価面では、商品市況の低迷と世界経済の減速が相俟って、インフレ率の低下傾向が続くとみられる。

2. 米国の経済・金融動向

2-1. 米国の実体経済（図表4）

○ 米国経済は、大幅な悪化を続けている。

—— 実質GDP（10～12月、暫定〈第2回〉推計値）は、前期比年率▲6.2%と、事前（第1回）推計値（同▲3.8%）から、大幅に下方改訂された。内訳をみると、個人消費、在庫投資、純輸出が大幅に下方改訂されるとともに、設備投資、政府支出も下方改訂された。住宅投資は、小幅上方改訂された。

○ 住宅投資は大幅な減少を続けている。住宅販売は減少傾向を辿っており、在庫は引き続き高水準にある。このため、住宅価格の下落も続いている。

—— 住宅着工件数（1月）は、大幅な減少を続け（前月比▲16.8%）、現行統計の開始（1959年）以来の最低水準を4か月連続で更新した（年率466千戸）。減少は7か月連続。住宅着工許可件数（同）も減少した（前月比▲4.8%）。

—— 新築一戸建て住宅販売件数（1月）は、引き続き大幅に減少した（前月比▲10.2%）。中古住宅販売件数（同）は、11月に大幅に減少した後、横這い圏内の動きとなっている（11月前月比▲8.1%→12月同+4.4%→1月同▲5.3%）。在庫率（1月）は、依然高水準にある（新築：12月12.2か月分→1月13.3か月分、中古：同9.4か月分→9.6か月分）。

—— 住宅建築業者の景況感を表す NAHB 指数（2月）は既往最低水準を更新した前月から若干上昇した（1月8→2月9）。

—— 住宅購入のためのモーゲージ申請件数を示す MBA 購入指数は、モーゲージ金利の大幅な低下により年末にかけて上昇したが、足許では上昇前の水準まで低下している。

—— ケース・シラー住宅価格指数（10大都市、12月）は前月比下落を続け、前年比マイナス幅は若干拡大した（前月比：11月▲1.9%→12月▲1.8%、前年比：同▲19.1%→▲19.2%）。FHFA 住宅価格指数（リファイナンスを除くベース、12月）は、単月では、前月比ほぼ横這いになるとともに、前年比マイナス幅も縮小した（前月比：11月▲2.2%→12月+0.1%、前年比：同▲9.2%→▲8.7%）。

—— オバマ大統領は2月18日、住宅差し押さえ削減に向けた新たな計画（ホームオーナー・アフォードビリティ・アンド・スタビリティ・プラン）を発表

した。同計画によれば、①債務金額の住宅価値比率が 80%超の債務者はこれまで借り換えが困難であったが、今後は同比率が 105%以下であれば借り換えが可能となる（4～5 百万世帯を支援）。また、②差し押さえの危機に瀕した債務者に対し、毎月の住宅ローン返済額を所得比 38%以下まで低下させるような返済条件の緩和が行われた場合、政府が TARP 資金の一部（750 億ドル）を用い、それに伴う債権者の損失を部分的に負担するほか、サービサーに奨励金を与えるとされた（3～4 百万世帯を支援）。

○ 個人消費は、減少傾向を辿っている。

- 主要小売業売上高（2 月、大手 35 社の既存店ベース）は、2 か月連続で増加した（1 月前月比+1.0%→2 月同+2.0%）。但し、内訳をみると、専らディスカウント店の売上増加によるものであり、廉価品への消費シフトが窺われる。
- 新車販売台数（2 月）は、大幅に減少し、1981 年 12 月（年率 906 万台）以来の低水準となった（1 月同 975 万台→2 月同 929 万台）。前年比ベースでみて、殆どの主要メーカーでマイナス幅が拡大しており、販売低迷の要因として消費者コンフィデンスの悪化を指摘する声が多い。
- 消費者コンフィデンス（コンファレンス・ボード指数、2 月）は、大幅に低下し、統計開始（1967 年）以来の最低水準を引き続き更新した（1 月 37.4→2 月 25.0）。
- 実質可処分所得（1 月）は、確定申告等に伴う課税額が、株安によるキャピタル・ロスなどから減少したことや、社会保障給付額が、昨年のインフレ分の調整に伴い増加したことなどから、増加した（12 月前月比+0.4%→1 月同+1.5%）¹。実質個人消費（1 月）は、減少した前月からは増加した（12 月前月比▲0.5%→1 月同+0.4%）。

○ 設備投資は、大幅に減少している。

- 非居住用建設支出（1 月）は、大幅に減少した（12 月前月比▲1.2%→1 月同▲4.3%）。減少は 4 か月連続。内訳をみると、商業用施設、オフィスなど幅広い項目で減少を続けたほか、エネルギー関連施設も減少に転じた。
- 非国防資本財受注（除く航空機、1 月）は、2 か月連続で大幅に減少した（12 月前月比▲5.9%→1 月同▲5.7%）。内訳をみると、幅広い品目で減少し

¹ 社会保障給付額は、制度上、7～9 月の CPI 前年比上昇率に応じて、翌年 1 月に調整される。

ている。

- 製造業の生産は減少している。非製造業の生産活動も減退している。

—— 鉱工業生産（1月）は、3か月連続で減少した（12月前月比▲2.4%→1月同▲1.8%）。内訳をみると、幅広い項目で減少しているが、特に自動車の落ち込み幅が大きく、クライスラーの操業停止（12月19日～1月19日）などメーカーによる減産が大きく影響した²。

—— ISM指数（2月）は、製造業が若干上昇する一方、非製造業が若干低下した。いずれも、引き続き、改善・悪化の分岐点である50を大きく下回って推移している（製造業：1月35.6→2月35.8、非製造業：同42.9→41.6）。製造業の内訳項目をみると「生産」がこのところ大きく上昇している（12月26.3→1月32.1→2月36.3）。「新規受注」がほぼ前月並みとなる一方で、「在庫」は引き続き低下しており、在庫調整の進捗が窺われる（新規受注：同23.1→33.2→33.1、在庫：同39.6→37.5→37.0）。

- 労働市場では、雇用者数が大幅な減少を続けているほか、失業率も上昇している。

—— 非農業部門の雇用者数（2月）は大幅な減少を続けている（1月前月差▲65.5万人→2月同▲65.1万人）³。業種別にみると、製造業が1月対比でみれば減少幅を縮小した一方、非製造業が、専門ビジネス（人材派遣を含む）を中心に減少幅を大きく拡大した。

—— 失業率（2月）は大幅に上昇し（1月7.6%→2月8.1%）、1983年12月（8.3%）以来の高水準となった⁴。新規失業保険申請件数（2月28日週末）も増加傾向を辿っている。時間当たり賃金（2月）の伸びは2か月連続で低下した（1月前年比+3.8%→2月同+3.6%）。

- 既往のエネルギー価格の下落や食料品価格の上昇一服から、総合ベース消費者物価の前年比上昇率は低下している。コアベースの前年比上昇率は、+1%台後半で推移している。期待インフレ率は横這い圏内で推移している。

—— 消費者物価（1月）は、ガソリン価格の上昇を主因として、上昇した（前月

² クライスラーの工場は1月20日から順次操業を再開した。

³ 12月、1月とも大幅に下方改訂された（12月：前月差▲57.7万人→同▲68.1万人、1月：同▲59.8万人→同▲65.5万人）。

⁴ 労働参加率は若干上昇した（1月65.5%→2月65.6%）。

比+0.3%)。前年比上昇率は、前月から若干低下した(12月+0.1%→1月+0.0%)。コアベース(同)も、アパレルが前月下落した後若干上昇したことや、帰属家賃が上昇幅を拡大したことなどから、前月比上昇した(12月前月比+0.0%→1月同+0.2%)。前年比上昇率は引き続き低下した(12月+1.8%→1月+1.7%)。

— ガソリン小売価格(レギュラー、1ガロン当たり、米国エネルギー省調査)は1月入り後反転上昇した後、足許は横這いとなっている(3月9日週1.9ドル)。

— 期待インフレ率については、ミシガン大学による家計向けサーベイ(2月)をみると、1年先の前年比は+2%前後で推移している(1月+2.2%→2月+1.9%)。5~10年先の前年比は+3%前後で推移している(同+2.9%→+3.1%)。フィラデルフィア連銀によるエコノミスト向けサーベイ(2月時点)によると1年先、1~10年先ともに若干低下した(1年先:11月時点+1.8%→2月時点+1.6%、1~10年先:同+2.5%→+2.4%)。

2-2. 米国の金融市場(図表5)

○ 金融システムを巡る動きは、以下の通り。

— シティ・グループは、2月27日、普通株を発行して米国政府及び一般株主が保有する既存の優先株と交換し、財務体質の強化を図ることを発表した。仮に計画の上限額の交換が実行された場合、米国政府は普通株の36%程度を取得する計算。

— 財務省とFRBは、3月2日、AIGに対する支援策の修正を発表した。具体的には、AIGが300億ドルを上限に、政府に対し必要に応じて優先株を発行できることなどが盛り込まれた。

— FRBは、3月3日、TALF⁵の稼働を開始することと(3月分の申し込みは17日、決済は25日)、CMBSなど他の資産担保証券まで担保資産の対象範囲を拡大することを検討中であると発表した。

— この間、本年入り後における銀行の経営破綻は17行となった(前回時点9

⁵ TALFとはABS担保貸付ファシリティ(ターム・アセットバックト・セキュリティーズ・ローン・ファシリティ)の略称であり、FRB、財務省が11月25日に創設を発表した。発表時には、ニューヨーク連銀が、学生ローン、自動車ローン、クレジットカード及び中小企業向けローン(中小企業庁の保証付き)を裏付けとするABSの保有者に対し貸付を実施するものとされた。

行)。2008 年中の経営破綻が計 25 行であったことと比較すると、破綻行数の増加ペースは速い。

- 株価は、景気悪化を示す経済指標や、企業の業績への懸念や減配、シティ・グループや AIG、バンク・オブ・アメリカなど大手金融機関の経営への不安の高まり、などを受け大幅に下落した。長期金利は、株安が低下圧力となったが、国債増発が引き続き懸念されたことから小幅上昇した。

—— 議会で審議されていた財政面からの景気刺激策に係る法案は、最終的に総額 7,872 億ドルで上下両院が合意に達し、2 月 17 日、オバマ大統領が署名した。

- TED スプレッド (ユーロドル 3 か月物-TB3 か月物) は、リーマン・ブラザーズ破綻前の水準で推移している。CP スプレッドも、低格付け物がリーマン・ブラザーズ破綻前後の水準で推移している。社債の対国債スプレッド (除く金融) は、低格付け物を中心に、幾分拡大した。

- 資金調達動向をみると、銀行貸出 (2 月) は、商工業向け、不動産向けで伸びが鈍化した。個人向けの伸びは若干ではあるが 2 か月連続で高まっている。社債発行額 (2 月、政府保証債を除くベース) は、2008 年 5 月以来の水準に復した 1 月から、更に若干増加した。IPO (2 月) は 3 件にとどまった。CP 発行残高 (3 月 4 日週まで) は引き続き減少している。金融機関が資金調達の一部を政府 (FDIC) 保証債に振り替えていることや、運転資金需要自体が減退していることなどが影響したものと思われる。

- TIPS スプレッド (国債利回り-物価インデックス債利回り) は、小幅縮小している。

3. 欧州の経済・金融動向

3-1. 欧州の実体経済 (図表 6)

(1) ユーロエリア経済

- ユーロエリア経済は、大幅な悪化を続けている。

—— ユーロエリアの実質 GDP (10~12 月、1 次推計値) は、前期比年率▲5.7%と、7~9 月の同▲1.0%から減少幅を大きく拡大した。減少は 3 期連続。内訳をみると、輸出が大幅に減少したほか、総固定資本形成も減少幅を大きく拡

大し、個人消費は減少に転じた。

—— ドイツの実質 GDP (10~12 月、1 次推計値) は、前期比年率▲8.2%と、7~9 月の同▲2.1%から減少幅を大きく拡大した。減少は 3 期連続。内訳をみると、輸出が減少幅を大きく拡大したほか、総固定資本形成も大幅な減少に転じ、個人消費は減少に転じた。

○ 輸出は減少を続けている。

—— ドイツの輸出 (1 月) は、減少を続けている (12 月前月比▲4.0%→1 月同▲4.4%)。 フランスの輸出 (1 月) も減少を続けている (同▲0.2%→▲6.7%)。

—— ドイツの海外受注 (ユーロ域外向け、1 月) は、大幅に減少した (12 月前月比▲7.5%→1 月同▲18.2%)。

—— ユーロエリアの製造業 PMI・輸出受注 (2 月) は若干低下した (1 月 31.4→2 月 30.8)。

—— ユーロエリアの域外輸出 (12 月) は 3 か月連続で減少した (11 月前月比▲6.8%→12 月同▲0.9%)。

○ 設備投資は減少している。住宅投資はスペインなどでの調整から、全体としても減少している。個人消費は、雇用・所得環境の悪化や景気の先行き不透明感などを受けて、減少している。

—— ドイツの国内投資財受注 (1 月) は、引き続き減少した (12 月前月比▲4.1%→1 月同▲3.0%)。均してみれば減少幅を縮小している (10~12 月前期比▲14.9%→1 月の 10~12 月対比▲8.2%)。

—— ユーロエリアの消費者コンフィデンス (2 月) は、1985 年 1 月の統計開始以来の最低水準を更新した (1 月▲31→2 月▲33)。 ユーロエリアの新車登録台数 (1 月) は、5 か月連続で減少した (前月比▲3.9%)。なお、ドイツの 2 月の新車販売は、1 月中旬以降実施された買い替え促進策により大幅増となっている (1 月前年比▲14.2%→2 月同+21.5%)⁶。 ドイツの小売売上数量 (1 月、自動車を除く) は若干減少した (12 月前月比+0.5%→1 月同▲0.6%)。

—— ユーロエリアの失業率 (1 月) は、5 か月連続で上昇する姿となった (12 月 8.1%→1 月 8.2%)。 フランスの失業率 (同) も上昇した (12 月 8.2%→1 月

⁶ 購入後 9 年以上経過した車を、環境対応車に買い換える場合、補助金 (日本円で 30 万円相当) が支給される。

8.3%)。ドイツの失業率(2月)は3か月連続で上昇した(1月7.8%→2月7.9%)。

○ 製造業の生産は減少しており、非製造業の生産活動も減退している。

—— ユーロエリアのPMI(2月)は製造業、非製造業ともに低下した(製造業:1月34.4→2月33.5、サービス業:同42.2→39.2)⁷。ドイツのIFO景況感指数(同)も前月8か月振りに改善した後、悪化した(12月82.7→1月83.0→2月82.6)。

—— フランスの鉱工業生産(1月)は減少を続けている(12月前月比▲1.5%→1月同▲3.1%)。

○ エネルギー価格の下落などから、消費者物価の前年比上昇率は低下している。

—— 消費者物価(2月速報)の前年比上昇率は、ほぼ横這いとなった(1月+1.1%→2月+1.2%)。コアベース(1月)の前年比上昇率は1%台後半まで低下した(12月+2.1%→1月+1.8%)。

(2) 英国経済

○ 英国経済は、大幅な悪化を続けている。住宅市場の大幅な調整が続き、個人消費も減少傾向にある中、生産活動は減退している。企業や家計の厳しい資金調達環境も続いている。

—— 実質GDP(10~12月、1次推計値)は、前期比年率▲6.0%となった(速報値は同▲5.9%)。今回判明した需要項目別内訳をみると、総固定資本形成が減少を続けたほか、輸出が減少に転じ、在庫投資、個人消費は減少幅を拡大した。

—— 住宅ローン承認件数(1月)は、前年比減少幅を若干縮小した(12月▲58.1%→1月▲55.7%)。件数は概ね横這いの動きとなっている。住宅価格(ネーションワイド指数、2月)は下落し、前年比マイナス幅も拡大した(前月比▲1.8%、前年比1月▲16.6%→2月▲17.6%)。

—— 消費者コンフィデンス(2月)は、大幅に低下した前月から小幅上昇した(12月▲32→1月▲39→2月▲36)。

—— 小売売上数量(1月)は、VAT税率引き下げ(17.5%→15%、2008年12月1日から2009年末までの時限措置)などから、3か月連続で増加した(11月

⁷ ここでのサービス業の調査対象には金融仲介業(金融機関)も含まれる。

前月比+0.3%→12月同+1.7%→1月同+0.7%)。このところ実質 GDP ベースの個人消費の動きと乖離しており、この結果は幅を持つてみる必要がある。

—— サービス業 PMI 事業活動指数 (2月) は、3か月連続で上昇した (1月 42.5 →2月 43.2)。

—— 消費者物価 (1月) の前年比上昇率はほぼ横這いとなった (12月+3.1%→1月+3.0%)

3-2. 欧州の金融市場 (図表7)

○ 金融政策面をみると、ECB は、3月5日の定例政策理事会で、政策金利を 50bps 引き下げ、1.5%とした。トリシェ総裁は記者会見において、ゼロ金利には副作用があることや現在の政策運営は既に非伝統的であることに言及しつつも、「現在の金利水準が下限であるとは決めていない」、「あり得る追加的な非伝統的手段を研究している」と述べた。BOE は3月5日、政策金利を 50bps 引き下げ、0.5% とするとともに、中長期国債等を3月から3か月に亘って 750 億ポンド購入することを決定した⁸。

—— ECB は同日、ユーロエリアの GDP 成長率について、2009 年が▲2.7%、2010 年が 0.0%とのスタッフ見通しを公表した。

○ 市場の政策金利観をみると、民間エコノミストの間では、ECB が第2四半期に 50bps の追加利下げを行うとの見方が大勢となっている。BOE については、今後 0.5%で据え置かれるとの見通しが大勢。

○ 金融システムを巡っては、英国において、2月26日、ロイヤル・バンク・オブ・スコットランドに対する追加的な公的資本注入と同行による資産保証制度 (アセット・プロテクション・スキーム (APS)) の利用が発表された⁹。また、3月7日には、ロイズに関し、政府の保有する優先株の普通株への転換と APS の利用が発表された。ロイズについては、政府の株式保有比率が 65%まで高まり実質国有化となる。

○ 株価は、米国に連れる動きとなる中、企業業績の悪化や大手自動車メーカー (ルノー、フィアット) の格下げもあり、大幅に下落した。長期金利 (国債 10 年

⁸ BOE の購入資金の総額は 1,500 億ポンド。今回の 750 億ポンドの国債等の購入によってベースマネーは約 80%増加する。

⁹ APS は 1月 19 日に発表。保証料の見返りに、住宅ローンなど特定の資産について初期損失を超える損失額の 90%を政府が負担する。

物利回り)は、国債の増発が懸念される一方、株安や BOE の国債買入開始の発表を受け、前回会合対比ではほぼ横這いとなった。

- 短期金融市場におけるターム物金利の対 OIS スプレッドは、概ね横這いで推移した。一方、社債の対国債スプレッド (除く金融)は、依然高水準で推移している。
- 資金調達動向をみると、銀行貸出 (1月)の前年比伸び率は低下した。企業向け、住宅取得向け、消費者信用のいずれも伸びが低下している。社債発行額 (2月、政府保証債除くベース)は、概ね 2008 年 6 月と同水準まで回復した 1 月からは減少したが、引き続きリーマン・ブラザーズ破綻前程度の発行がみられている。
- 物価インデックス債のスプレッド (対フランス国債)は、振れを伴いつつも、前回会合対比ではほぼ横這いとなった。

4. エマージング諸国・地域の経済・金融動向

4-1. アジア諸国・地域の实体经济 (図表 8)

(1) 中国経済

- 中国経済は、大幅に減速している。内需は高い伸びを続けているが、輸出は減少している。生産は、輸出の減少を受けた減産の動きなどから、減速している。
 - 工業生産 (1、2月)の前年比伸び率は均してみると低下した (12月+5.7%→1~2月累計+3.8%)。1~2月の10~12月対比 (国際局試算)では▲0.1%とほぼ横這いとなっている。
 - 小売売上 (1~2月)の前年比伸び率は低下した (12月+19.0%→1~2月累計+15.2%)。なお、自動車販売 (1~2月)の前年比は+2.7%と、12月の▲11.6%からプラス転化した。1月20日から始まった自動車 (1600cc以下)の車両取得税引き下げ (10→5%)も影響したとみられる。
 - 固定資産投資 (1~2月)の前年比伸び率は上昇した (12月+21.9%→1~2月累計+26.5%)。内訳をみると、第2次産業が伸びを拡大している。
 - 輸出 (2月)は、旧正月が含まれる1月 (前年の旧正月は2月)に前年比減少幅を大きく拡大した後、2月は更に大きな減少幅になった (12月▲2.9%→1月▲17.5%→2月▲25.7%)。輸入 (同)は、前年比減少幅を縮小した (1月▲43.1%→2月▲24.1%)。

- 消費者物価（2月）は、前年同月に雪害の影響から野菜価格などが上昇したことや、旧正月（今年は1月、昨年は2月）に伴う価格上昇要因が剥落したことなどから、前年比マイナスに転化した（1月+1.0%→2月▲1.6%）¹⁰。除く食料品でみても前年比マイナス幅が拡大している（同▲0.6%→▲1.2%）。
- 貸出（2月）の前年比伸び率は引き続き大幅に上昇した（1月+21.3%→2月+24.2%）。M2（同）の前年比伸び率も上昇した（同+18.8%→+20.5%）。新規貸出額については、1月（1.6兆元）に続き2月も1兆元を超えた（1.1兆元）。

（2）インド経済

- インド経済は、大幅に減速している。
 - 実質 GDP（10～12月）は大幅に減速した（7～9月前年比+7.6%→10～12月同+5.3%）。前期比年率（国際局試算、市場価格表示ベース）では+0.3%であった。前年比の内訳をみると、総固定資本形成が大幅に減速した。
 - 輸入（1月）は、前年同月に大幅に増加した影響もあって、大幅な前年比マイナスに転化した（12月+8.8%→1月▲18.2%）。
 - M3（1月）、貸出（12月）は引き続き高い伸びを続けた（M3：12月前年比+19.6%→1月同+19.8%、貸出：11月同+26.0%→12月同+23.1%）。

（3）NIEs・ASEAN 経済

- NIEs・ASEAN 経済は大幅に悪化している。特に、NIEs 経済の悪化が目立っている。
 - 台湾の実質 GDP（10～12月）は、減少幅を大きく拡大した（7～9月前期比年率▲9.8%→10～12月同▲23.8%）。輸出が減少幅を大きく拡大する中、総固定資本形成も減少幅を拡大するとともに、在庫投資が減少に転じた。この間、個人消費は2期連続で減少した後、若干増加した。
 - 香港の実質 GDP（10～12月）は、減少幅を拡大した（7～9月前期比年率▲2.8%→10～12月同▲7.8%）。輸出が減少幅を大きく拡大する中、総固定資本形成、個人消費も減少幅を拡大するとともに、在庫投資が減少に転じた。
 - タイの実質 GDP（10～12月）は、大幅な減少に転じた（7～9月前期比年率

¹⁰ 旧正月には食料品のほか、旅行などのサービス価格が上昇する傾向がある。旧正月が今年は1月である一方、昨年は2月であったことから、消費者物価は、前年比でみた場合、今年の1月は実態より高めに、2月は低めになる。

+1.7%→10~12 月同▲22.2%)。輸出が減少幅を大きく拡大する中、総固定資本形成、在庫投資が減少に転じた。個人消費も横這い圏内の動きとなった。

— インドネシアの実質 GDP (10~12 月) は、大幅に減速した (7~9 月前期比年率+6.3%→10~12 月同+0.2%)。輸出、在庫投資が減少幅を拡大する中、総固定資本形成、個人消費が減速した。

— マレーシアの実質 GDP (10~12 月) は、大幅な減少に転じた (7~9 月前期比年率+1.6%→10~12 月同▲10.0%)。輸出が減少幅を大きく拡大する中、総固定資本形成、個人消費も減少に転じた。

○ 輸出、投資は、大幅に減少している。個人消費も減少している。

— NIEs・ASEAN の輸出合成指数¹¹ (1 月) は、引き続き大幅に減少している (10~12 月前期比▲22.7%→1 月の 10~12 月対比▲16.9%)。但し、減少幅は縮小した。各国統計をみると、韓国の輸出 (2 月) は 7 か月振りに増加した (1 月前月比▲13.7%→2 月同+18.1%)。台湾の輸出 (2 月) は増加に転じた前月から横這いとなった (同+7.3%→▲0.0%)。インドネシアの輸出 (1 月) も減少幅を縮小した (12 月前月比▲15.0%→1 月同▲11.8%)。タイの輸出 (同) については、12 月に反タクシン派による空港閉鎖 (11 月 25 日~12 月 2 日) の反動増がみられた後、減少に転じた (12 月前月比+1.3%→1 月同▲7.1%)。シンガポールの新規輸出受注 D.I. (2 月) は、全体、IT 関連ともに上昇したが、改善・悪化の分岐点である 50 を引き続き下回っている (全体: 1 月 41.6→2 月 43.4、IT 関連: 同 39.1→41.5)。

— 韓国の小売数量指数 (1 月) は、6 か月連続で低下した (12 月前月比▲0.2%→1 月同▲1.9%)。同国の消費者信頼感指数 (2 月) は、2 か月連続で若干改善した (1 月 84.0→2 月 85.0)。政府・中銀による経済対策を受けたものとみられている¹²。また、同国の機械投資推計指数 (1 月) は大幅に低下した (12 月前月比▲7.4%→1 月同▲4.7%)。

— 台湾の小売指数 (1 月) は、消費券の配布開始 (1 月 18 日) もあり、前年比マイナス幅を縮小した (12 月▲11.3%→1 月▲1.9%)。同国の消費者コンフィデンス (2 月) は 10 か月連続で低下した (1 月 49.0→2 月 48.4)。

— タイの民間消費指数 (1 月) は、反タクシン派によるデモ終了から 12 月に上昇した後、低下した (12 月前月比+1.1%→1 月同▲2.4%)。同国の民間投

¹¹ 輸出合成指数は、NIEs・ASEAN8 か国・地域 (韓国、台湾、シンガポール、香港、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン) の輸出金額を合算したもの (国際局試算、対外非公表)。

¹² 具体的には、銀行資本拡充ファンドの設立、米ドル貸出オペ実施など。

資指数（同）は、前年比マイナス幅を拡大した（12月▲3.6%→1月▲7.9%）。

○ 内外需の動きを反映して、生産は大幅に減少している。

—— NIEs・ASEANの生産合成指数¹³（10～12月）は、マイナス幅を大きく拡大した（7～9月前期比▲2.3%→10～12月同▲12.3%）。韓国の生産（1月）は増加に転じた（前月比+1.3%）。台湾、タイの生産（同）も減少を続けているが、その幅は縮小した（台湾：12月前月比▲7.9%→1月同▲2.8%、タイ：同▲11.4%→▲0.7%）。韓国の企業景気実査指数（2月）は3か月連続で改善した（12月52.2→1月61.7→2月67.2）。消費者コンフィデンス同様、政府・中銀による経済対策が好感されているとみられる。

○ エネルギー価格の下落や食料品価格の上昇一服を受け、多くの国・地域で消費者物価の前年比上昇率は低下傾向を辿っている。

—— 韓国の消費者物価（2月）の前年比上昇率は、総合ベースで拡大したほか、コアベースも横這いとなった（総合：1月+3.7%→2月+4.1%、コア：同+5.2%→+5.2%）。通貨（ウォン）安に伴い、輸入物価が高止まっており、その影響が出ているとみられる。

—— 台湾の消費者物価（2月）の前年比上昇率は、旧正月（今年は1月、去年は2月）に伴う家政婦へのお祝い金支払い要因の剥落から、総合ベースでマイナス転化、コアベースも前月から低下した（総合：1月+1.5%→2月▲1.3%、コア：同+2.5%→+0.4%）¹⁴。

—— タイの消費者物価（2月）をみると、代替燃料・軽油に係る時限的物産税減税（昨年7月実施）が終了したことから、総合ベースの前年比マイナス幅が縮小した（1月▲0.4%→2月▲0.1%）。コアベースの前年比上昇率も、公共運賃や医療サービスなどを中心に拡大した（同+1.6%→+1.8%）。

—— インドネシアの消費者物価（総合ベース）（2月）の前年比上昇率は、燃料価格（非規制分〈ハイオクなど〉）が引き下げられたことなどから、低下した（1月+9.2%→2月+8.6%）。

4-2. エマージング諸国・地域の金融市場（図表9）

○ 株価は、米欧に連れる動きの中で、各国の景気悪化もあって下落し、対米国債

¹³ 生産合成指数は、NIEs・ASEAN6 各国・地域（香港、インドネシアについては利用可能な統計がない）の生産指数を各国 GDP ウェイトで加重平均したもの（国際局試算、対外非公表）。

¹⁴ このため、前述の中国同様、前年比で見ると、1月は実態より高め、2月は低めになる。

スプレッドも拡大した。この間、通貨についても、多くの先で下落した。

○ この間におけるエマージング金融市場の動向のうち、個別国で目立ったものは以下の通り。

—— 中国の株価は、第 11 期全国人民代表大会第 2 回会議（全人代、3 月 5 日～13 日）で追加的な景気刺激策が打ち出されないことに対する失望もあって下落した。

—— インドでは、スタンダード・アンド・プアーズが 2 月 24 日、財政悪化を理由に、外貨建て長期債務の格付け（BBB-）見通しを「ステイブル」から「ネガティブ」に引き下げたこともあり、通貨、株価ともに下落した。

—— インドネシアでは、日本政府による外貨繰り支援（サムライ債発行支援、通貨スワップ上限拡大〈60 億ドル→120 億ドル〉、2 月 1 日）や、インドネシア政府によるドル建て債の発行（30 億ドル、2 月 26 日）を受け、外貨繰りが安定するとの期待から、通貨が上昇した。一方、株価は下落している。

—— トルコでは、景気悪化に加え、IMF との融資交渉に関する先行き不透明感から、通貨、株価ともに下落した。

—— ポーランドでは、世界銀行・欧州復興開発銀行・欧州投資銀行が 2 月 27 日、中東欧諸国向けに約 245 億ユーロの共同融資プログラムを創設することを決定したことから、通貨、株価ともに上昇した。

○ また、金融政策面をみると、多くの国で追加利下げが行われた。

—— 台湾中銀は、2 月 18 日、緊急会合で 25bps の利下げを行った（1.5%→1.25%）。利下げは 6 か月連続。

—— トルコ中銀は、2 月 19 日、150bps の利下げを行った（13.0%→11.5%、事前予想は 50bps の利下げが大勢）。利下げは 4 か月連続。

—— メキシコ中銀は、2 月 20 日、25bps の利下げを行った（7.75%→7.5%、事前予想は 50bps 以上の利下げが大勢）。利下げは 2 か月連続。

—— マレーシア中銀は、2 月 24 日、50bps の利下げを行った（2.5%→2%、事前予想は据え置きと 50bps の利下げがほぼ拮抗）。利下げは 2 か月連続。預金準備率も 2%から 1%に引き下げ（3 月 1 日以降適用）。

—— タイ中銀は、2 月 25 日、50bps の利下げを行った（2%→1.5%、事前予想通り）。利下げは 3 か月連続。

—— ポーランド中銀は、2 月 25 日、25bps の利下げを行った（4.25%→4%、事

前予想は 50bps の利下げと 25bps の利下げがほぼ拮抗)。利下げは 3 か月連続。

- インドネシア中銀は、3 月 4 日、50bps の利下げを行った (8.25%→7.75%、事前予想は 25bps の利下げが優勢)。利下げは 4 か月連続。
- インド準銀は、3 月 4 日、緊急会合で 50bps の利下げを行った (利下げ後のレポレート、リバースレポレートはそれぞれ 5%、3.5%)。前回の利下げは 1 月。
- フィリピン中銀は、3 月 5 日、25bps の利下げを行った (5%→4.75%、事前予想は 50bps の利下げが大勢)。利下げは 3 会合連続 (12、1、3 月)。
- ブラジル中銀は、3 月 11 日、150bps の利下げを行った (12.75%→11.25%、事前予想も 150bps の利下げが大勢)。利下げは 2 会合連続 (1、3 月)。
- ニュージーランド準銀は、3 月 12 日、50bps の利下げを行った (3.5%→3%、事前予想も 50bps の利下げが大勢)。利下げは昨年 7 月より 6 会合連続。

以 上

2009. 3. 12
国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」図表一覧

(図表 1)	米国の主要経済指標	1
(図表 2)	欧州の主要経済指標	2～ 3
(図表 3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4～ 6
(図表 4)	米国の実体経済	7～13
(図表 5)	米国の金融市場	14～20
(図表 6)	欧州の実体経済	21～26
(図表 7)	欧州の金融市場	27～30
(図表 8)	アジア諸国・地域の実体経済	31～38
(図表 9)	エマージング諸国・地域の金融市場	39～45
(図表 10)	国際機関及び民間の海外経済・物価見通し	46

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	2.0	1.1	▲ 0.5	▲ 6.2				
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	2.8	1.3	▲ 2.2	0.8	2.0	0.4	1.5	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	2.8	0.2	▲ 1.0	▲ 1.1	0.1	▲ 0.5	0.4	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	0.6	1.8	1.3	3.2	5.0	3.9	5.0	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	5.0	2.6	▲ 0.1	▲ 2.4	0.0	▲ 1.7	1.2	
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,646	1,349	1,317	1,057	952	1,053	975	929
7. 消費者コンフィデンス指数	103.3	57.9	57.3	40.7	31.2	38.6	37.4	25.0
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	1,355	906	876	661	466	560	466	
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞ (前年比、％)	▲ 4.4	▲ 16.7	▲ 3.8	▲ 5.5		▲ 1.8		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞ (前年比、％)	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 1.3	▲ 10.7	▲ 9.2	▲ 5.9	▲ 5.7	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 583.5	▲ 564.2	▲ 593.6	▲ 462.4		▲ 399.3		
12. ISM 製造業指数	51.1	45.5	47.4	36.1	35.7	32.9	35.6	35.8
非製造業指数	53.5	47.4	50.0	40.7	42.3	40.1	42.9	41.6
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞ (前年比、％)	1.7	▲ 1.8	▲ 2.3	▲ 3.2	▲ 3.8	▲ 2.4	▲ 1.8	
14. 失業率 (除く軍人、％)	4.6	5.8	6.0	6.9	7.8	7.2	7.6	8.1
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月)	96	▲ 257	▲ 208	▲ 553	▲ 653	▲ 681	▲ 655	▲ 651
うち民間部門	72	▲ 270	▲ 212	▲ 552	▲ 673	▲ 670	▲ 686	▲ 660
16. CPI ＜前期比、％＞ (前年比、％)	2.9	3.8	1.5	▲ 2.2	▲ 0.8	▲ 0.8	0.3	
コア＜前期比、％＞ (前年比、％)	2.3	2.3	0.7	0.2	0.2	0.0	0.2	
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)	1.4	2.8	2.2	▲ 0.4	2.2			
18. ユニット・レーバー・コスト ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)	2.7	0.9	3.5	5.7				

※ 直近四半期の計数については、公表済みまでの平均を用いて算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

※

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/11月	12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	2.6	0.7	▲1.0	▲5.7					
独 実質GDP <前期比年率、%>	2.6	1.0	▲2.1	▲8.2					
仏 実質GDP <前期比年率、%>	2.1	0.7	0.4	▲4.6					
2. 輸出 <前期比、%>			0.2	▲7.4		▲6.8	▲0.9		
(前年比、%)	8.6	3.9	5.3	▲4.4		▲11.3	▲2.1		
3. 独 海外受注(域外) <前期比、%>			▲7.3	▲15.2	▲23.6	▲4.6	▲7.5	▲18.2	
(前年比、%)	10.2	▲5.6	▲6.4	▲23.0	▲40.8	▲22.6	▲27.7	▲40.8	
4. 独 国内投資財受注 <前期比、%>			▲4.3	▲14.9	▲8.2	▲7.6	▲4.1	▲3.0	
(前年比、%)	8.6	▲6.9	▲4.9	▲22.7	▲28.0	▲23.3	▲27.8	▲28.0	
5. 輸入 <前期比、%>			3.4	▲9.8		▲4.8	▲3.9		
(前年比、%)	6.4	7.2	12.1	▲2.2		▲5.5	▲4.8		
6. 小売売上数量 <前期比、%>			0.0	▲0.9		▲0.1	▲0.0		
(前年比、%)	0.9	▲1.3	▲1.4	▲2.0		▲2.6	▲1.6		
7. 新車登録台数 (年率、万台)	1,164	1,070	1,071	981	930	970	968	930	
<前期比、%>	▲0.9	▲8.0	▲1.8	▲8.4	▲5.2	▲3.6	▲0.2	▲3.9	
8. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲5	▲18	▲19	▲26	▲32	▲25	▲30	▲31	▲33
9. 鉱工業生産(除く建設) <前期比、%>			▲2.0	▲5.1		▲2.2	▲2.6		
(前年比、%)	3.4	▲1.6	▲1.4	▲8.6		▲8.4	▲12.0		
10. 製造業PMI(購買担当者指数)(DI、%)	54.3	46.5	46.6	36.8	34.0	35.6	33.9	34.4	33.5
サービス業PMI事業活動指数 (DI、%)	56.6	48.5	48.4	43.4	40.7	42.5	42.1	42.2	39.2
11. 失業率 (%)	7.5	7.5	7.5	7.9	8.2	7.9	8.1	8.2	
12. 消費者物価 (前年比、%)	2.1	3.3	3.8	2.3	1.2	2.1	1.6	1.1	1.2
コア (前年比、%)	2.0	2.4	2.5	2.2	1.8	2.2	2.1	1.8	

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。

他の統計は09年入り後の計数が公表されているものについては、スロバキア加盟後の16か国ベース、その他は15か国ベース。

・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

・前期(月)比は季調済みベース。

・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。

・消費者物価の直近2月は、速報値。また全体以外は未公表。

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したものの。

※

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/11月	12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	3.0	0.7	▲2.8	▲6.0					
2. 小売売上数量 <前期比、%> (前年比、%)	4.3	3.5	0.0	0.8	1.9	0.3	1.7	0.7	
3. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲7	▲29	▲35	▲34	▲37	▲35	▲32	▲39	▲36
4. サービス業PMI事業活動指数 (DI、%)	56.3	47.6	47.5	40.9	42.9	40.1	40.2	42.5	43.2
5. 失業率(失業保険ベース) (%)	2.7	2.8	2.8	3.3	3.8	3.3	3.6	3.8	
6. CPI (前年比、%)	2.3	3.6	4.8	3.9	3.0	4.1	3.1	3.0	
7. 住宅価格(Nationwide指数) (前年比、%)	9.2	▲6.7	▲10.3	▲14.8	▲17.1	▲13.9	▲15.9	▲16.6	▲17.6

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

1. 中国

(前年比、%)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <内は季調済前期比年率	13.0	9.0	9.0 < 6.5 >	6.8 < ▲ 2.3 >				
2. 工業生産	18.5	12.9	13.0	6.4	3.8	5.7	▲ 3.4	11.0
3. 消費財小売売上総額	16.8	21.6	23.2	20.6	15.2	19.0	N/A	N/A
4. 固定資産投資								
年初来累計	25.8	26.1	27.6	26.1	26.5	26.1	N/A	26.5
当期			28.7	23.3	26.5	21.9	N/A	N/A
5. 輸出 <>内は前期比	25.8	17.2	23.0 < 3.0 >	4.3 < ▲ 7.6 >	▲ 21.1 < ▲ 18.8 >	▲ 2.9 < ▲ 3.7 >	▲ 17.5 < ▲ 8.2 >	▲ 25.7 < ▲ 14.0 >
6. 輸入 <>内は前期比	20.8	18.5	25.8 < 2.3 >	▲ 9.0 < ▲ 19.4 >	▲ 34.2 < ▲ 22.1 >	▲ 21.3 < ▲ 3.3 >	▲ 43.1 < ▲ 14.9 >	▲ 24.1 < 11.8 >
7. CPI	4.8	5.9	5.3	2.5	▲ 0.3	1.2	1.0	▲ 1.6
8. M2	16.7	17.8	15.3	17.8	20.5	17.8	18.8	20.5
9. 人民元貸出	16.1	18.8	14.5	18.8	24.2	18.8	21.3	24.2

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDP、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) 固定資産投資は、都市部。「当期」の値は、中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

(注4) 工業生産の1月の値は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。

(注5) 消費財小売売上総額の1,2月の単月の値は未公表(1-2月累計値のみ公表)。

2. インド

(前年比、%)

	2007年	2008年	2008/2Q	3Q	4Q	2008/11月	12月	2009/1月
1. 実質GDP	9.2	7.4	7.9	7.6	5.3			
個人消費	7.7	7.2	7.7	6.9	5.4			
総固定資本形成	14.3	9.9	10.1	15.1	5.3			
2. 鉱工業生産	9.9	4.2	5.3	4.7	▲ 0.2	1.7	▲ 2.0	
3. 輸入	25.4	34.5	36.7	49.1	8.5	6.1	8.8	▲ 18.2
4. 卸売物価	4.8	9.1	9.6	12.5	8.6	8.5	6.2	5.2
5. M3	22.8	19.6	20.8	18.9	19.6	19.2	19.6	19.8
6. 貸出	21.4	23.1	25.9	25.2	23.1	26.0	23.1	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC

(図表3-2)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2006年	2007年	2008年	2007/4Q	2008/1Q	2Q	3Q	4Q
韓国	5.1	5.0	2.5	6.4 (5.7)	3.3 (5.8)	3.4 (4.8)	2.1 (3.8)	▲20.8 (▲3.4)
台湾	4.8	5.7	0.1	3.3 (6.4)	1.1 (6.2)	1.6 (4.6)	▲9.8 (▲1.0)	▲23.8 (▲8.4)
香港	7.0	6.4	2.5	8.7 (6.9)	4.5 (7.3)	▲3.6 (4.3)	▲2.8 (1.7)	▲7.8 (▲2.5)
シンガポール	8.4	7.8	1.1	▲1.6 (5.5)	12.2 (6.7)	▲7.7 (2.5)	▲2.1 (0.0)	▲16.4 (▲4.2)
タイ	5.2	4.9	2.6	8.3 (5.7)	3.6 (6.0)	2.5 (5.3)	1.7 (3.9)	▲22.2 (▲4.3)
インドネシア	5.5	6.3	6.1	4.6 (5.8)	6.8 (6.2)	7.7 (6.4)	6.3 (6.4)	0.2 (5.2)
マレーシア	5.8	6.3	4.6	7.6 (7.3)	6.4 (7.4)	3.3 (6.7)	1.6 (4.7)	▲10.0 (0.1)
フィリピン	5.4	7.2	4.6	5.1 (6.4)	1.3 (4.7)	7.9 (4.4)	4.8 (5.0)	4.1 (4.5)

(注1) 季節調整値は、韓国、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
輸出合成指数	11.5	11.5	▲0.3	▲22.7	▲16.9			
うちIT関連寄与度			▲2.3	▲6.5	▲2.9			
韓国 <29.5>	14.1	13.6	3.6 (27.0)	▲21.7 (▲9.9)	▲15.1 (▲25.6)	▲1.3 (▲17.9)	▲13.7 (▲33.8)	18.1 (▲17.1)
台湾 <17.9>	10.1	3.6	▲3.0 (8.0)	▲26.1 (▲24.7)	▲14.0 (▲37.2)	▲15.8 (▲41.9)	7.3 (▲44.1)	▲0.0 (▲28.6)
タイ <12.5>	17.2	16.9	1.7 (28.4)	▲20.1 (▲8.5)	▲12.5 (▲26.5)	1.3 (▲12.5)	▲7.1 (▲26.5)	
インドネシア <9.6>	13.2	19.9	▲1.3 (27.9)	▲17.7 (▲6.2)	▲22.0 (▲36.1)	▲15.0 (▲20.6)	▲11.8 (▲36.1)	

(参考)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
シンガポール 新規輸出受注D.I.*	53.7	47.6	48.8	42.7	42.5	42.3	41.6	43.4
うちIT関連*	56.3	51.0	54.2	44.7	40.3	40.8	39.1	41.5

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は1月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
生産合成指数		6.1	1.6	▲ 2.3	▲ 12.3				
うちIT関連寄与度				0.1	▲ 5.5				
韓国	鉱工業生産指数	6.9	3.0	▲ 2.0 (5.6)	▲ 11.9 (▲ 11.3)	▲ 8.8 (▲ 25.6)	▲ 9.6 (▲ 18.7)	1.3 (▲ 25.6)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	99.8	82.1	84.1	56.0	64.5	52.2	61.7	67.2
台湾	鉱工業生産指数	7.8	▲ 1.8	▲ 4.1 (0.5)	▲ 20.4 (▲ 24.2)	▲ 12.4 (▲ 43.1)	▲ 7.9 (▲ 32.0)	▲ 2.8 (▲ 43.1)	
タイ	製造業生産指数	8.2	5.3	1.1 (7.6)	▲ 10.5 (▲ 8.0)	▲ 11.5 (▲ 21.3)	▲ 11.4 (▲ 18.5)	▲ 0.7 (▲ 21.3)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~12月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
韓国	小売数量指数	5.2	0.9	▲ 0.1 (1.4)	▲ 3.5 (▲ 4.6)	▲ 2.2 (▲ 3.1)	▲ 0.2 (▲ 4.7)	▲ 1.9 (▲ 3.1)	
	消費者信頼感指数 [†]	107.3	91.8	92.0	84.3	84.5	81.0	84.0	85.0
	機械投資推計指数	9.2	▲ 3.2	1.1 (5.3)	▲ 13.5 (▲ 16.2)	▲ 10.1 (▲ 25.3)	▲ 7.4 (▲ 23.0)	▲ 4.7 (▲ 25.3)	
台湾	小売指数	1.6	▲ 4.8	(▲ 8.4)	(▲ 8.8)	(▲ 1.9)	(▲ 11.3)	(▲ 1.9)	
	消費者コンフィデンス [†]	66.2	58.7	55.4	50.5	48.7	49.1	49.0	48.4
タイ	民間消費指数(PCI)	1.5	3.5	2.3 (5.1)	▲ 2.8 (0.6)	▲ 2.9 (▲ 4.5)	1.1 (0.8)	▲ 2.4 (▲ 4.5)	
	民間投資指数(PII)	▲ 0.5	3.5	(3.6)	(▲ 0.4)	(▲ 7.9)	(▲ 3.6)	(▲ 7.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注3) タイの民間投資指数(PII)は、後方3ヶ月移動平均。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
韓国	()内はコア	2.5 (2.3)	4.7 (4.3)	5.5 (4.8)	4.5 (5.4)	3.9 (5.2)	4.1 (5.6)	3.7 (5.2)	4.1 (5.2)
台湾	()内はコア	1.8 (1.4)	3.5 (3.1)	4.5 (3.7)	1.9 (2.5)	0.1 (1.5)	1.3 (2.1)	1.5 (2.5)	▲ 1.3 (0.4)
タイ	()内はコア	2.2 (1.0)	5.5 (2.3)	7.2 (3.0)	2.2 (2.0)	▲ 0.2 (1.7)	0.4 (1.8)	▲ 0.4 (1.6)	▲ 0.1 (1.8)
インドネシア		6.4	9.8	12.0	11.5	8.9	11.1	9.2	8.6

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。

(注3) タイは、2009年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。

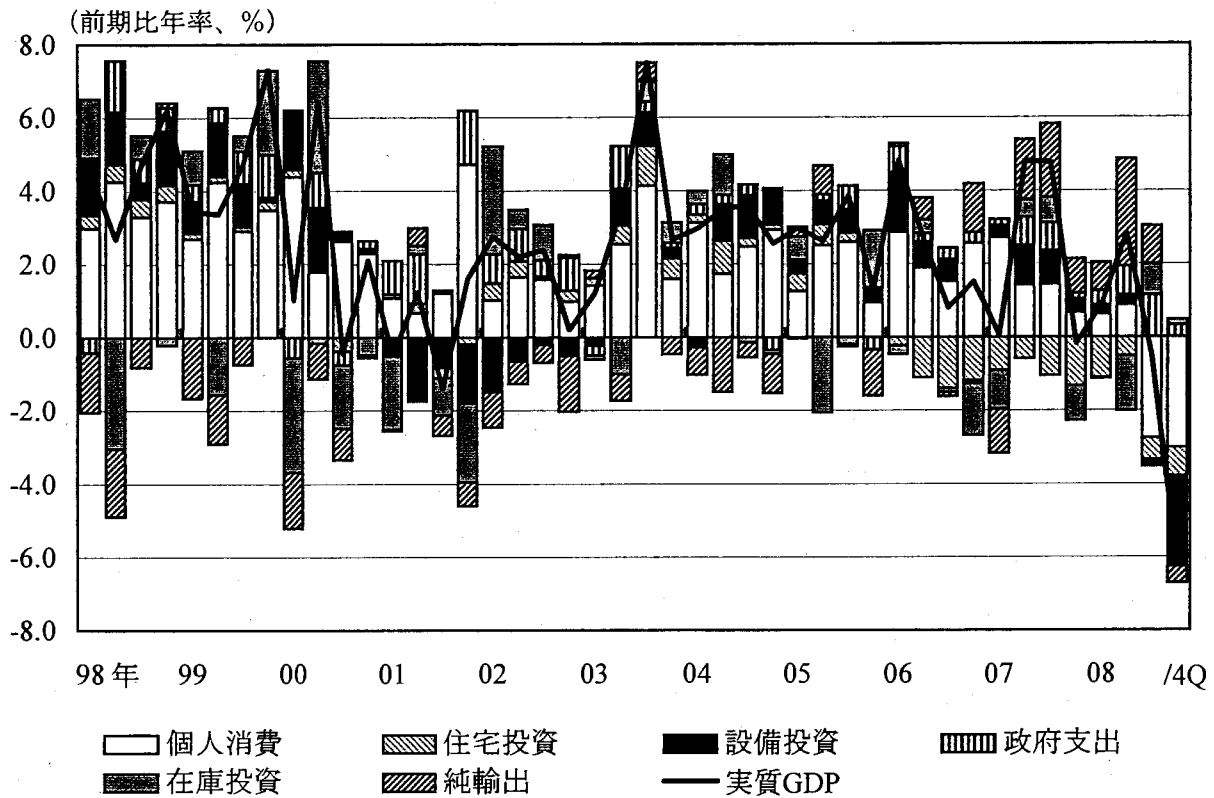
(注4) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。

(出所) CEIC

米国の実体経済

① 米国の実質GDP

(1) 実質GDPの需要項目別寄与度



(2) 需要項目別計数

実質・年率、% ()内は前期比増減、10億ドル

	2008年 ウェイト	寄与度分解					前期比年率				
		2008年 通年	2008年				2008年 通年	2008年			
			2Q	3Q	4Q	(改訂前)		2Q	3Q	4Q	(改訂前)
実質GDP	100	1.1	2.8	▲0.5	▲6.2	▲3.8	1.1	2.8	▲0.5	▲6.2	▲3.8
個人消費	71	0.2	0.9	▲2.8	▲3.0	▲2.5	0.2	1.2	▲3.8	▲4.3	▲3.5
住宅投資	3	▲0.9	▲0.5	▲0.6	▲0.8	▲0.9	▲20.7	▲13.3	▲16.0	▲22.2	▲23.6
設備投資	12	0.2	0.3	▲0.2	▲2.5	▲2.3	1.7	2.5	▲1.7	▲21.1	▲19.1
在庫投資	▲0	▲0.2	▲1.5	0.8	0.2	1.3	(▲25.1)	(▲40.4)	(21.0)	(9.7)	(35.8)
純輸出	▲3	1.4	2.9	1.1	▲0.5	0.1	(154.2)	(80.7)	(28.2)	(▲19.8)	(▲3.3)
<輸出>	13	0.8	1.5	0.4	▲3.4	▲2.8	6.2	12.3	3.0	▲23.6	▲19.7
<輸入>	16	0.6	1.4	0.7	3.0	2.9	▲3.3	▲7.3	▲3.5	▲16.0	▲15.7
政府支出	18	0.6	0.8	1.1	0.3	0.4	2.9	3.9	5.8	1.6	1.9
最終需要	100	1.4	4.4	▲1.3	▲6.4	▲5.1	1.4	4.4	▲1.3	▲6.4	▲5.1

年率、%

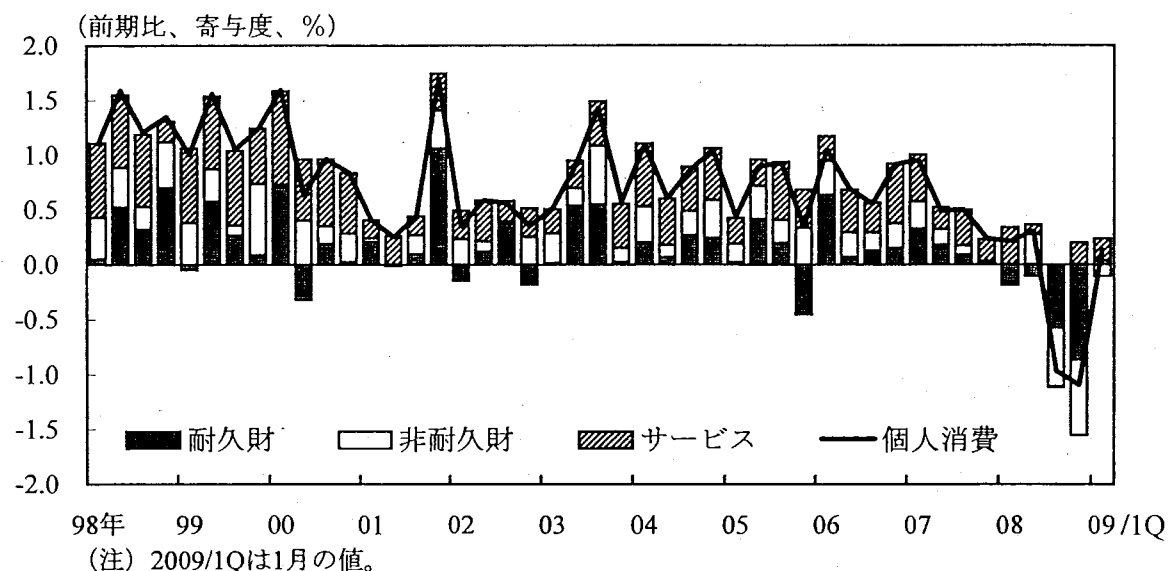
個人消費デフレーター(総合)	3.3	4.3	5.0	▲5.0	▲5.5
個人消費デフレーター(コア)	2.2	2.2	2.4	0.8	0.6

(注) 最終需要は、実質GDPから在庫投資を除いたもの。

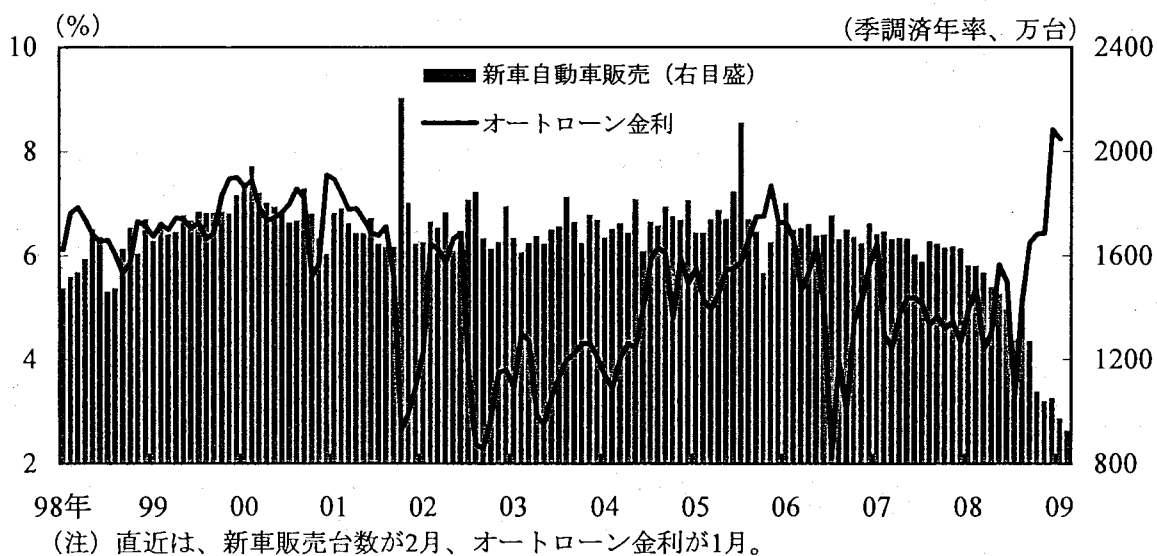
② 米国の個人消費関連

(図表4-2)

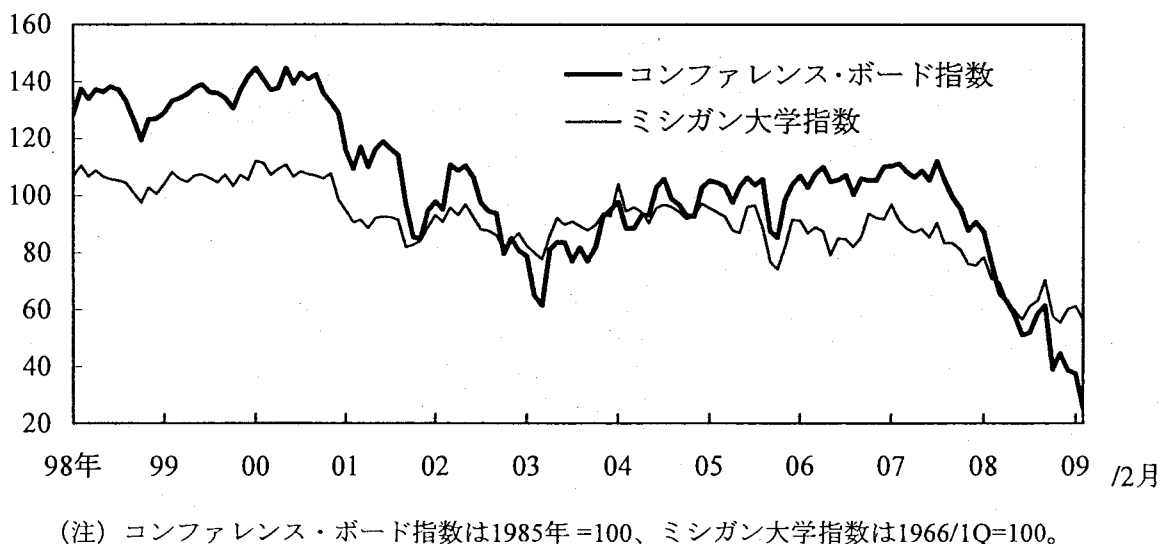
(1) 個人消費



(2) 自動車販売



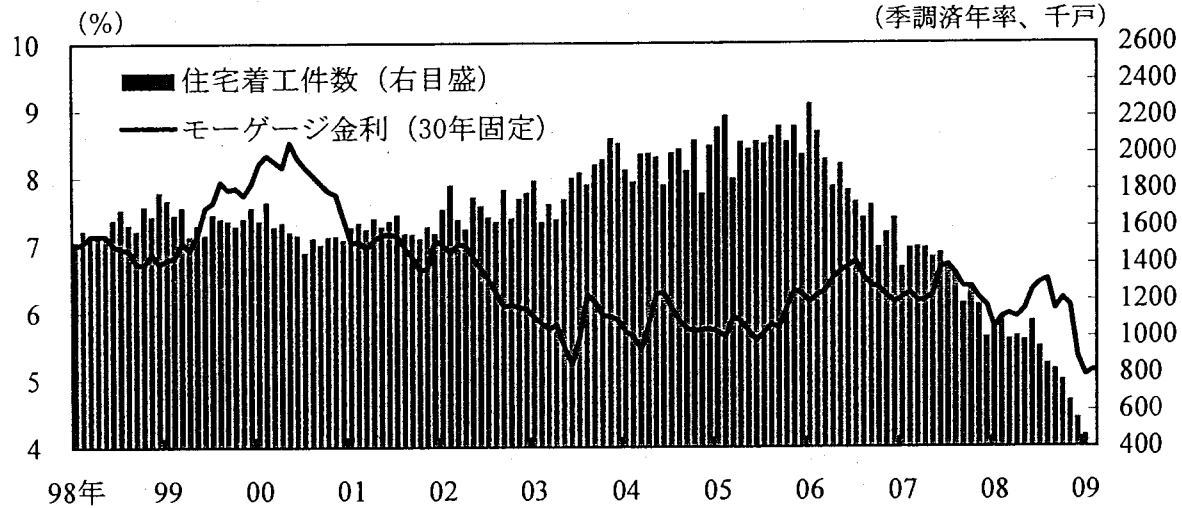
(3) 消費者コンフィデンス



③ 米国の住宅投資

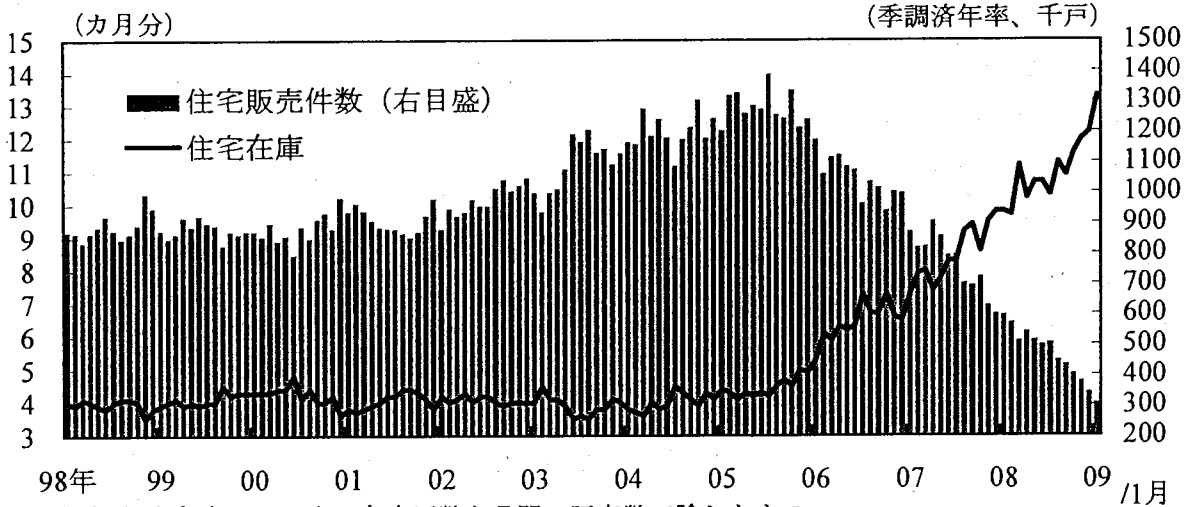
(図表4-3)

(1) モーゲージ金利と住宅着工



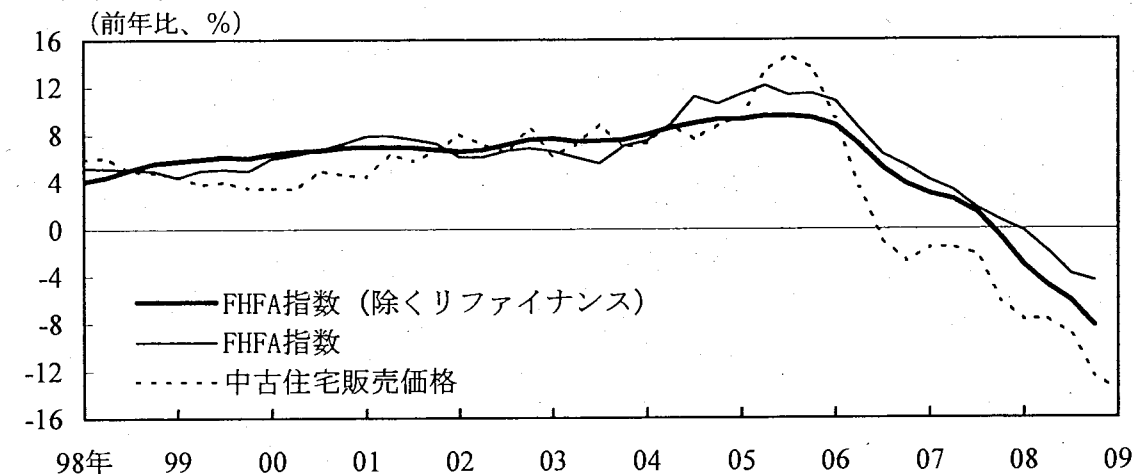
(注) 直近は、住宅着工件数が1月、モーゲージ金利が2月。

(2) 新築一戸建て住宅販売と住宅在庫



(注) 住宅在庫は、月末の在庫戸数を月間の販売数で除したもの。

(3) 住宅価格



(注1) 除くリファイナンスは、FHFA指数の対象物件のうち、リファイナンスに伴い再評価された物件を除き、実際に購入された物件のみを対象とした価格指数。

(注2) 中古住宅販売価格は、不動産業者から報告された中古一戸建て住宅の販売物件の平均単価を集計したもの(中央値)。

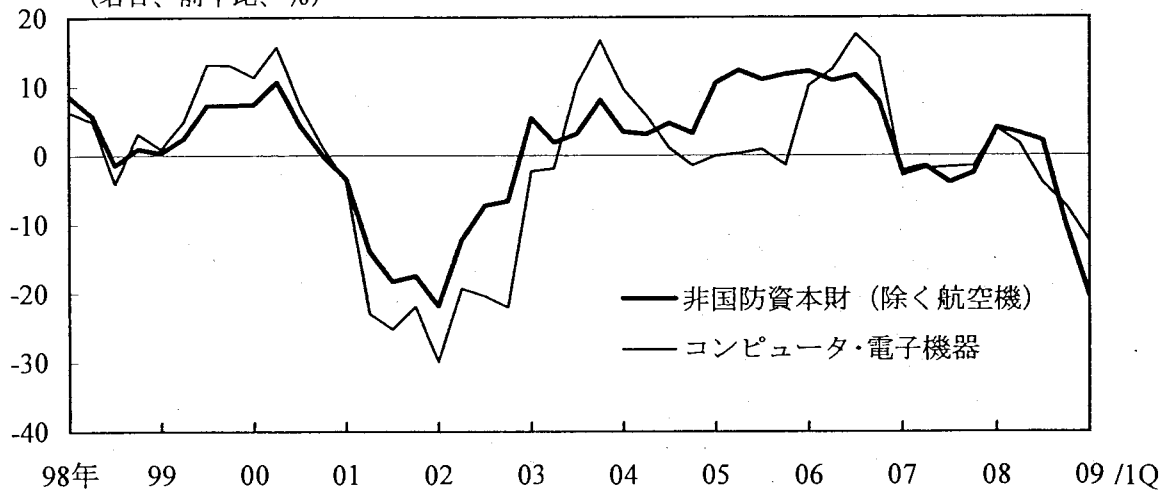
(注3) 直近は、FHFA指数、FHFA指数(除くリファイナンス)が2008/4Q、中古住宅販売価格が2009/1Q(1月の値)。

④ 米国の設備投資と生産

(図表4-4)

(1) 非国防資本財（除く航空機）とコンピュータ・電子機器受注

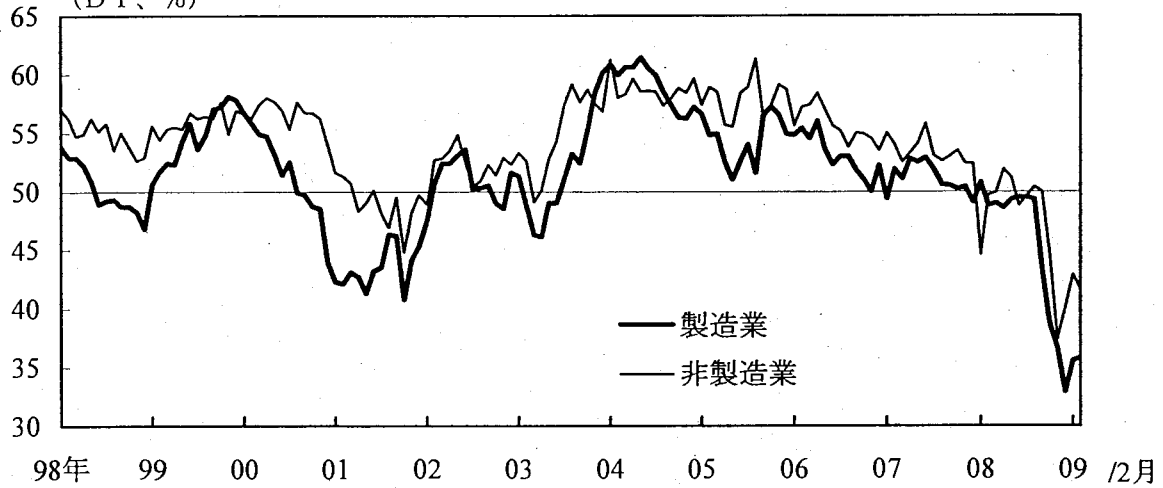
(名目、前年比、%)



(注) 2009/1Qは1月の値。

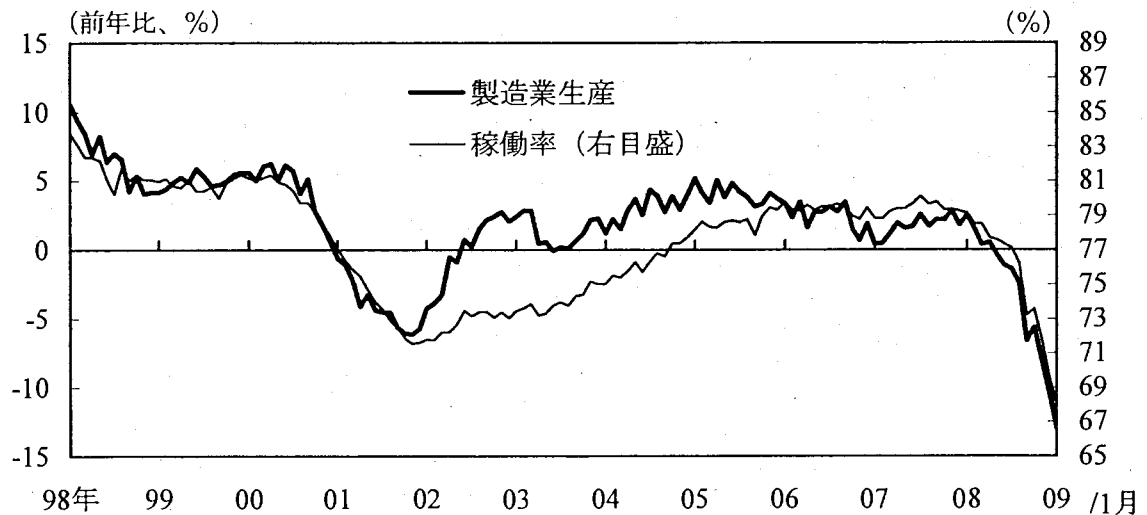
(2) 企業コンフィデンス (ISM指数)

(DI、%)



(3) 製造業生産・稼働率

(前年比、%)



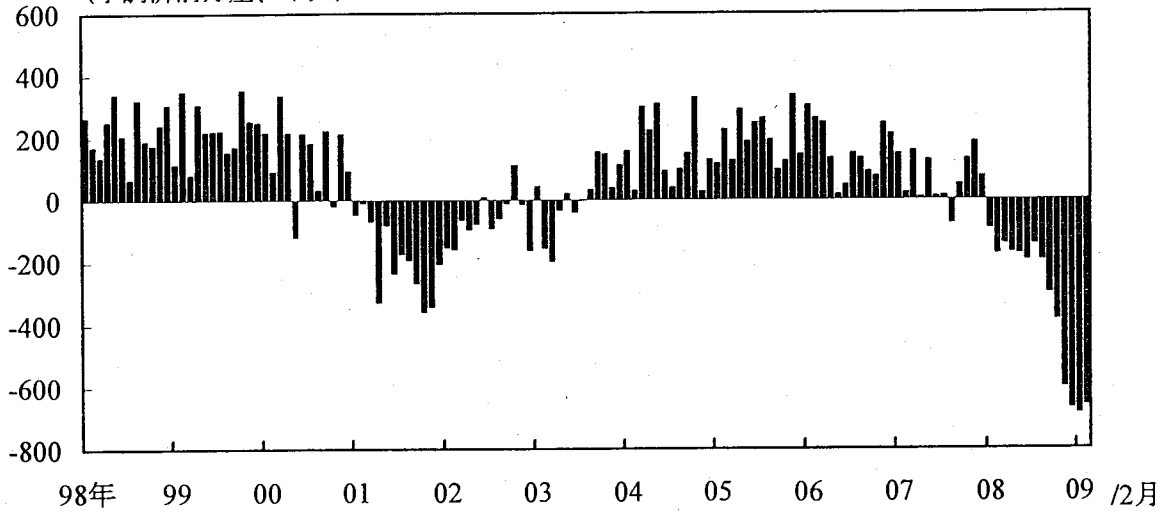
⑤ 米国の雇用

(図表4-5)

(1) 民間部門雇用者数

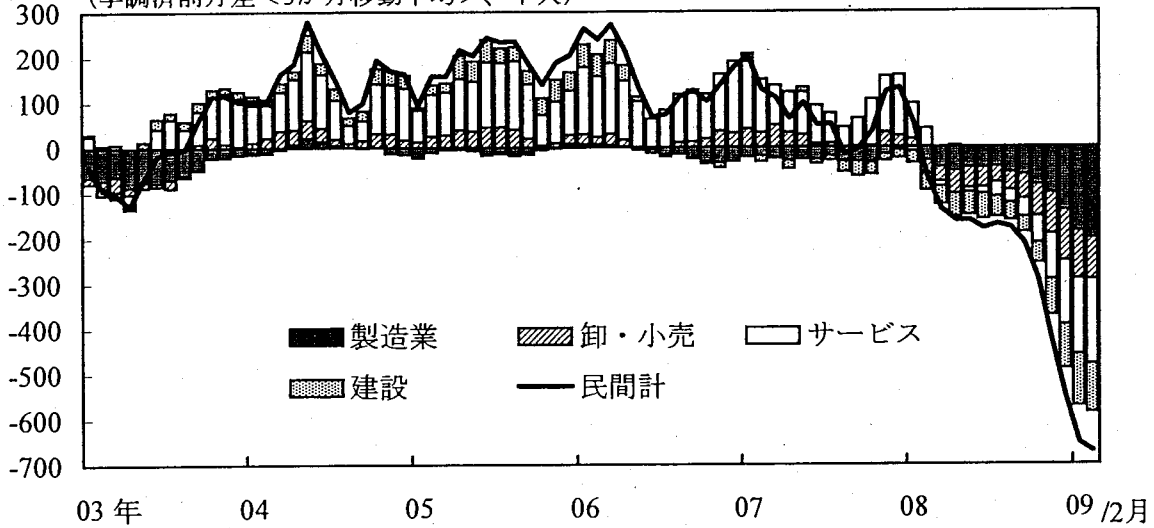
① 全体

(季調済前月差、千人)



② 業種別

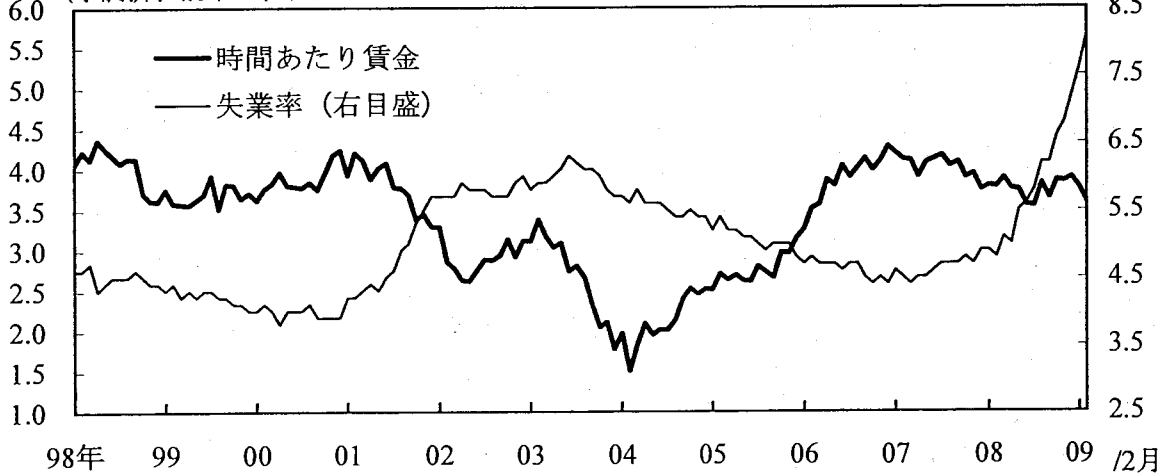
(季調済前月差<3か月移動平均>、千人)



(注) 棒線の合計と折れ線の差はその他の項目(金融等)。

(2) 時間あたり賃金(民間部門)と失業率

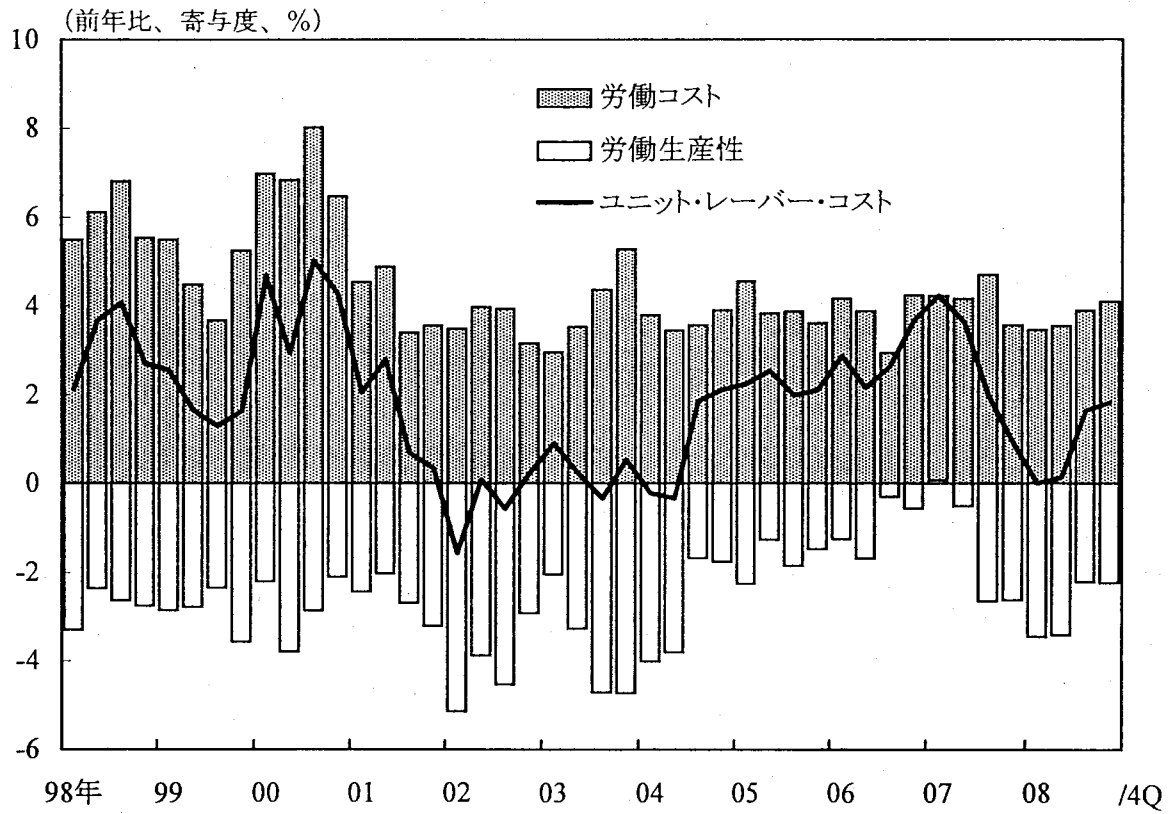
(季調済、前年比、%)



⑥ 米国の労働コスト、物価

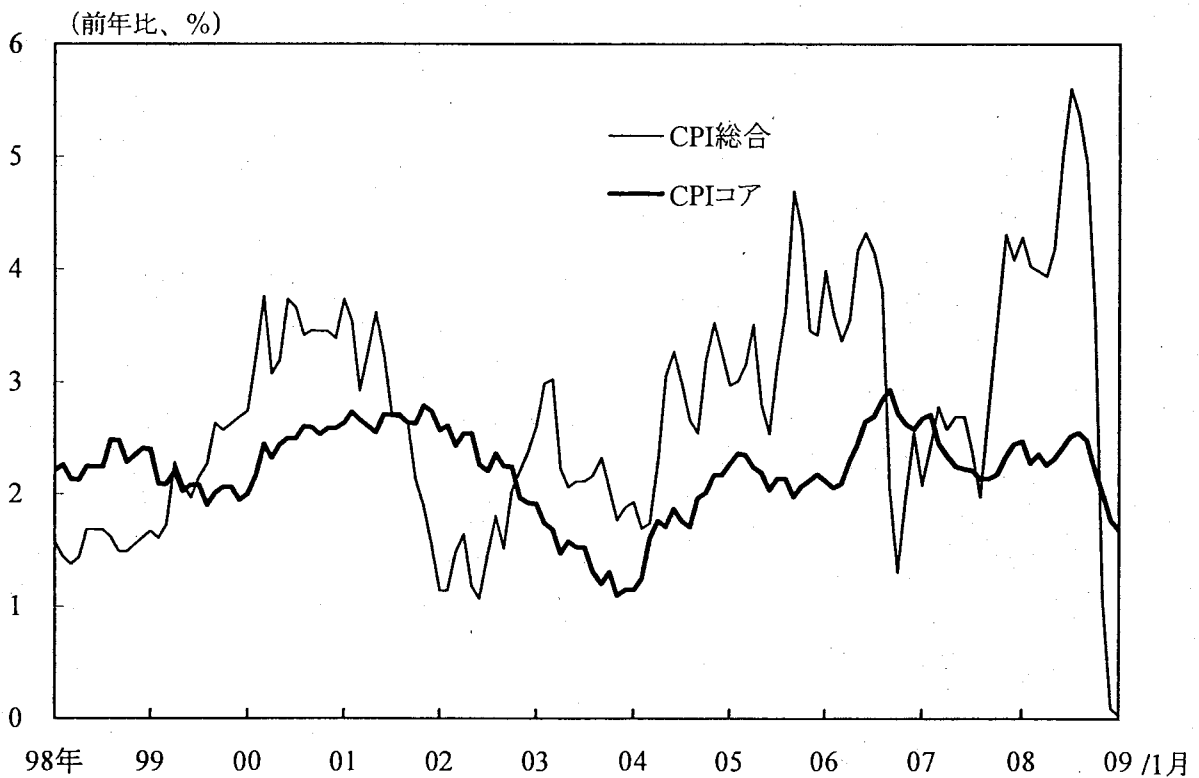
(図表4-6)

(1) ユニット・レーバ・コスト



(注) 労働コストは、賃金と福利厚生費の合計。

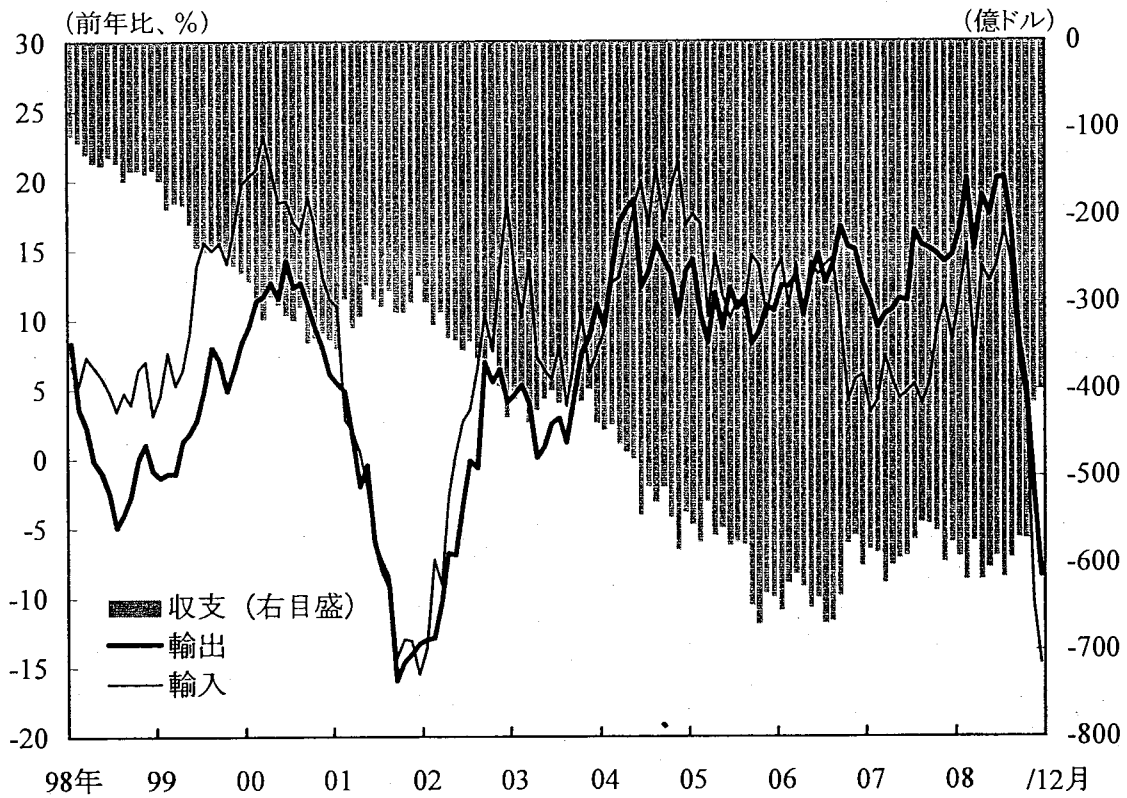
(2) CPI



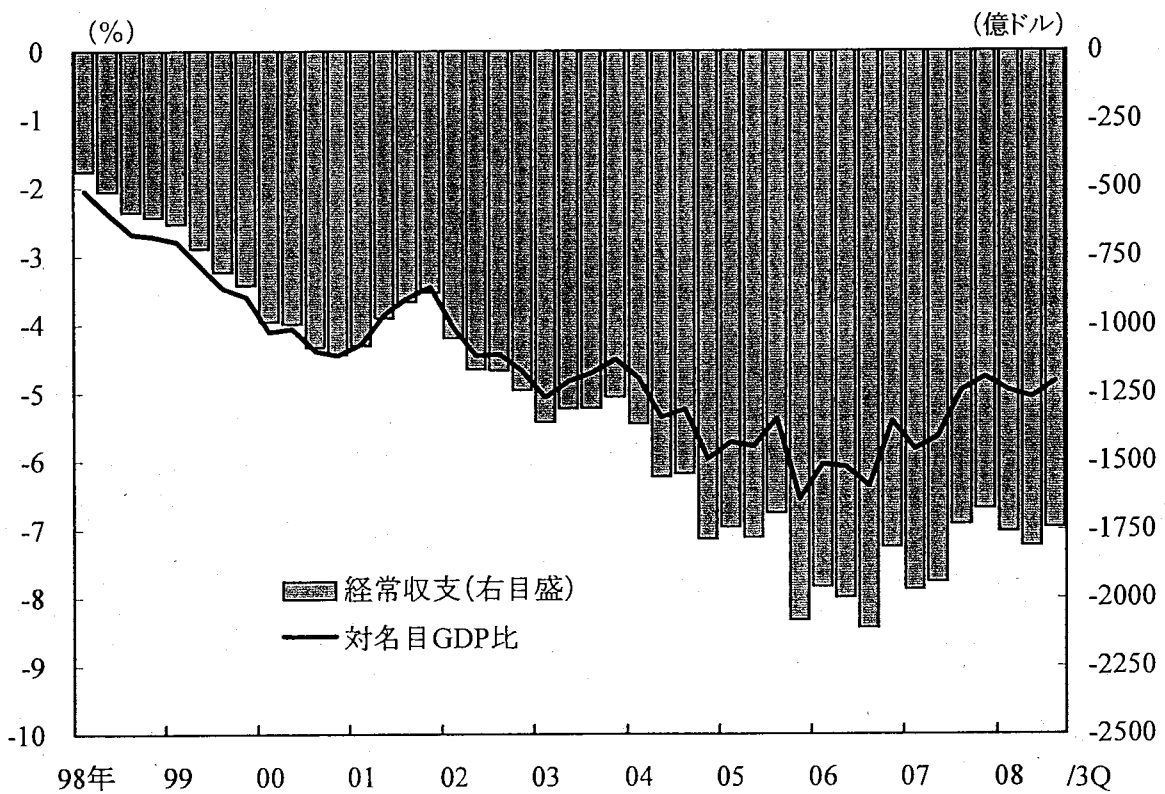
⑦ 米国の対外バランス

(図表4-7)

(1) 財・サービス収支



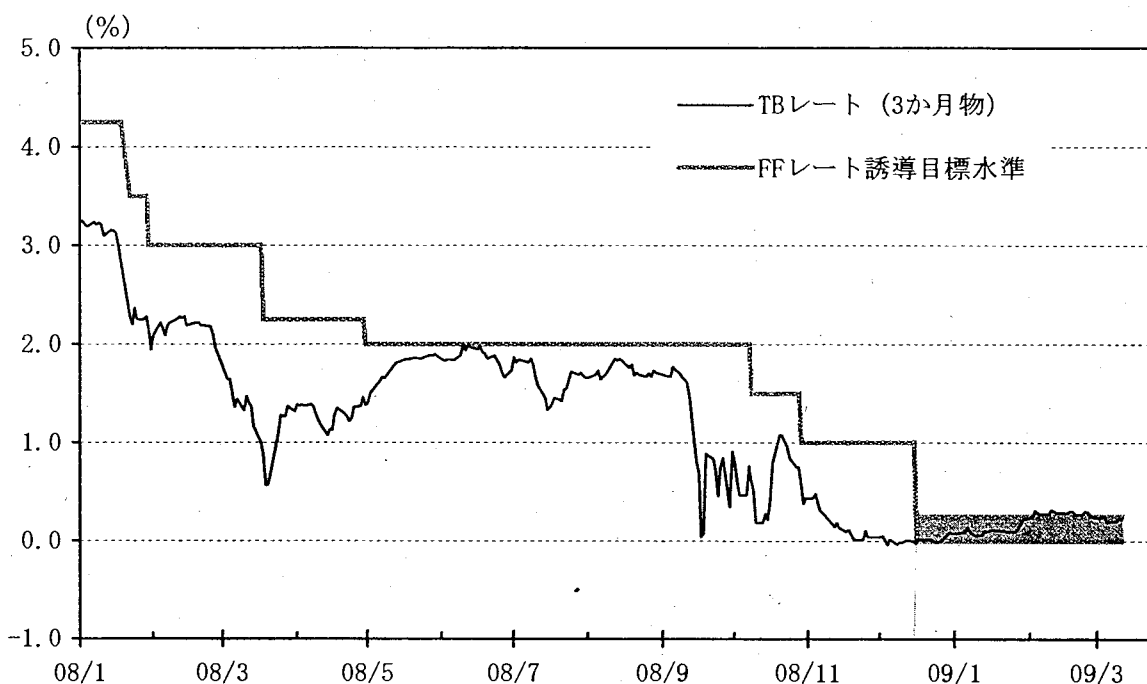
(2) 経常収支



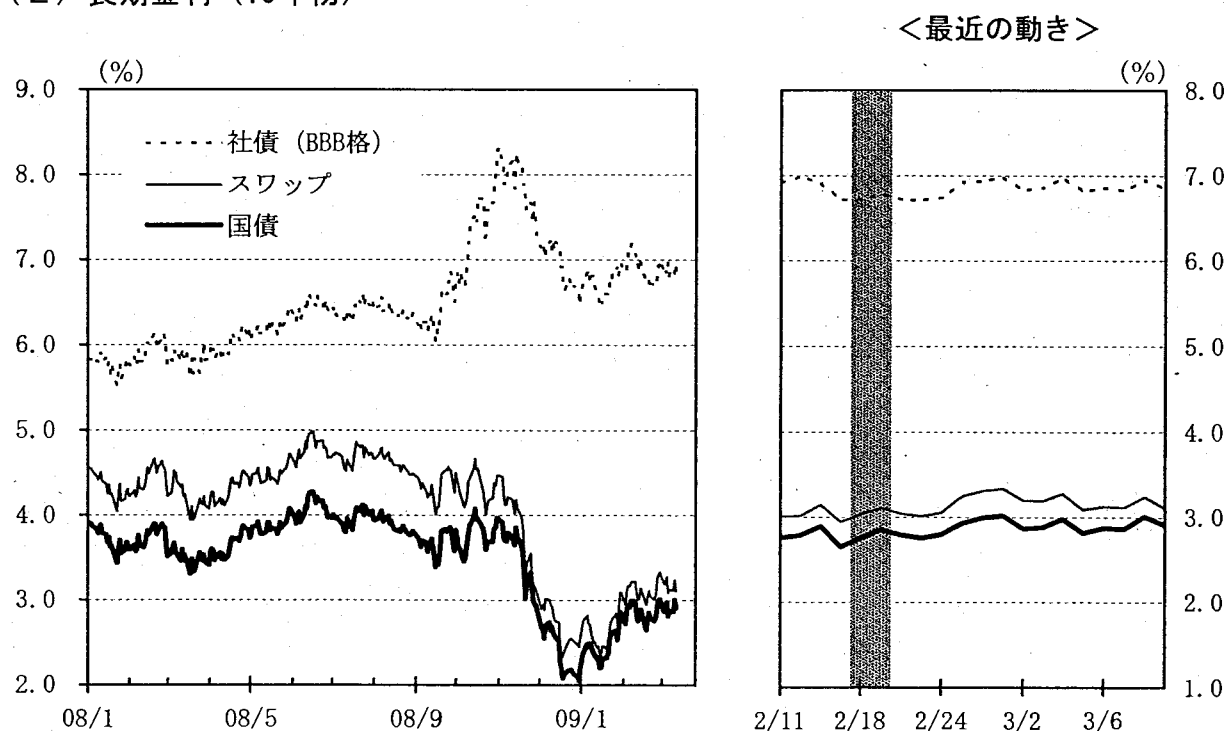
米国の金融市場

金利（米国）

(1) 政策金利・短期金利



(2) 長期金利（10年物）



(注1) シャドーは前回会合。

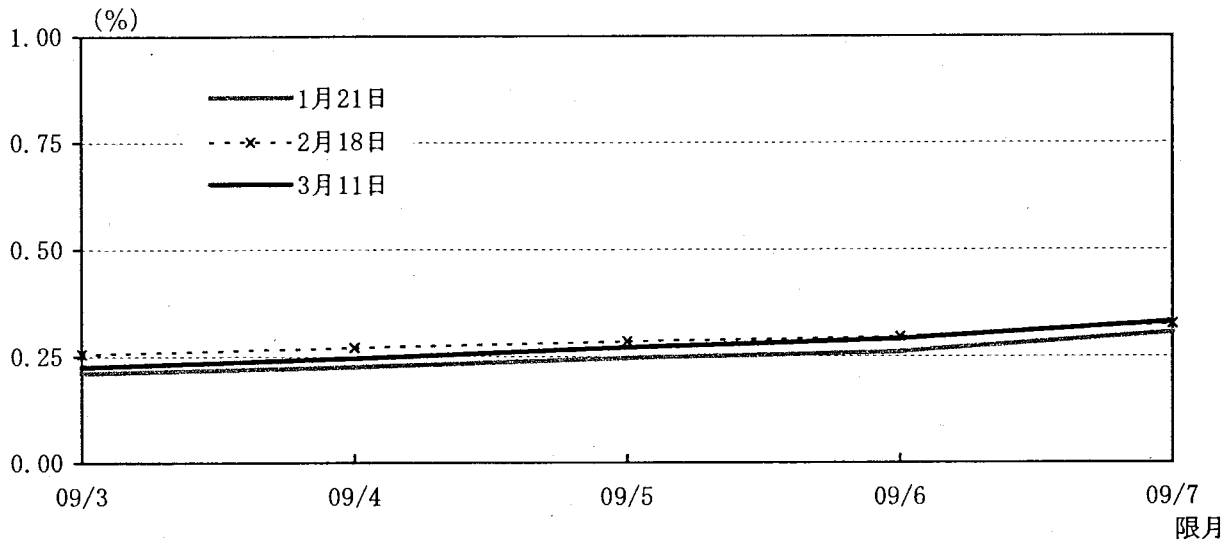
(注2) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成したBBBを使用。
因みに、BloombergのBBBは、Moody'sのBaa2、S&PのBBBに対応。

(出所) Bloomberg

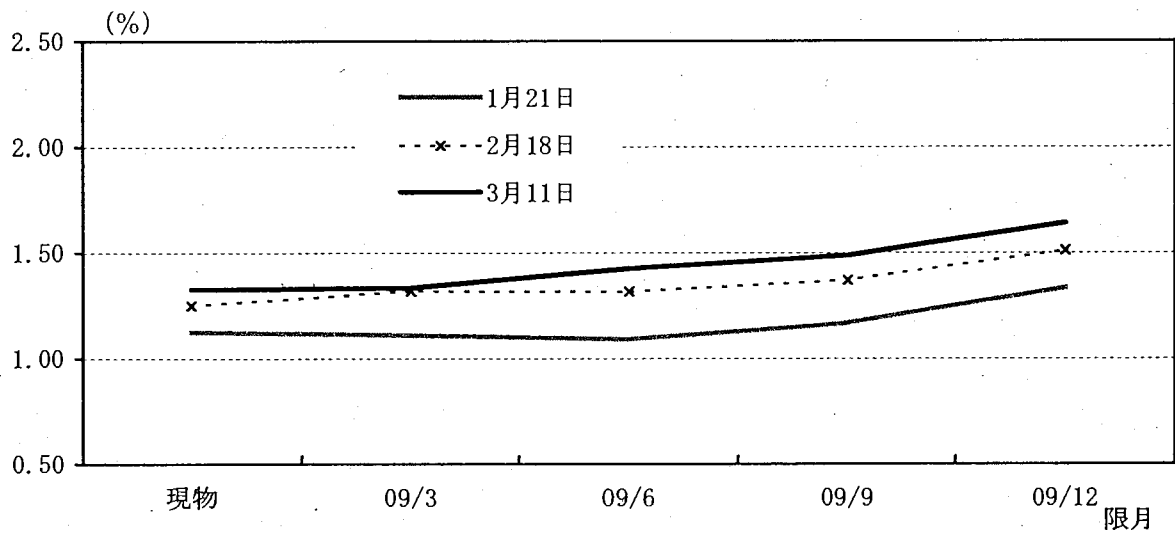
いずれも直近は3月11日

先行きの金利観（米国）

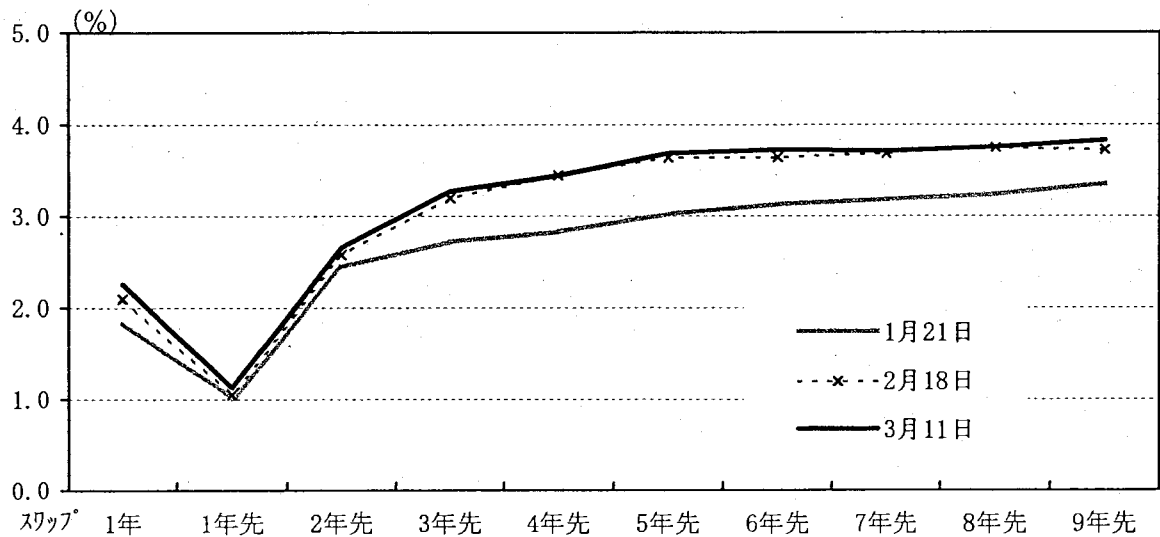
(1) FF先物金利



(2) ユーロドル先物金利（3か月物）



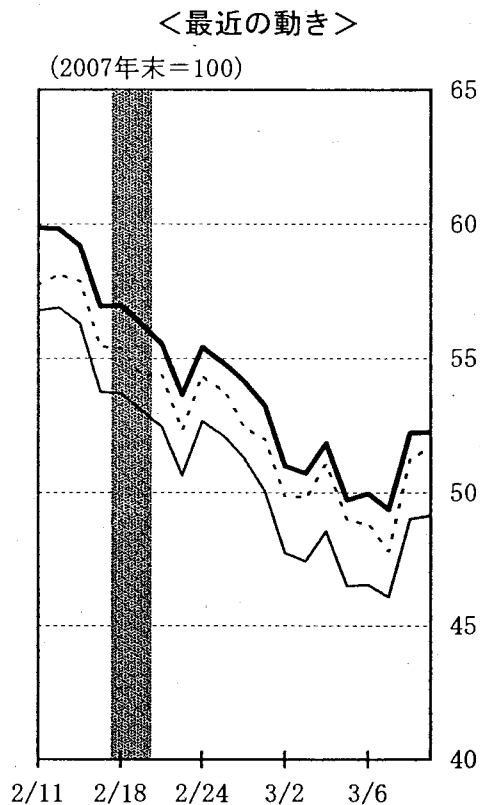
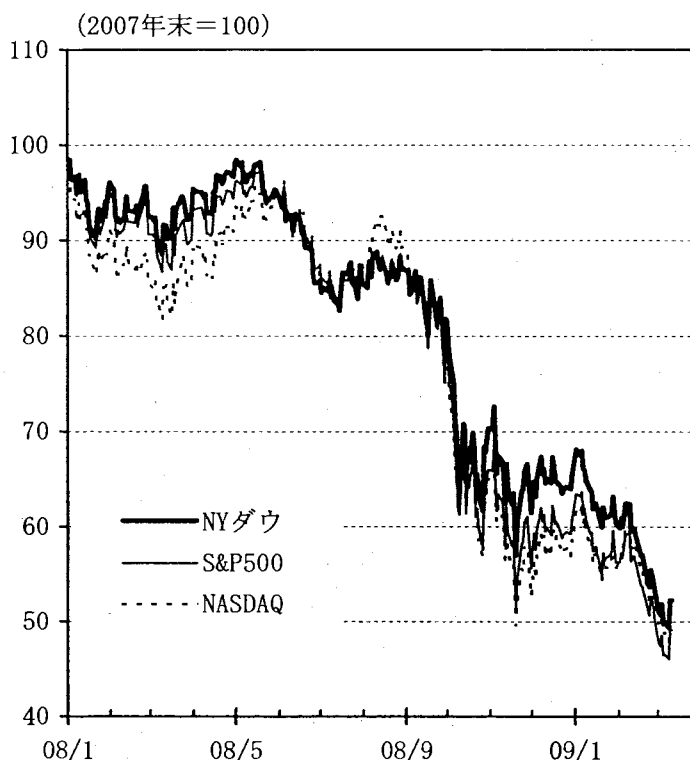
(3) インプライド・フォワード・レート（米ドル・スワップ、1年物）



(出所) Bloomberg

株価 (米国)

(1) 株価 (NYダウ・S&P500・NASDAQ)

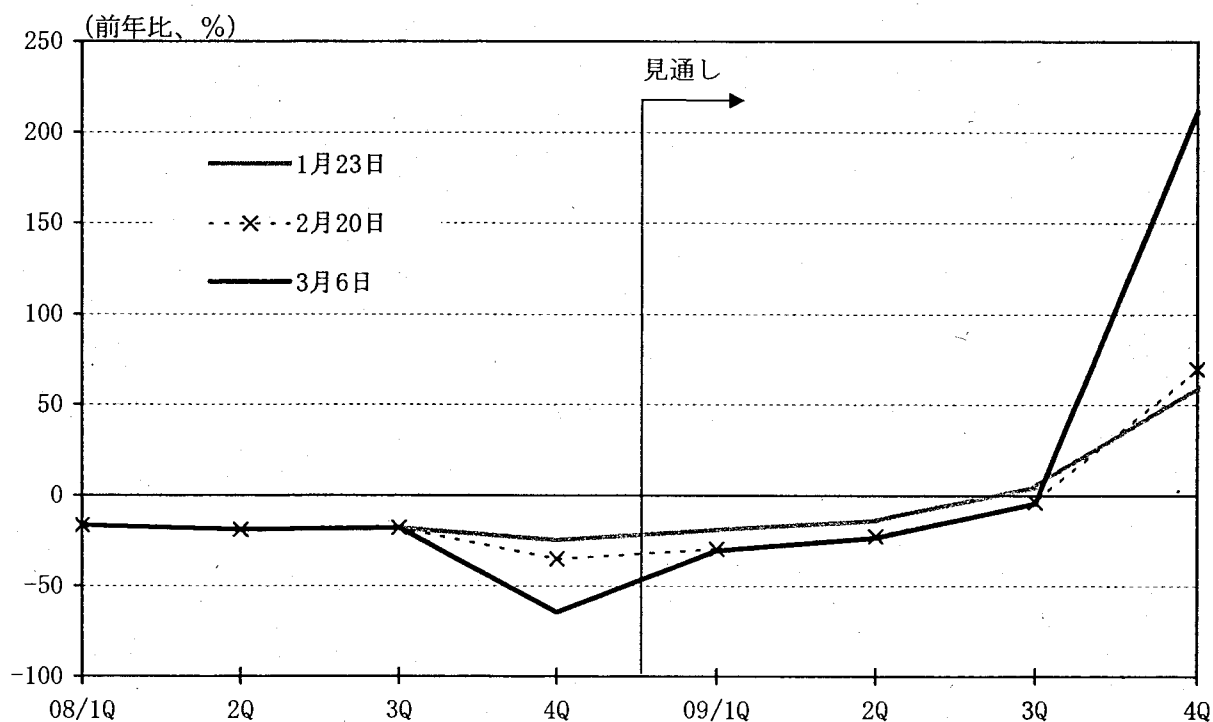


(注) シャドローは前回会合。

(出所) Bloomberg

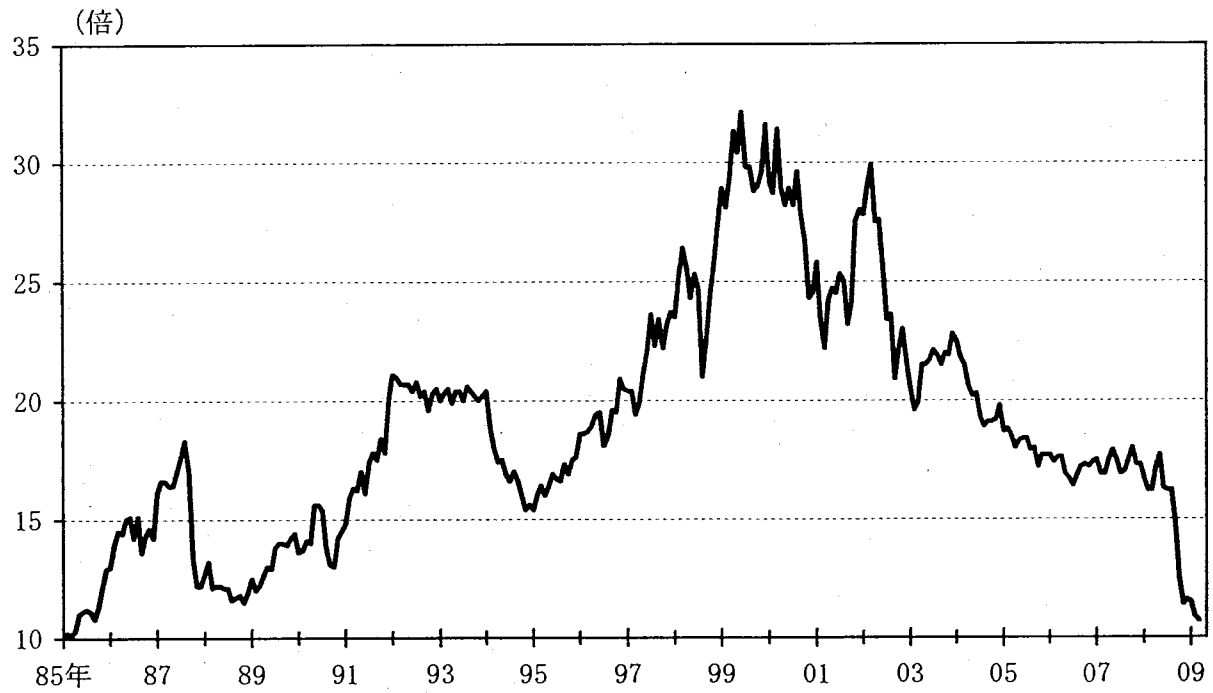
いずれも直近は3月11日

(2) アナリストのEPS (一株当たり利益) 成長率見通し (S&P500社ベース)



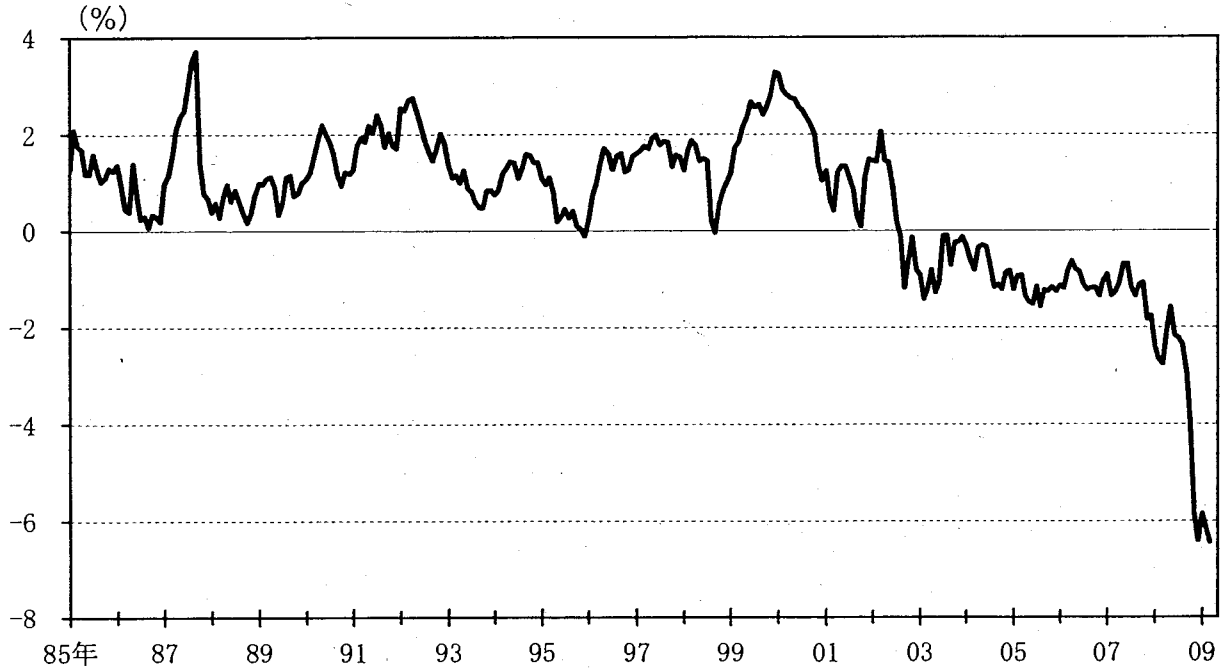
(出所) Thomson One Analytics

(3) 株価収益率 (PER、S&P500)



(注) 株価収益率 (PER) = 株価 / 一株当たり利益 (EPS)。
S&P500実績利益ベース。

(4) イールド・スプレッド (S&P500ベース)

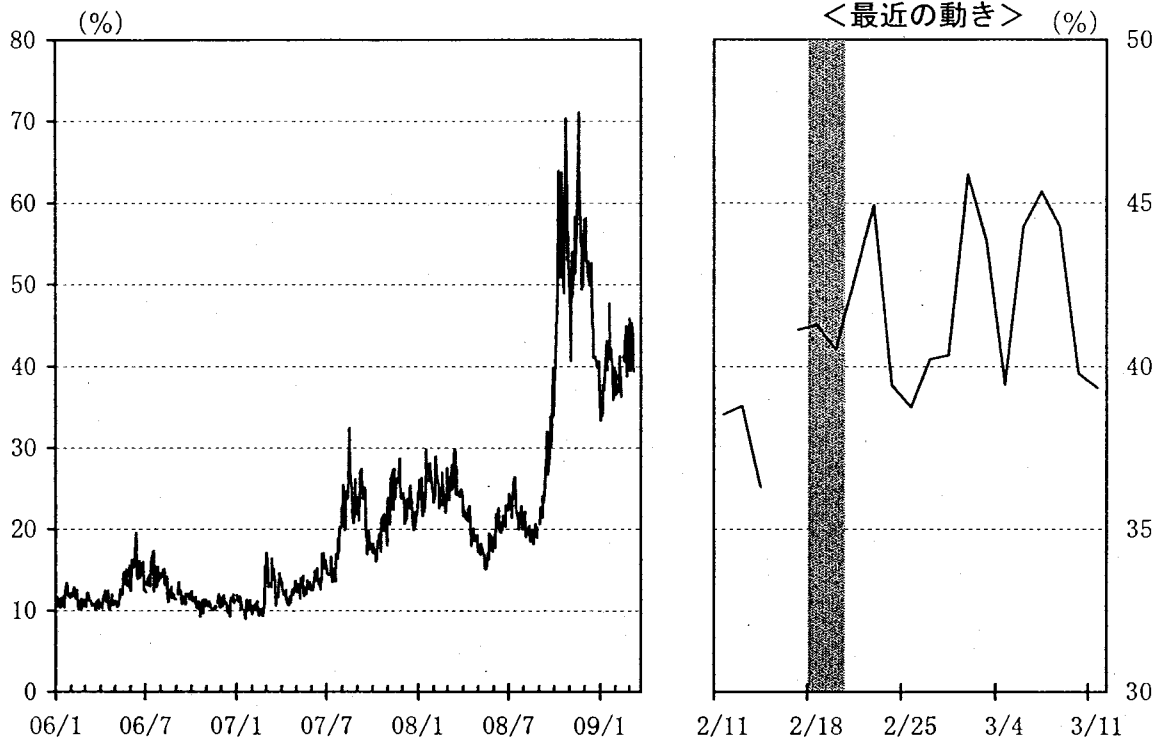


(注) イールド・スプレッド = 国債10年物利回り - 株式益回り (=1/PER)。
(出所) Datastream

いずれも直近は3月11日

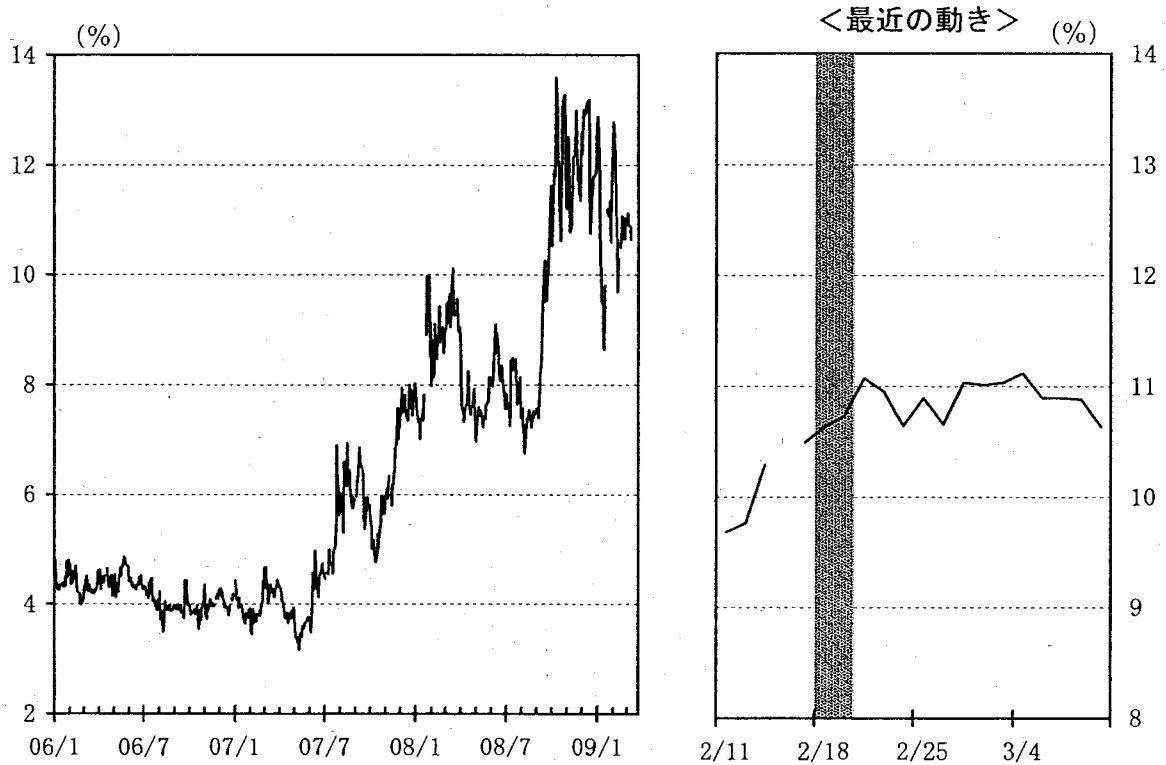
金融市場のリスク関連指標 (米国)

(1) 株価オプションのインプライド・ボラティリティ (S&P500)



直近は3月11日

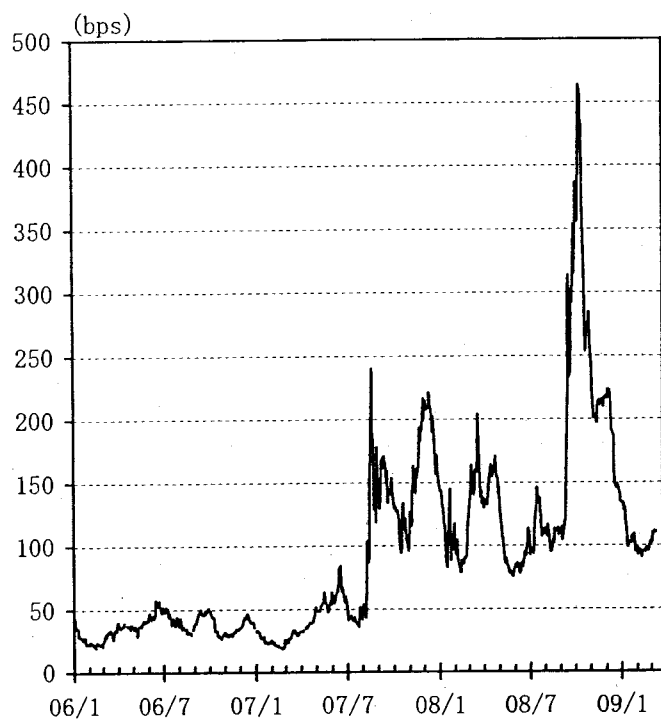
(2) 米国債先物オプションのインプライド・ボラティリティ



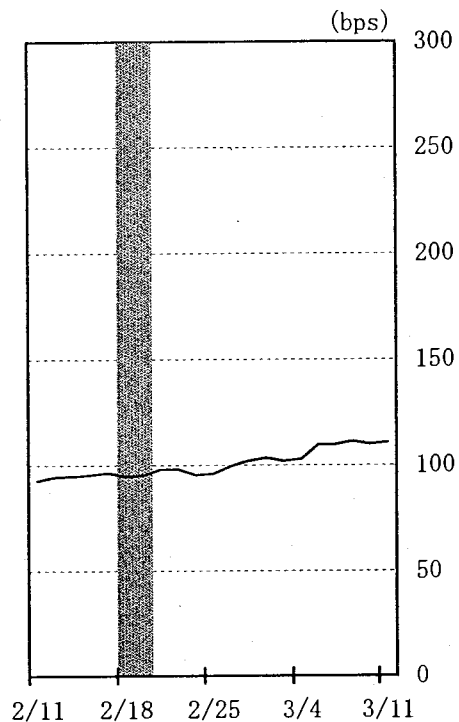
直近は3月10日

(出所) Bloomberg

(3) TEDスプレッド

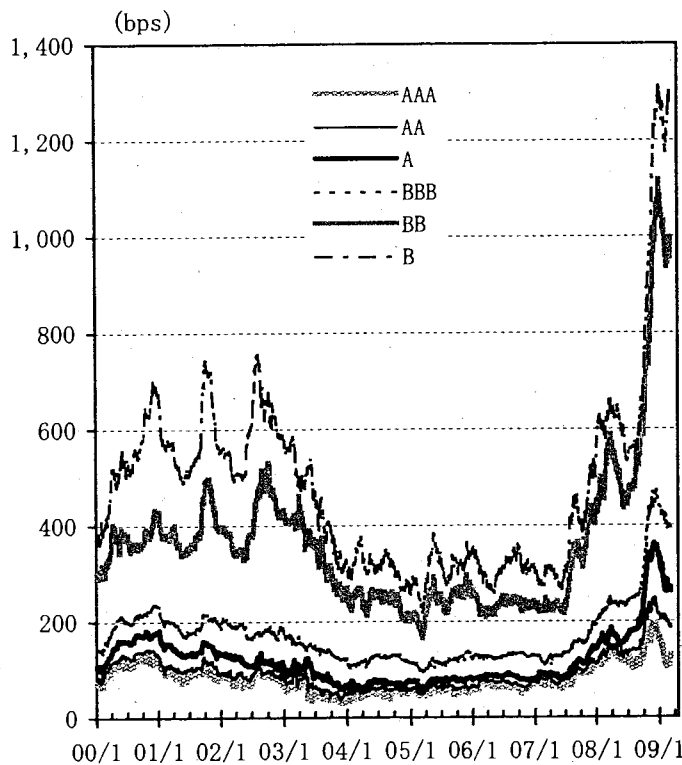


<最近の動き>

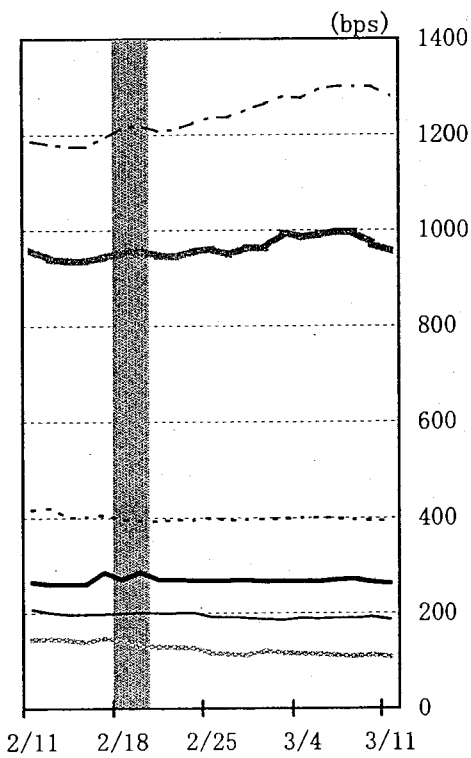


(注) ユーロドル3か月物-TB3か月物。

(4) 米国社債の対国債スプレッド (10年物)



<最近の動き>



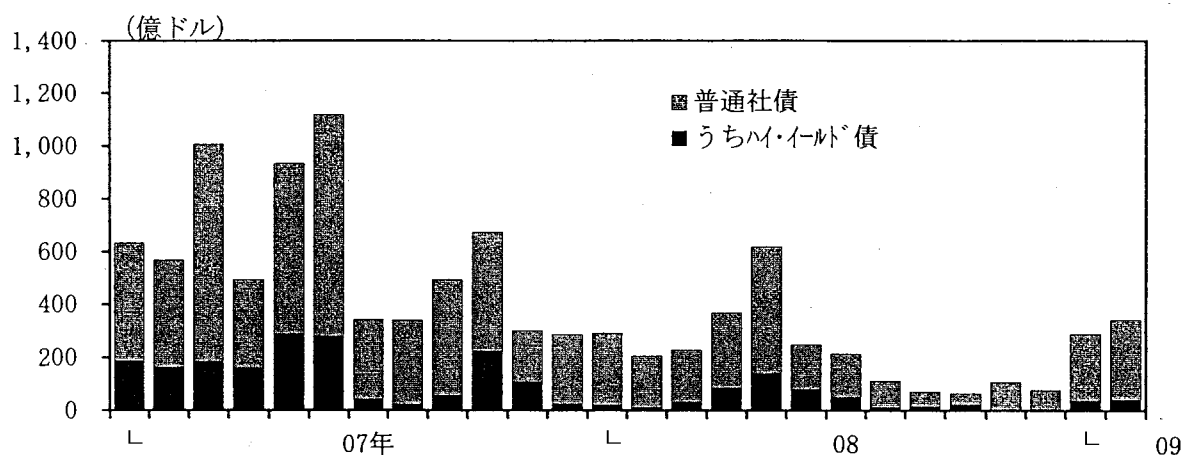
(注) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成。例えば、AAはMoody'sのAa2、S&PのAAに対応。

(出所) Bloomberg

いずれも直近は3月11日

企業の資金調達 (米国)

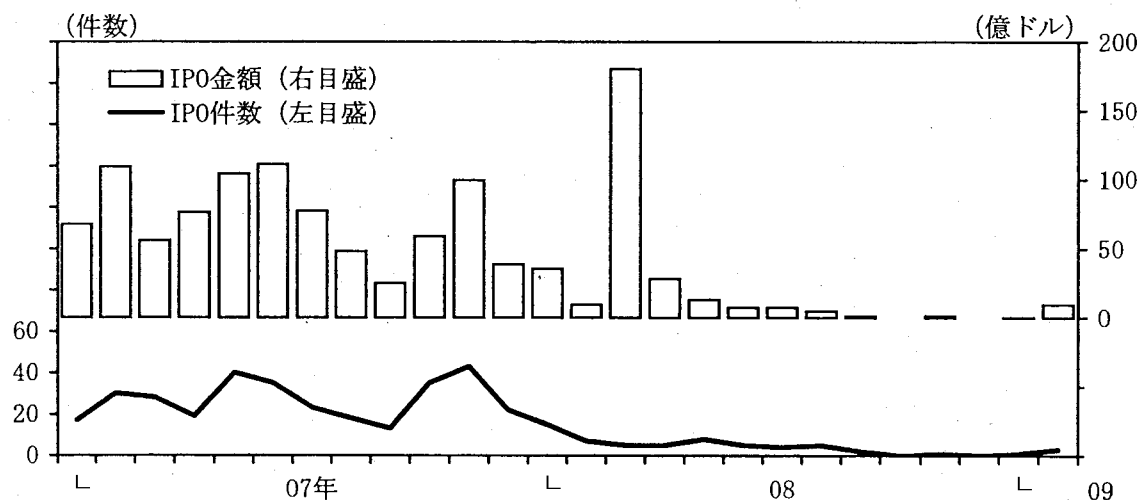
(1) 社債発行額 (普通社債)



(出所) Thomson ONE Banker

直近は2月

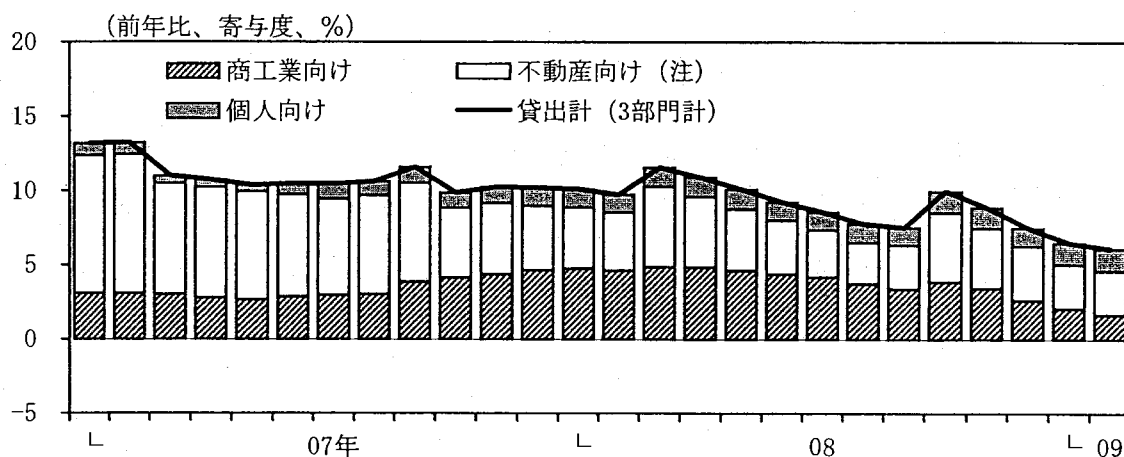
(2) IPO金額・件数



(出所) Bloomberg

直近は2月

(3) 銀行貸出



(注) 商銀+外銀ベース。不動産向けはホームエクイティ・ローンを含む。

貸出計は、商工業、不動産、個人の3部門向け貸出の合計。「その他」(レポ取引等)は含まない。

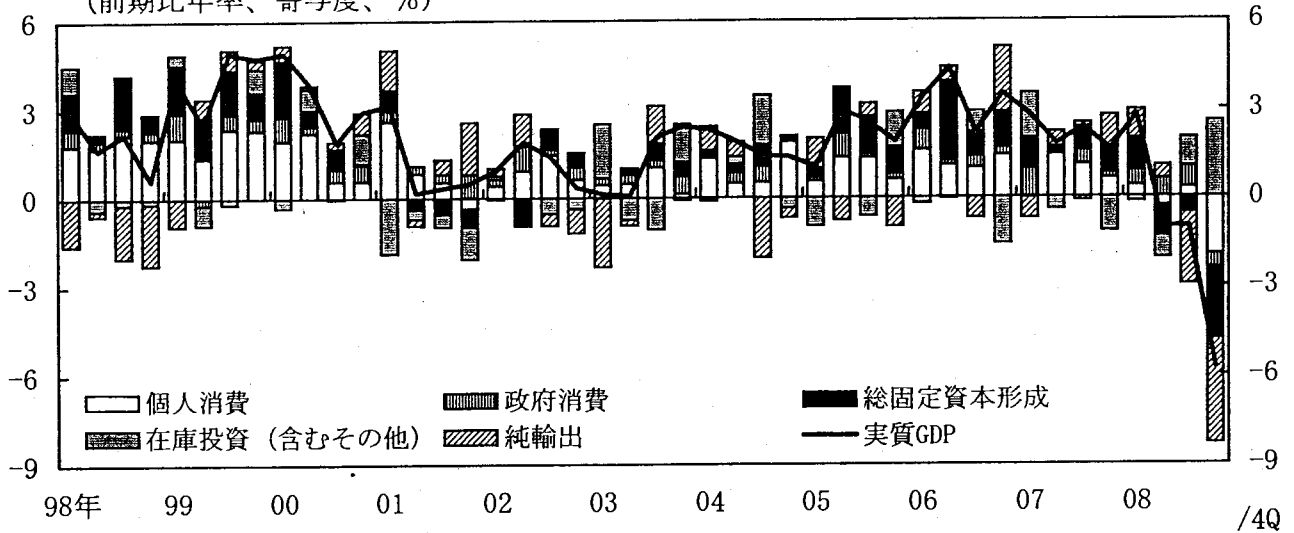
(出所) FRB

直近は2月25日週

欧州の実体経済

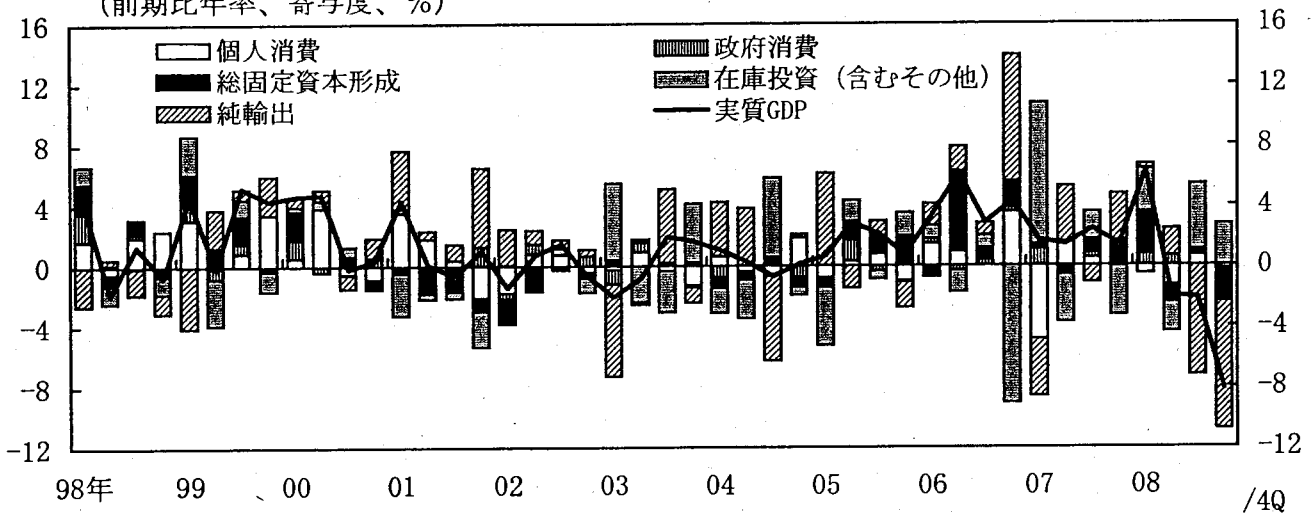
(1) ユーロエリアの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



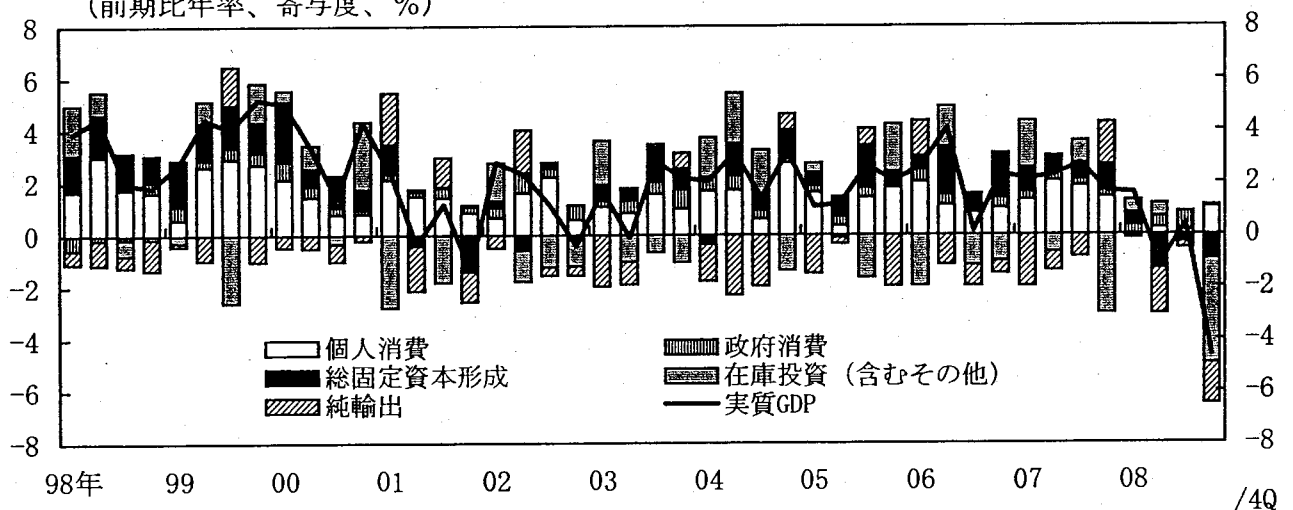
(2) ドイツの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



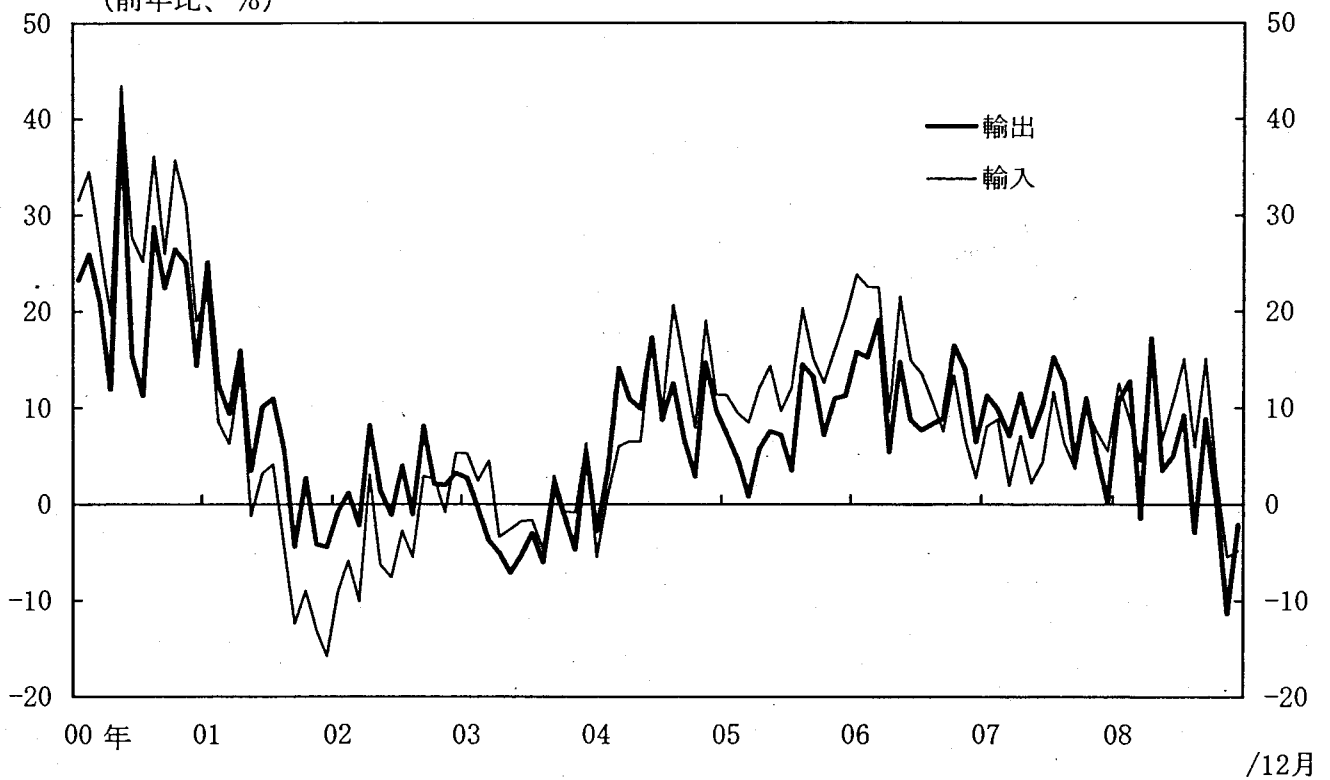
(3) フランスの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)

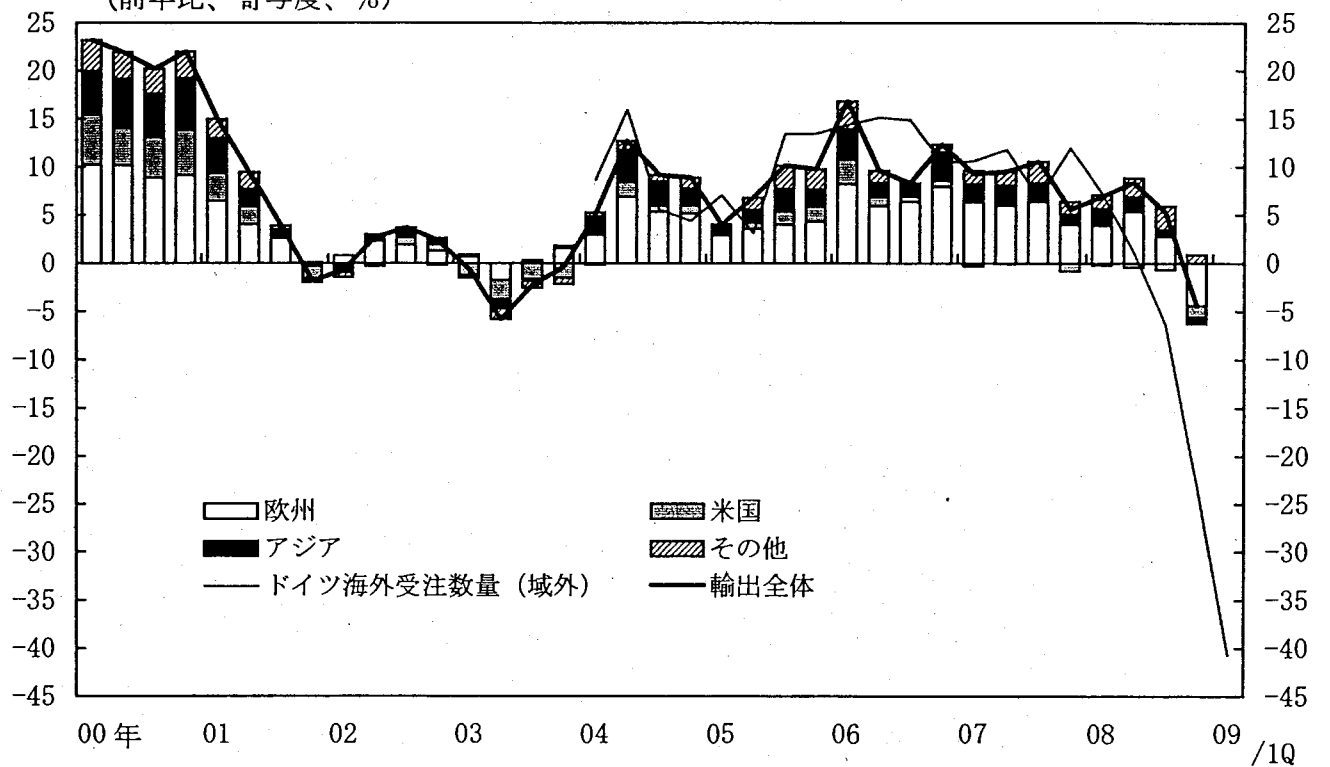


(図表6-2)

(4) ユーロエリアの域外貿易
(前年比、%)



(5) ユーロエリア域外輸出 (地域別寄与度) とドイツ海外受注数量 (域外)
(前年比、寄与度、%)



(注1) 欧州はトルコ、ロシアなど、アジアは中東などを含む。

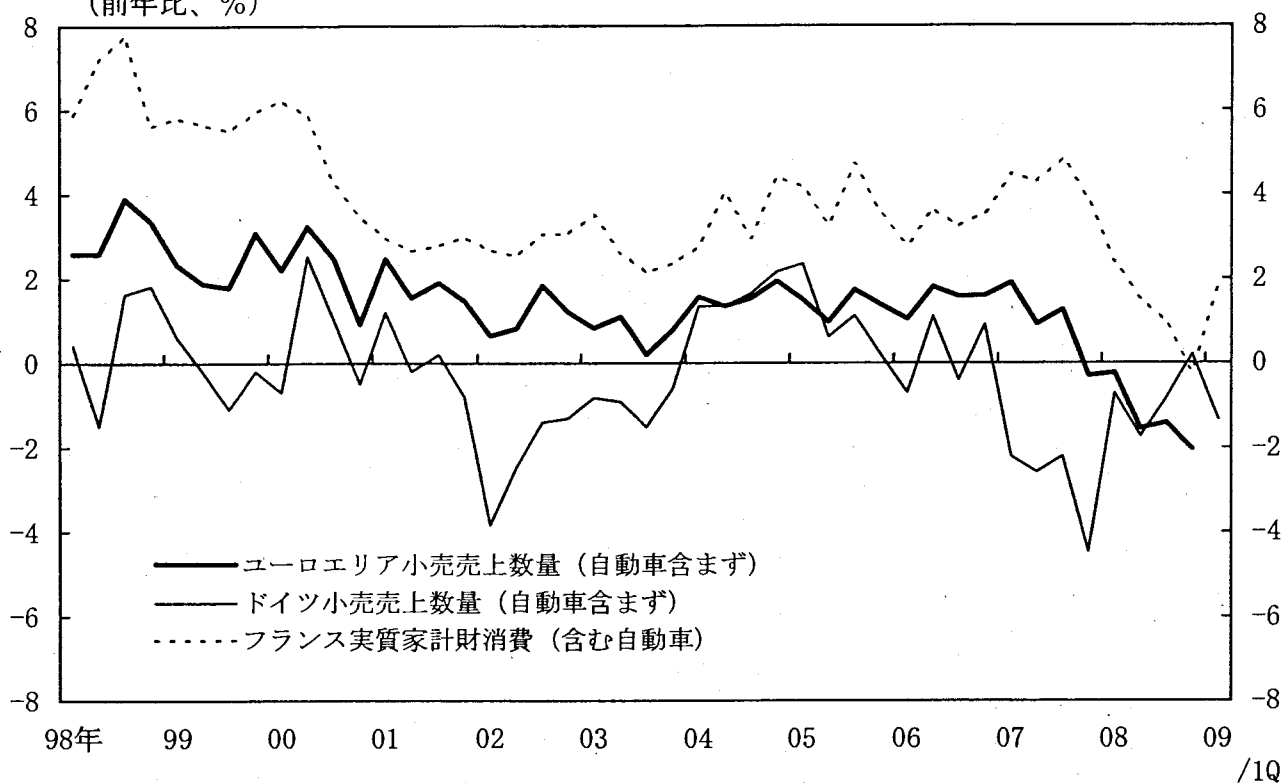
(注2) ドイツ海外受注数量は、2006年1Q以降は2005年基準、それ以前は2000年基準。

(注3) ドイツ海外受注数量の直近1Qは1月の値。

輸出全体の直近は4Q、輸出の地域別寄与度の直近は10-11月の値であり、積み上げと全体が一致しない。

(6) 小売関連指標

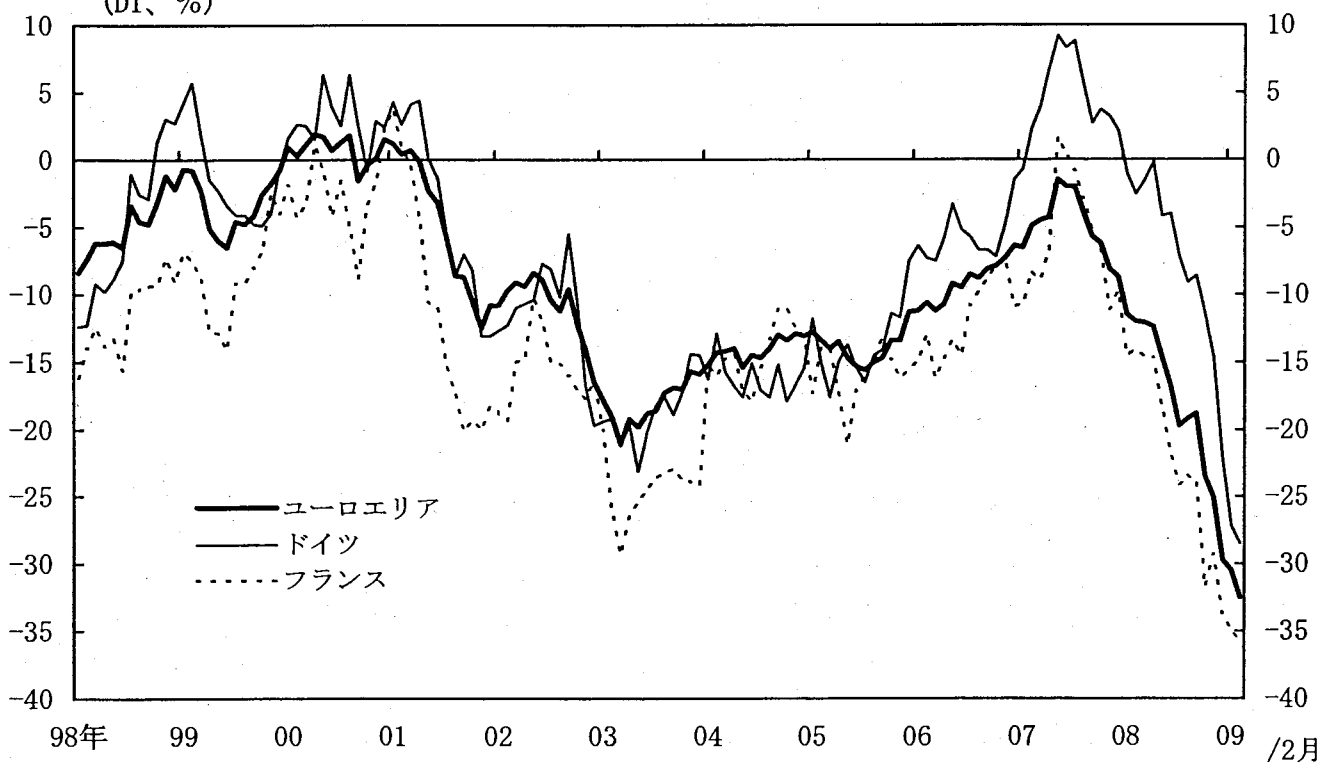
(前年比、%)



(注) ユーロエリアの直近は4Q、ドイツとフランスの直近1Qは1月の値。

(7) 消費者コンフィデンス

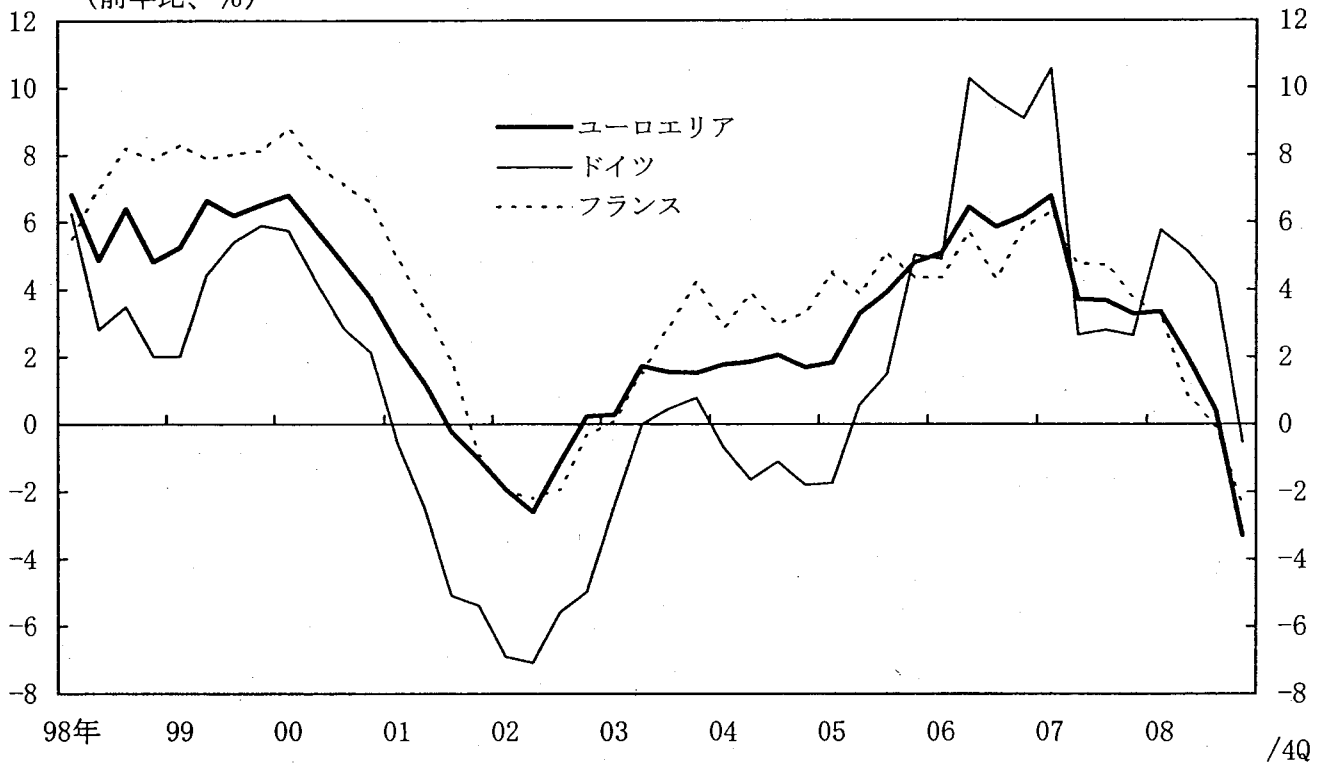
(DI、%)



(注) フランスでの調査方法の変更の影響で、フランス、ユーロエリアの2004年1月以降の計数は2003年12月以前と連続しない。

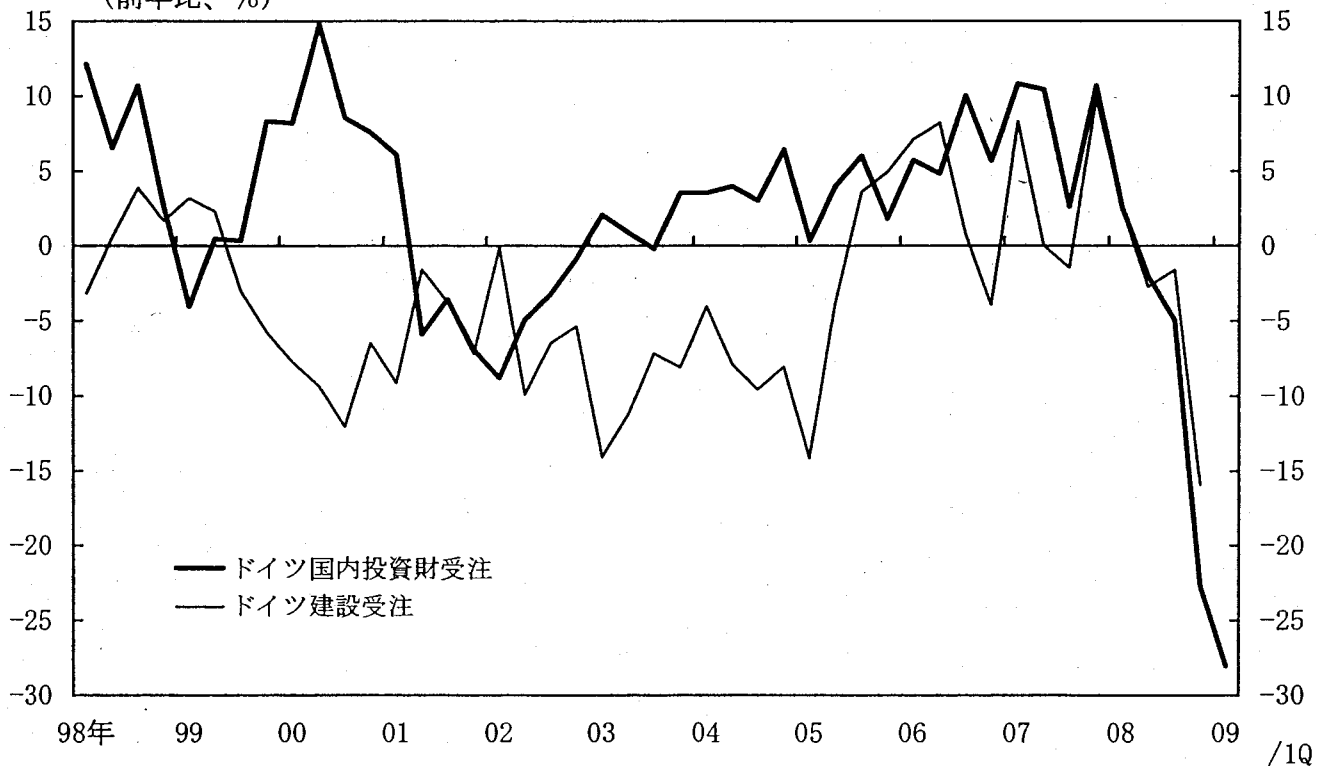
(8) 総固定資本形成

(前年比、%)



(9) ドイツの国内投資財受注、建設受注

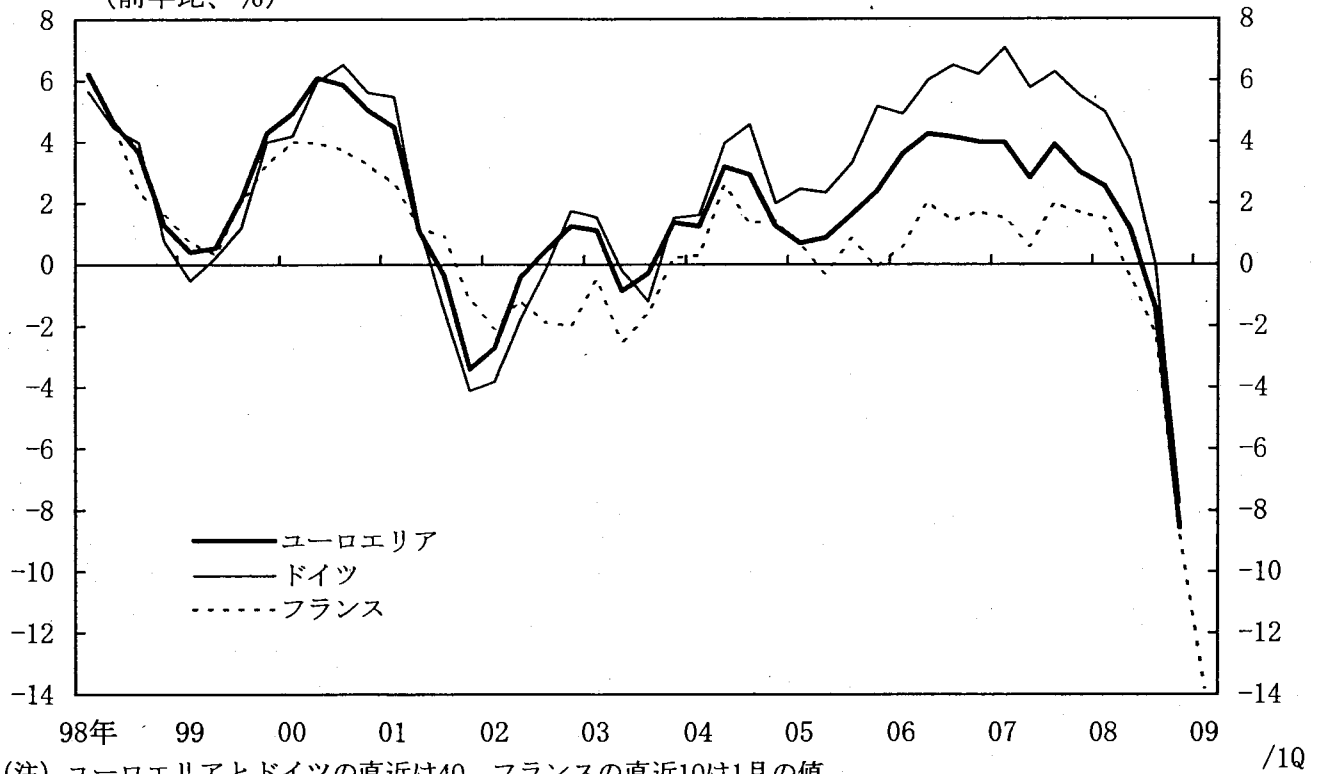
(前年比、%)



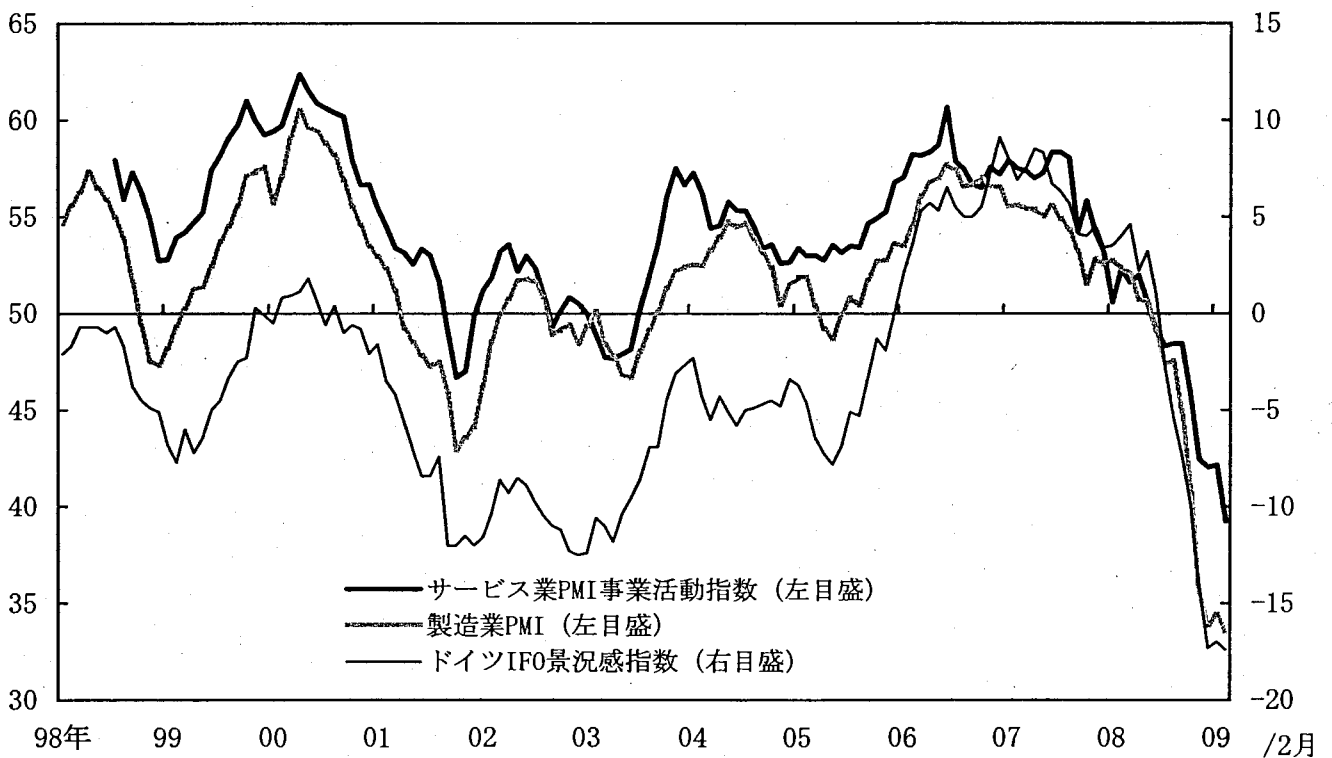
(注1) 国内投資財受注の2005年1Q以降は2005年基準、それ以前は2000年基準。

(注2) 建設受注の直近は4Q、国内投資財受注の直近1Qは1月の値。

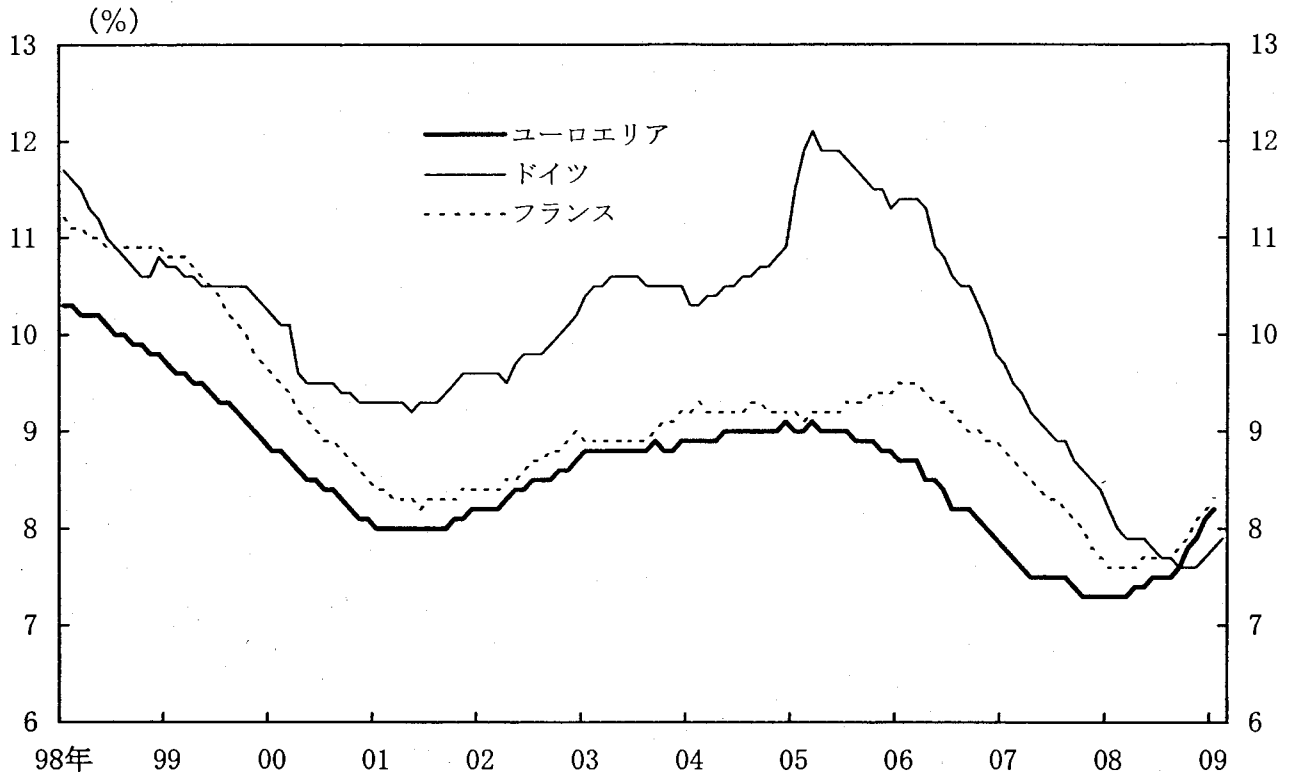
(10) 鉱工業生産
(前年比、%)



(11) PMI (購買担当者指数) と企業コンフィデンス

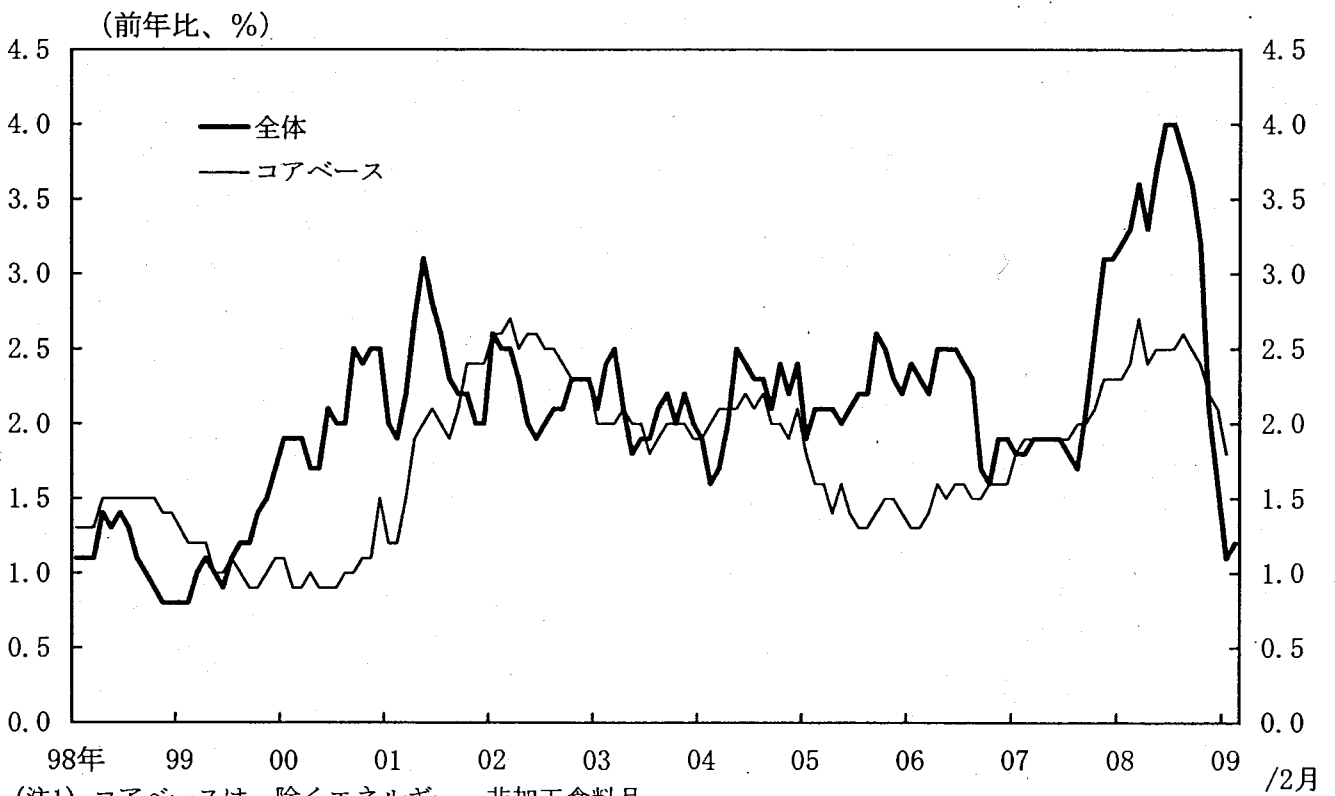


(12) 失業率



(注) ユーロエリアとフランスの直近は1月。

(13) 消費者物価 (HICP)



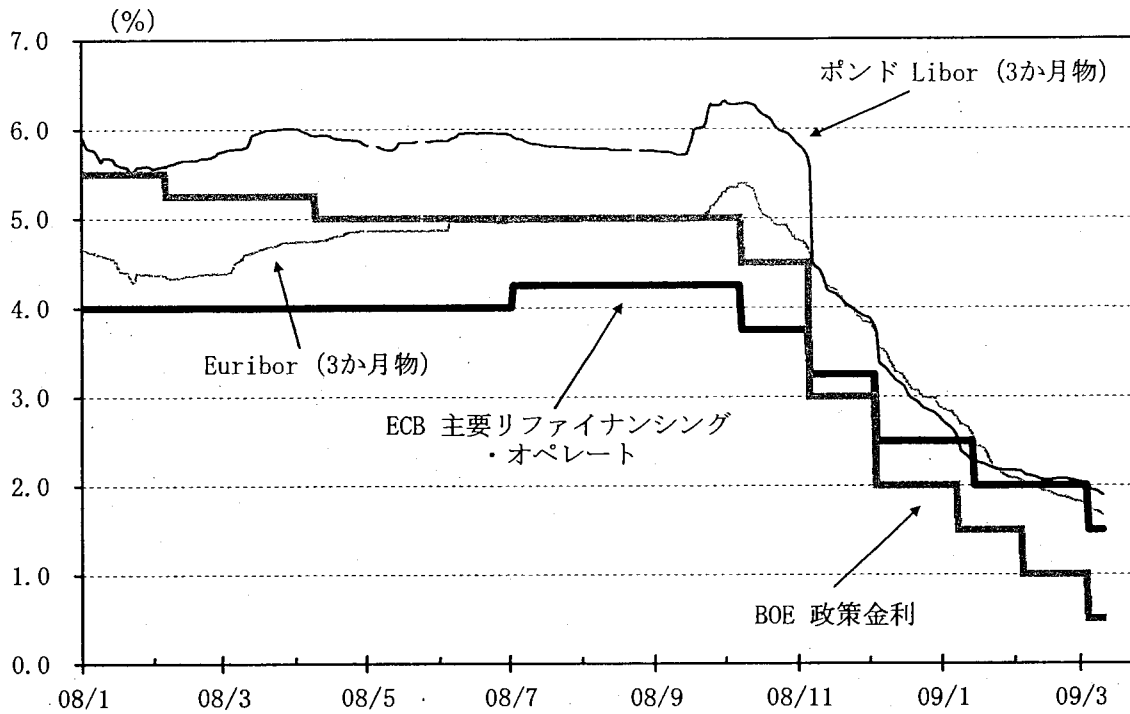
(注1) コアベースは、除くエネルギー、非加工食料品。

(注2) コアベースの直近は1月。なお、2月の全体は速報値。

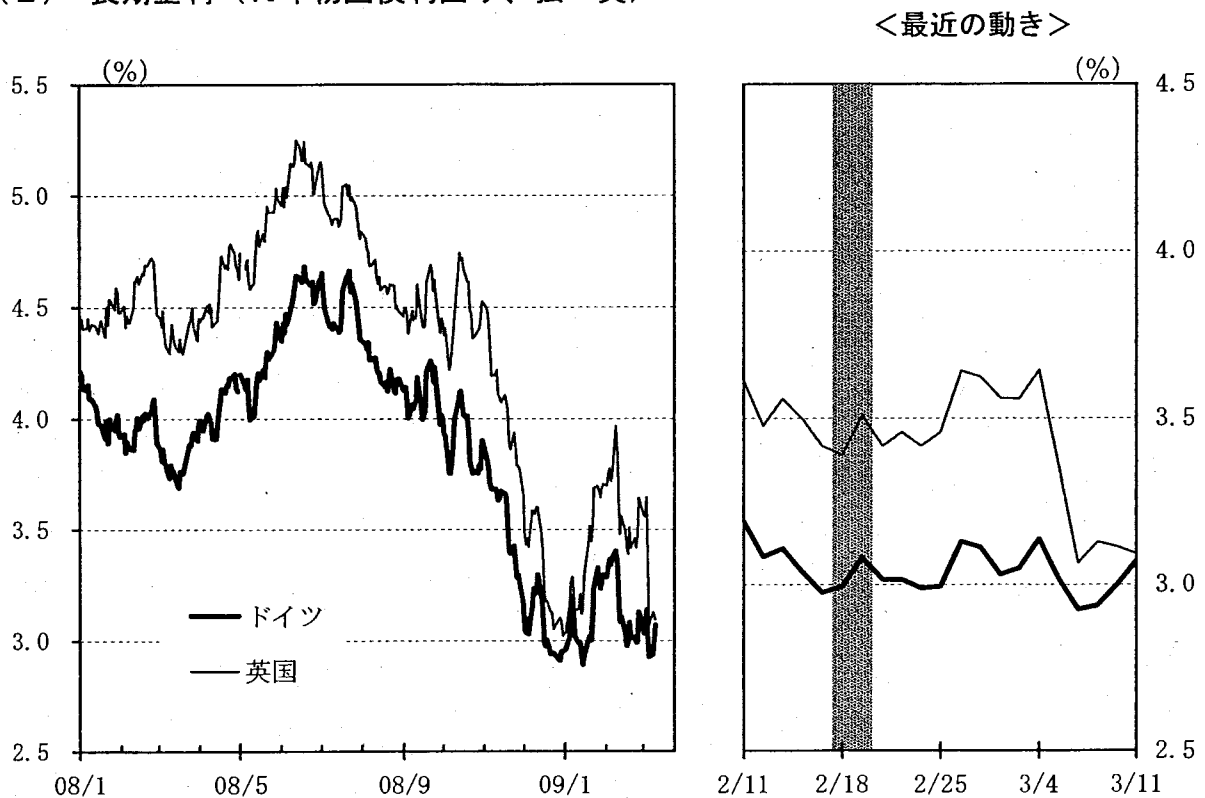
欧州の金融市場

金利 (欧州)

(1) 政策金利・短期金利 (ユーロエリア・英)



(2) 長期金利 (10年物国債利回り、独・英)



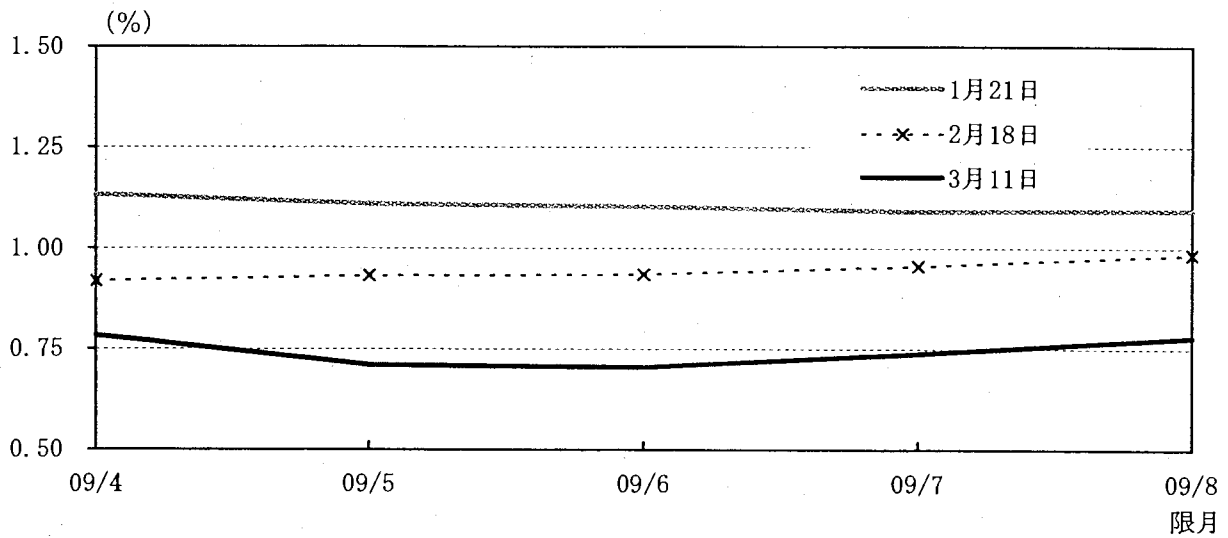
(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

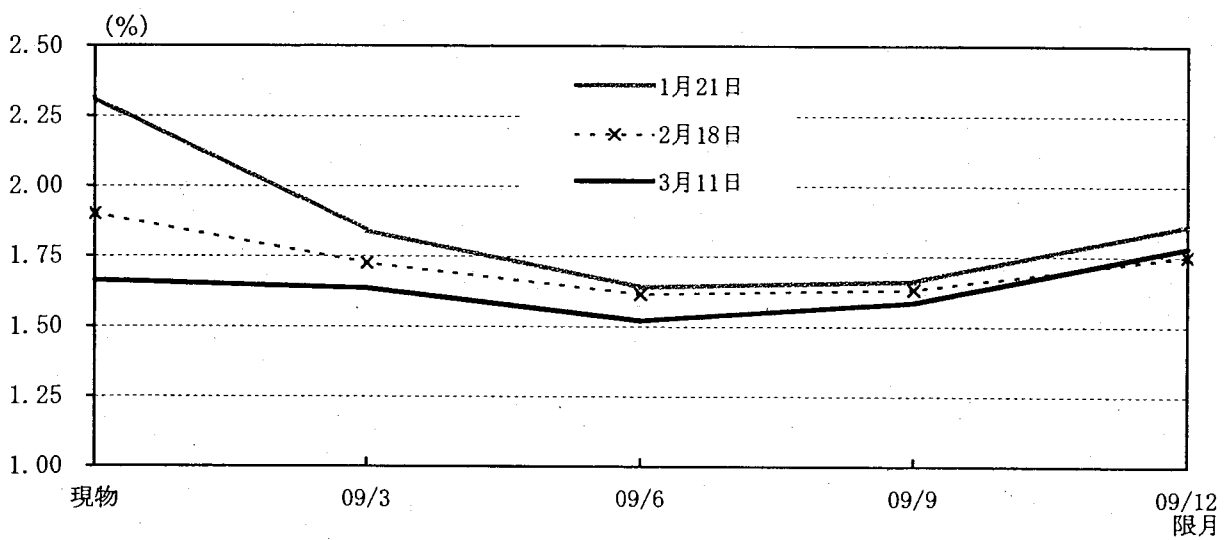
いずれも直近は3月11日

先行きの金利観 (ユーロエリア)

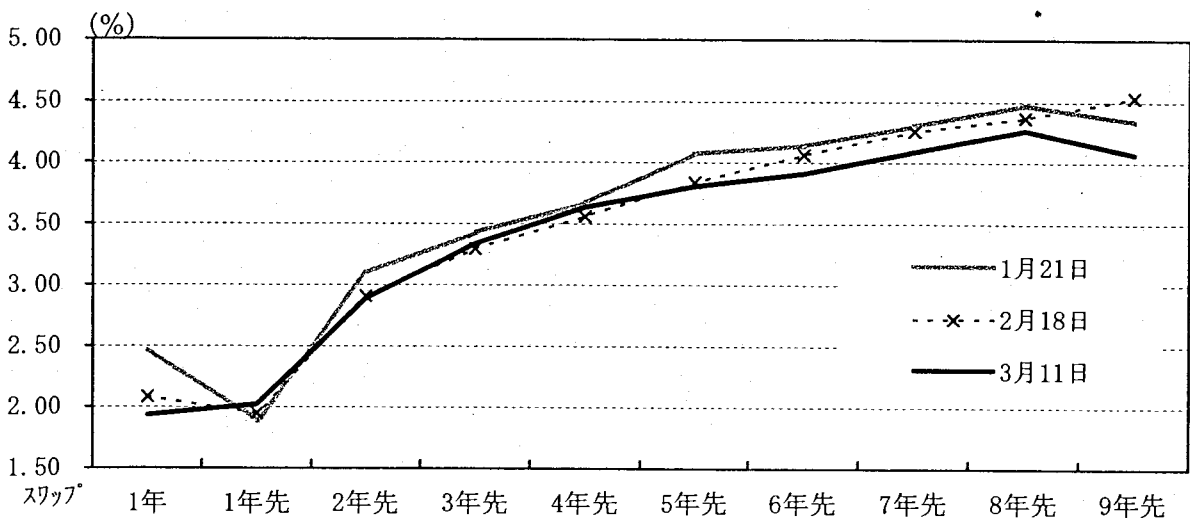
(1) EONIAスワップのインプライド・フォワード・レート (1か月物)



(2) Euribor先物金利 (3か月物)



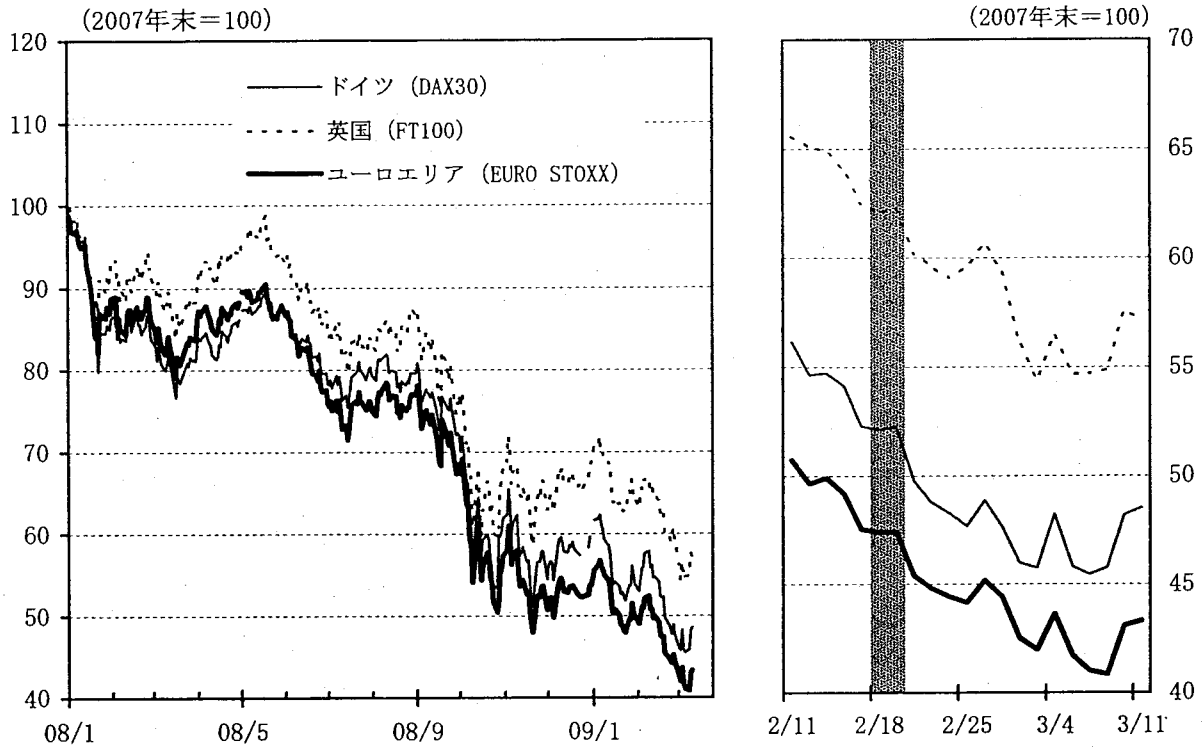
(3) インプライド・フォワード・レート (ユーロ・スワップ、1年物)



(出所) Bloomberg

株価 (欧州)

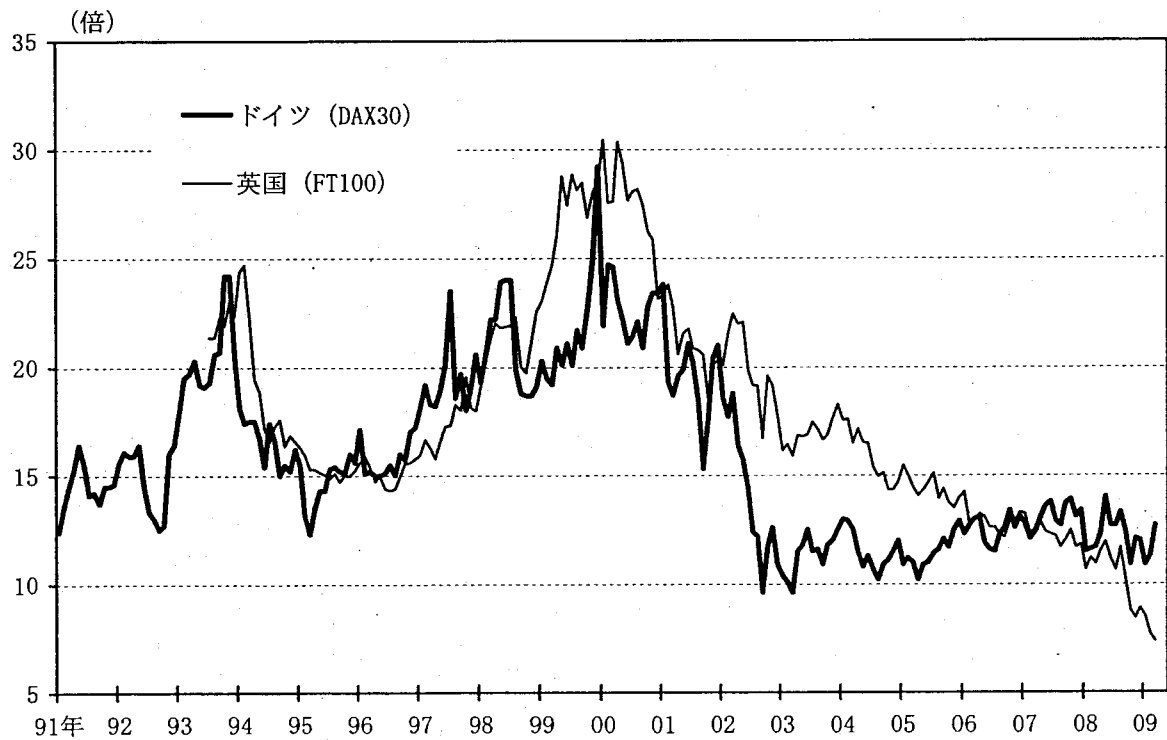
(1) 株価 (ユーロエリア・独・英)



(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

(2) 株価収益率 (PER、DAX30・FT100)



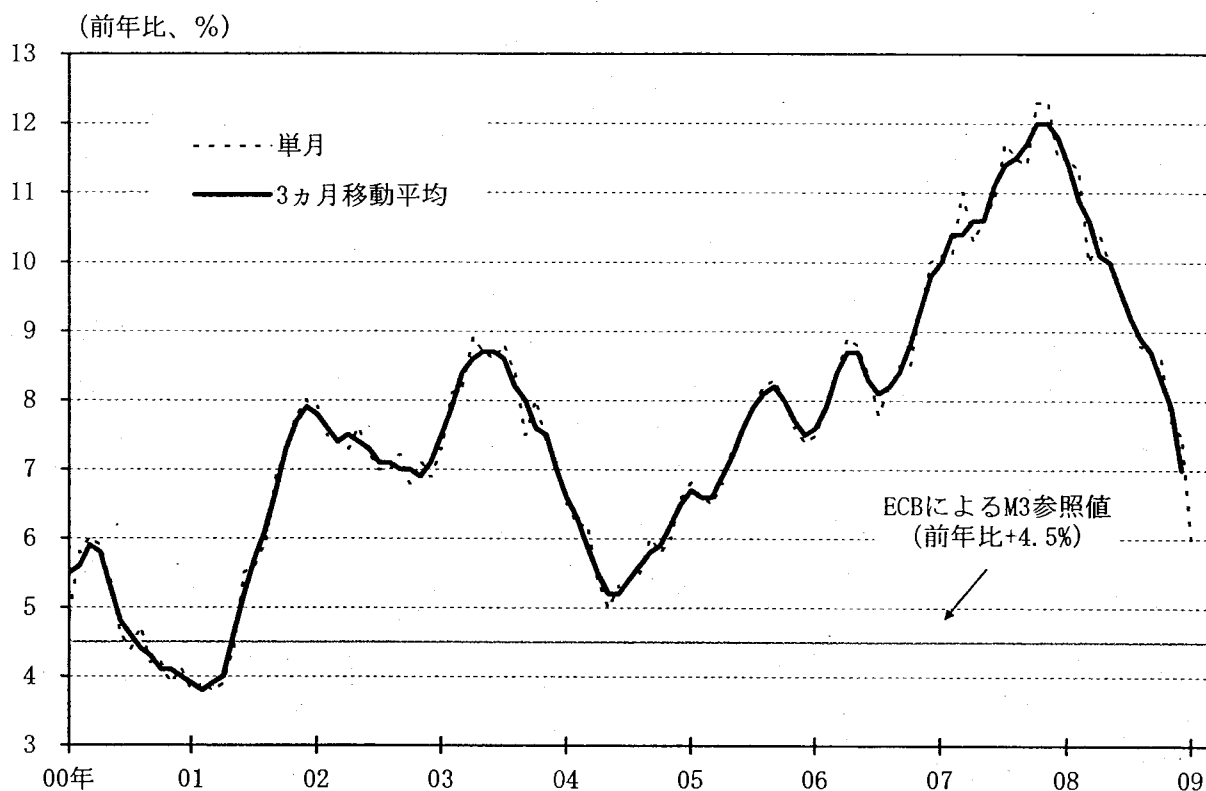
(注) DAX30のPERは予想収益ベース、FT100のPERは実績収益ベース。

(出所) Datastream

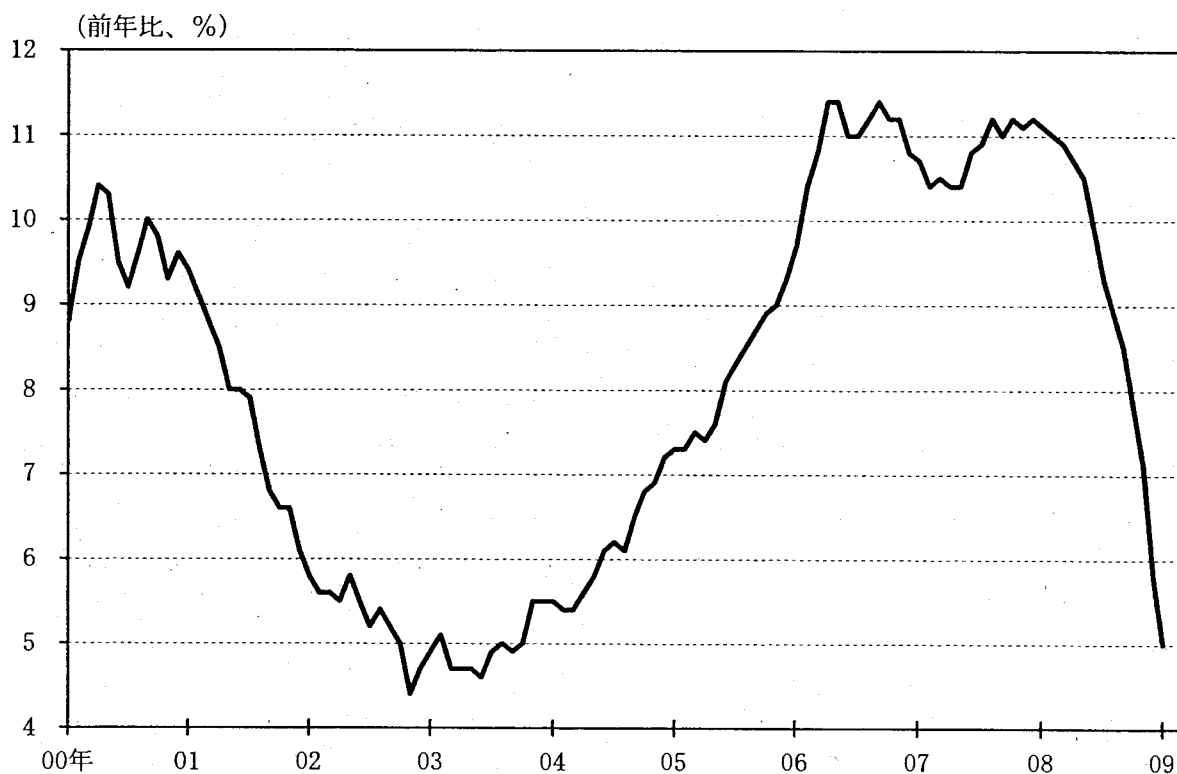
いずれも直近は3月11日

M3・貸出 (ユーロエリア)

(1) M3伸び率



(2) 対民間貸出伸び率

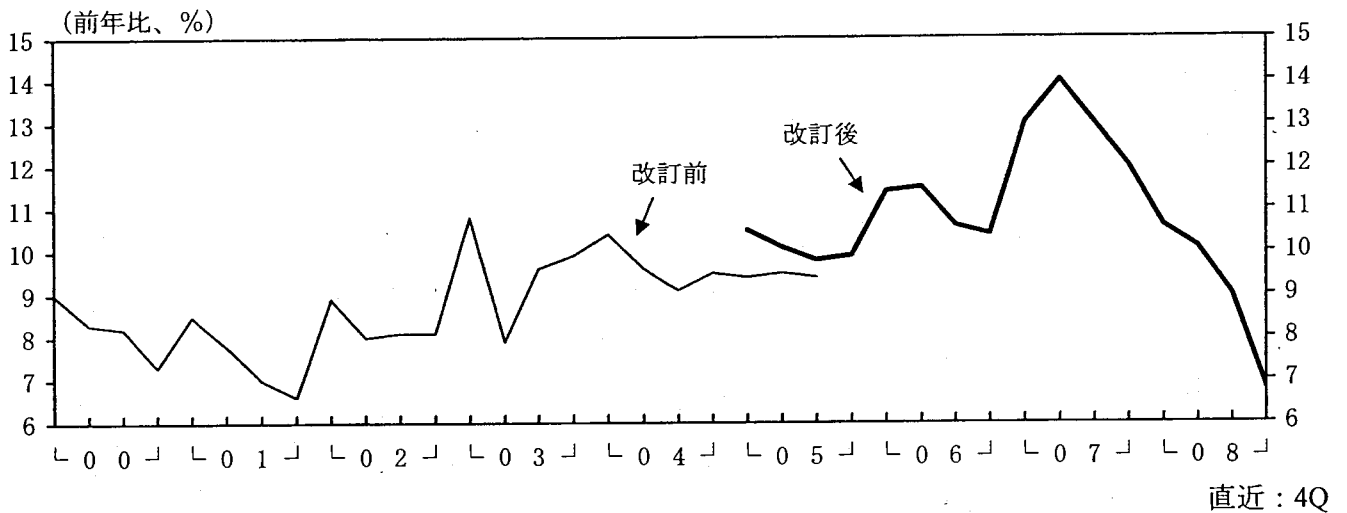


(出所) ECB

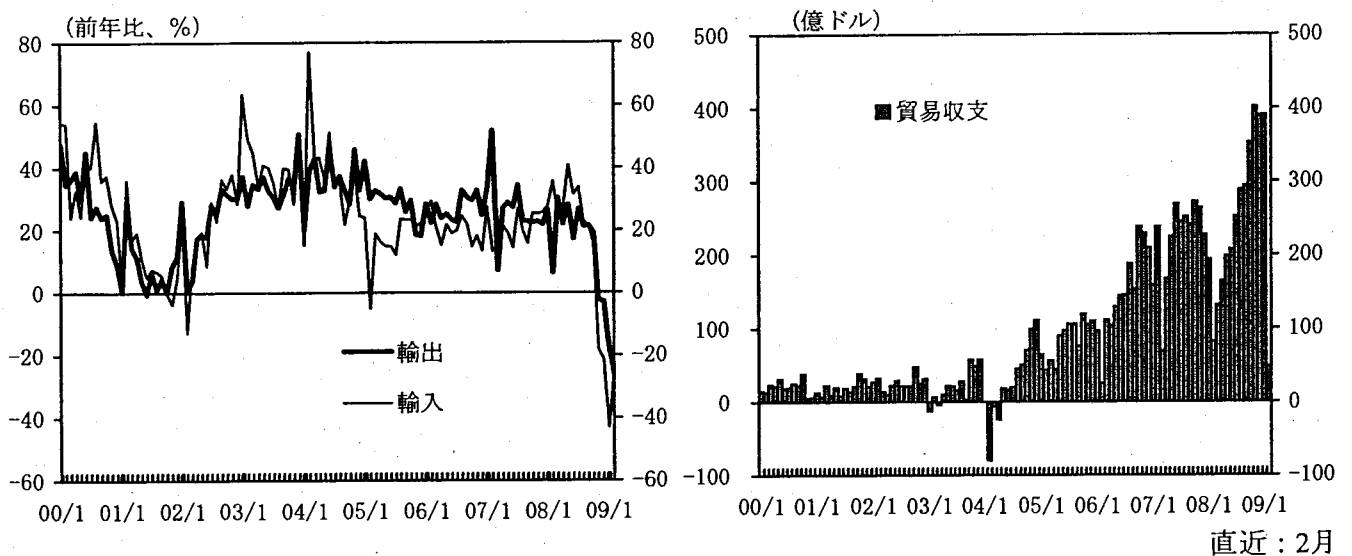
いずれも直近は1月

アジア諸国・地域の实体经济 中国(1)

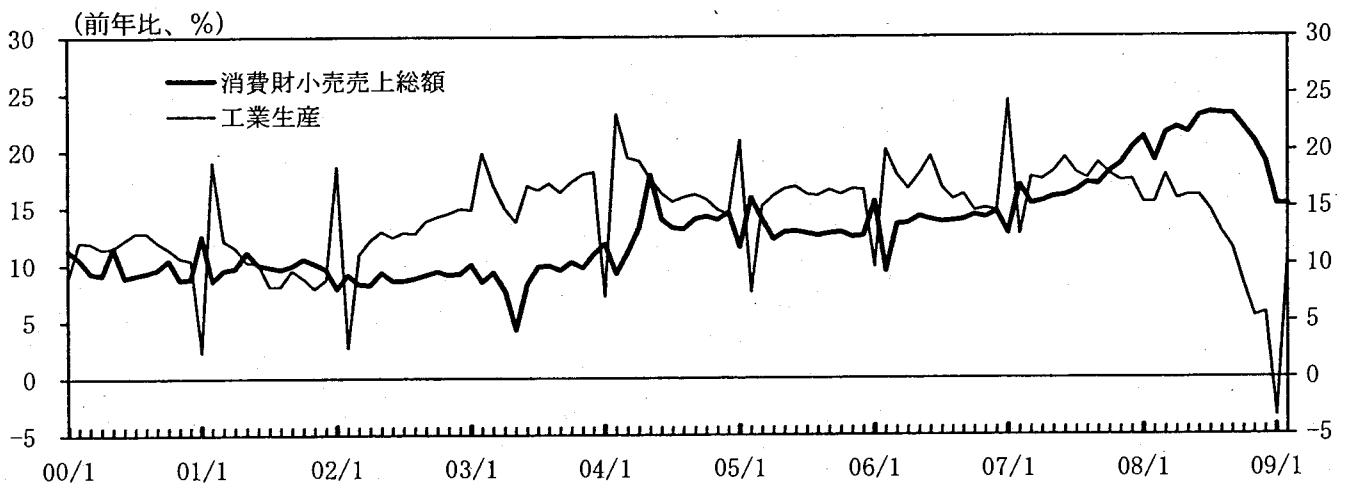
(1) 実質GDP



(2) 貿易



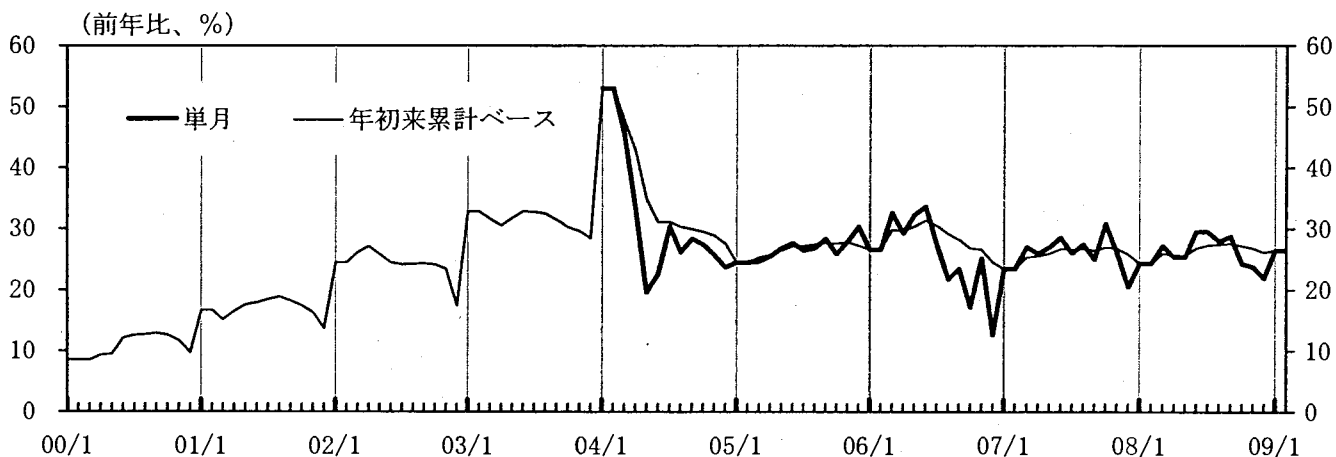
(3) 生産、個人消費



(注1) 1、2月の工業生産が大きく変動しているのは、旧正月要因。 直近：2月
(注2) 工業生産の2007年以降の1月は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。
(注3) 消費財小売売上総額の2009/1、2月は、1-2月累計値の前年比伸び率(単月の値は未公表)。

中国(2)

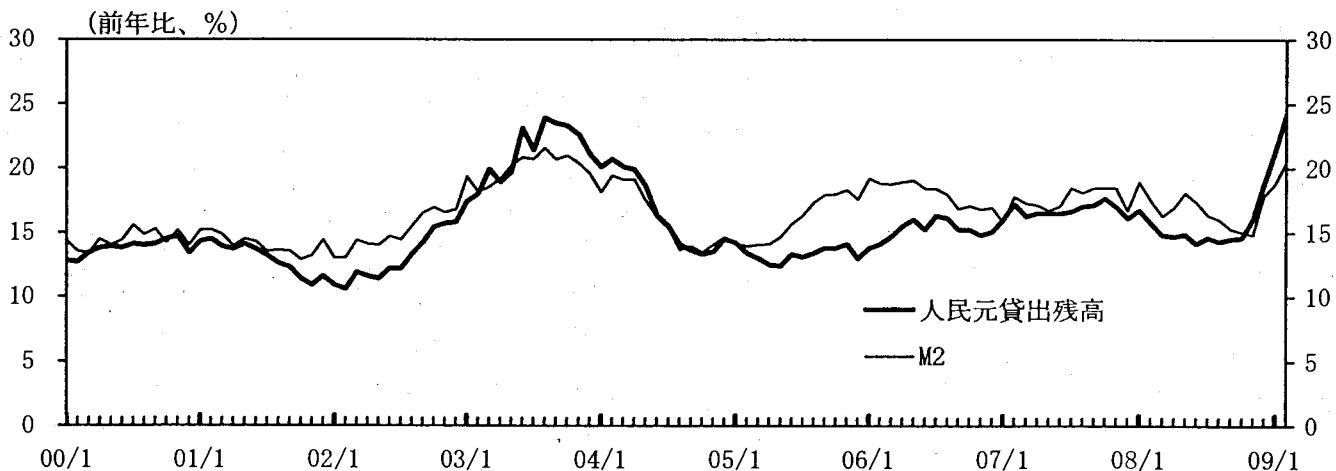
(1) 固定資産投資



直近：2月

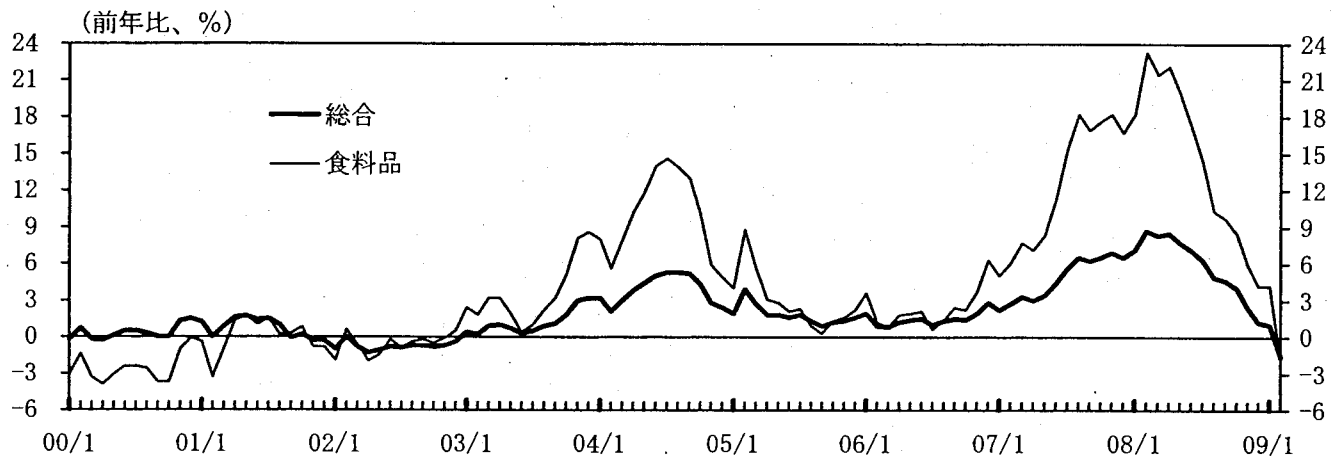
(注) 固定資産投資は、都市部。2003年までは、不動産開発を除き、都市部及び農村部の集団所有制企業と個人による投資を除外している。2004年以降は、都市部における50万元以上の全ての投資、不動産開発投資、都市の鉱工業区における民間住宅建設を含む。なお、1月単月の数値は公表されていないため、1~2月は等速と仮定している。

(2) M2と貸出



直近：2月

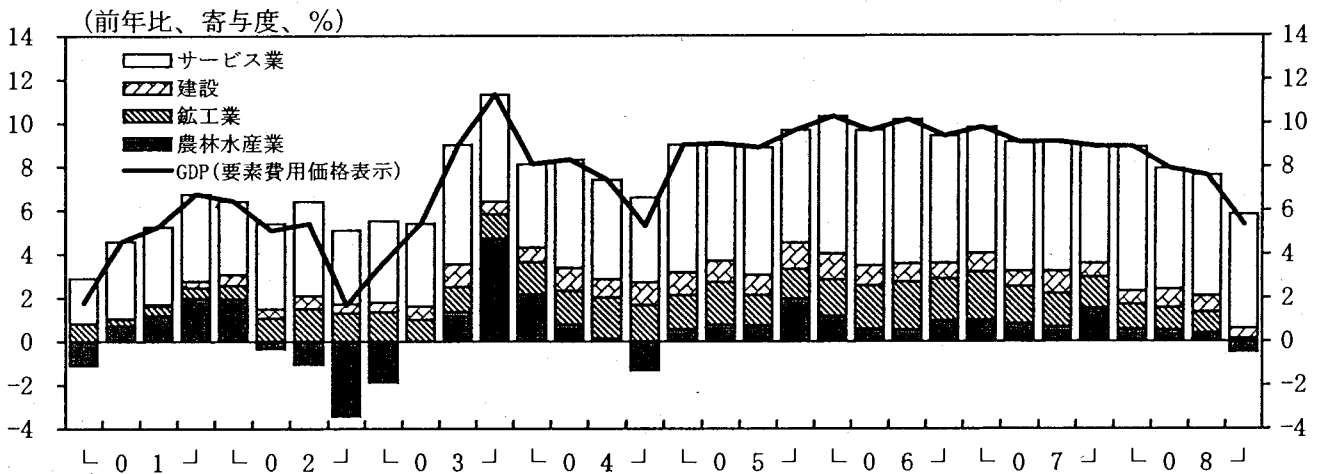
(3) 消費者物価



直近：2月

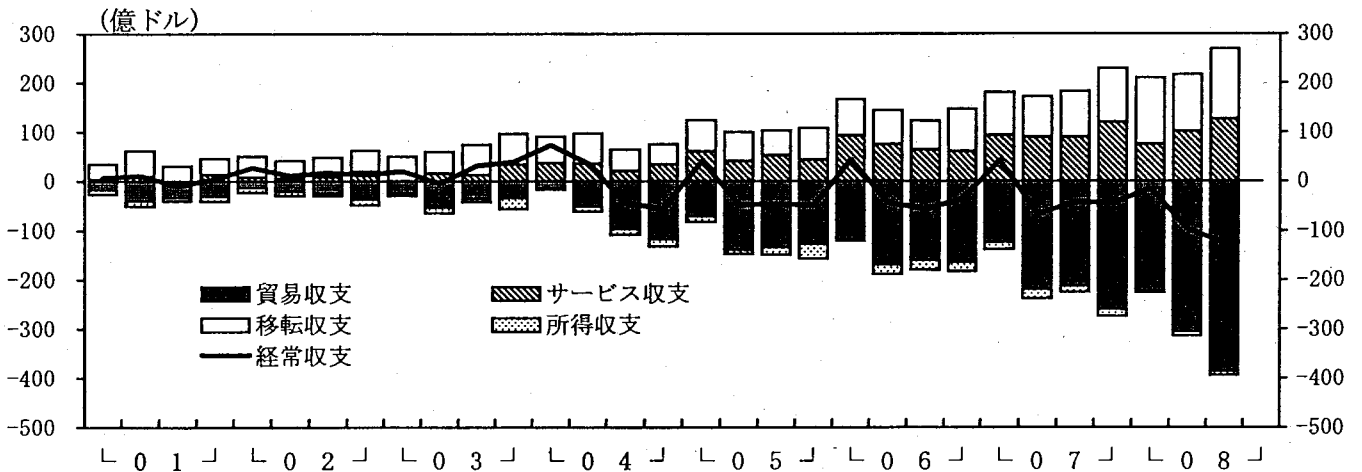
インド

(1) 実質GDP (産業別寄与度)



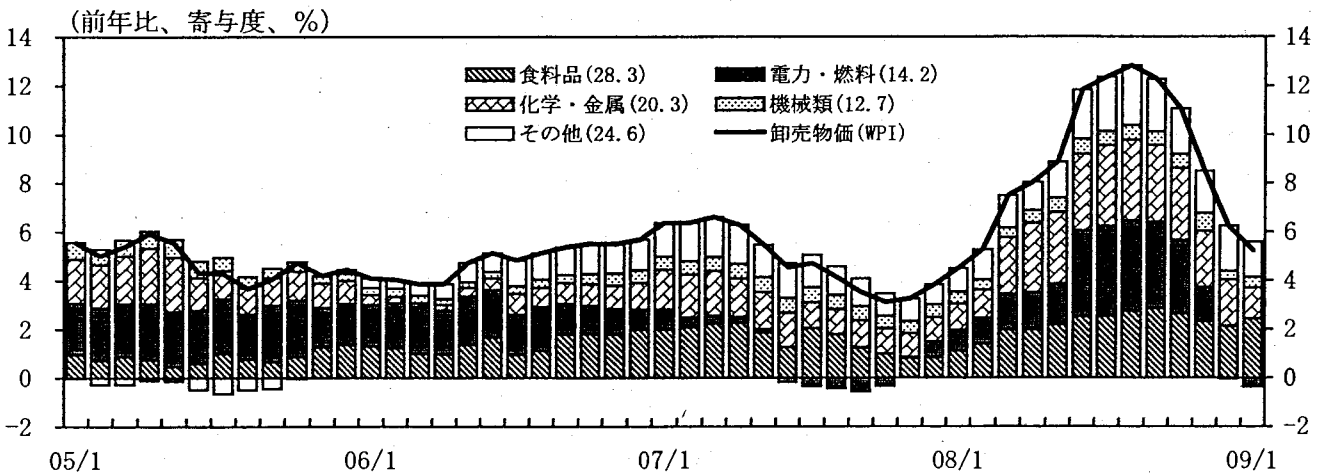
直近: 4Q

(2) 経常収支



直近: 3Q

(3) 卸売物価 (WPI)

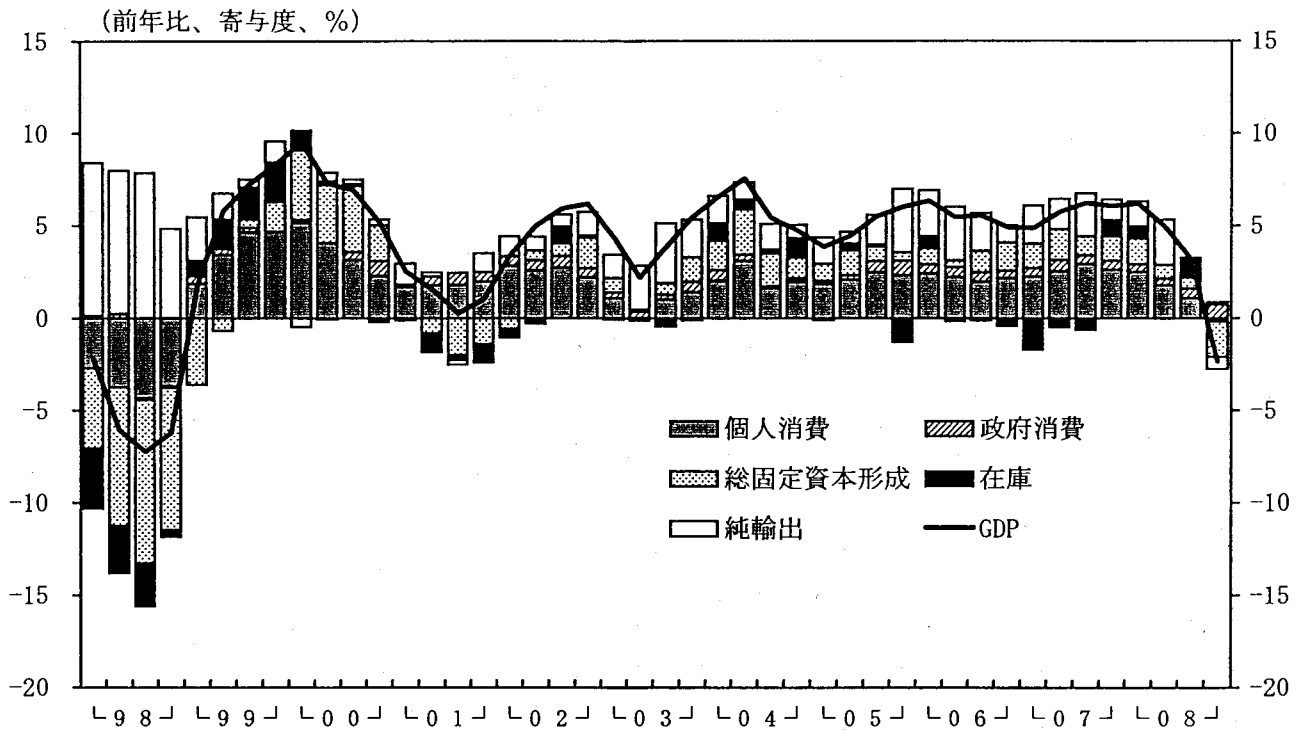


(注) 食料品には加工食品、飲料・タバコを含む。カッコ内はウエイト。

直近: 1月

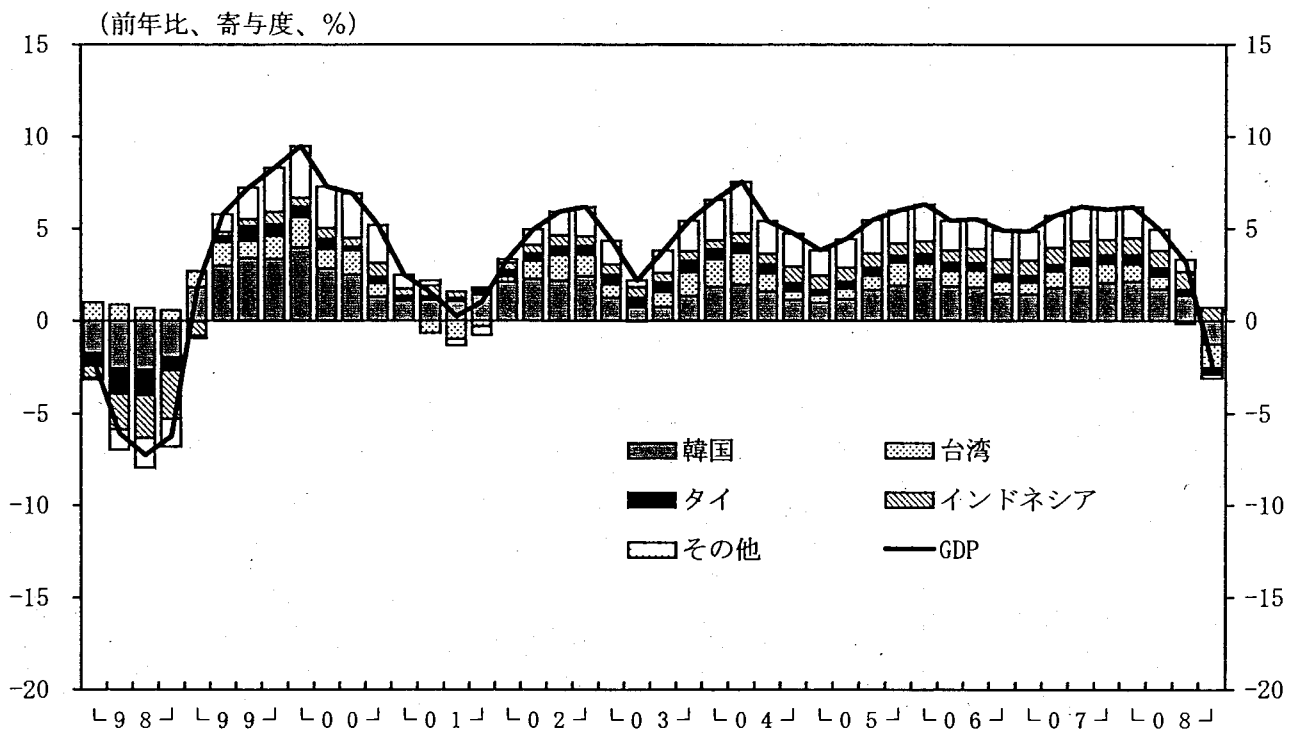
NIEs、ASEAN諸国・地域の実質GDP成長率

(1) NIEs、ASEAN (需要項目別寄与度)



(2) NIEs、ASEAN (国・地域別寄与度)

直近: 4Q



直近: 4Q

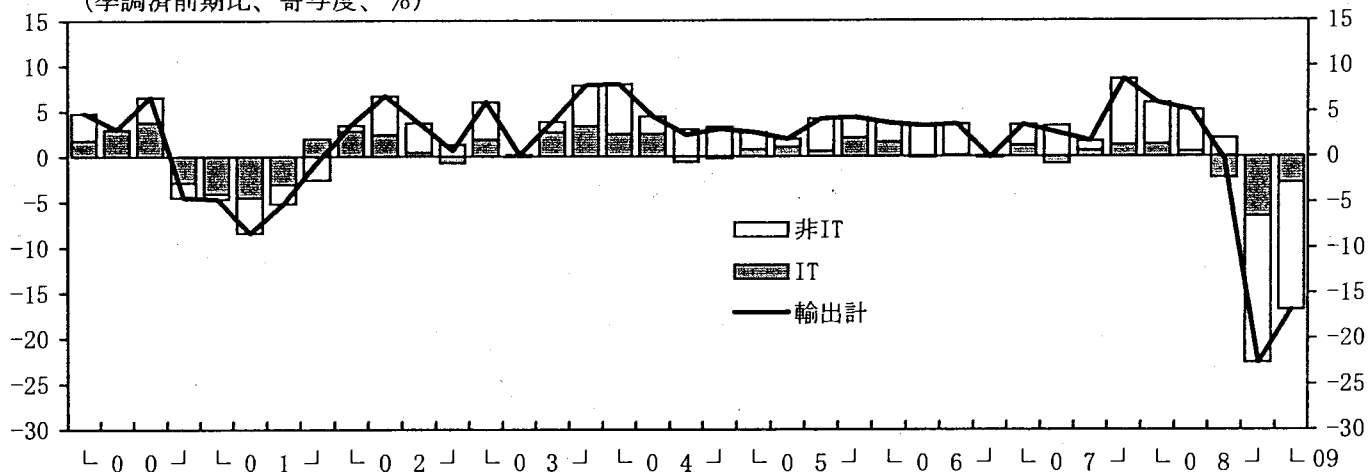
(注1) NIEs、ASEANは、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピンの前年比を各国の名目GDPウェイト(ドル建名目GDPの世界計に対する各国シェアの後方3年移動平均により算出)で加重平均した値。

(注2) GDP総額と需要項目別内訳合計の差は、誤差脱漏。

NIEs、ASEAN諸国・地域の輸出合成指数 (NIEs4・ASEAN4)

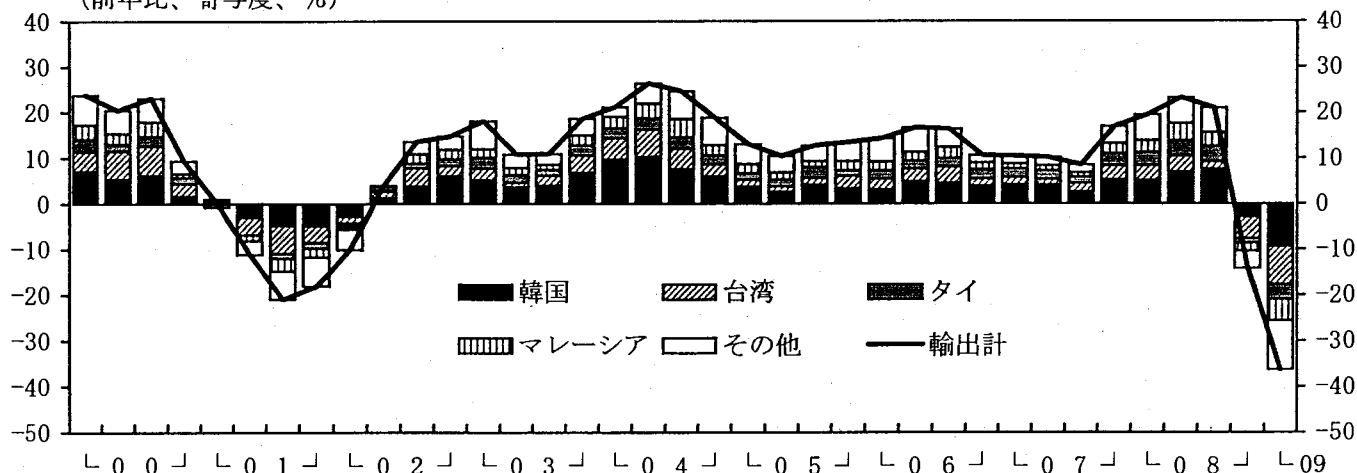
(1) 輸出全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



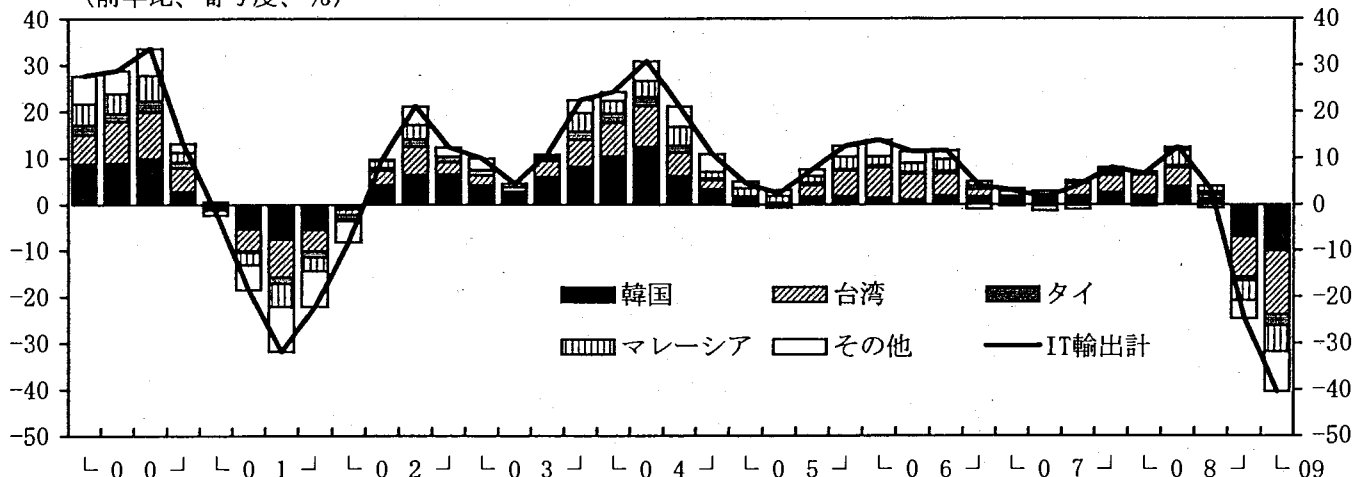
(2) 輸出全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連輸出 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近IQは、1月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、前月の前年比で横置きしている。

(注2) NIEs4は、韓国、台湾、シンガポール、香港、ASEAN4は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン。

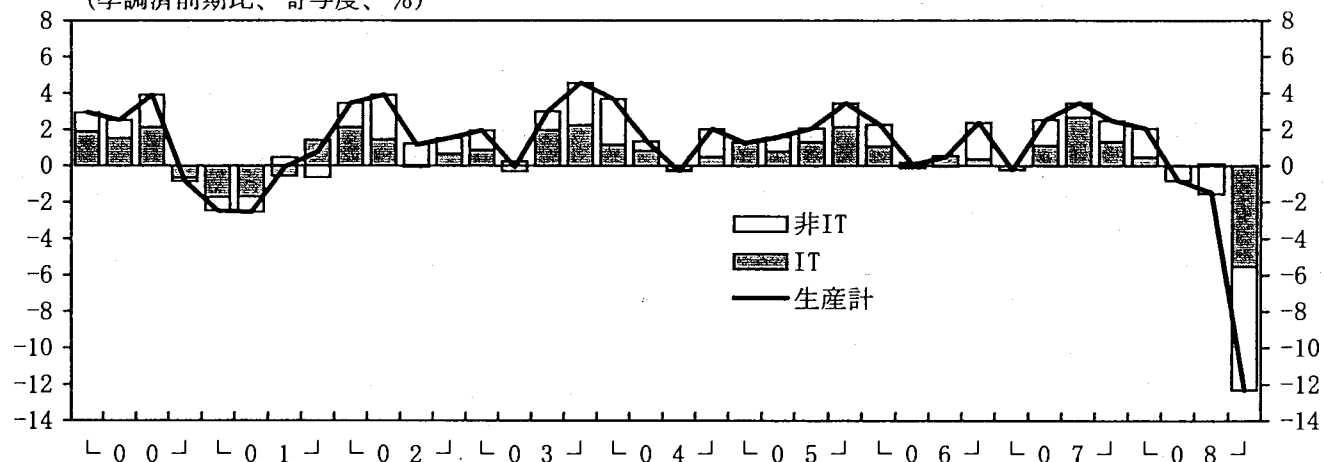
(注3) 季調済前期比は、X-12-ARIMAによる。IT輸出の寄与度は、X-12-ARIMAによる季調済のIT輸出金額を用いて算出し、非ITは輸出全体からIT輸出の寄与度を差し引いて算出した。

(注4) 全て金額ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の生産合成指数 (NIEs3・ASEAN3)

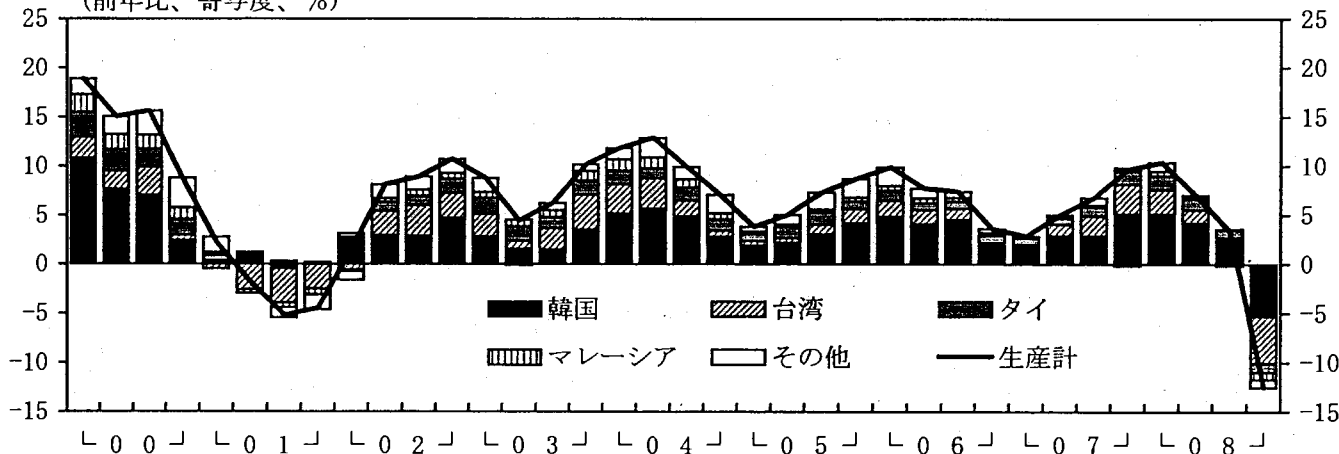
(1) 生産全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



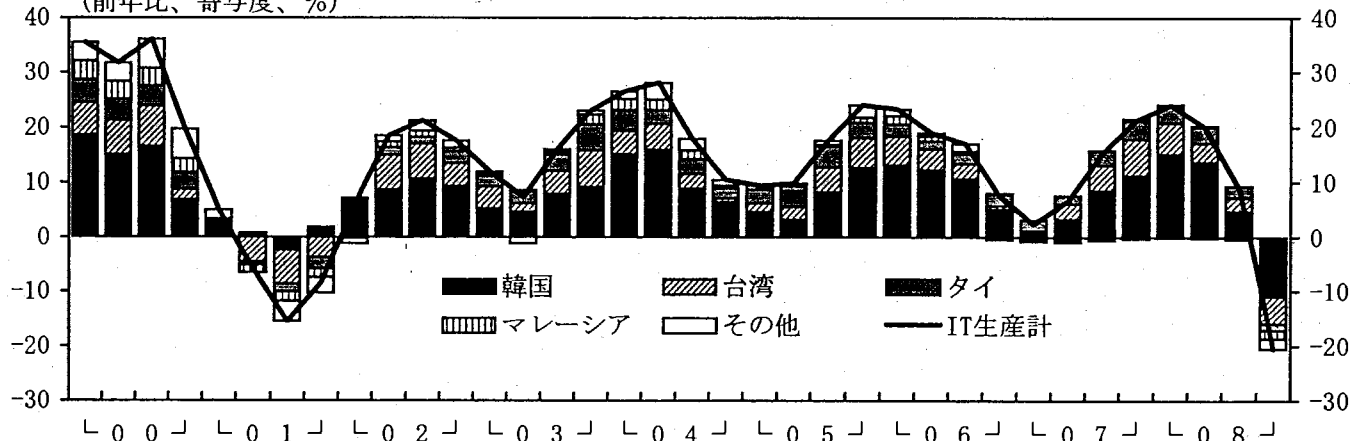
(2) 生産全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連生産 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近4Qは、10～12月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、未季調値は前月の前年比、季調値は前月の値で横置きしている。

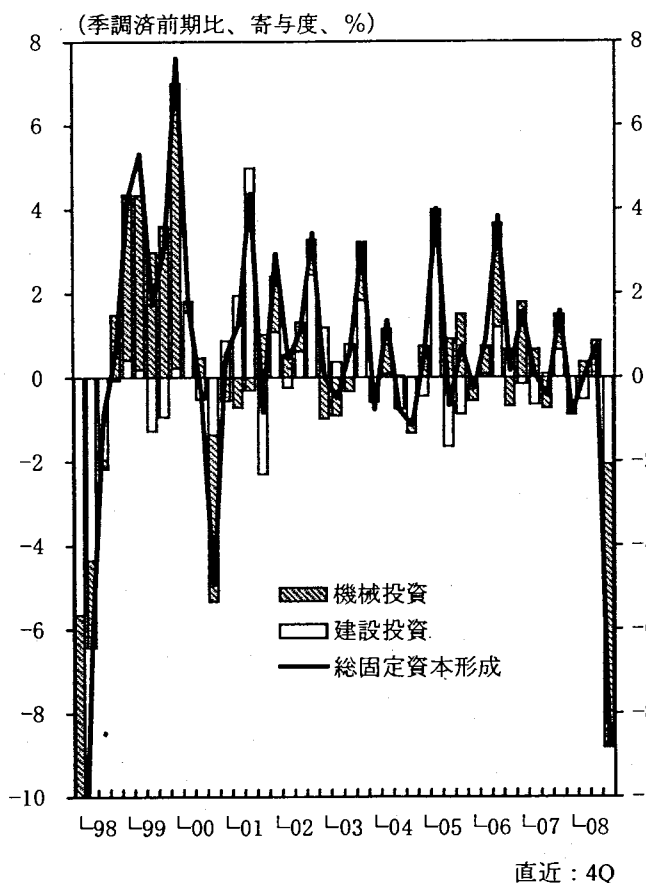
(注2) NIEs3は、韓国、台湾、シンガポール、ASEAN3は、タイ、マレーシア、フィリピン。

(注3) 全体の前期比は、各国・地域の季調済前期比を名目GDPウェイト(ドル建名目GDPの世界計に対する各国シェアの後方3年移動平均を用いて算出)で加重平均した値。現地統計で季調値が公表されていないデータは、X-12-ARIMAによる当局算出値。生産全体に対するITの内訳寄与度は、各国・地域の生産指数のIT関連品目の伸び率およびウェイトを用いて寄与度を計算し、それを名目GDPウェイトで加重平均して算出した。

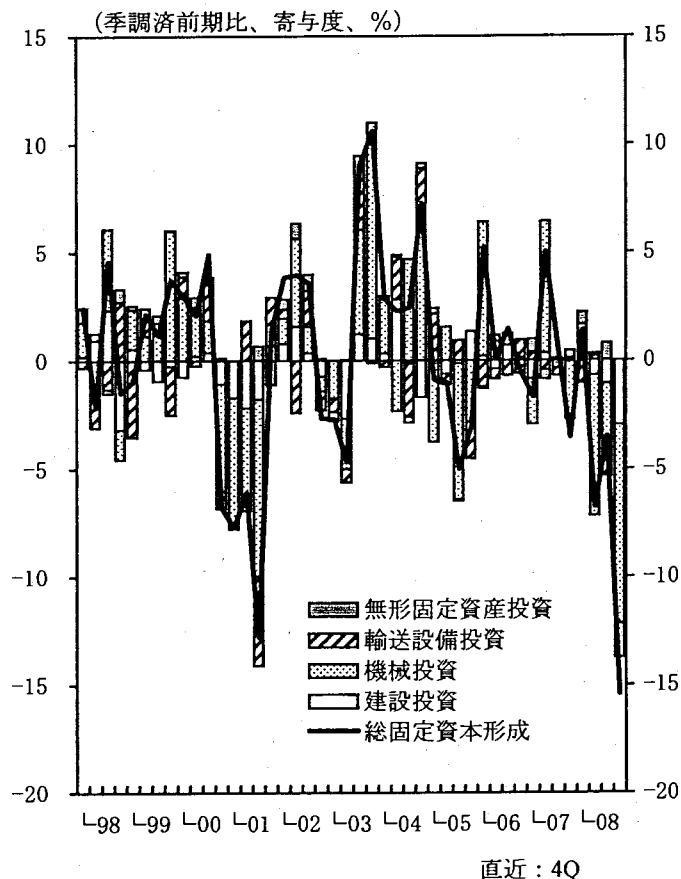
(注4) 全て数量ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の総固定資本形成、家計支出関連指標

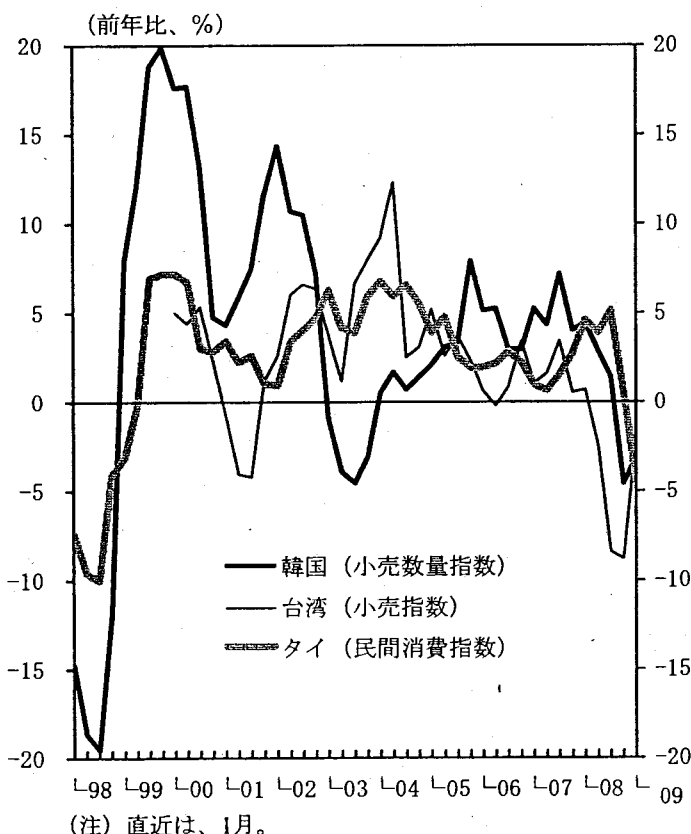
(1) 韓国の総固定資本形成



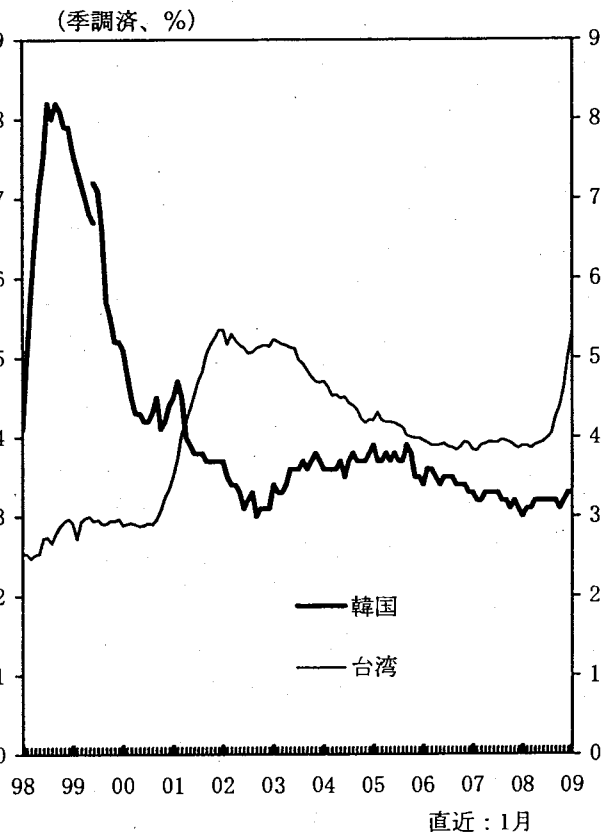
(2) 台湾の総固定資本形成



(3) 個人消費関連指標



(4) 失業率



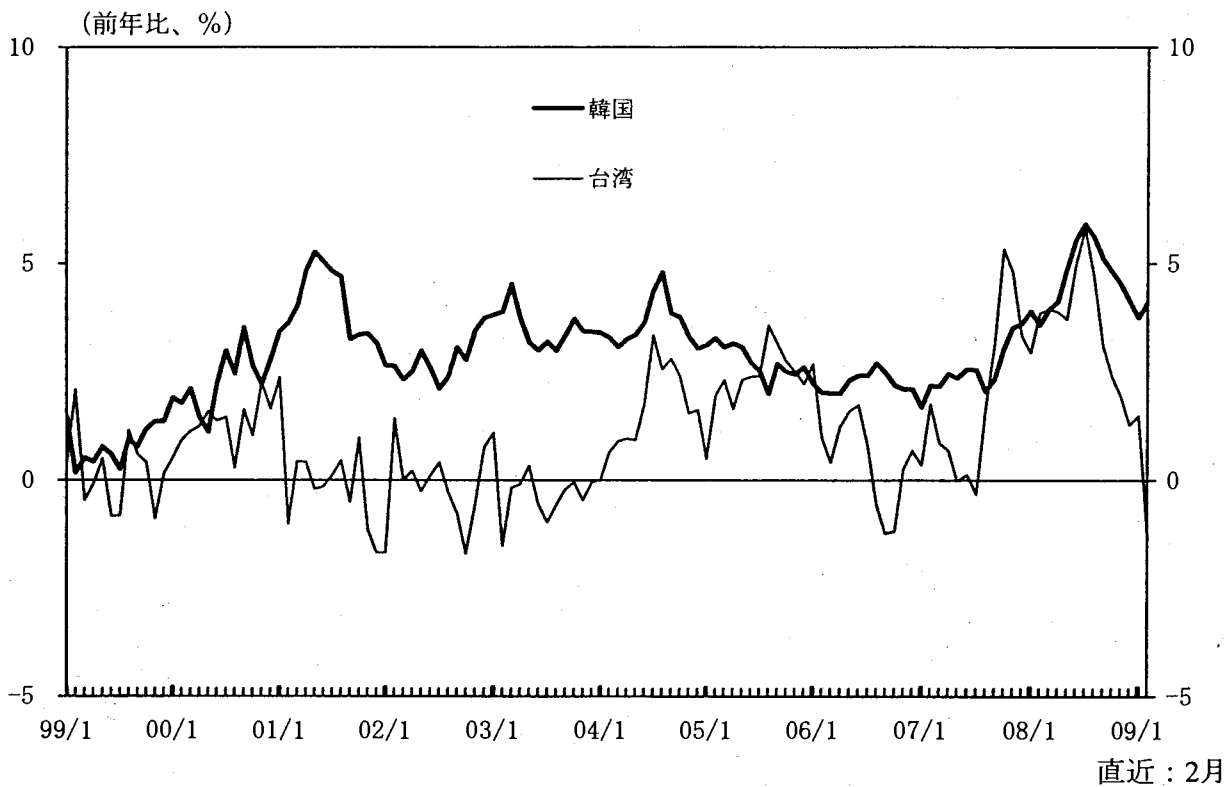
(注1) 季節調整値は、台湾の総固定資本形成はX-11を用いて当局で算出、その他は現地統計。

(注2) 韓国の失業率は、調査内容の変更により、1999/5月時点で不連続となっている。1999/5月までは調査日から過去1週間の、それ以降は過去4週間の求職活動の有無について調査している。

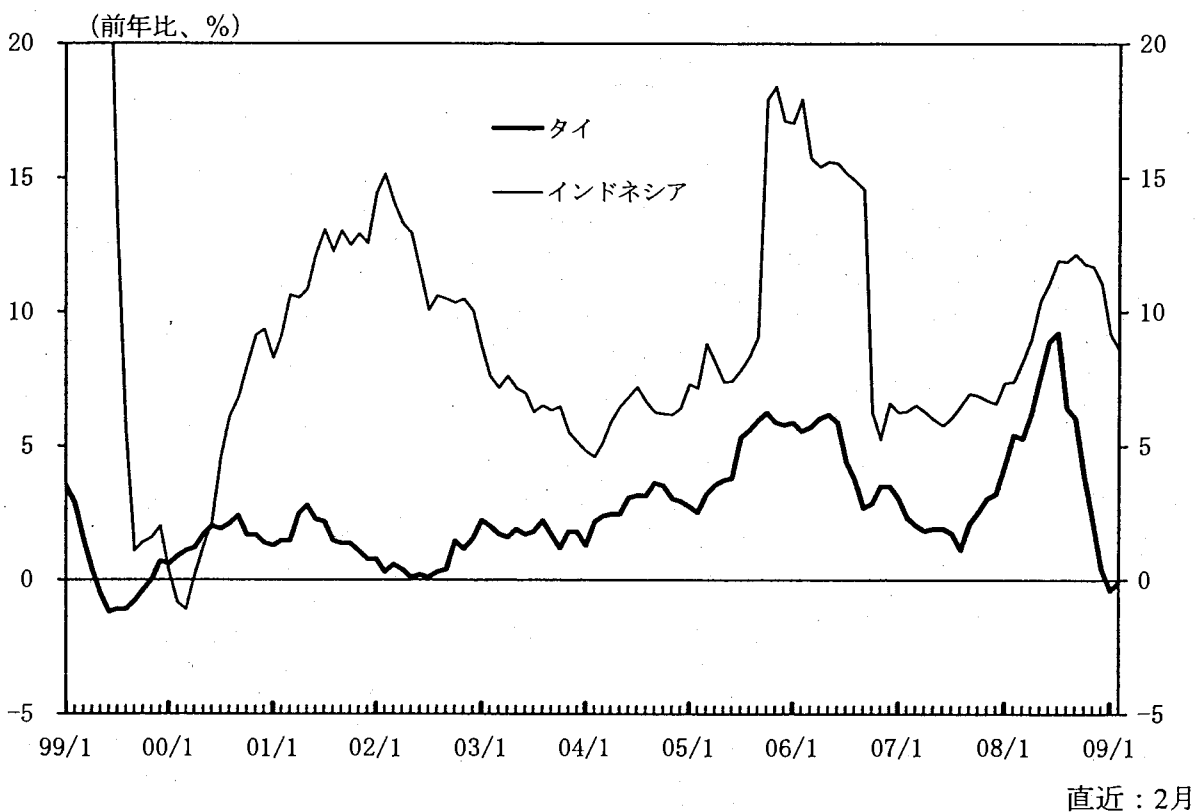
(注3) タイの個人消費は、1999年までは1995年基準値、2000年以降は2000年基準値。

NIEs、ASEAN諸国・地域の消費者物価

(1) NIEs (韓国・台湾)

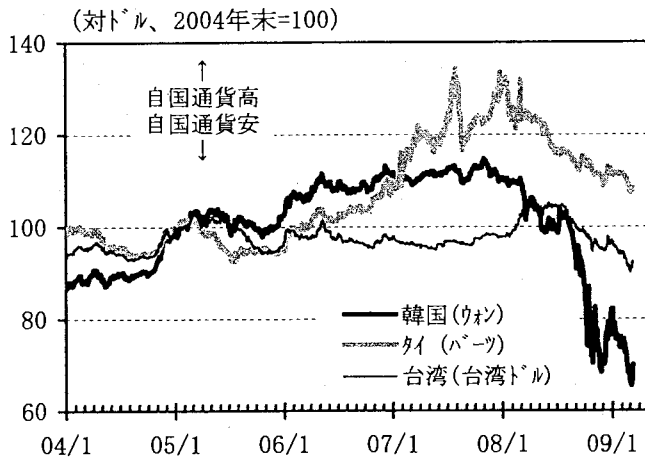


(2) ASEAN (タイ・インドネシア)

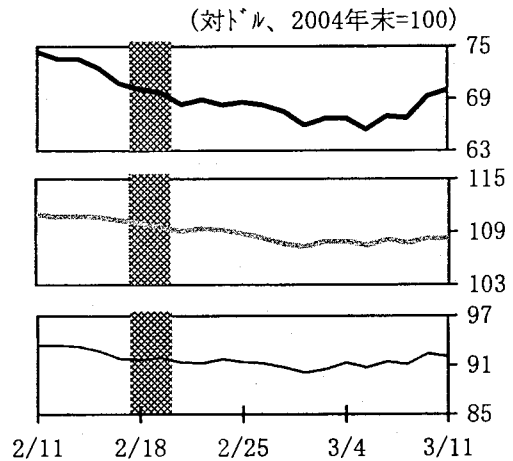


エマージング諸国・地域の金融市場 通貨(1)

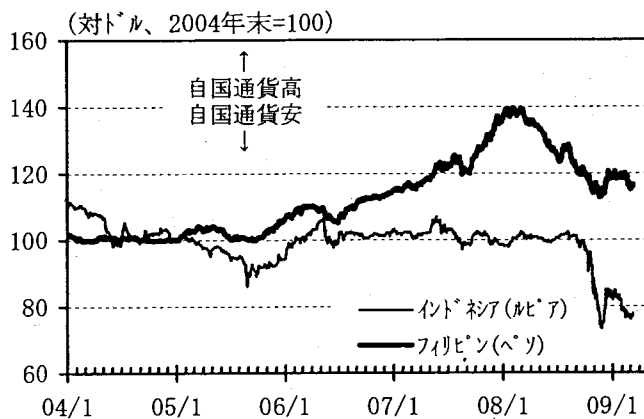
(1) 韓国、台湾、タイ



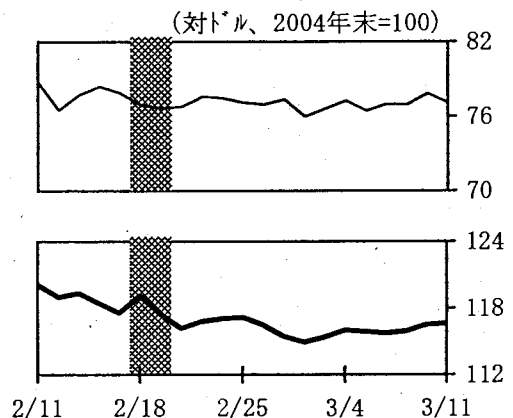
<最近の動き>



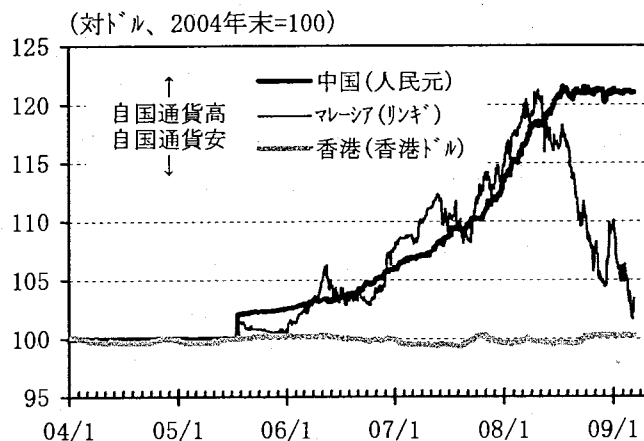
(2) インドネシア、フィリピン



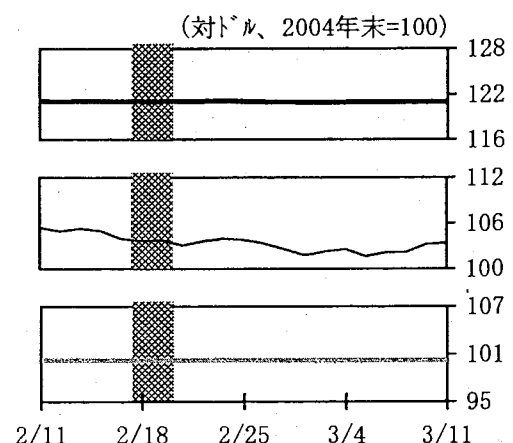
<最近の動き>



(3) 中国、香港、マレーシア



<最近の動き>



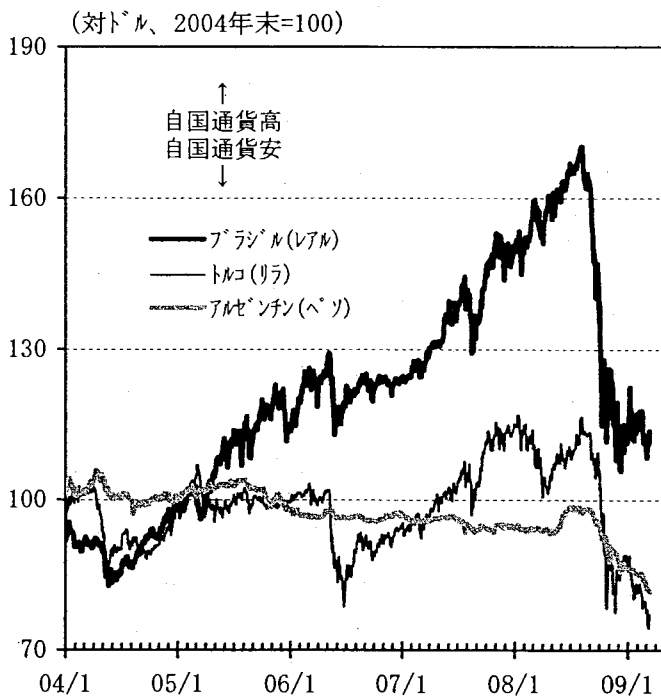
(出所) Bloomberg (注1) シャドーは前回会合。

いずれも直近は3月11日

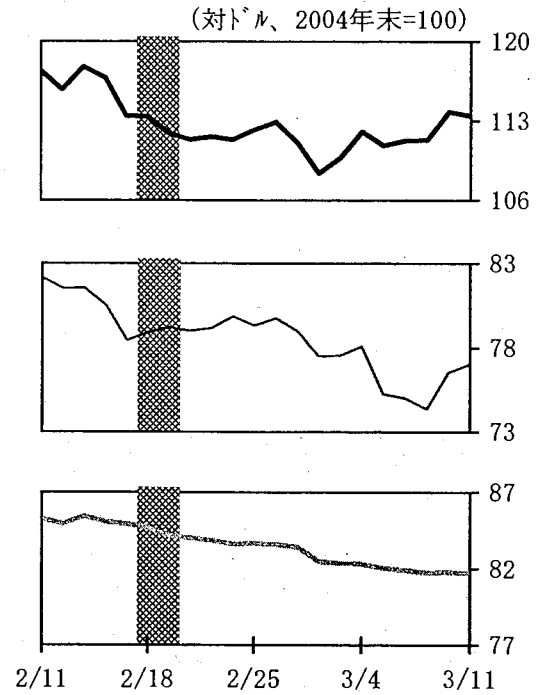
(注2) タイ・バーツは07年1月31日よりオフショア市場でのレートを用いている。

通貨(2)

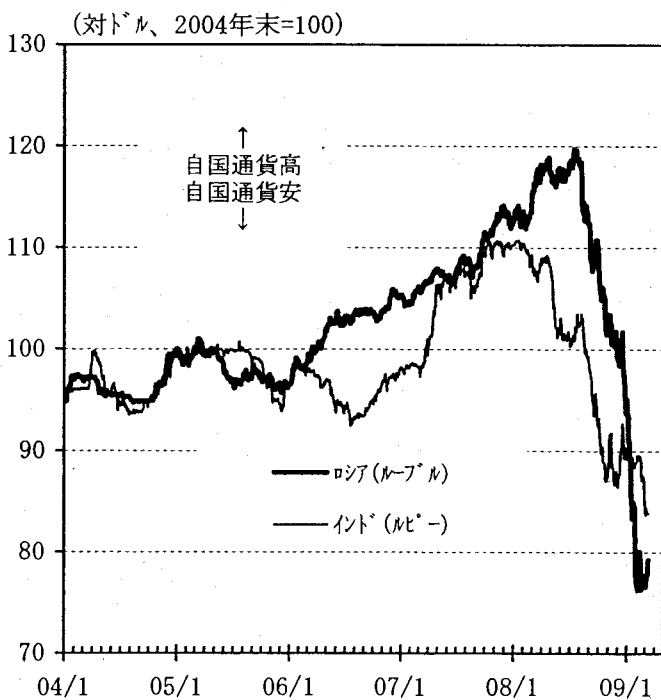
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



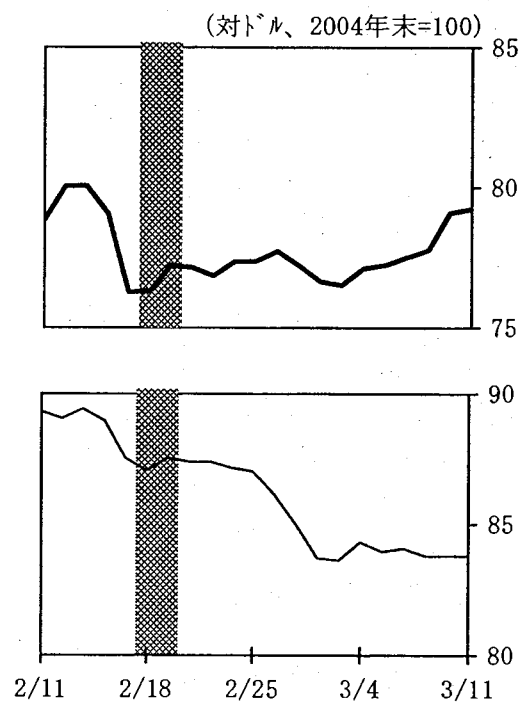
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>



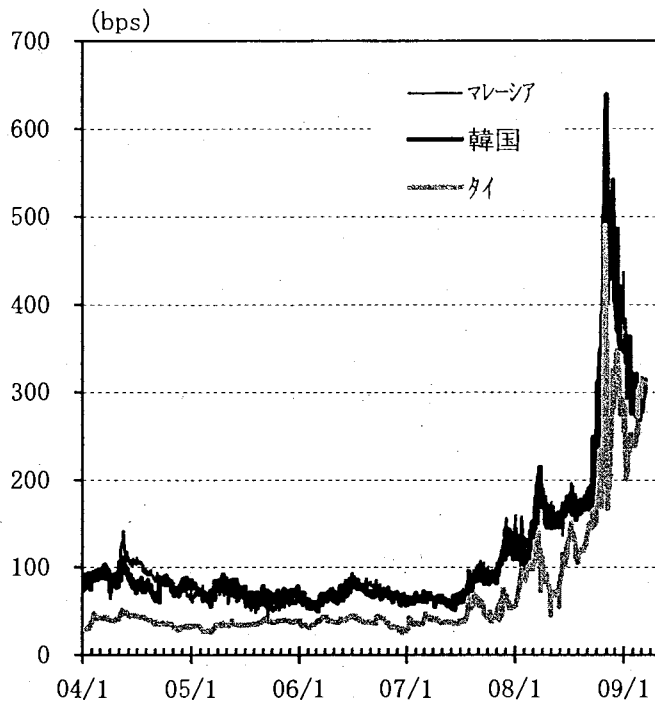
(出所) Bloomberg

(注) シャドーは前回会合。

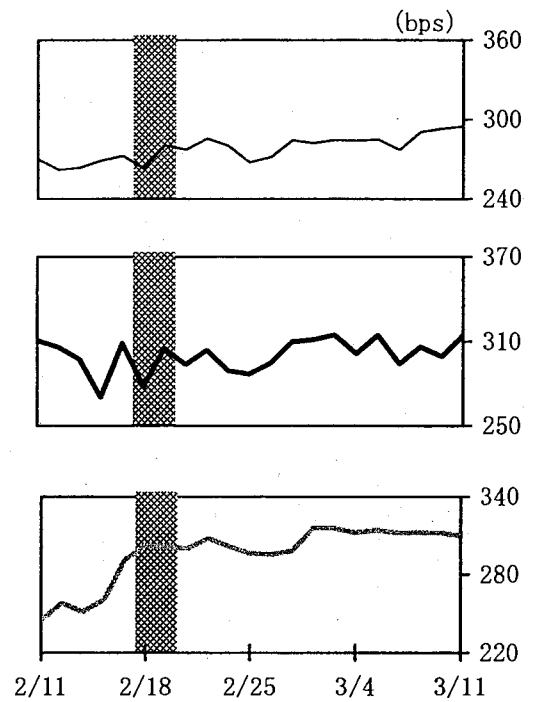
いずれも直近は3月11日

対米国債スプレッド (1)

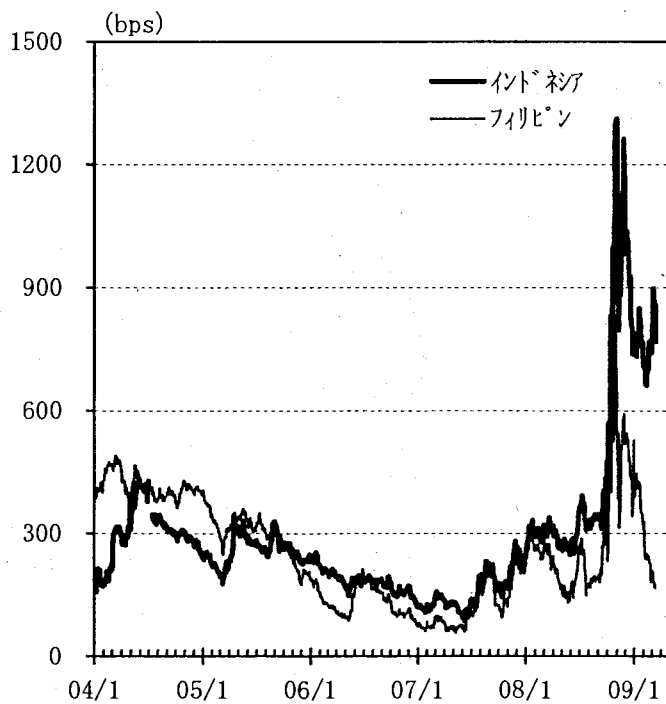
(1) 韓国、タイ、マレーシア



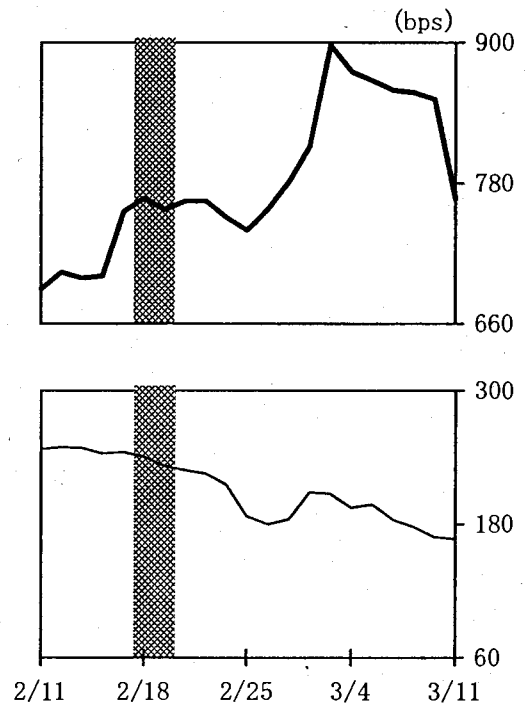
<最近の動き>



(2) インドネシア、フィリピン



<最近の動き>



(出所) Bloomberg (注1)シャドーは前回会合。

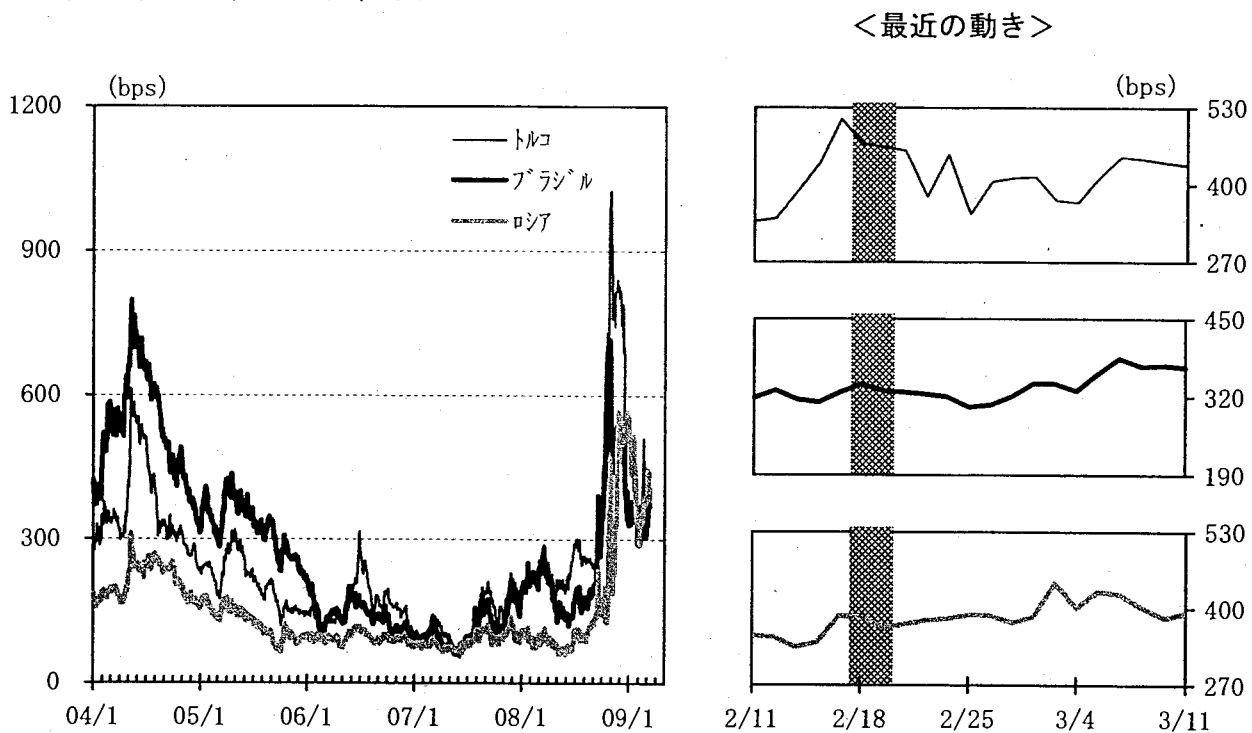
(注2)04年1月1日~04年3月2日までのインドネシア国債利回りはメリルリンチ社のデータによる。

(注3)タイは5年物CDSで代用。

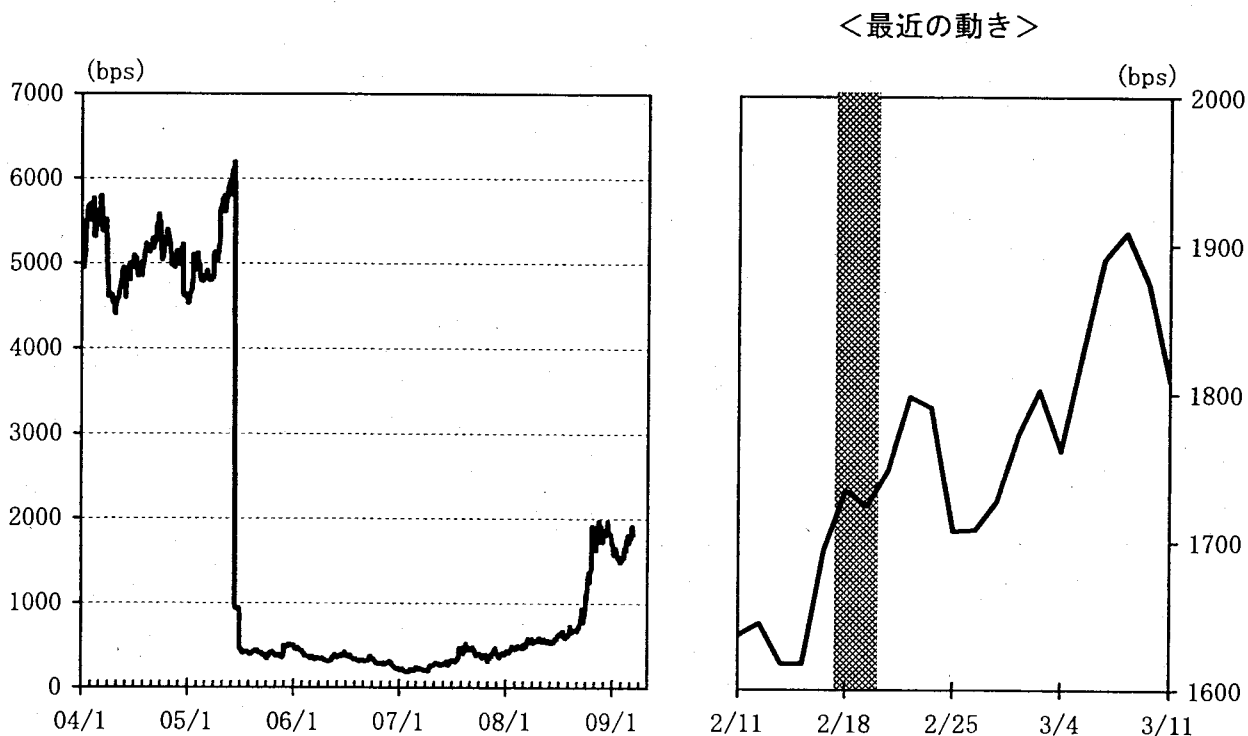
いずれも直近は3月11日

対米国債スプレッド (2)

(3) ブラジル、ロシア、トルコ



(4) アルゼンチン



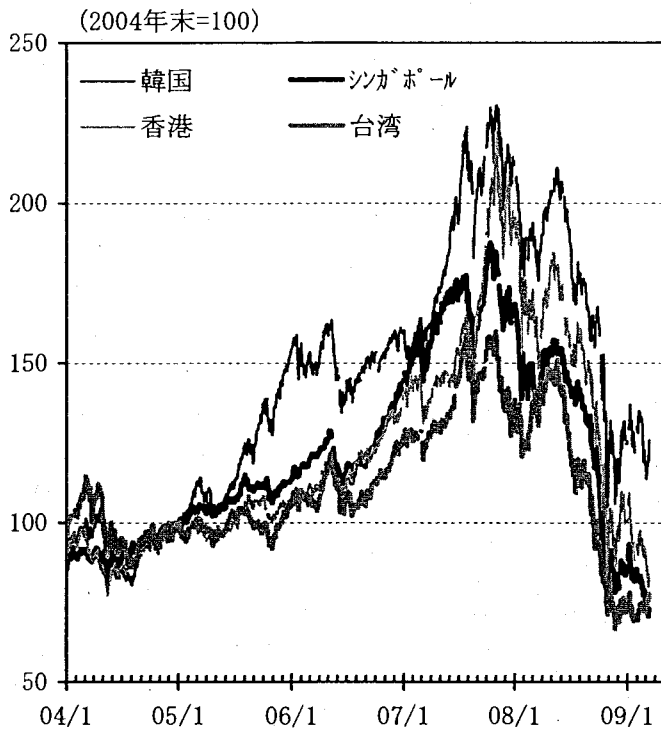
(出所) Bloomberg、J.P. Morgan (注1) シャドーは前回会合。

(注2) アルゼンチンはEMBI Global。

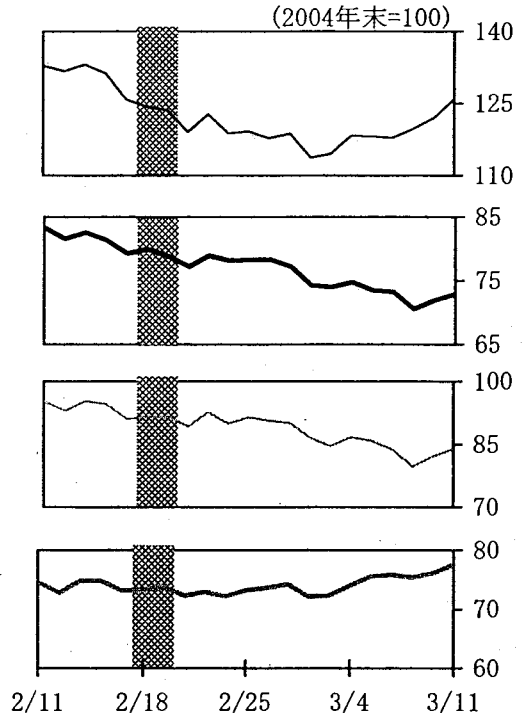
いずれも直近は3月11日

株価(1)

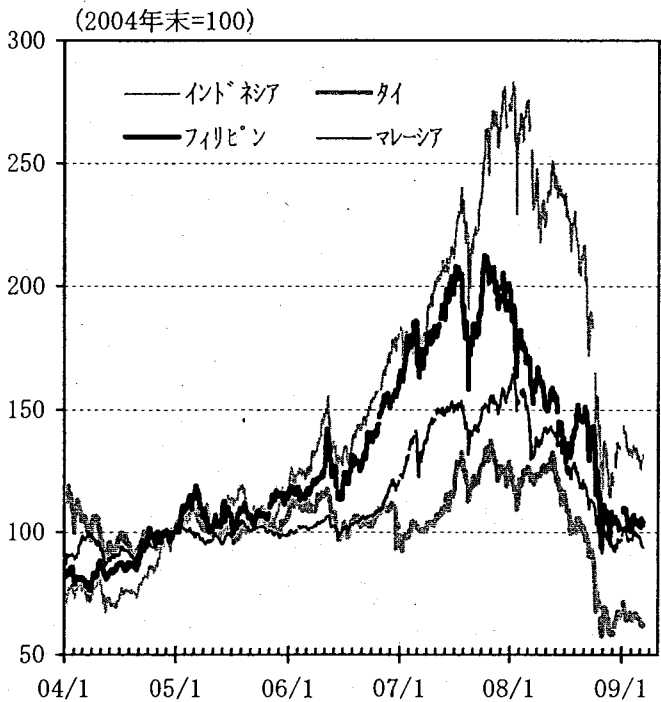
(1) NIEs



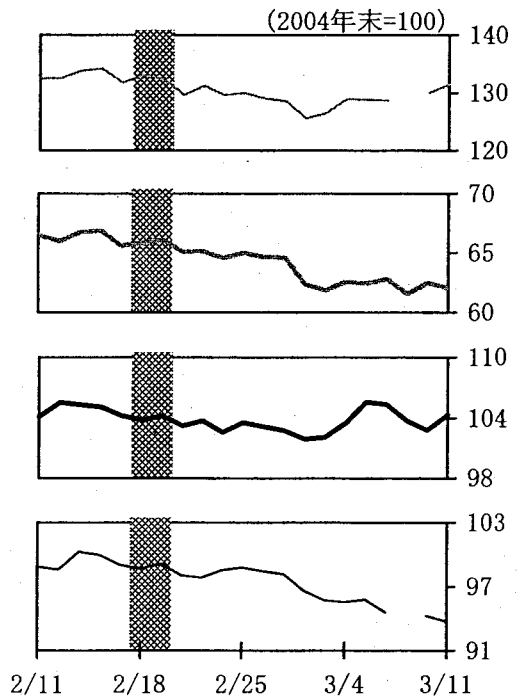
<最近の動き>



(2) ASEAN



<最近の動き>



(出所) Datastream (注) シャドローは前回会合。

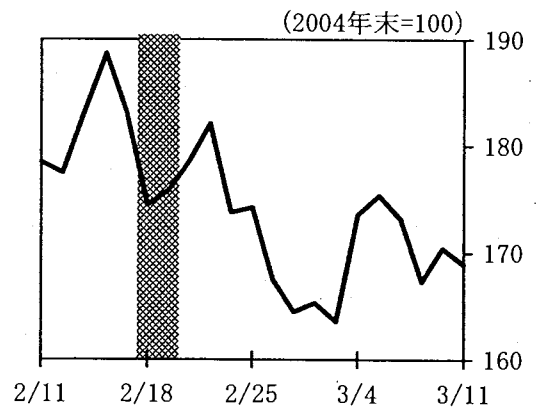
いずれも直近は3月11日
(休場: インドネシア, マレーシア3/9)

株価(2)

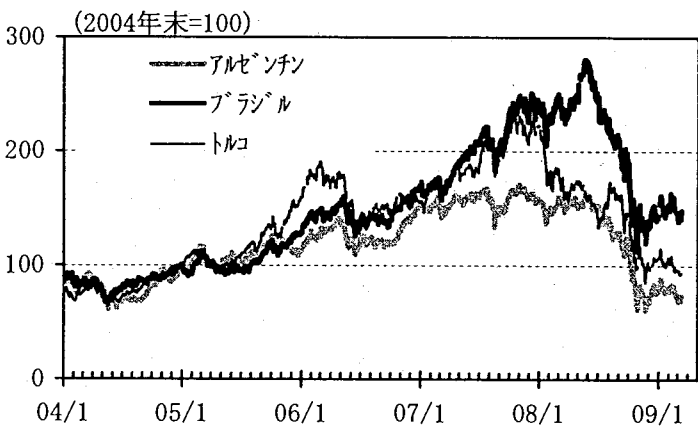
(3) 中国(上海総合)



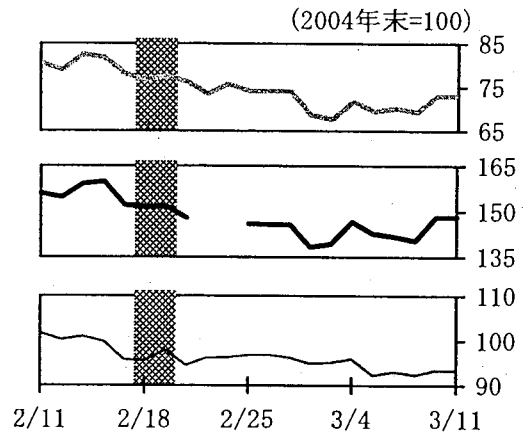
<最近の動き>



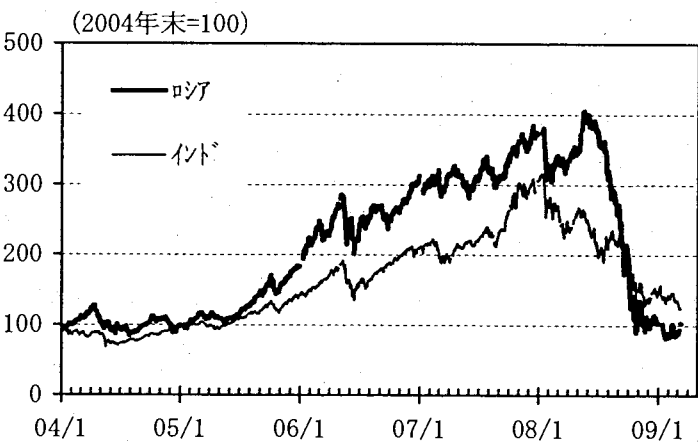
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



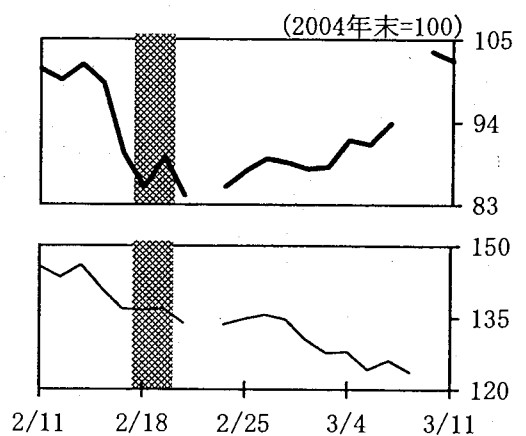
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>



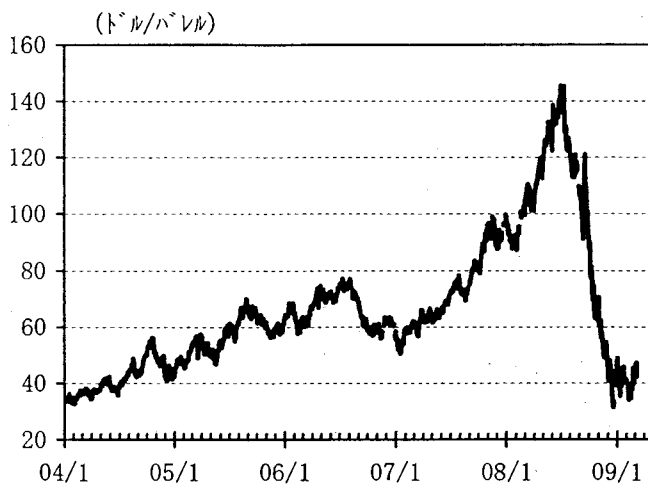
(出所) Datastream (注) シャドーは前回会合。

いずれも直近は3月11日

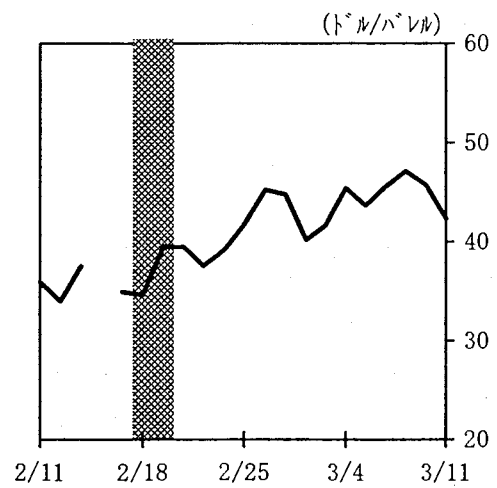
(休場: ブラジ 2/23-24、ロシア 2/23、3/9、インド 2/23、3/10-11)

商品

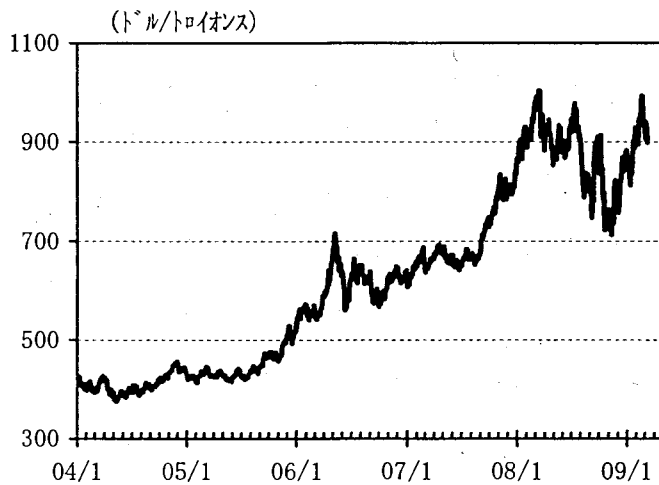
(1) 原油 (WTI)



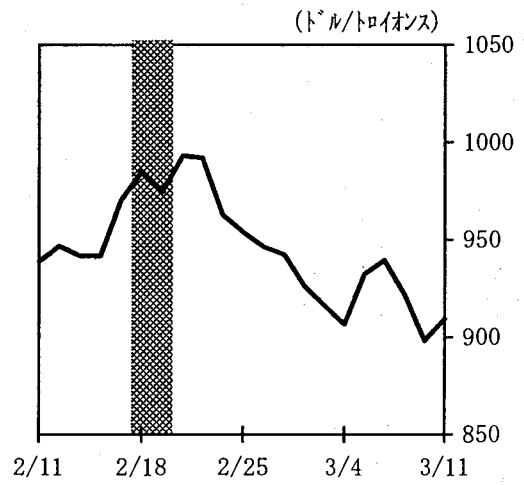
<最近の動き>



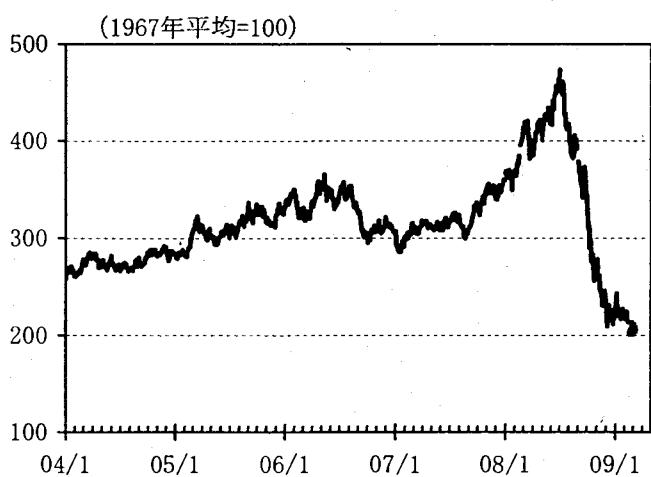
(2) 金



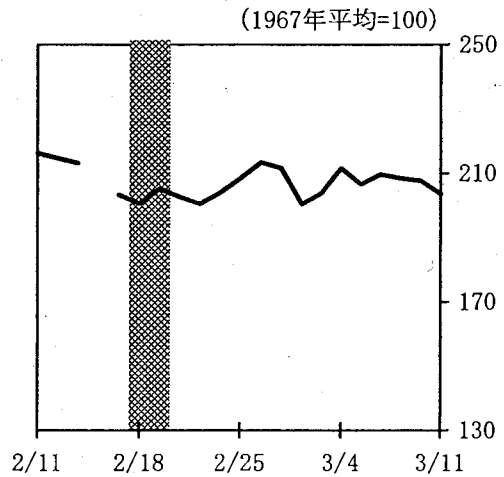
<最近の動き>



(3) CRB商品先物指数



<最近の動き>



(出所) Bloomberg (注) シェドーは前回会合。

いずれも直近は3月11日
(休場：原油, CRB商品先物指数2/16)

ブルーチップ、コンセンサス・フォーキャストの計数は転載不可

国際機関及び民間の海外経済・物価見通し

(1) 実質GDP

	2008年 実績	2009年			2010年	
		IMF 見通し (2009/1月)	民間 見通し		IMF 見通し (2009/1月)	民間 見通し 3月時点*
			12月時点	3月時点*		
米 国	1.1	▲1.6	▲1.1	▲2.6	1.6	1.9
E U	0.9	▲1.8	▲0.7	▲1.8	0.5	0.7
ユーロエリア	0.7	▲2.0	▲0.9	▲2.0	0.2	0.7
ドイツ	1.0	▲2.5	▲1.2	▲2.5	0.1	0.8
フランス	0.7	▲1.9	▲0.6	▲1.4	0.7	0.8
英 国	0.7	▲2.8	▲1.5	▲2.6	0.2	0.6
NIEs	1.7	▲3.9	0.8	▲1.8	3.1	3.2
ASEAN	4.7	2.7	3.3	2.2	4.1	4.3
中 国	9.0	6.7	7.8	7.0	8.0	8.3
日 本	▲0.6	▲2.6	▲0.9	▲3.8	0.6	0.8

(2) 消費者物価指数

	2008年 実績	2009年			2010年	
		IMF 見通し (2008/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2008/10月)	民間 見通し 3月時点*
			12月時点	3月時点*		
米 国	3.8	1.8	0.6	▲0.8	1.7	1.6
E U	3.7	2.4	1.6	1.0	2.1	1.7
ユーロエリア	3.3	1.9	1.4	0.8	1.8	1.6
ドイツ	2.8	1.4	1.1	0.6	1.4	1.4
フランス	3.2	1.6	1.4	0.6	1.6	1.5
英 国	3.6	2.9	1.2	1.0	2.0	1.9
NIEs	4.5	3.5	2.2	1.3	2.6	1.8
ASEAN	7.9	7.2	5.1	3.8	5.0	4.4
中 国	5.9	4.3	1.7	0.3	3.9	1.6
日 本	1.4	0.9	0.1	▲0.8	1.2	▲0.2

*米国以外は2月時点。

(注1) IMF見通しは、WEO (World Economic Outlook) による。

(注2) 民間見通しは、米国はブルーチップ、EU・東アジア・日本はコンセンサス・フォーキャストによる。

(注3) ユーロエリアの計数のうち、2009/1月以降に公表された見通しは、スロバキア加盟後の16か国ベース。それ以外はスロバキアを除く15か国ベース。

(注4) ASEANのIMF見通しはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5か国ベース。その他はベトナムを除く4か国ベース。

(注5) NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。

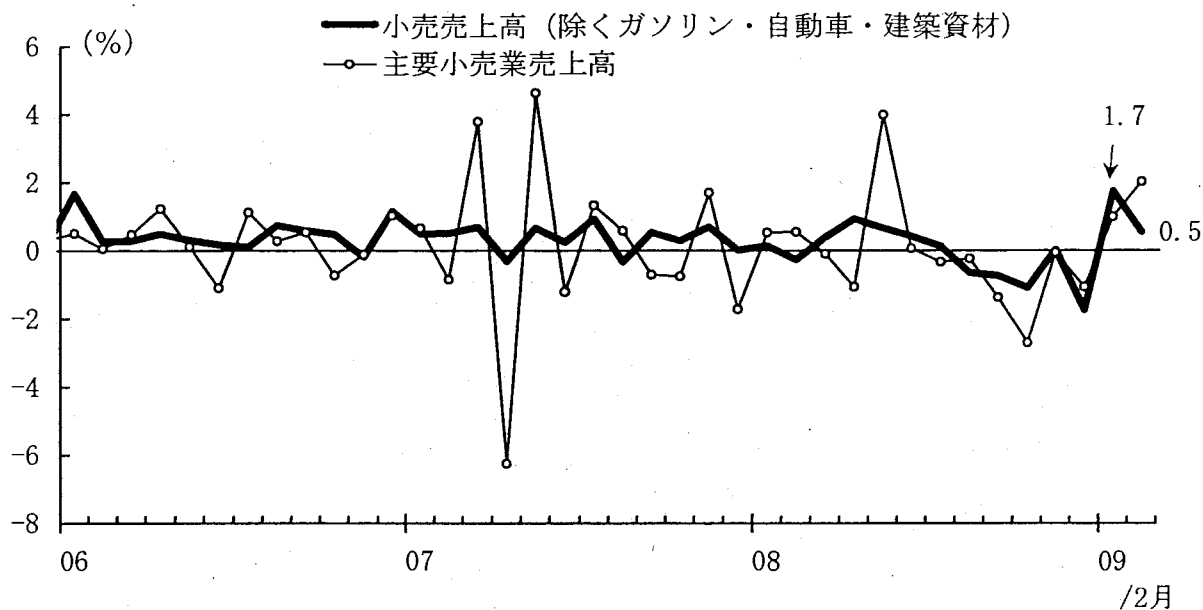
(注6) NIEs、ASEANの計数は、購買力平価換算 (IMF算出) によるGDPウェイトを使用。

「海外経済・国際金融の現状評価」図表一覧（追加分）

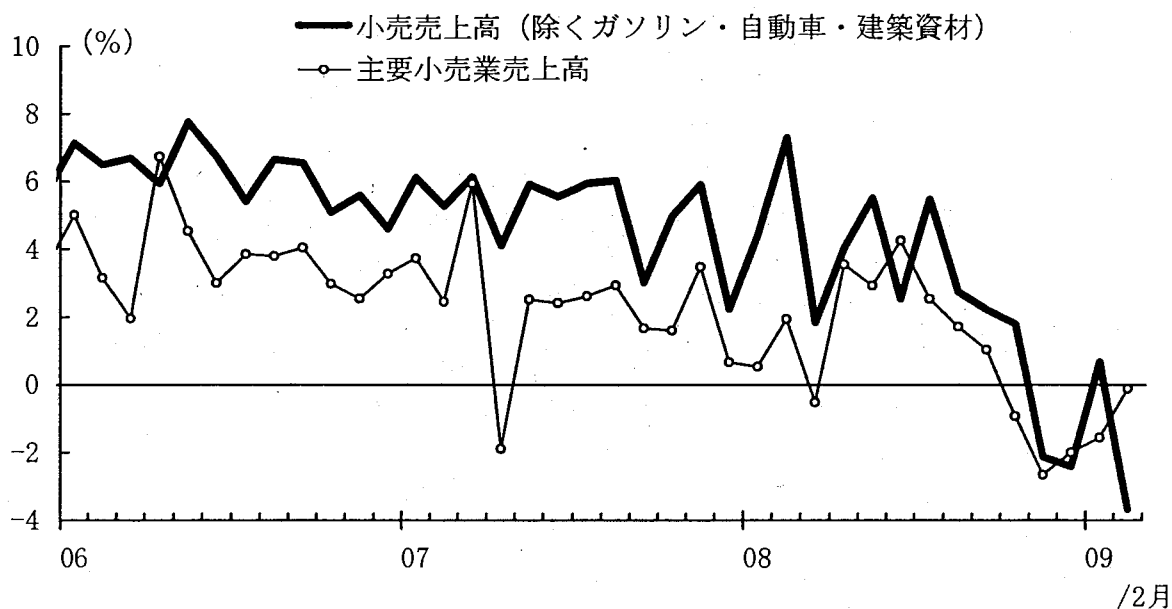
(図表1)	米国の小売売上関連指標	1
(図表2)	米国の住宅関連指標	2
(図表3)	米国モーゲージローンの延滞・差し押さえ率	3
(図表4)	米国の生産と設備投資	4
(図表5)	米国リセッション時における労働市場	5
(図表6)	米国の主要経済指標	6
(図表7)	ユーロエリアの主要経済指標	7
(図表8)	英国の主要経済指標	8
(図表9)	中国のPMIと生産	9
(図表10)	中国・インドの主要経済指標	10
(図表11)	NIEs、ASEAN諸国・地域のGDP	11
(図表12)	NIEs、ASEAN諸国・地域の主要経済指標	12～13

米国の小売売上関連指標

(1) 前期比 (季節調整済)



(2) 前年比 (原系列)



(3) 主要小売業売上高 (前年比) の内訳

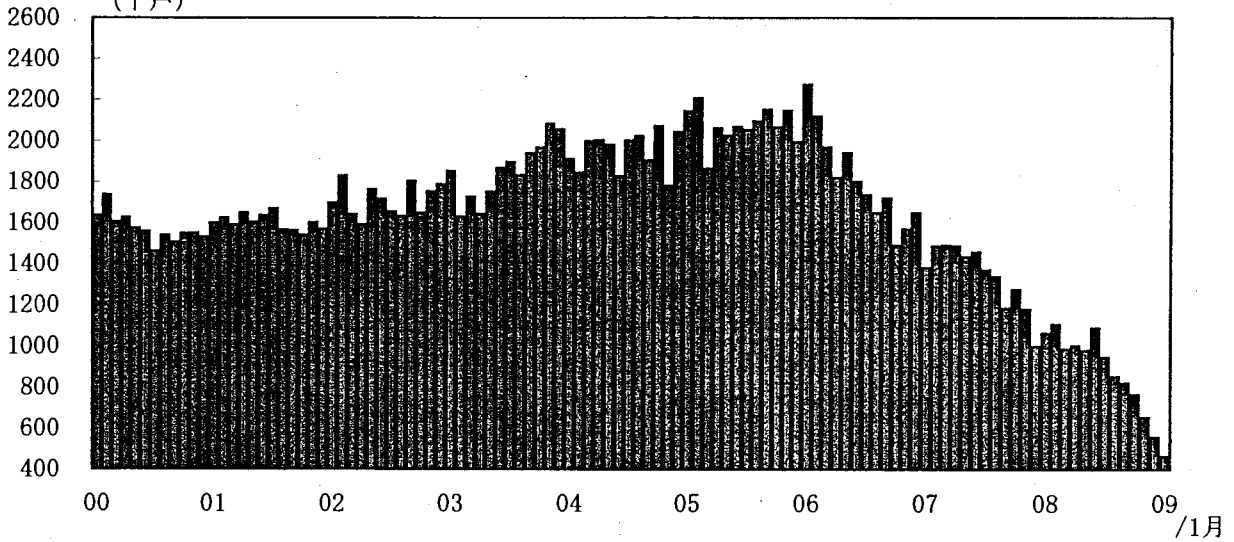
	(%)		
	08/12月	09/01月	09/02月
合計	▲ 2.0	▲ 1.6	▲ 0.1
Wal-Mart	1.2	1.5	4.5
Wal-Mart除く	▲ 4.6	▲ 4.8	▲ 4.3
(業態別)			
Apparel Chain Stores	▲ 10.7	▲ 14.0	▲ 7.9
Department Stores	▲ 6.8	▲ 12.3	▲ 9.8
Discount Stores	0.4	1.1	3.1
Drug Stores	3.4	0.6	▲ 1.6
Wholesale Clubs	▲ 3.3	▲ 1.7	▲ 0.9

(注) (1) ~ (3) とともに、主要小売業売上高は既存店 (09/2月は35社) ベース
(出所) 国際ショッピングセンター評議会 (ICSC)、商務省

(図表2)

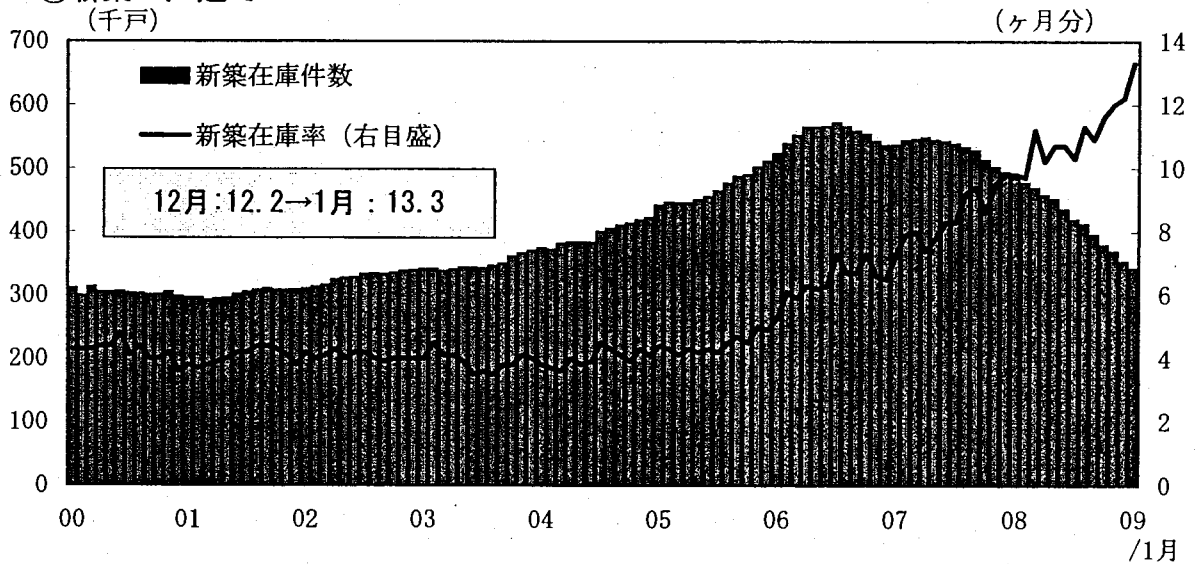
米国の住宅関連指標

(1) 住宅着工 (千戸)

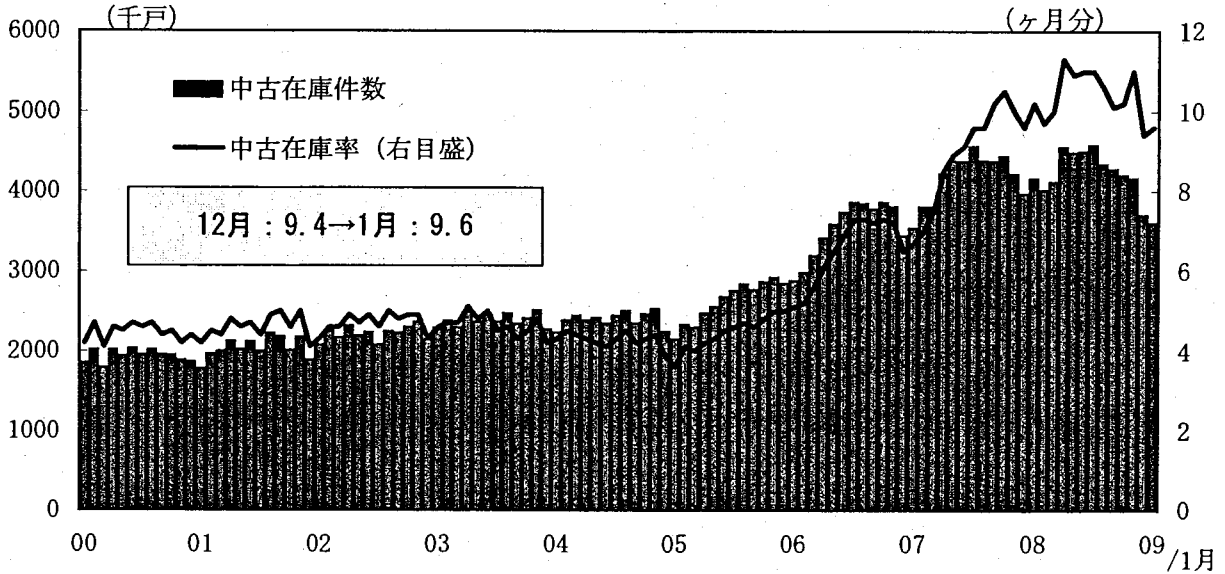


(2) 住宅在庫

①新築一戸建て (千戸)



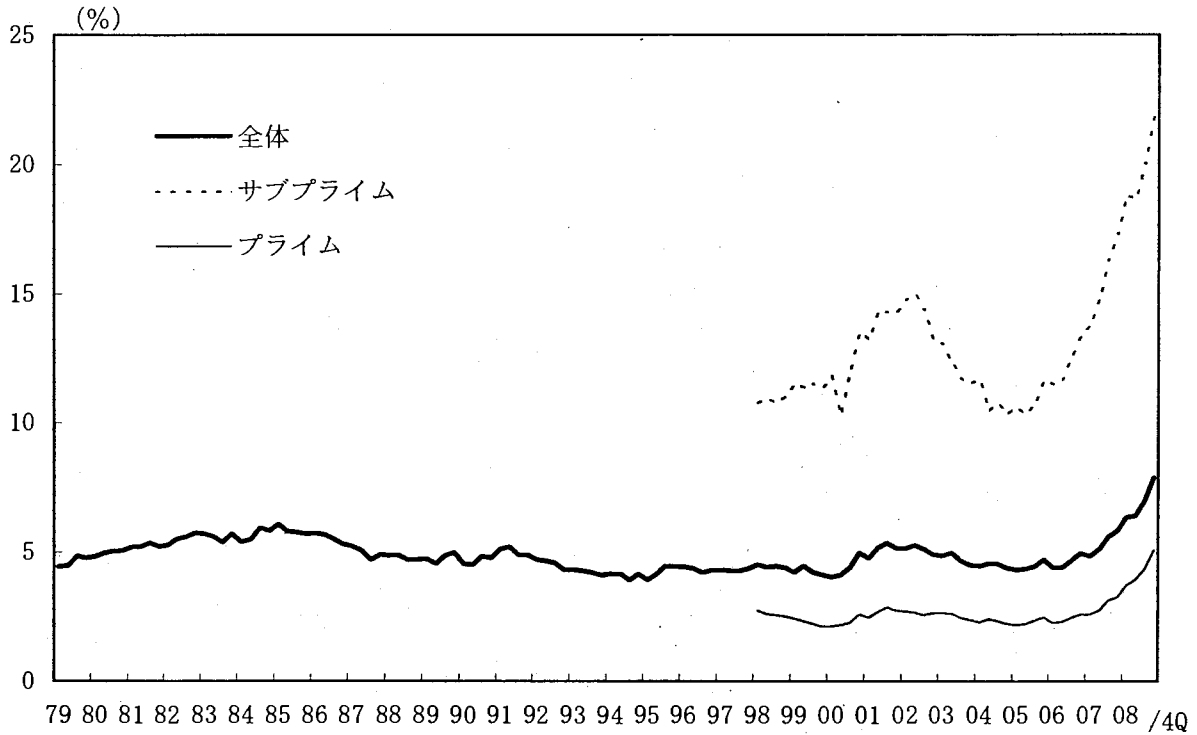
②中古 (一戸建て+集合) (千戸)



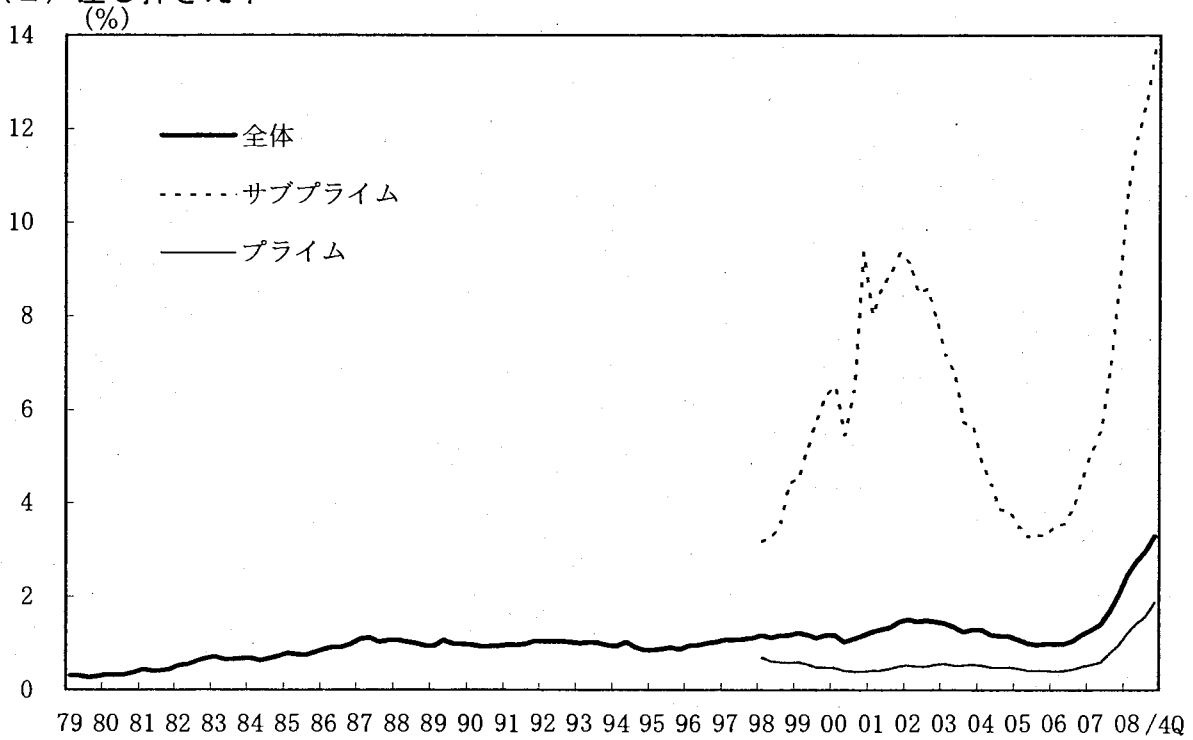
(図表 3)

米国モーゲージローンの延滞・差し押さえ率

(1) 延滞率



(2) 差し押さえ率



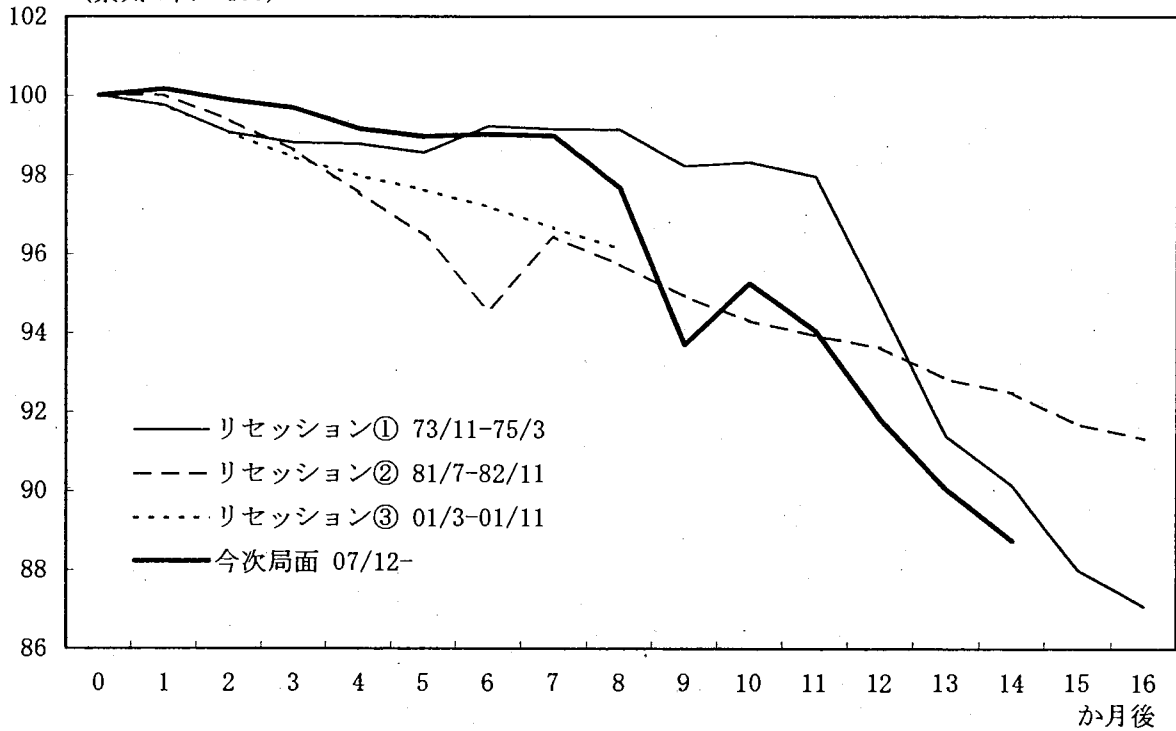
(出所) MBA

(図表4)

米国の生産と設備投資

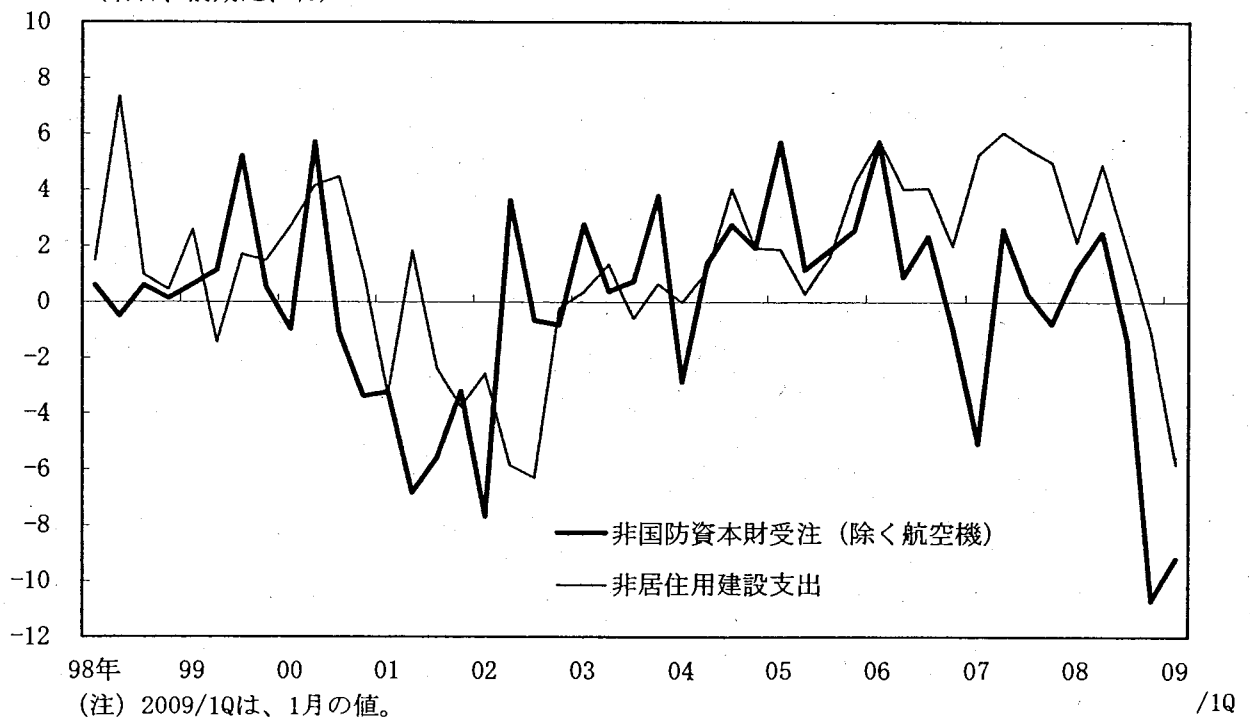
(1) リセッション時における鉱工業生産の水準

(景気の山=100)



(2) 非国防資本財受注（除く航空機）と非居住用建設支出

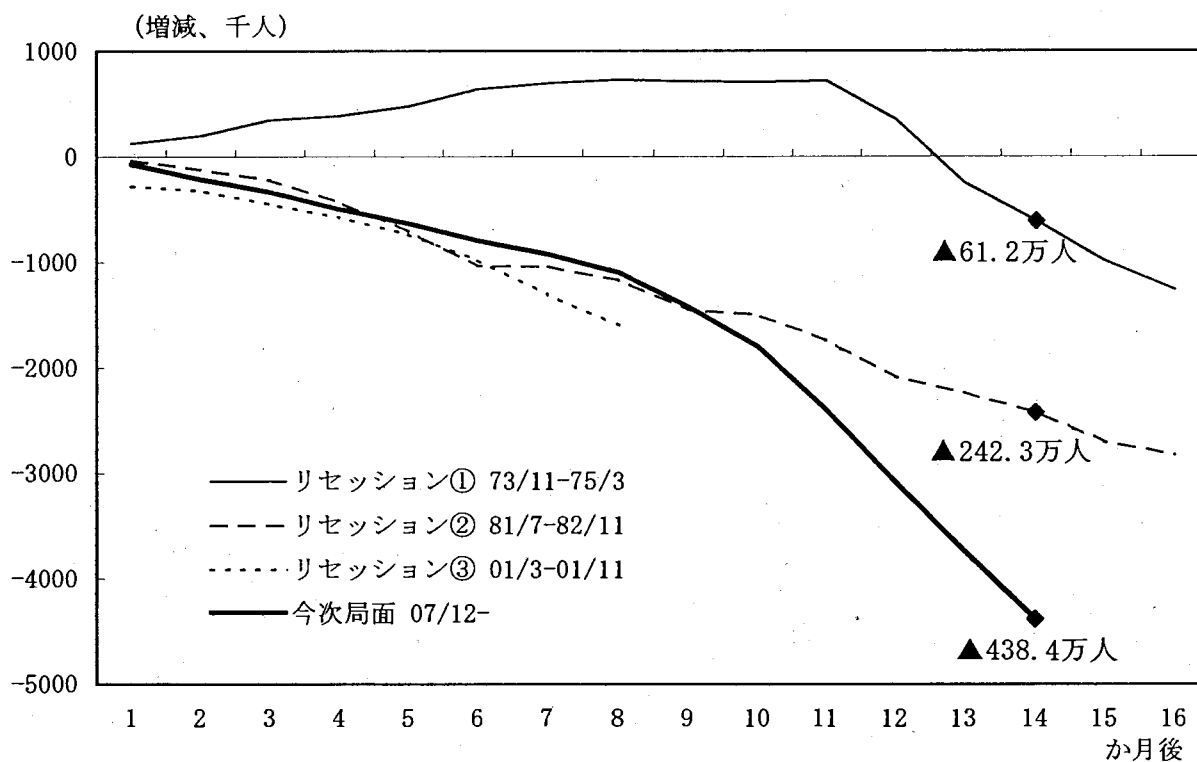
(名目、前期比、%)



(図表5)

米国リセッション時における労働市場

(1) 累積変化幅



(2) ピーク時の失業率

景気の山	景気の谷	失業率のピーク、% (時点)	
1948/11	～ 1949/10	7.9	(1949/10)
1953/07	～ 1954/05	6.1	(1954/09)
1957/08	～ 1958/04	7.5	(1958/07)
1960/04	～ 1961/02	7.1	(1961/05)
1969/12	～ 1970/11	6.1	(1970/12)
1973/11	～ 1975/03	9.0	(1975/05)
1980/01	～ 1980/07	7.8	(1980/07)
1981/07	～ 1982/11	10.8	(1982/11)
1990/07	～ 1991/03	7.8	(1992/06)
2001/03	～ 2001/11	6.3	(2003/06)
2007/12	～	8.1	(2009/02)

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	2.0	1.1	▲ 0.5	▲ 6.2				
2. 実質可処分所得 <前期比、%>	2.8	1.3	▲ 2.2	0.8	2.0	0.4	<3/2公表> 1.5	
3. 実質個人消費 <前期比、%>	2.8	0.2	▲ 1.0	▲ 1.1	0.1	▲ 0.5	<3/2公表> 0.4	
4. 家計貯蓄率 <対可処分所得比、%>	0.6	1.8	1.3	3.2	5.0	3.9	<3/2公表> 5.0	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) <前期比、%>	5.0	2.6	▲ 0.1	▲ 2.4	0.8	▲ 1.7	1.7	<3/12公表> 0.5
6. 自動車販売 (年率、万台) <前期比、%>	1,646	1,349	1,317	1,057	952	1,053	975	<3/4改訂> 929
7. 消費者コンフィデンス指数	103.3	57.9	57.3	40.7	31.2	38.6	37.4	<2/24公表> 25.0
8. 住宅着工 (年率、千戸) <前期比、%>	1,355	906	876	661	466	560	<2/18公表> 466	
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) <前期比、%> (前年比、%)	▲ 4.4	▲ 16.7	▲ 3.8	▲ 5.5		<2/24公表> ▲ 1.8		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) <前期比、%> (前年比、%)	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 1.3	▲ 10.7	▲ 9.2	▲ 5.9	<3/5改訂> ▲ 5.7	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 583.5	▲ 567.6	▲ 602.9	▲ 468.0	▲ 360.3	▲ 399.0	<3/13公表> ▲ 360.3	
12. ISM 製造業指数	51.1	45.5	47.4	36.1	35.7	32.9	35.6	<3/2公表> 35.8
非製造業指数	53.5	47.4	50.0	40.7	42.3	40.1	42.9	<3/4公表> 41.6
13. 鉱工業生産 <前期比、%> (前年比、%)	1.7	▲ 1.8	▲ 2.3	▲ 3.2	▲ 4.6	▲ 2.4	<2/18公表> ▲ 1.9	<3/16公表> ▲ 1.4
14. 失業率 (除く軍人、%)	4.6	5.8	6.0	6.9	7.8	7.2	7.6	<3/6公表> 8.1
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月) うち民間部門	96	▲ 257	▲ 208	▲ 553	▲ 653	▲ 681	▲ 655	<3/6公表> ▲ 651
	72	▲ 270	▲ 212	▲ 552	▲ 673	▲ 670	▲ 686	▲ 660
16. CPI <前期比、%> (前年比、%)	2.9	3.8	1.5	▲ 2.2	▲ 0.8	▲ 0.8	<2/20公表> 0.3	
			5.3	1.6	0.0	0.1	0.0	
コア<前期比、%> (前年比、%)	2.3	2.3	0.7	0.2	0.2	0.0	<2/20公表> 0.2	
			2.5	2.0	1.7	1.8	1.7	
17. 非農業部門労働生産性 <前期比年率、%> (前年比、%)	1.4	2.8	2.2	<3/5改訂> ▲ 0.4	2.2			
			2.2	2.2				
18. ユニット・レーバー・コスト <前期比年率、%> (前年比、%)	2.7	0.9	3.5	<3/5改訂> 5.7				
			1.6	1.8				

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均を用いて算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

(図表7)

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

※

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/11月	12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	2.6	0.7	▲1.0	▲5.7					
独 実質GDP	<前期比年率、%>	2.6	1.0	▲2.1	▲8.2					
仏 実質GDP	<前期比年率、%>	2.1	0.7	0.4	▲4.6					
2. 輸出	<前期比、%>			0.2	▲7.4		▲6.8	▲0.9		
	(前年比、%)	8.6	3.9	5.3	▲4.4		▲11.3	▲2.1		
3. 独 海外受注(域外)	<前期比、%>			▲7.3	▲15.2	▲23.6	▲4.6	▲7.5	▲18.2	
	(前年比、%)	10.2	▲5.6	▲6.4	▲23.0	▲40.8	▲22.6	▲27.7	▲40.8	
4. 独 国内投資財受注	<前期比、%>			▲4.3	▲14.9	▲8.2	▲7.6	▲4.1	▲3.0	
	(前年比、%)	8.6	▲6.9	▲4.9	▲22.7	▲28.0	▲23.3	▲27.8	▲28.0	
5. 輸入	<前期比、%>			3.4	▲9.8		▲4.8	▲3.9		
	(前年比、%)	6.4	7.2	12.1	▲2.2		▲5.5	▲4.8		
6. 小売売上数量	<前期比、%>			▲0.1	▲1.2	▲0.2	▲0.1	▲0.3	0.1	
	(前年比、%)	1.0	▲0.9	▲1.0	▲2.4	▲2.2	▲2.6	▲2.4	▲2.2	
7. 新車登録台数	(年率、万台)	1,164	1,071	1,070	985	972	972	976	935	1,009
	<前期比、%>	▲0.9	▲8.0	▲1.8	▲7.9	▲1.3	▲3.5	0.5	▲4.3	8.0
8. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲5	▲18	▲19	▲26	▲32	▲25	▲30	▲31	▲33
9. 鉱工業生産(除く建設)	<前期比、%>			▲2.0	▲5.1		▲2.2	▲2.6		
	(前年比、%)	3.4	▲1.6	▲1.4	▲8.6		▲8.4	▲12.0		
10. 製造業PMI(購買担当者指数)	(DI、%)	54.3	46.5	46.6	36.8	34.0	35.6	33.9	34.4	33.5
サービス業PMI(事業活動指数)	(DI、%)	56.6	48.5	48.4	43.4	40.7	42.5	42.1	42.2	39.2
11. 失業率	(%)	7.5	7.5	7.5	7.9	8.2	7.9	8.1	8.2	
12. 消費者物価	(前年比、%)	2.1	3.3	3.8	2.3	1.1	2.1	1.6	1.1	1.2
コア	(前年比、%)	2.0	2.4	2.5	2.2	1.7	2.2	2.1	1.8	1.7

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会(Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。

他の統計は09年入り後の計数が公表されているものについては、スロバキア加盟後の16か国ベース、その他は15か国ベース。

・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

・前期(月)比は季調済みベース。

・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

※

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/11月	12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	3.0	0.7	▲2.8	▲6.0					
2. 小売売上数量 <前期比、%> (前年比、%)	4.3	3.5	0.0	0.8	1.9	0.3	1.7	0.7	
3. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲7	▲29	▲35	▲34	▲37	▲35	▲32	▲39	▲36
4. サービス業PMI事業活動指数 (DI、%)	56.3	47.6	47.5	40.9	42.9	40.1	40.2	42.5	43.2
5. 失業率(失業保険ベース) (%)	2.7	2.8	2.8	3.3	3.8	3.3	3.6	3.8	
6. CPI (前年比、%)	2.3	3.6	4.8	3.9	3.0	4.1	3.1	3.0	
7. 住宅価格(Nationwide指数) (前年比、%)	9.2	▲6.7	▲10.3	▲14.8	▲17.1	▲13.9	▲15.9	▲16.6	▲17.6

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

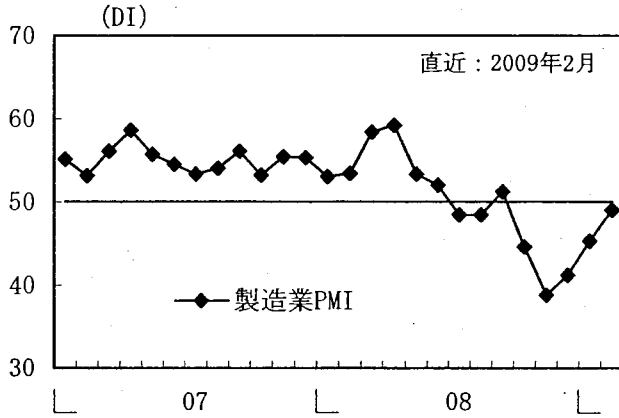
(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

(図表 9)

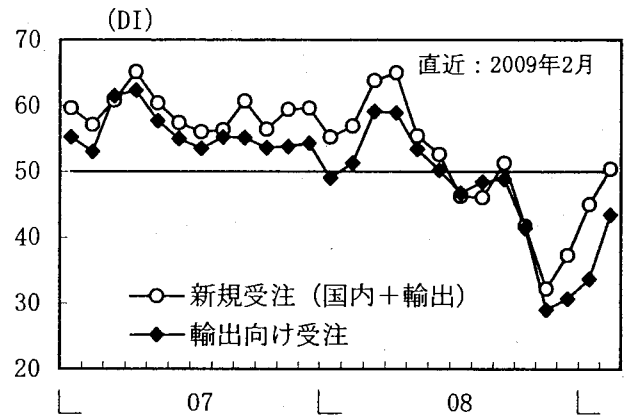
中国のPMI と生産

(1) PMI

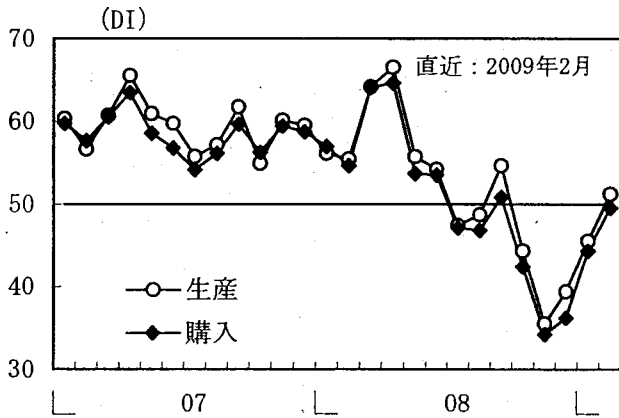
①全体



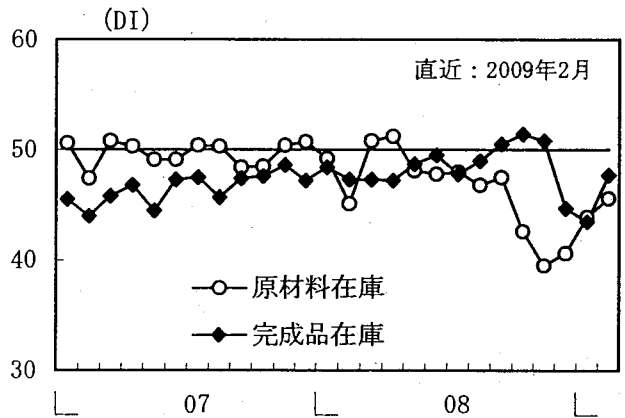
②受注



③生産・購入



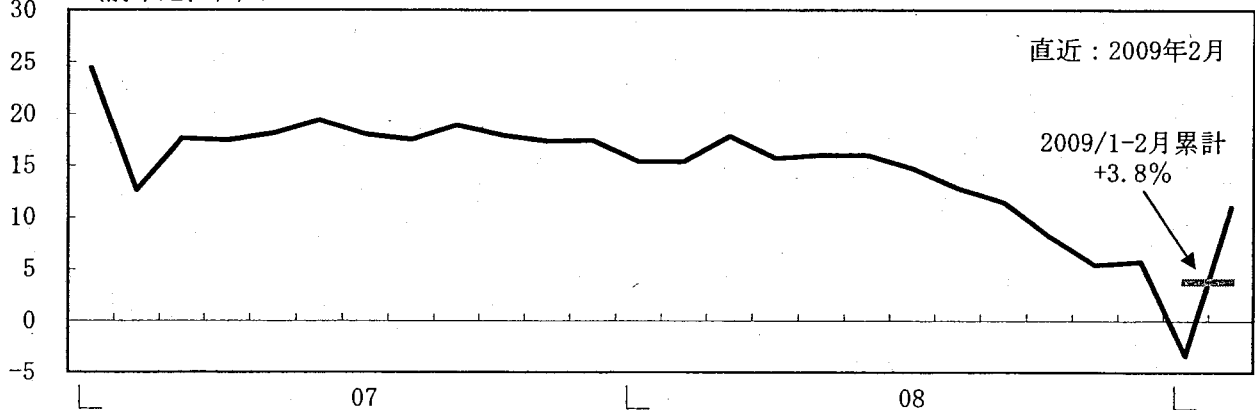
④在庫関連



(注) 各DIは、前月対比「上昇」との回答比率を1、「横ばい」回答比率を0.5、「下落」回答比率を0でウェイト付けして足し合わせたもの。従って、指数が50を超えれば前月対比上昇が優勢、下回れば下落が優勢。

(2) 生産

(前年比、%)



(資料) CEIC

中国・インドの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(2月18日)以降に判明したもの。

1. 中国

(前年比、%)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP <>内は季調済前期比年率	13.0	9.0	9.0 < 6.5 >	6.8 ▲ 2.3				
2. 工業生産	18.5	12.9	13.0	6.4	3.8	5.7	▲ 3.4	11.0
3. 消費財小売売上総額	16.8	21.6	23.2	20.6	15.2	19.0	N/A	N/A
4. 固定資産投資								
年初来累計	25.8	26.1	27.6	26.1	26.5	26.1	N/A	26.5
当期			28.7	23.3	26.5	21.9	N/A	N/A
5. 輸出 <>内は前期比	25.8	17.2	23.0 < 3.0 >	4.3 ▲ 7.6	▲ 21.1 ▲ 18.8	▲ 2.9 ▲ 3.7	▲ 17.5 ▲ 8.2	▲ 25.7 ▲ 14.0
6. 輸入 <>内は前期比	20.8	18.5	25.8 < 2.3 >	▲ 9.0 ▲ 19.4	▲ 34.2 ▲ 22.1	▲ 21.3 ▲ 3.3	▲ 43.1 ▲ 14.9	▲ 24.1 ▲ 11.8
7. CPI	4.8	5.9	5.3	2.5	▲ 0.3	1.2	1.0	▲ 1.6
8. M2	16.7	17.8	15.3	17.8	20.5	17.8	18.8	20.5
9. 人民元貸出	16.1	18.8	14.5	18.8	24.2	18.8	21.3	24.2

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDP、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) 固定資産投資は、都市部。「当期」の値は、中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

(注4) 工業生産の1月の値は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。

(注5) 消費財小売売上総額の1、2月の単月の値は未公表(1-2月累計値のみ公表)。

2. インド

(前年比、%)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
1. 実質GDP	9.2	7.4	7.6	5.3				
個人消費	7.7	7.2	6.9	5.4				
総固定資本形成	14.3	9.9	15.1	5.3				
2. 鉱工業生産	9.9	4.3	4.7	0.4	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.5	
3. 輸入	25.4	35.1	53.3	6.9	▲ 18.2	8.8	▲ 18.2	
4. 卸売物価	4.8	9.1	12.5	8.6	4.4	6.2	5.2	3.6
5. M3	22.8	19.6	18.9	19.6	19.8	19.6	19.7	19.8
6. 貸出	21.4	23.2	25.2	23.2	20.6	23.2	20.6	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

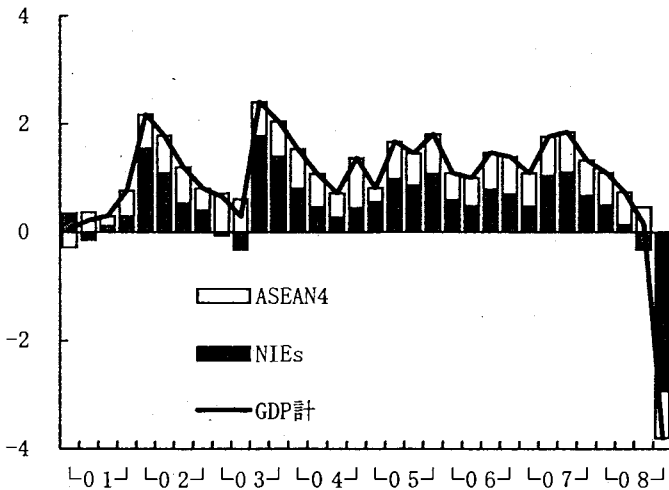
(注2) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC

NIEs、ASEAN諸国・地域のGDP

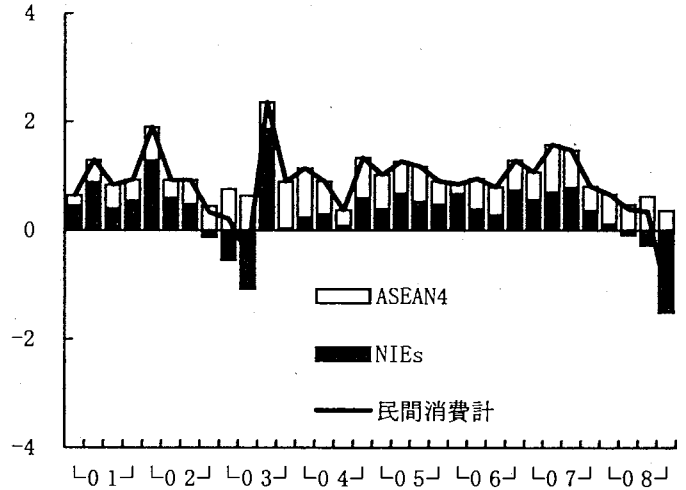
① GDP

(前期比、寄与度、%)



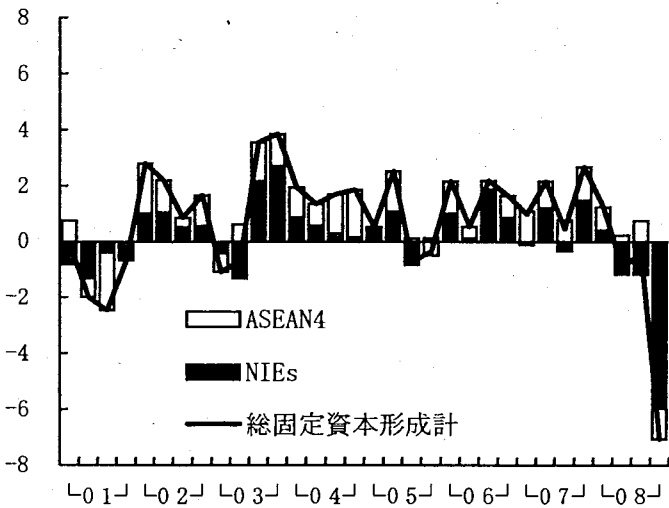
② 民間消費

(前期比、寄与度、%)



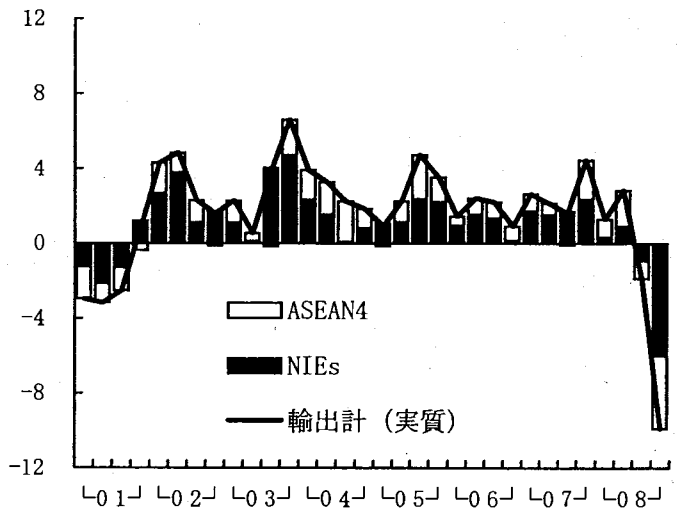
③ 総固定資本形成

(前期比、寄与度、%)



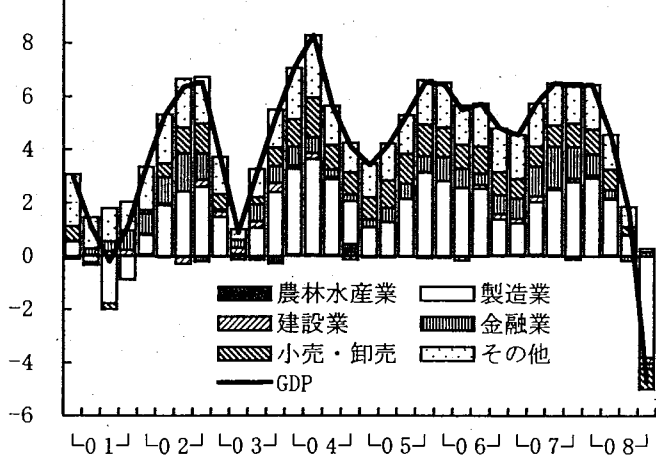
④ 外需

(前期比、寄与度、%)



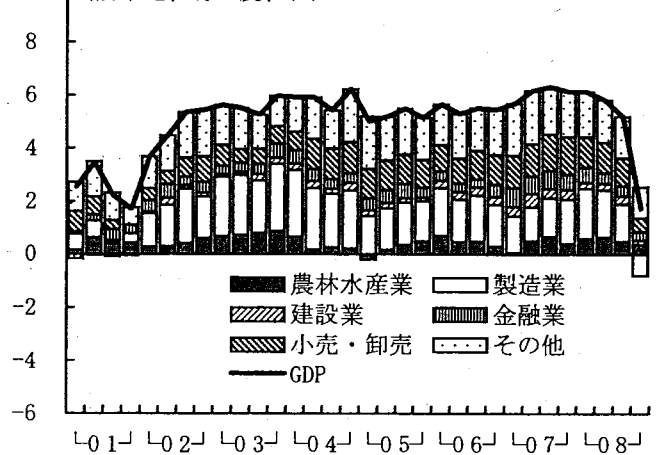
⑤ NIEsの産業別GDP

(前年比、寄与度、%)



⑥ ASEAN4の産業別GDP

(前年比、寄与度、%)



(注1) ①～⑥は、各国の実質GDPの伸び率をPPPによるGDPウェイトを用いて合算した。
 (注2) ⑤の香港の08年4Qは、産業別内訳が未公表のため、各産業の前年比をGDP全体の前年比で代用した。

NIEs、ASEAN諸国・地域の主要経済指標

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2006年	2007年	2008年	2007/4Q	2008/1Q	2Q	3Q	4Q
韓国	5.1	5.0	2.5	6.4 (5.7)	3.3 (5.8)	3.4 (4.8)	2.1 (3.8)	▲ 20.8 (▲ 3.4)
台湾	4.8	5.7	0.1	3.3 (6.4)	1.1 (6.2)	1.6 (4.6)	▲ 9.8 (▲ 1.0)	▲ 23.8 (▲ 8.4)
香港	7.0	6.4	2.5	8.7 (6.9)	4.5 (7.3)	▲ 3.6 (4.3)	▲ 2.8 (1.7)	▲ 7.8 (▲ 2.5)
シンガポール	8.4	7.8	1.1	▲ 1.6 (5.5)	12.2 (6.7)	▲ 7.7 (2.5)	▲ 2.1 (0.0)	▲ 16.4 (▲ 4.2)
タイ	5.2	4.9	2.6	8.3 (5.7)	3.6 (6.0)	2.5 (5.3)	1.7 (3.9)	▲ 22.2 (▲ 4.3)
インドネシア	5.5	6.3	6.1	4.6 (5.8)	6.8 (6.2)	7.7 (6.4)	6.3 (6.4)	0.2 (5.2)
マレーシア	5.8	6.3	4.6	7.6 (7.3)	6.4 (7.4)	3.3 (6.7)	1.6 (4.7)	▲ 10.0 (0.1)
フィリピン	5.4	7.2	4.6	5.1 (6.4)	1.3 (4.7)	7.9 (4.4)	4.8 (5.0)	4.1 (4.5)

(注1) 季節調整値は、韓国、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
輸出合成指数	11.5	11.5	▲ 0.3	▲ 22.7	▲ 16.9			
うちIT関連寄与度			▲ 2.3	▲ 6.5	▲ 2.9			
韓国 <29.5>	14.1	13.6	3.6 (27.0)	▲ 21.7 (▲ 9.9)	▲ 16.0 (▲ 26.4)	▲ 1.3 (▲ 17.9)	▲ 14.2 (▲ 34.2)	17.1 (▲ 18.3)
台湾 <17.9>	10.1	3.6	▲ 3.0 (8.0)	▲ 26.1 (▲ 24.7)	▲ 14.0 (▲ 37.2)	▲ 15.8 (▲ 41.9)	7.3 (▲ 44.1)	▲ 0.0 (▲ 28.6)
タイ <12.5>	17.2	16.9	1.7 (28.4)	▲ 20.1 (▲ 8.5)	▲ 12.5 (▲ 26.5)	1.3 (▲ 12.5)	▲ 7.1 (▲ 26.5)	
インドネシア <9.6>	13.2	19.9	▲ 1.3 (27.9)	▲ 17.7 (▲ 6.2)	▲ 22.0 (▲ 36.1)	▲ 15.0 (▲ 20.6)	▲ 11.8 (▲ 36.1)	

(参考)

	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
シンガポール 新規輸出受注D.I.*	53.7	47.6	48.8	42.7	42.5	42.3	41.6	43.4
うちIT関連*	56.3	51.0	54.2	44.7	40.3	40.8	39.1	41.5

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は1月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%, 2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC

(図表12-2)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
生産合成指数		6.1	1.6	▲ 2.3	▲ 12.3				
うちIT関連寄与度				0.1	▲ 5.5				
韓国	鉱工業生産指数	6.9	3.0	▲ 2.0 (5.6)	▲ 11.9 (▲ 11.3)	▲ 8.8 (▲ 25.6)	▲ 9.6 (▲ 18.7)	1.3 (▲ 25.6)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	99.8	82.1	84.1	56.0	64.5	52.2	61.7	67.2
台湾	鉱工業生産指数	7.8	▲ 1.8	▲ 4.1 (0.5)	▲ 20.4 (▲ 24.2)	▲ 12.4 (▲ 43.1)	▲ 7.9 (▲ 32.0)	▲ 2.8 (▲ 43.1)	
タイ	製造業生産指数	8.2	5.3	1.1 (7.6)	▲ 10.5 (▲ 8.0)	▲ 11.5 (▲ 21.3)	▲ 11.4 (▲ 18.5)	▲ 0.7 (▲ 21.3)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~12月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
韓国	小売数量指数	5.2	0.9	▲ 0.1 (1.4)	▲ 3.5 (▲ 4.6)	▲ 2.2 (▲ 3.1)	▲ 0.2 (▲ 4.7)	▲ 1.9 (▲ 3.1)	
	消費者信頼感指数 [†]	107.3	91.8	92.0	84.3	84.5	81.0	84.0	85.0
	機械投資推計指数	9.2	▲ 3.2	1.1 (5.3)	▲ 13.5 (▲ 16.2)	▲ 10.1 (▲ 25.3)	▲ 7.4 (▲ 23.0)	▲ 4.7 (▲ 25.3)	
台湾	小売指数	1.6	▲ 4.8	(▲ 8.4)	(▲ 8.8)	(▲ 1.9)	(▲ 11.3)	(▲ 1.9)	
	消費者コンフィデンス [†]	66.2	58.7	55.4	50.5	48.7	49.1	49.0	48.4
タイ	民間消費指数(PCI)	1.5	3.5	2.3 (5.1)	▲ 2.8 (0.6)	▲ 2.9 (▲ 4.5)	1.1 (0.8)	▲ 2.4 (▲ 4.5)	
	民間投資指数(PII)	▲ 0.5	3.5	(3.6)	(▲ 0.4)	(▲ 7.9)	(▲ 3.6)	(▲ 7.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注3) タイの民間投資指数(PII)は、後方3ヶ月移動平均。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2008/12月	2009/1月	2月
韓国	()内はコア	2.5 (2.3)	4.7 (4.3)	5.5 (4.8)	4.5 (5.4)	3.9 (5.2)	4.1 (5.6)	3.7 (5.2)	4.1 (5.2)
台湾	()内はコア	1.8 (1.4)	3.5 (3.1)	4.5 (3.7)	1.9 (2.5)	0.1 (1.5)	1.3 (2.1)	1.5 (2.5)	▲ 1.3 (0.4)
タイ	()内はコア	2.2 (1.0)	5.5 (2.3)	7.2 (3.0)	2.2 (2.0)	▲ 0.2 (1.7)	0.4 (1.8)	▲ 0.4 (1.6)	▲ 0.1 (1.8)
インドネシア		6.4	9.8	12.0	11.5	8.9	11.1	9.2	8.6

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。

(注3) タイは、2009年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。

(注4) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。

(出所) CEIC